

新型コロナウイルス感染症対策分科会（第21回）

日時：令和3年1月8日（金）
13時30分～16時00分
場所：合同庁舎8号館1階 講堂

議 事 次 第

1. 議 事

- (1) 最近の感染状況等について
- (2) 新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正について
- (3) その他

(配布資料)

資料1	直近の感染状況の評価等	(構成員提出資料)
資料2-1	都道府県別エピカーブ	(構成員提出資料)
資料2-2	最近のクラスターの解析	(構成員提出資料)
資料3	新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言	(内閣官房)
資料4	基本的対処方針の主な変更内容について(概要)	(内閣官房)
資料5	新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針	(内閣官房)
資料6	新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正について	(内閣官房)
資料7-1	生活衛生関係営業に関する意見・要望	(全国生活衛生同業組合中央会)
資料7-2	令和元年と令和2年の月次「売上」比較	(全国生活衛生同業組合中央会)
資料8	提出資料	(日本フードサービス協会)
資料9	新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正をめぐって	(構成員提出資料)
資料10	都道府県から寄せられている意見	(構成員提出資料)
参考資料1	直近の感染状況等	
参考資料2	都道府県の医療提供体制等の状況	
参考資料3	緊急事態宣言についての提言(令和3年1月5日(火)新型コロナウイルス感染症対策分科会)	
参考資料4	新型コロナウイルス感染症対策分科会の構成員	
追加配付資料	都道府県別新規陽性者数(報告日別)	

<感染状況について>

- 全国の新規感染者数は、東京を中心とした首都圏(1都3県)で年末にかけてさらに増加したことに伴い、増加傾向が続き、過去最多の水準となっている。
実効再生産数：全国的には1を上回る水準が続いている(12月19日時点)。東京等首都圏、愛知などで1週間平均で1を超える水準となっている(12月21日時点)。
- 年末年始も含め、首都圏、中部圏、関西圏では多数の新規感染者が発生しており、入院者数、重症者数、死亡者数の増加傾向が続いている。対応を続けている保健所や医療機関の職員はすでに相当に疲弊している。入院調整に困難をきたす事例や通常の医療を行う病床の転用が求められる事例など通常医療への影響も見られており、各地で迅速な発生時対応や新型コロナの診療と通常の医療との両立が困難な状況の拡大が懸念される。また、入院調整が難しい中で、高齢者施設等でのクラスターの発生に伴い、施設内で入院の待機を余儀なくされるケースも生じている。
- 英国、南アフリカで増加がみられる新規変異株は、世界各地で検出されている。国内では、海外渡航歴のある症例又はその接触者からのみ検出されている。従来株と比較して感染性が高い可能性を鑑みると、国内で持続的に感染した場合には、現状より急速に拡大するリスクがある。

【感染拡大地域の動向】

- ①北海道 新規感染者数は減少傾向が続いていたが、足下ではその傾向が鈍化。新規感染の多くは病院・施設内の感染。旭川市の医療機関および福祉施設内の感染状況は引き続き注意が必要。
- ②首都圏 東京都で新規感染者数の増加が継続し、直近の一週間では10万人あたり45人を超えている。医療提供体制も非常に厳しい状況が継続。救急の応需率にも影響が出始めている。また、病床確保のため、通常の医療を行う病床の転用が求められているが、医療機関の努力による対応が厳しい状況が生じてきている。保健所での入院等の調整も厳しさが増している。感染者の抑制のための実効的な取組が求められる状況にあり、感染経路は不明者が多いが飲食の場を中心とした感染の拡大が推定される。首都圏全体でも、埼玉、神奈川、千葉でも新規感染者数の増加が継続しており、医療提供体制が厳しい状況。
- ③関西圏 大阪では新規感染者数が漸減しているが、依然高い水準。医療提供体制が厳しい状況も継続。院内・施設内感染と市中での感染が継続。兵庫でも感染が継続。医療提供体制が厳しい状況。京都、滋賀、奈良でも新規感染者数の増加傾向が継続。
- ④中部圏 名古屋市とその周辺で感染が継続。名古屋市は新規感染者数が高止まり、減少傾向が見られない。施設での感染に伴い65歳以上の高齢者が増加。医療提供体制及び公衆衛生体制の厳しさが増している。岐阜県でもクラスターの発生に伴い新規感染者数が増加。

※その他、栃木、群馬、広島、福岡、長崎、熊本、宮崎、沖縄などでも、新たな感染拡大や再拡大、多数の新規感染者数の発生の継続の動きが見られる。

直近の感染状況の評価等

<感染状況の分析>

- 時短要請が行われている自治体のうち、北海道、大阪では減少がみられているが、東京では、感染拡大が続いており、年末まで人流の大きな低下がみられていない。東京では、飲食などの社会活動が活発な20-50才代の世代の感染が多く、少なくとも昨年末までの感染拡大では、飲食をする場面が主な感染拡大の要因となり、これが、職場や家庭、院内・施設内の感染に繋がっているものと考えられる。
- こうした東京での感染拡大は、周辺自治体にも波及し、埼玉、千葉、神奈川とともに首都圏では、年末も新規感染者の増加が継続し、過去最高水準となった。直近1週間の新規感染者数は、東京都だけで全国の1/4を占め、1都3県で1/2を占めている。こうした、大都市圏の感染拡大は、最近の地方における感染の発生にも影響していると考えられ、大都市における感染を抑制しなければ、地方での感染を抑えることも困難になる。

<必要な対策>

- 東京をはじめとする首都圏では、年末も新規感染者数の増加が継続。東京都のモニタリング会議でも、医療提供体制は逼迫し危機的状況に直面していると評価されている。1月5日の分科会の提言に基づき、早急に感染を減少させるための効果的な対策の実施が求められる。
- 感染拡大が続き、医療提供体制、公衆衛生体制は非常に厳しい状況となっており、速やかに新規感染者数を減少させることが必要。併せて、現下の医療提供体制が非常に厳しく、こうした状況が続くことも想定される中で、昨年末にとりまとめられた「医療提供体制パッケージ」も活用し、必要な体制を確保するための支援が必要。
- これまで大きな感染が見られなかった地域でも感染の発生が見られており、医療機関、福祉施設における感染も頻発している。特に急速な感染拡大により、医療提供体制の急速な逼迫が起こりうるため、宿泊療養施設を含め医療提供体制の準備・確保等を進めることが非常に重要。さらに、感染拡大が見られる場合には、飲食店の時短要請等の対策も検討する必要がある。
- 感染拡大の抑制には、市民の皆様の協力が不可欠である。新年を迎え社会活動の活発化や新年会等も考えられるが、新年会の開催や参加を控え、買い物も混雑を避けていただくなど、人々が感染機会の増加につながる行動を変えていくことが求められる。また、そのためのメッセージを国・自治体等が一体感を持って発信することが必要。
- さらに、国内の厳しい感染状況の中で、英国等で見られる変異株の流入による感染拡大を防ぐことが必要である。引き続き、変異株の監視を行うとともに、感染者が見つかった場合の積極的疫学調査の実施が求められる。また、変異株であっても、個人の基本的な感染予防策は、従来と同様に、3密の回避、マスクの着用、手洗いなどが推奨される。

直近の感染状況等

○新規感染者数の動向 (対人口10万人(人))

- ・新規感染者数は、過去最多の水準が続いており、引き続き最大限の警戒が必要な状況。

	12/15～12/21	12/22～12/28	12/29～1/4
全国	14.79人 (18,658人) ↑	17.97人 (22,668人) ↑	19.55人 (24,667人) ↑
東京	30.95人 (4,308人) ↑	37.50人 (5,221人) ↑	46.22人 (6,434人) ↑
神奈川	20.31人 (1,868人) ↑	30.57人 (2,812人) ↑	33.09人 (3,044人) ↑
愛知	18.58人 (1,403人) ↑	20.75人 (1,567人) ↑	19.28人 (1,456人) ↓
大阪	23.87人 (2,103人) ↓	21.11人 (1,860人) ↓	22.49人 (1,981人) ↑
北海道	16.13人 (847人) ↓	14.25人 (748人) ↓	13.77人 (723人) ↓
福岡	15.30人 (781人) ↑	19.10人 (975人) ↑	20.47人 (1,045人) ↑
沖縄	10.39人 (151人) ↓	16.10人 (234人) ↑	18.44人 (268人) ↑

○検査体制の動向 (検査数、陽性者割合)

- ・直近の検査件数に対する陽性者の割合は6.3%であり、前週と比べ上昇している。

※ 過去最高は緊急事態宣言時(4/6～4/12)の8.8%。7,8月の感染者増加時では、7/27～8/2に6.7%であった。

	12/7～12/13	12/14～12/20	12/21～12/27
全国	268,288件 ↑ 6.6% ↑	314,999件 ↑ 5.9% ↓	350,698件 ↑ 6.3% ↑
東京	56,033件 ↓ 6.3% ↑	65,182件 ↑ 6.5% ↑	75,882件 ↑ 6.8% ↑
神奈川	23,999件 ↑ 5.9% ↑	26,911件 ↑ 6.7% ↑	28,141件 ↑ 9.5% ↑
愛知	13,950件 ↑ 9.9% ↑	14,305件 ↑ 10.0% ↑	17,075件 ↑ 9.0% ↓
大阪	24,168件 ↓ 10.0% ↑	26,617件 ↑ 7.9% ↓	28,136件 ↑ 6.7% ↓
北海道	16,522件 ↑ 7.8% ↓	16,224件 ↓ 5.3% ↓	18,545件 ↑ 4.1% ↓
福岡	11,292件 ↑ 5.0% ↑	14,746件 ↑ 5.1% ↑	14,771件 ↑ 6.3% ↑
沖縄	3,398件 ↓ 6.8% ↑	3,706件 ↑ 4.5% ↓	4,719件 ↑ 5.0% ↑

○入院患者数の動向 (入院者数(対受入確保病床数))

- ・入院患者数は増加が続いている。受入確保病床に対する割合も上昇しており、各地で高水準となっている。

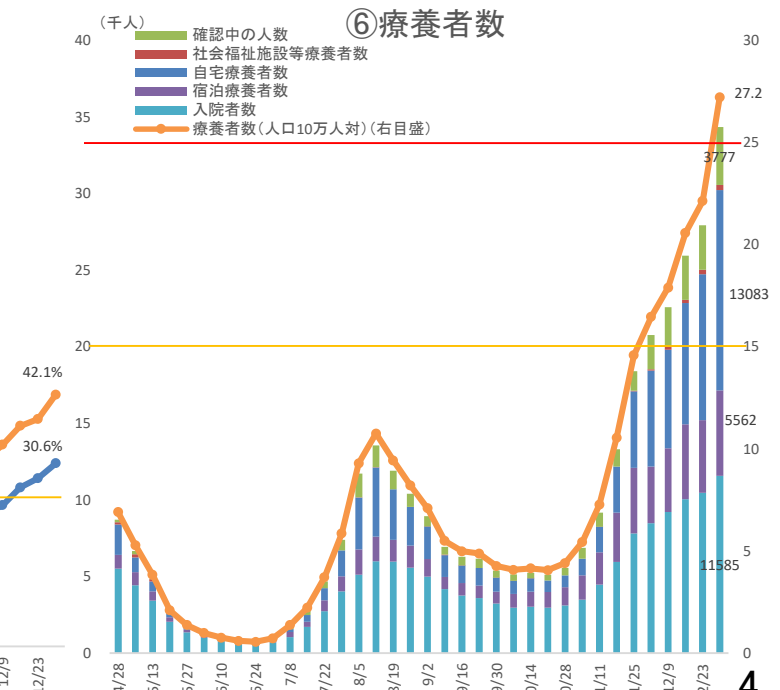
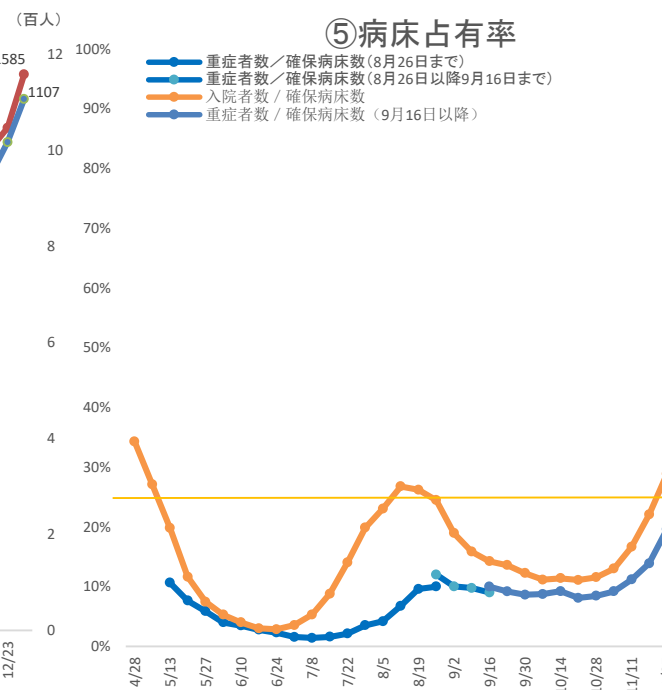
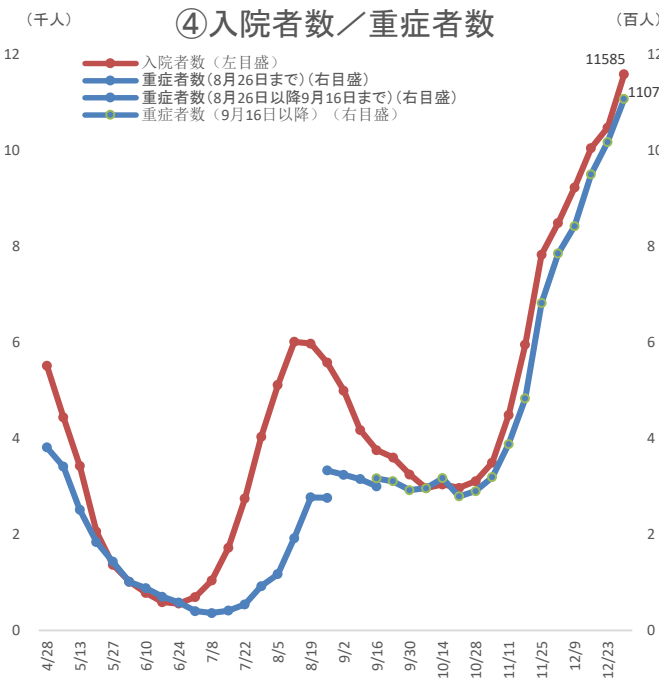
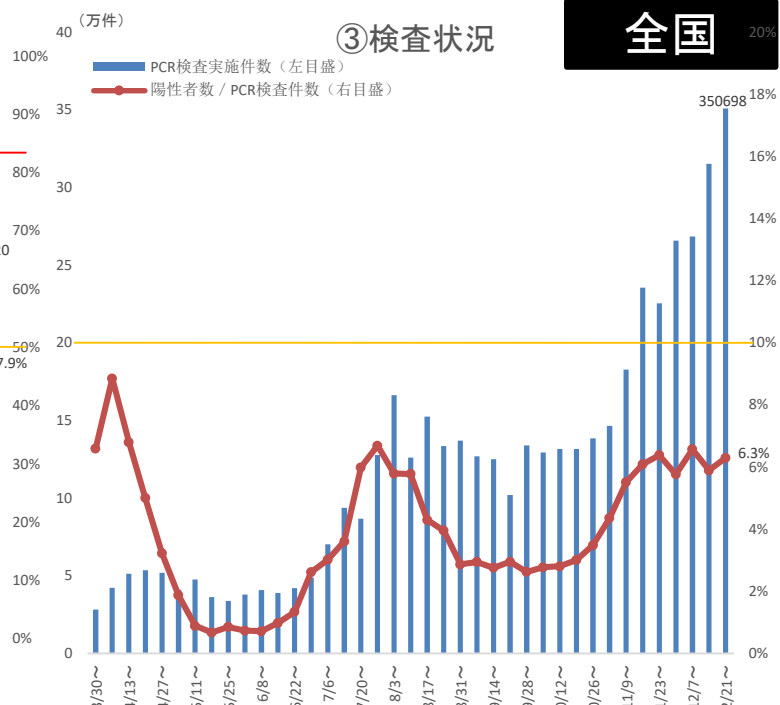
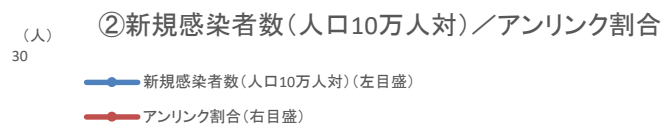
	12/16	12/23	12/30
全国	10,047人(36.9%) ↑	10,470人(38.1%) ↑	11,585人(42.1%) ↑
東京	1,987人(49.7%) ↑	2,148人(53.7%) ↑	2,457人(61.4%) ↑
神奈川	453人(23.4%) ↑	537人(27.7%) ↑	550人(28.4%) ↑
愛知	513人(54.9%) ↑	518人(55.5%) ↑	593人(63.5%) ↑
大阪	975人(65.3%) ↑	1,031人(66.9%) ↑	1,040人(66.0%) ↑
北海道	992人(54.8%) ↓	926人(51.1%) ↓	817人(45.1%) ↓
福岡	216人(39.2%) ↑	237人(43.0%) ↑	351人(60.9%) ↑
沖縄	191人(41.9%) ↓	142人(30.3%) ↓	153人(32.6%) ↑

○重症者数の動向 (入院者数(対受入確保病床数))

- ・入院患者数同様、増加が続いている。受入確保病床に対する割合も上昇が続き、各地高水準となっている。

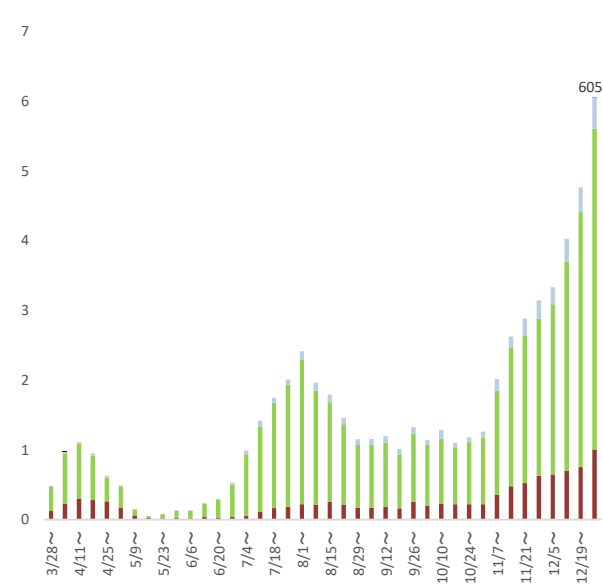
	12/16	12/23	12/30
全国	950人(26.6%) ↑	1,017人(28.1%) ↑	1,107人(30.6%) ↑
東京	332人(66.4%) ↑	343人(68.6%) ↑	379人(75.8%) ↑
神奈川	56人(28.0%) ↓	57人(28.5%) ↑	59人(29.5%) ↑
愛知	35人(50.0%) ↑	39人(37.9%) ↑	39人(37.9%) →
大阪	219人(55.3%) ↑	256人(64.5%) ↑	259人(65.2%) ↑
北海道	34人(18.7%) ↑	31人(17.0%) ↓	22人(12.1%) ↓
福岡	12人(11.5%) ↑	12人(11.5%) →	16人(15.2%) ↑
沖縄	19人(35.8%) ↓	15人(28.3%) ↓	20人(37.7%) ↑

※ 「入院患者数の動向」は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況、病床数等に関する調査」による。この調査では、記載日の0時時点で調査・公表している。
重症者数については、8月14日公表分以前とは対象者の基準が異なる。↑は前週と比べ増加、↓は減少、→は同水準を意味する。

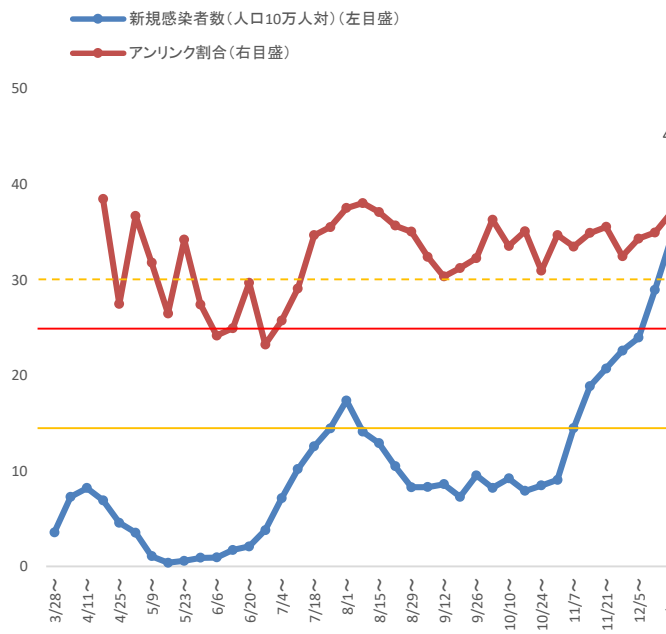


(資料出所) 1月6日ADB資料1

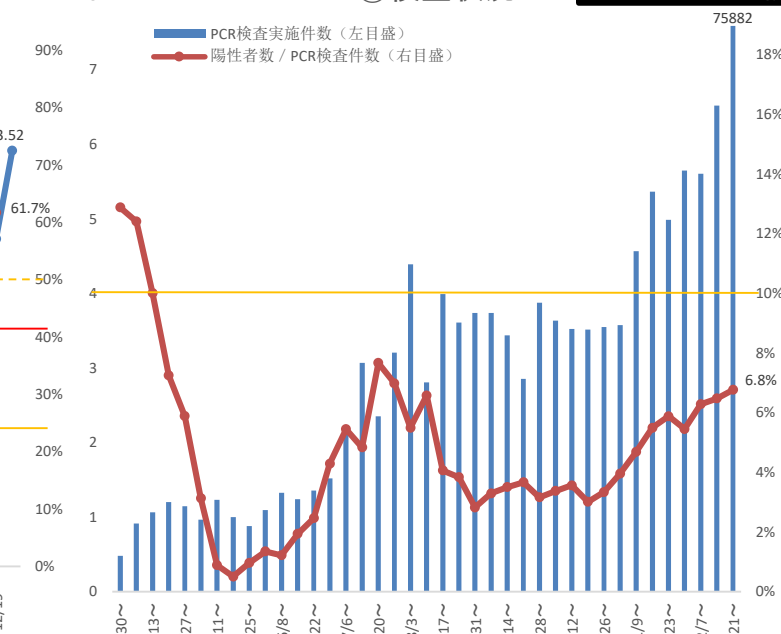
①新規感染者報告数



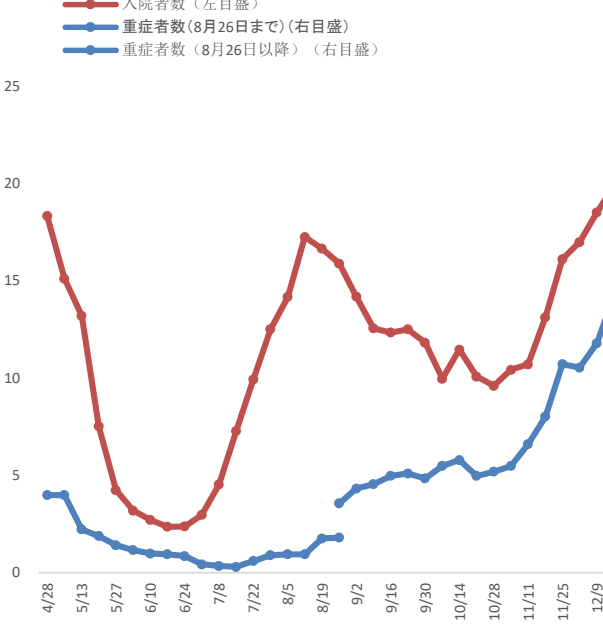
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



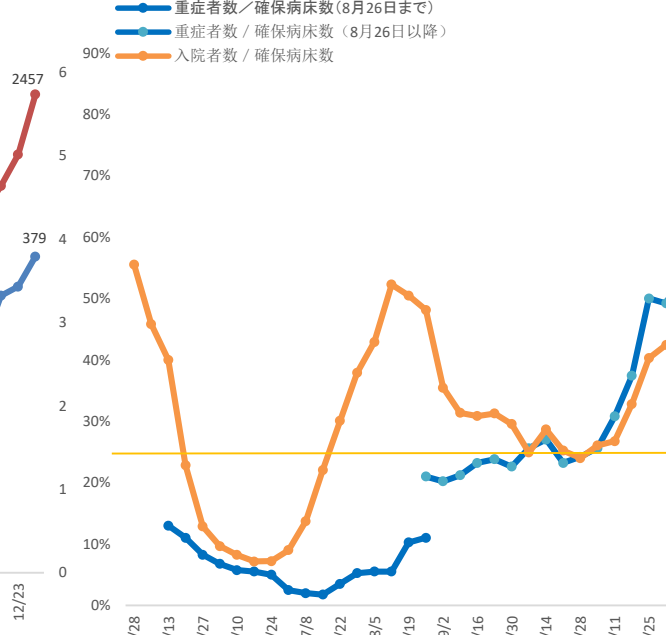
③検査状況



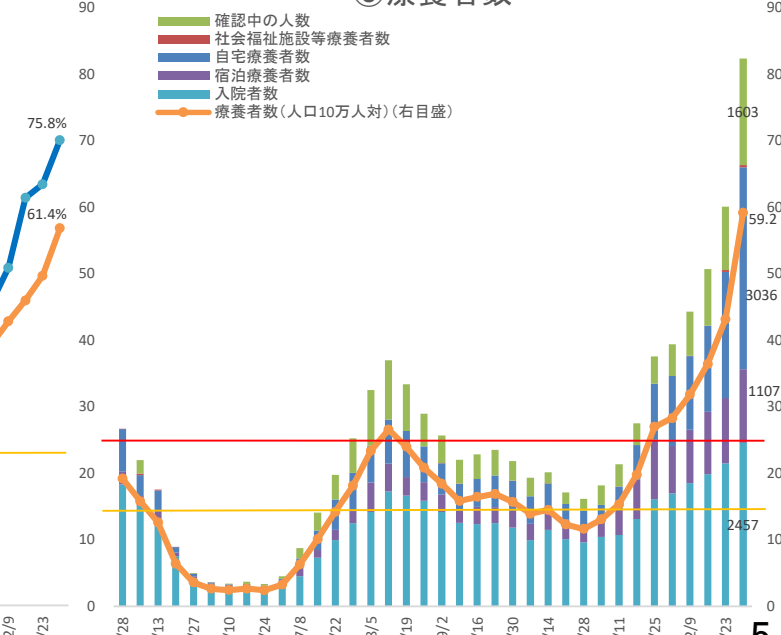
④入院者数／重症者数



⑤病床占有率

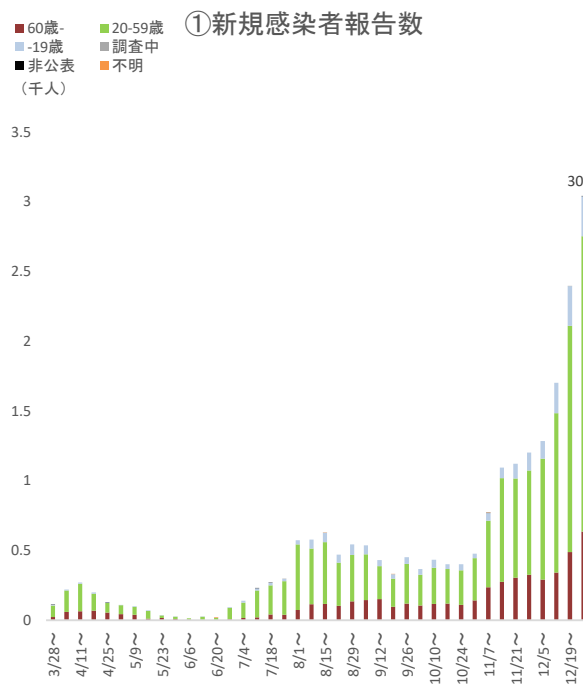


⑥療養者数

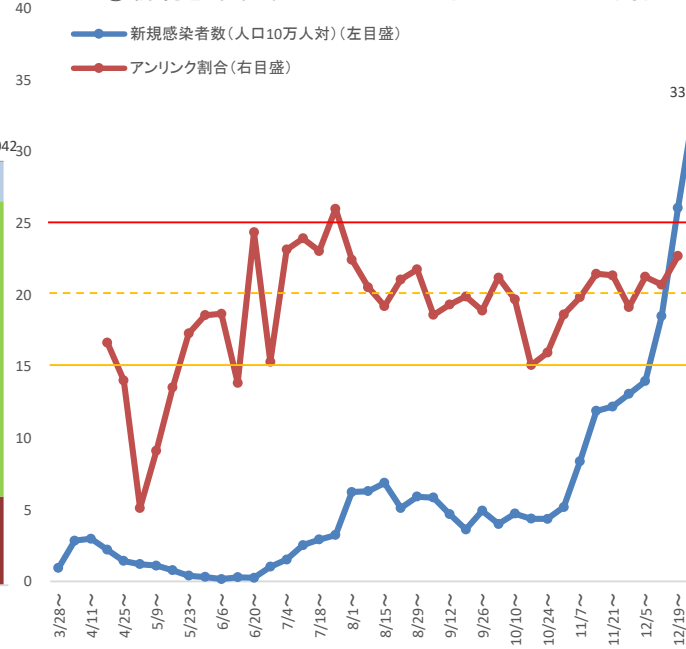


(資料出所) 1月6日ADB資料 1

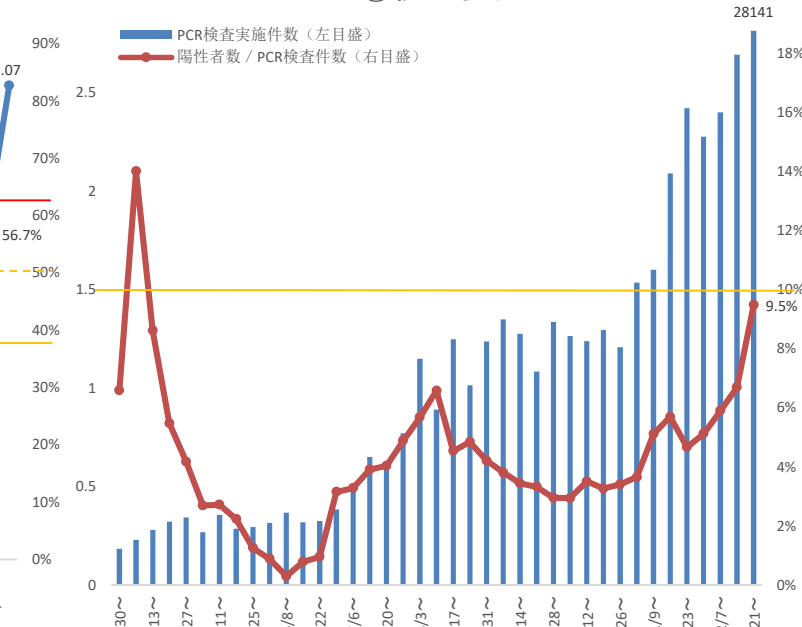
①新規感染者報告数



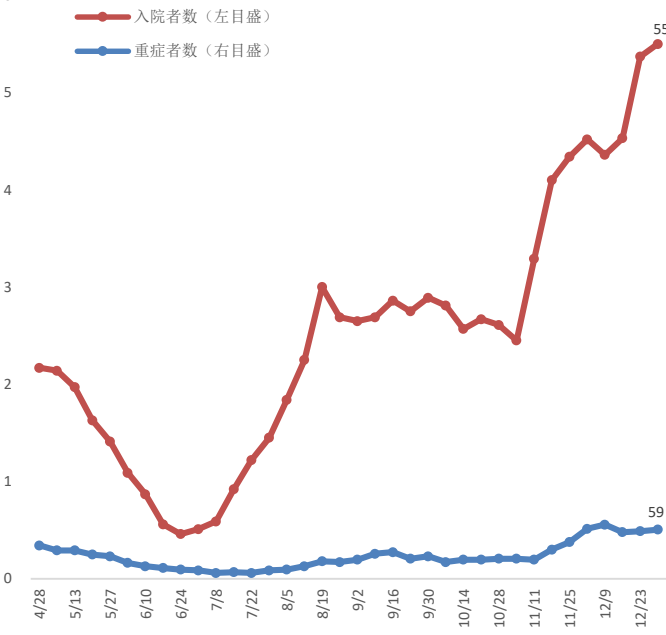
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合



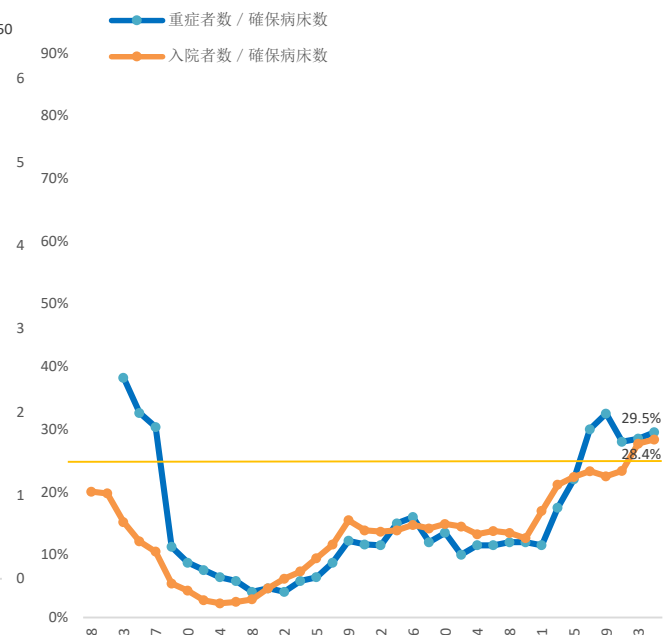
③検査状況



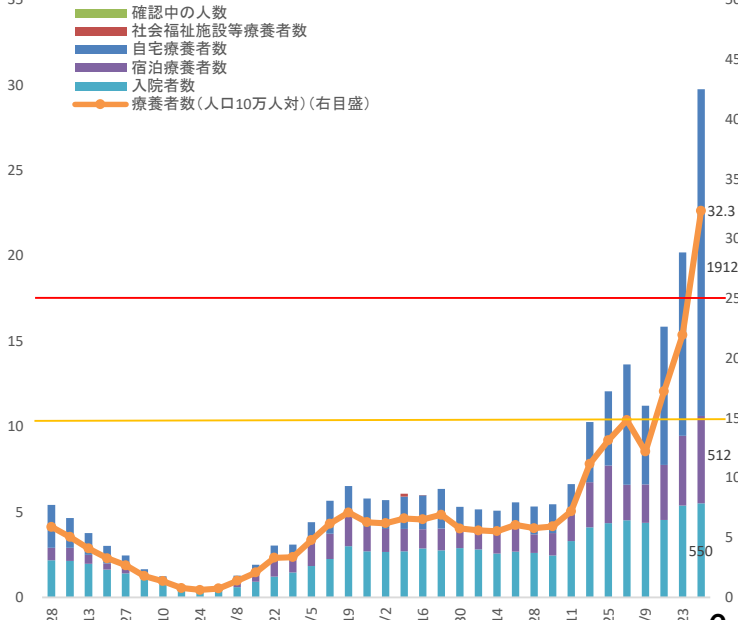
④入院者数／重症者数



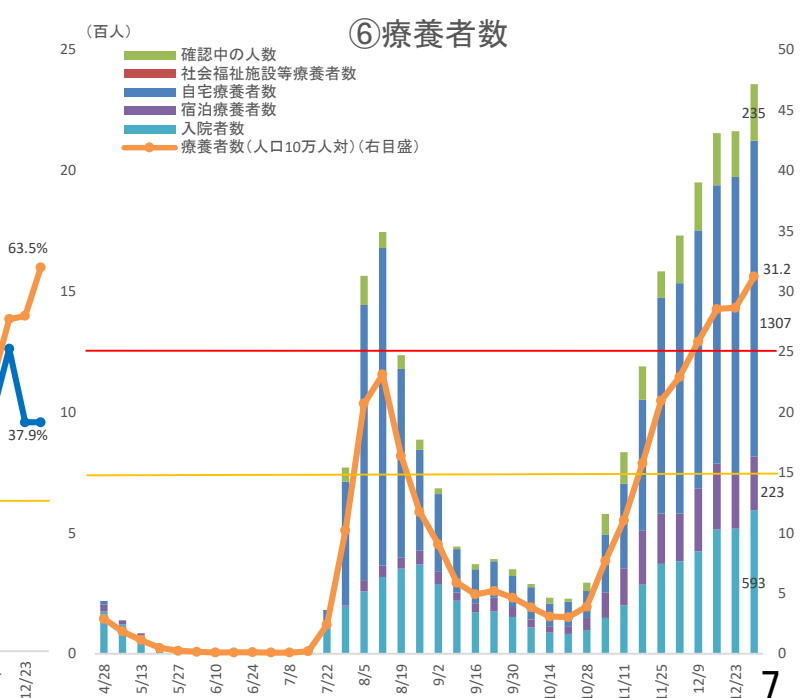
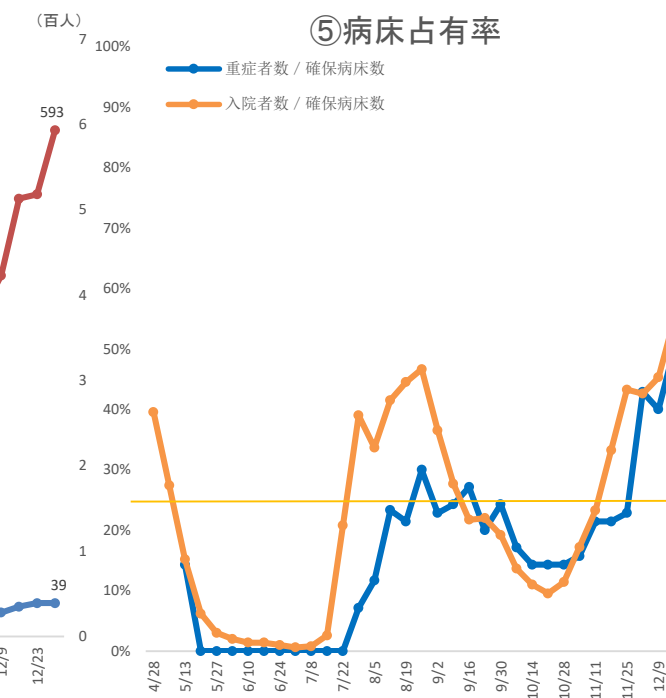
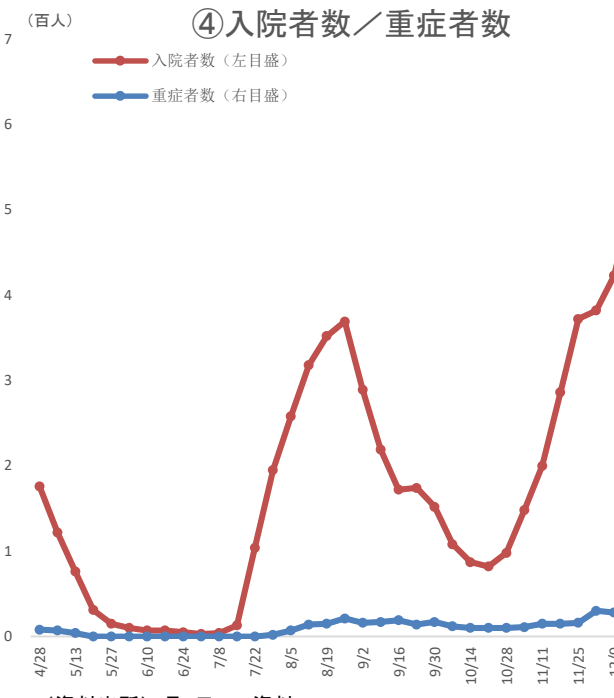
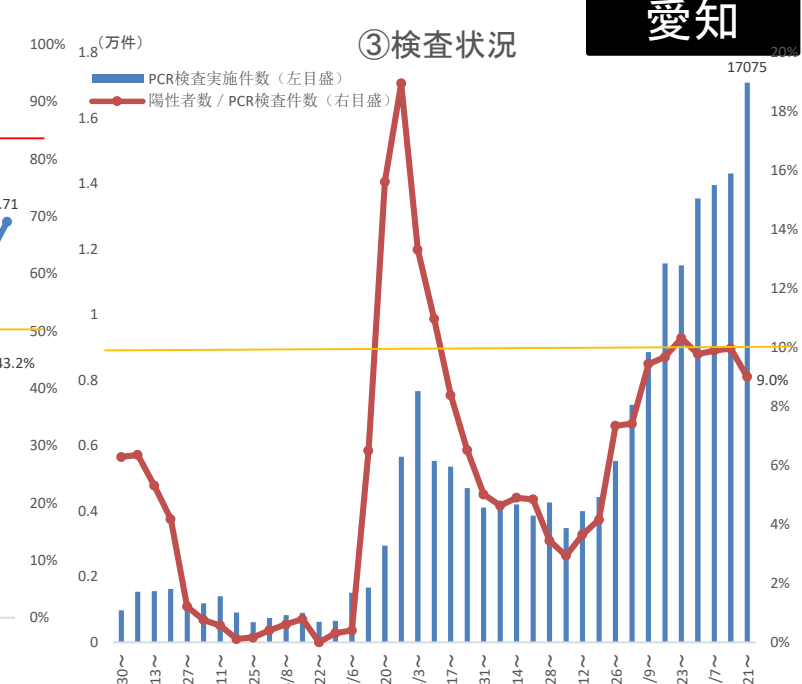
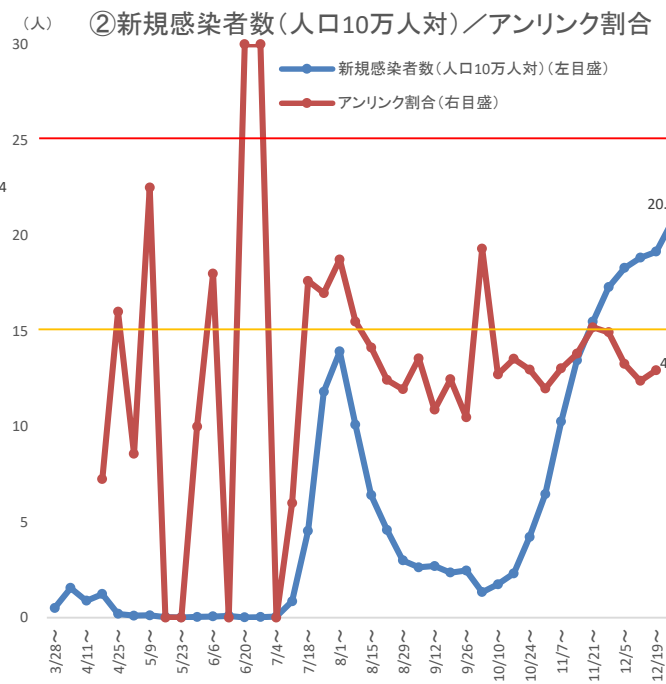
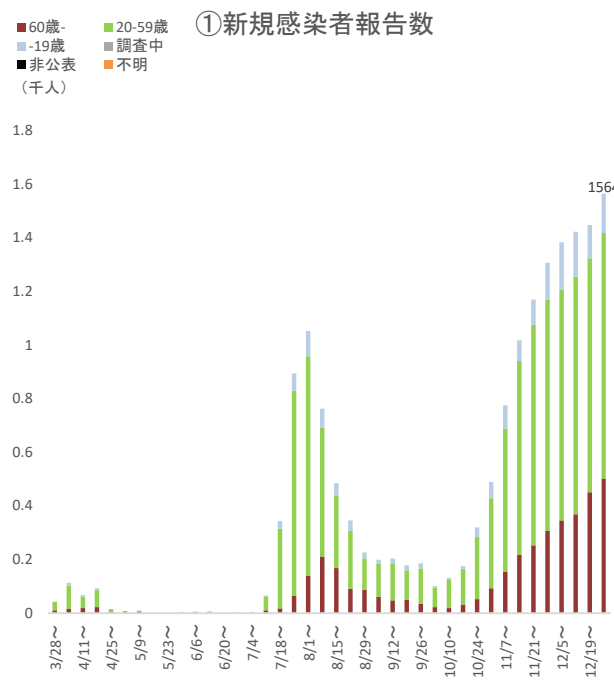
⑤病床占有率



⑥療養者数

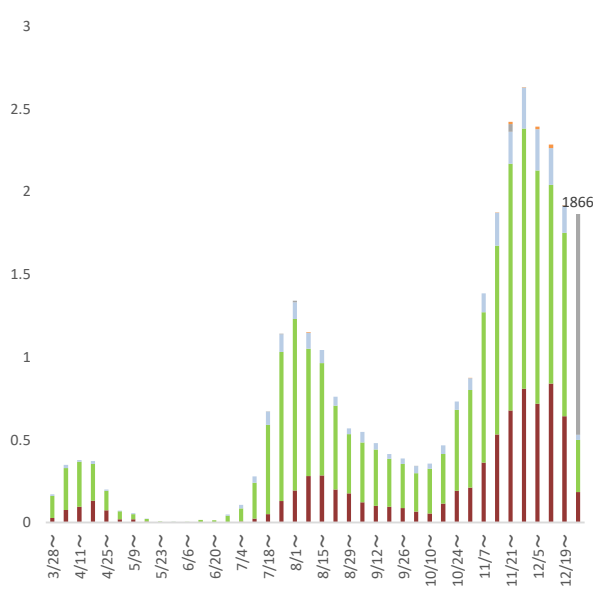


(資料出所) 1月6日ADB資料1

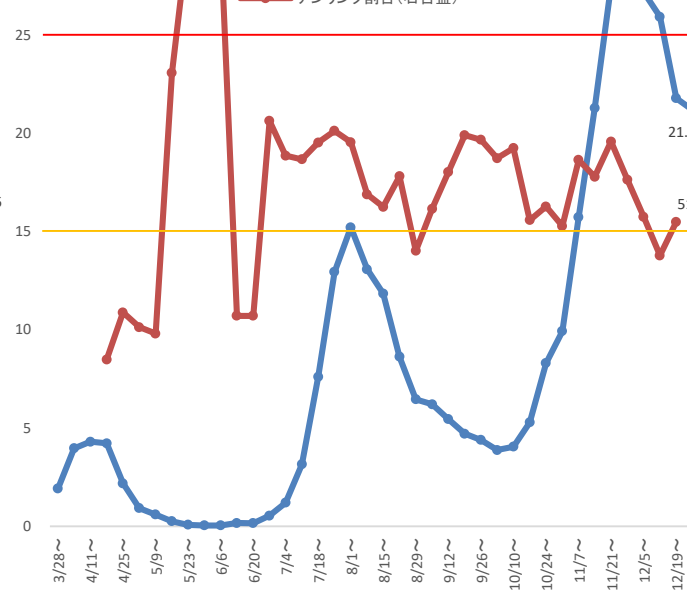


(資料出所)1月6日ADB資料1

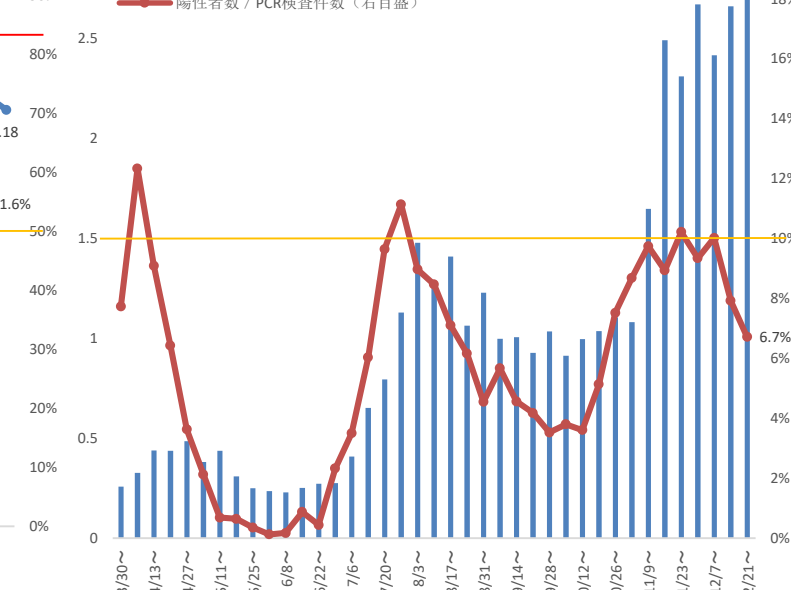
①新規感染者報告数



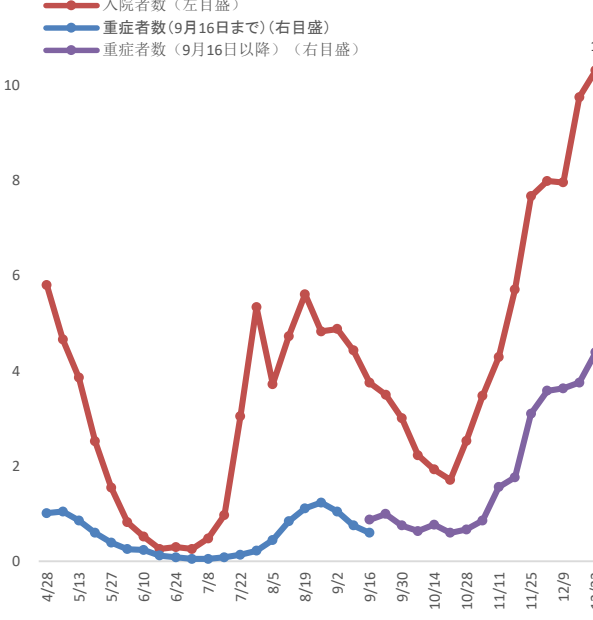
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



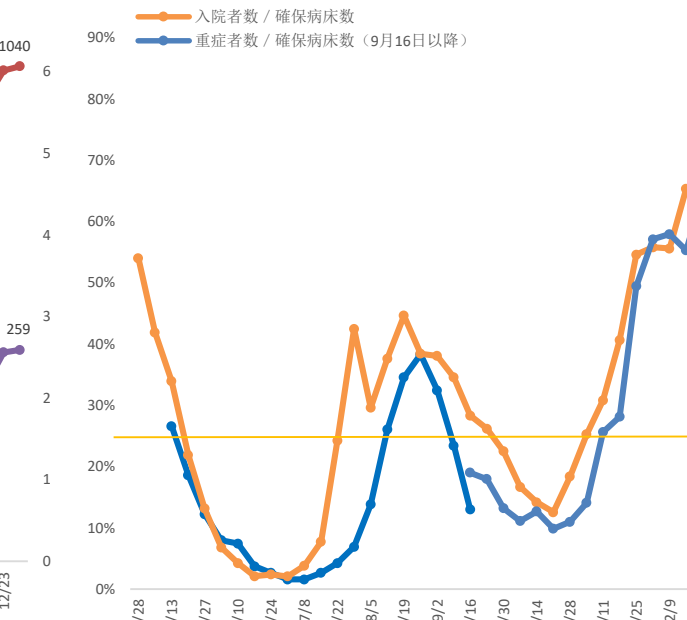
③検査状況



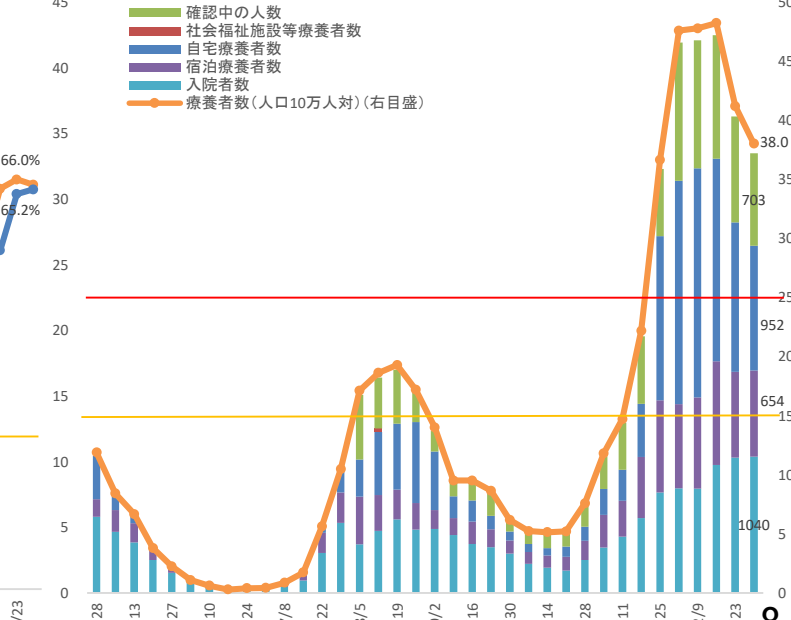
④入院者数／重症者数



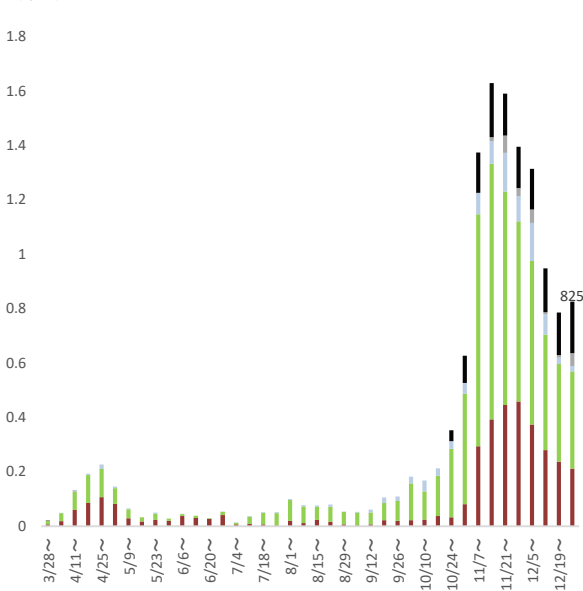
⑤病床占有率



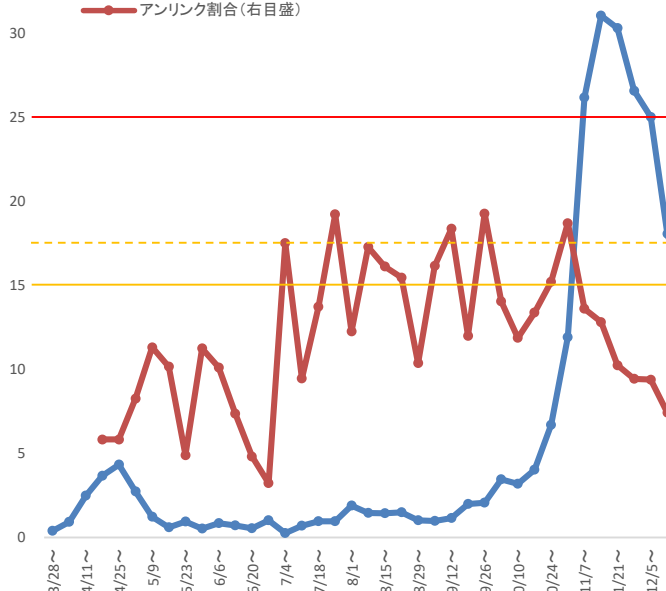
⑥療養者数



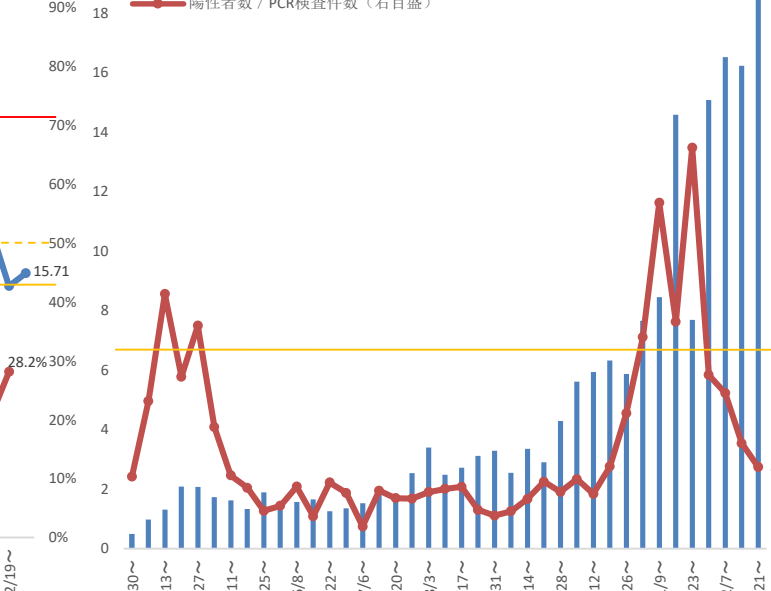
①新規感染者報告数



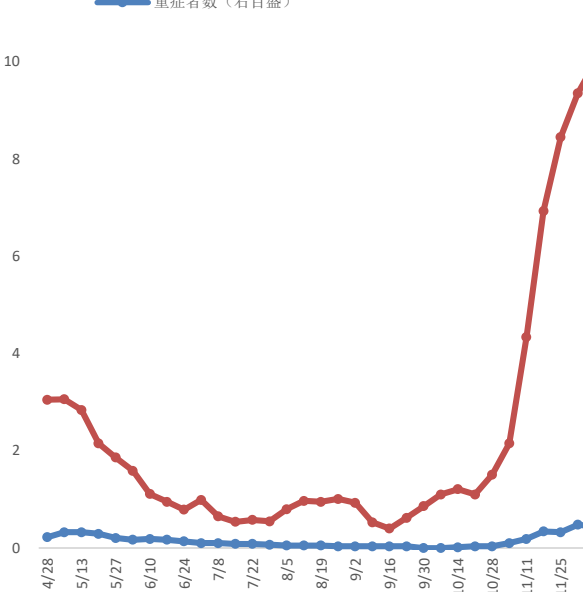
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



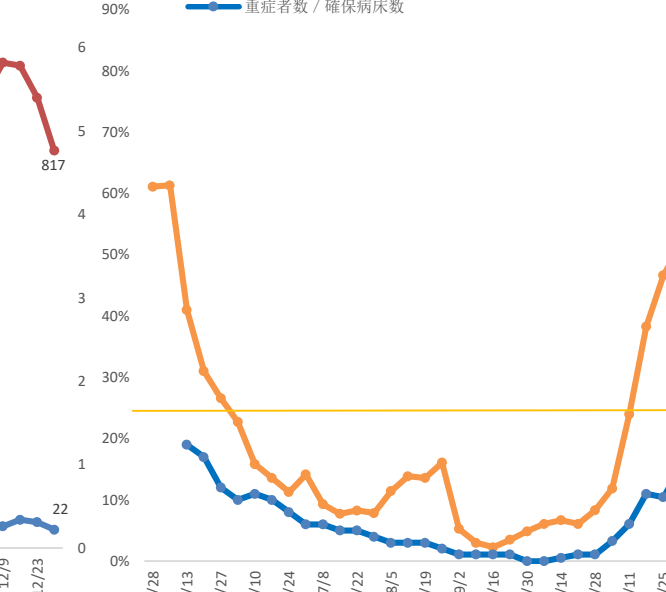
③検査状況



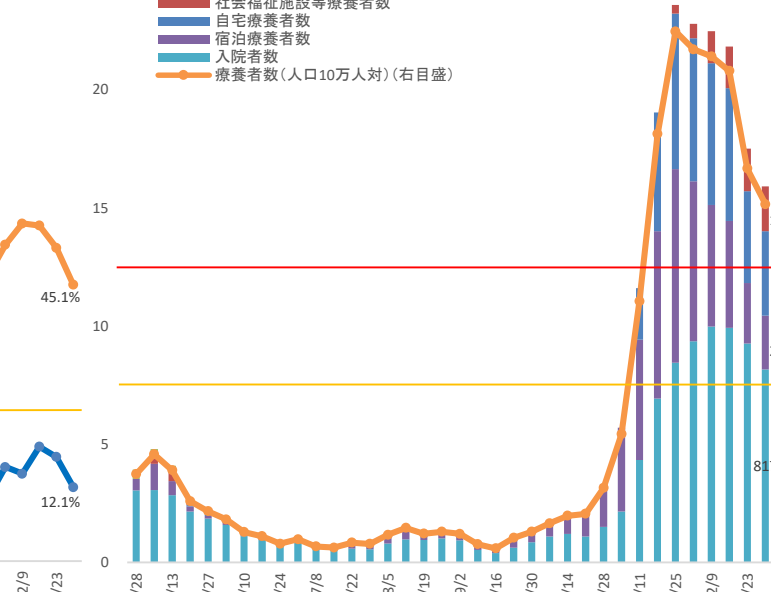
④入院者数／重症者数



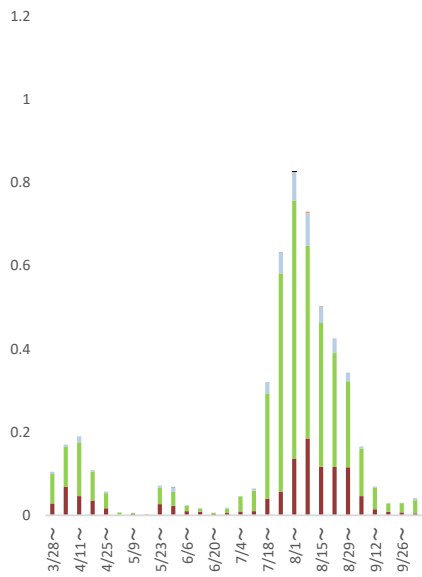
⑤病床占有率



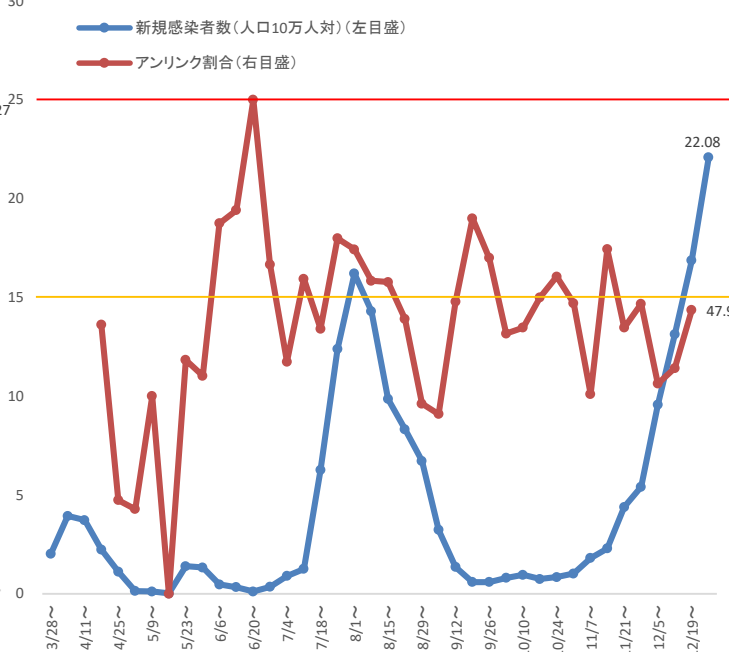
⑥療養者数



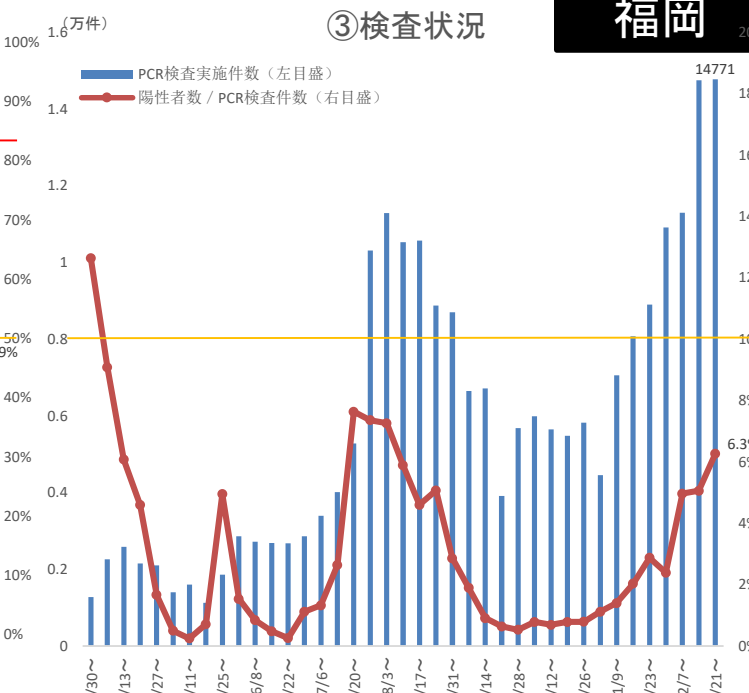
①新規感染者報告数



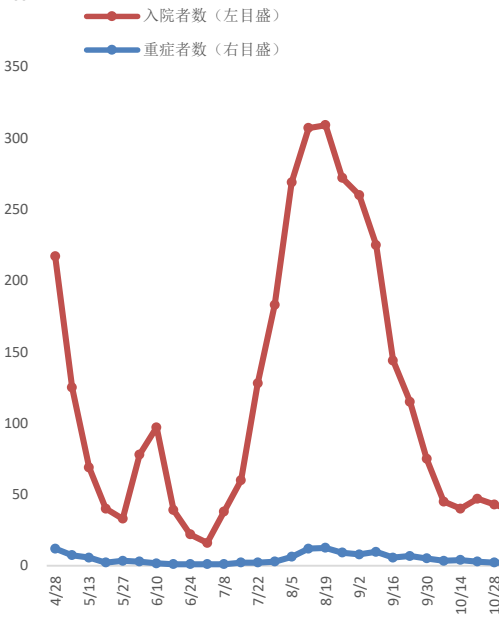
②新規感染者数(人口10万人対)／アリンク割合



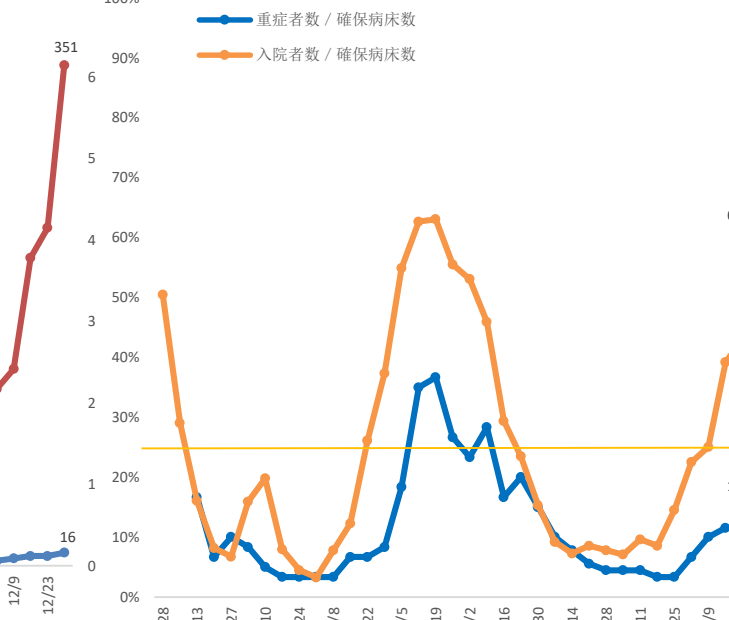
③検査状況



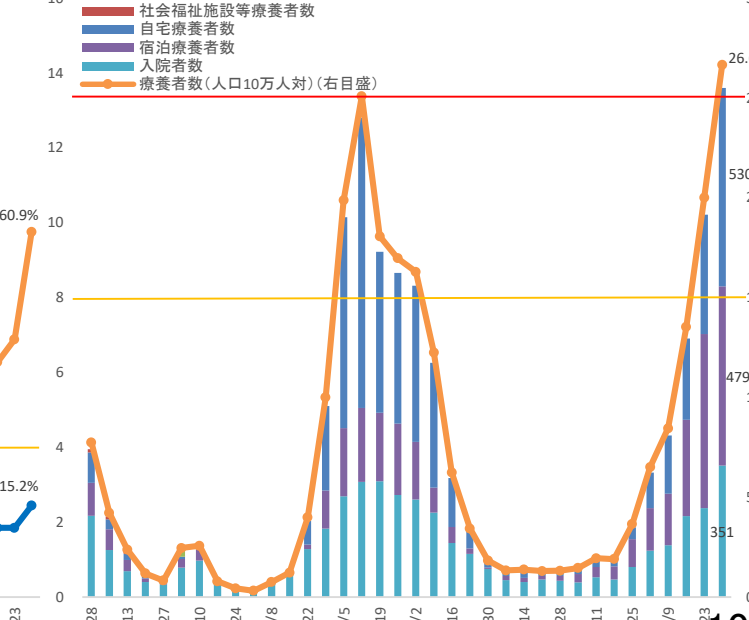
④入院者数／重症者数



⑤病床占有率



⑥療養者数

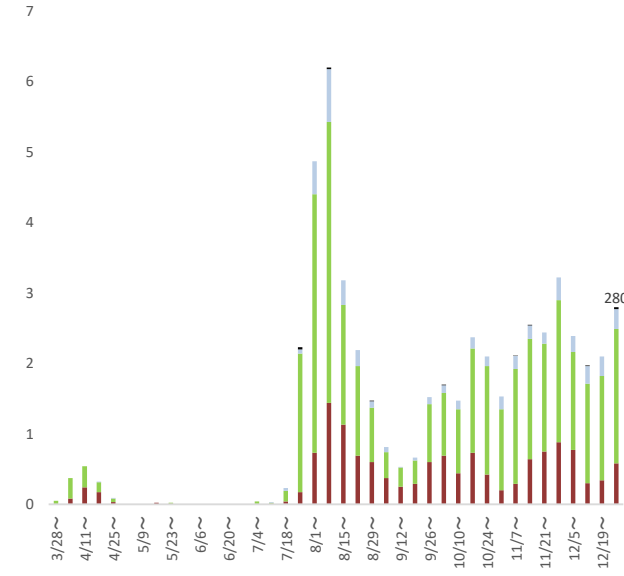


(資料出所) 1月6日ADB資料 1

①新規感染者報告数

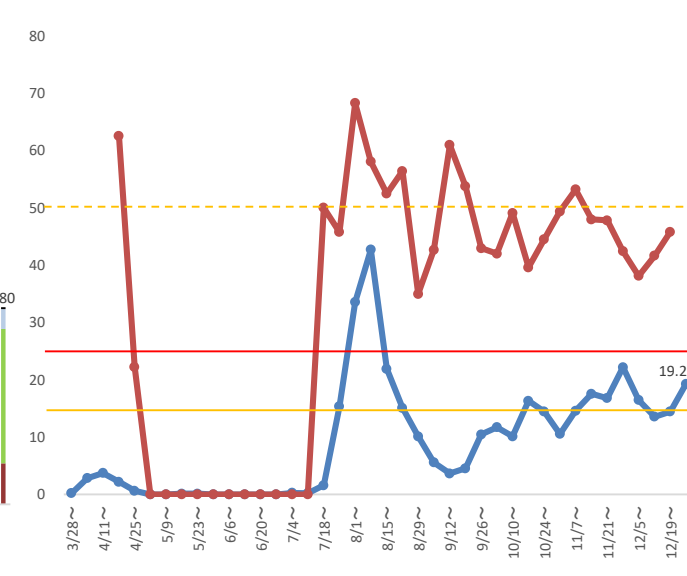
- 60歳- (赤)
- 20-59歳 (緑)
- 19歳 (青)
- 調査中 (灰)
- 非公表 (黒)
- 不明 (オレンジ)

(百人)



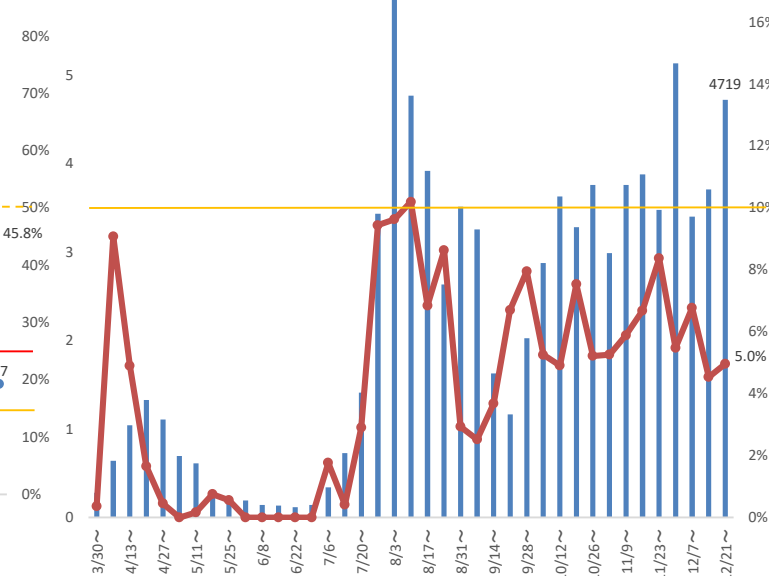
②新規感染者数(人口10万人対)／アンリンク割合

- 新規感染者数(人口10万人対) (左目盛) (青)
- アンリンク割合 (右目盛) (赤)

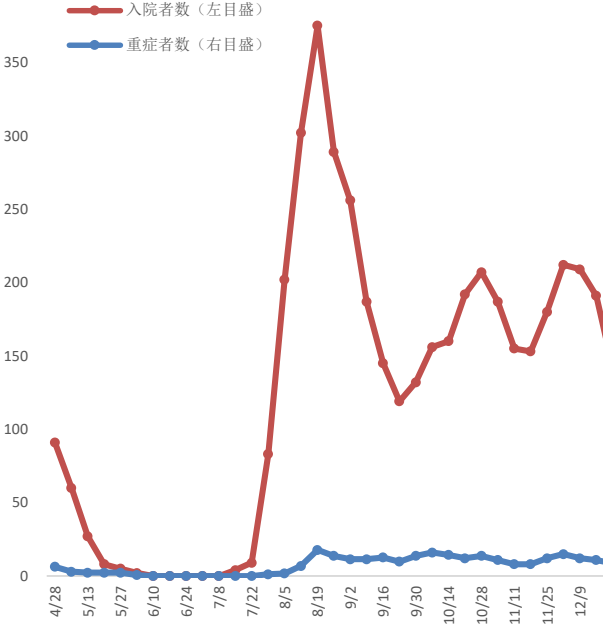


③検査状況

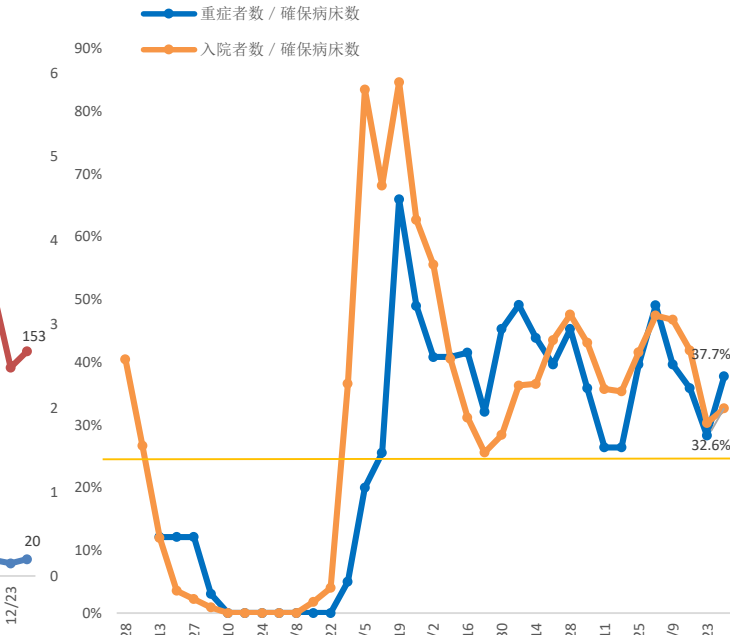
- PCR検査実施件数 (左目盛) (青)
- 陽性者数 / PCR検査件数 (右目盛) (赤)



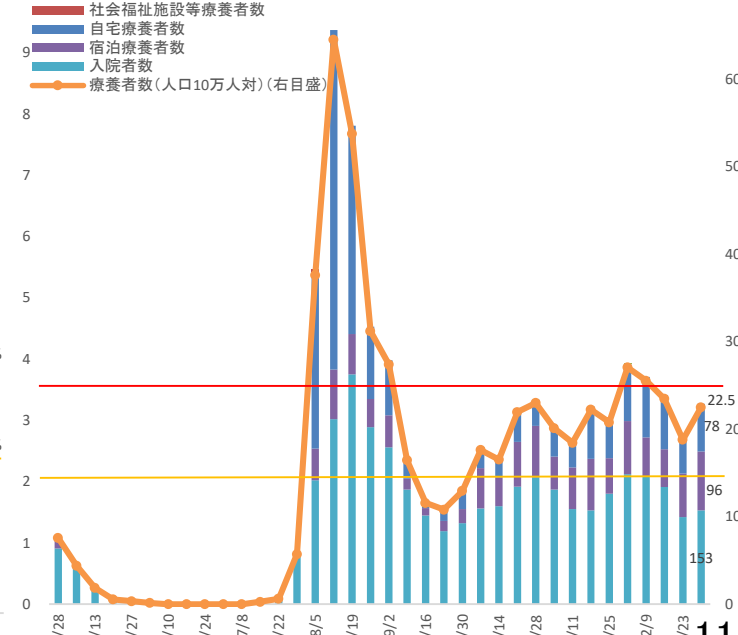
④入院者数／重症者数



⑤病床占有率



⑥療養者数



(資料出所)1月6日ADB資料1

都道府県別エピカーブ

2020/6/15から2021/1/5

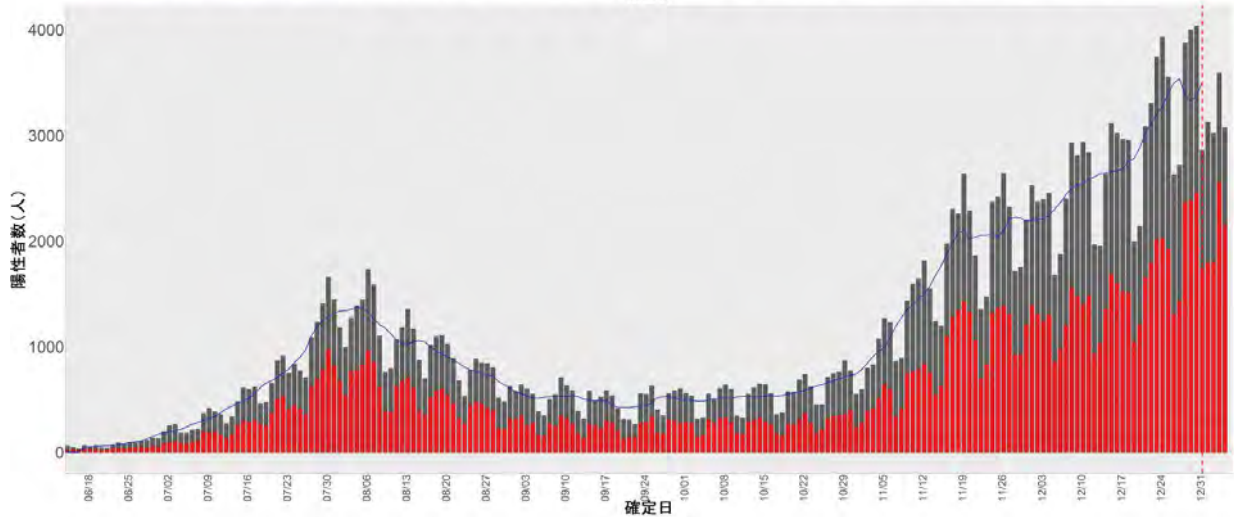
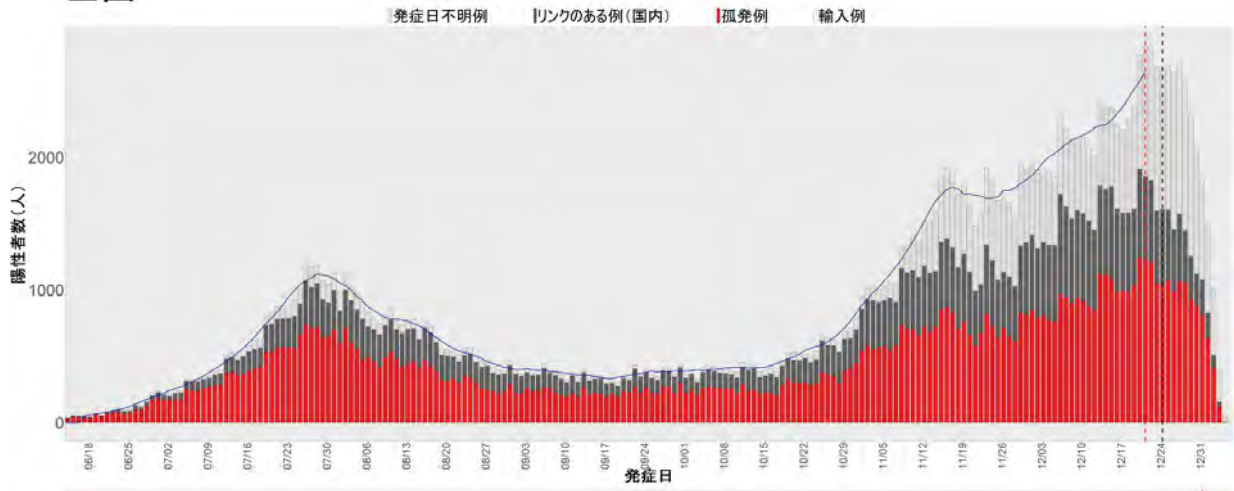
1

– データは自治体公開データに基づく

- 上段の図の赤線は14日前、黒線は11日前を示す
- 上段の図の薄灰色の発症日不明例は確定日から推定した発症日でカウント
- 下段の図の赤線は4日前を示す
- 青線は7日間の移動平均であり、上段の図の移動平均には発症日不明例も含まれる
- 無症状例は上段の図に含まれない
- 確定日は「陽性が判明した日」、それが不明な場合「自治体が発表した日」
- リンク不明の場合は「孤発例」としてカウント
- 後日になってリンクが判明すれば「リンクあり」として再集計
- 東京都の発症日に基づくエピカーブは全てリンクなしとしてカウント
- 大阪府は11月16日より発症日を公開していないために、それ以降の全症例は発症日不明症例としてカウント

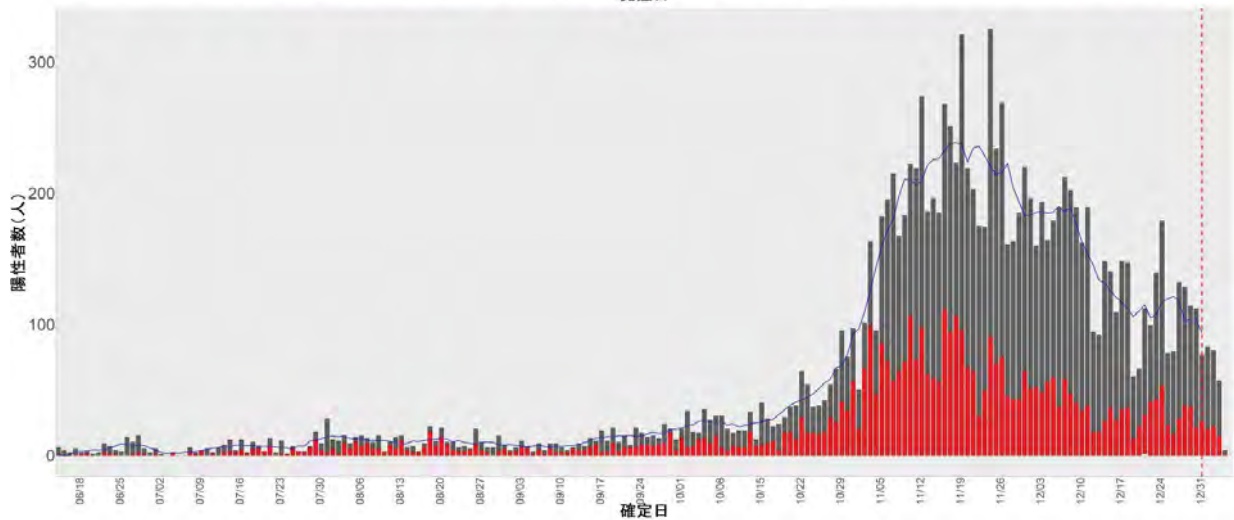
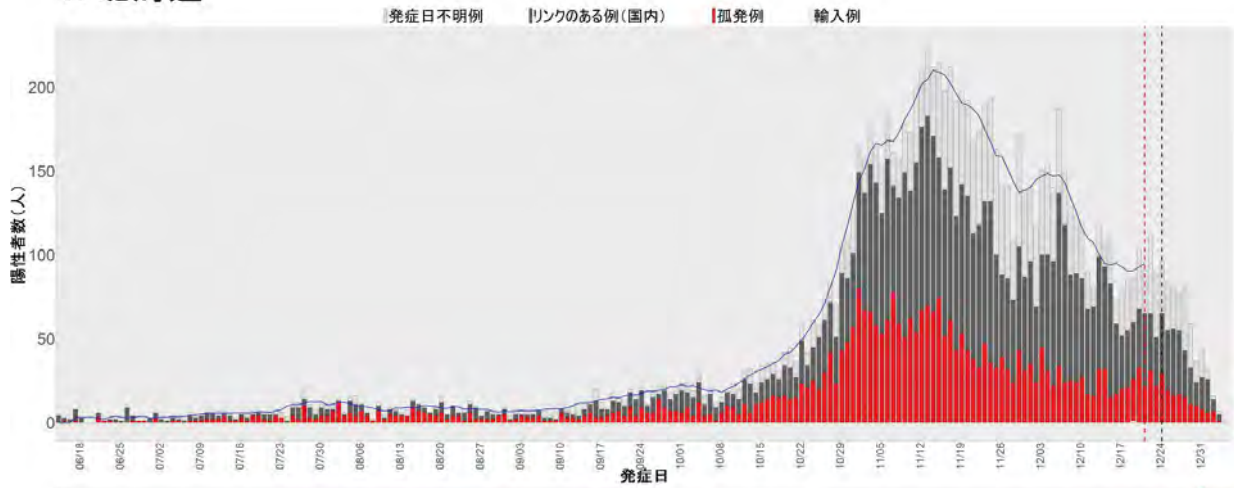
2

全国



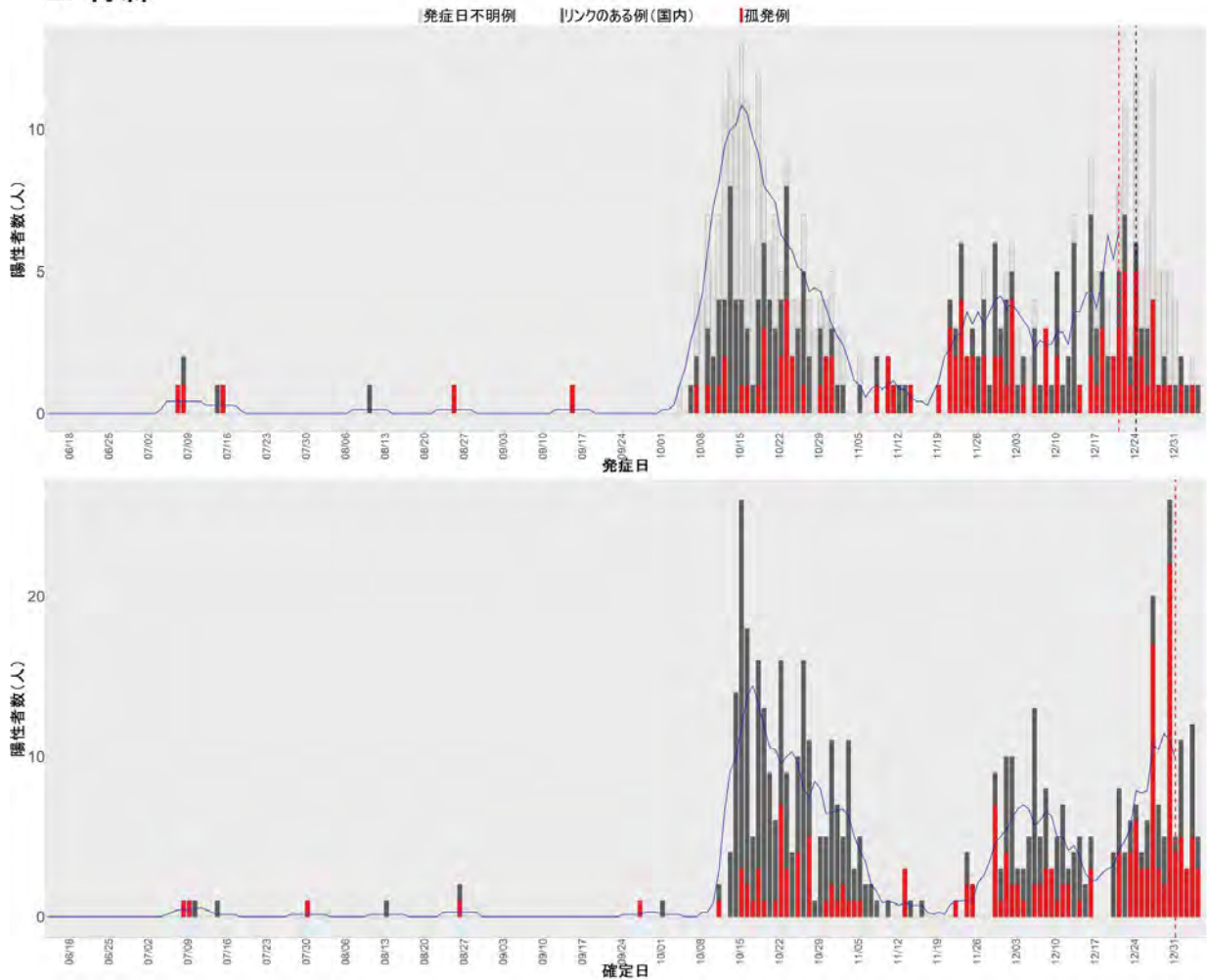
3

1. 北海道



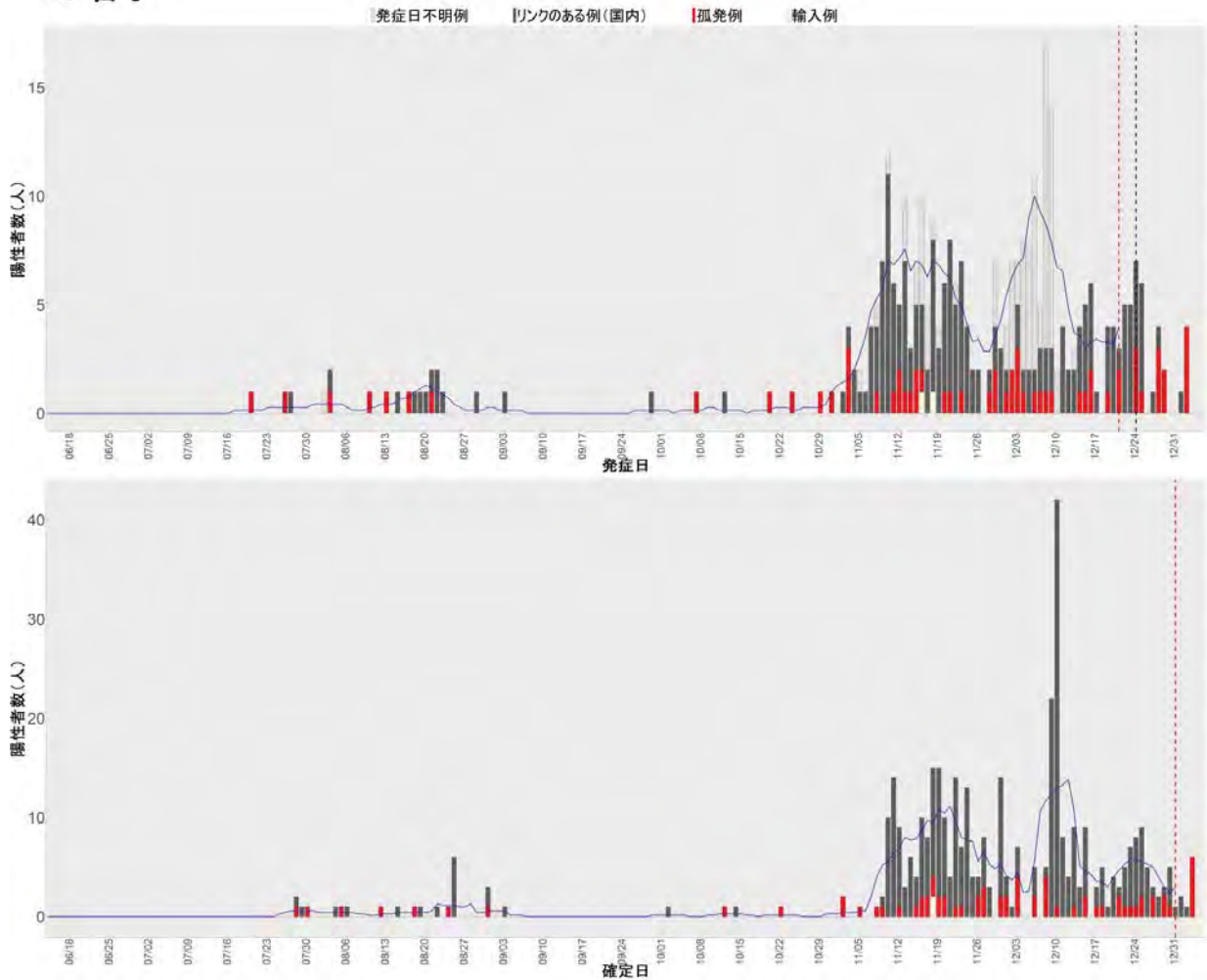
4

2. 青森



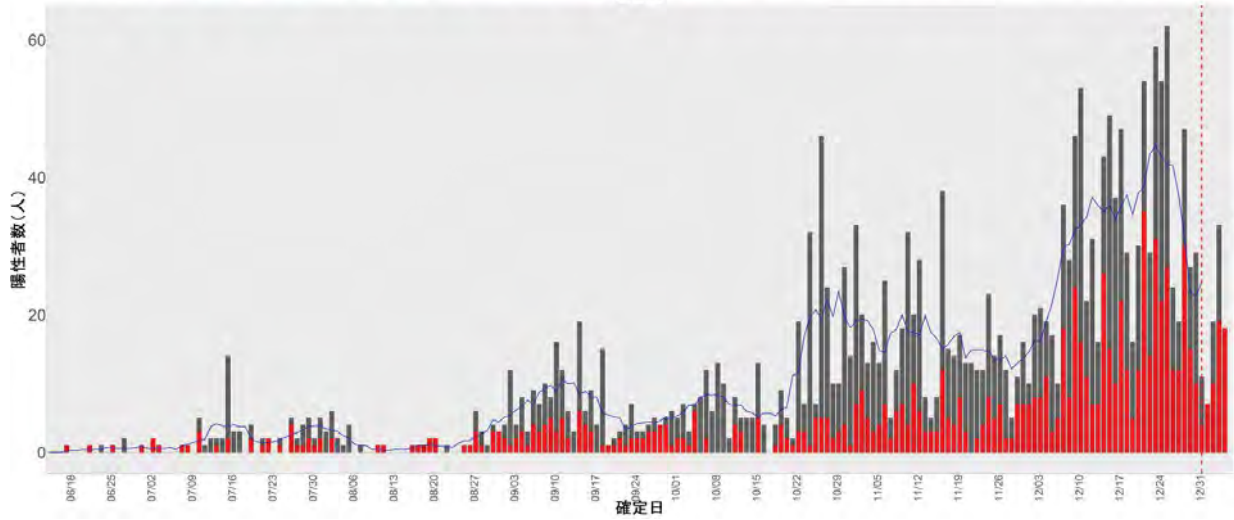
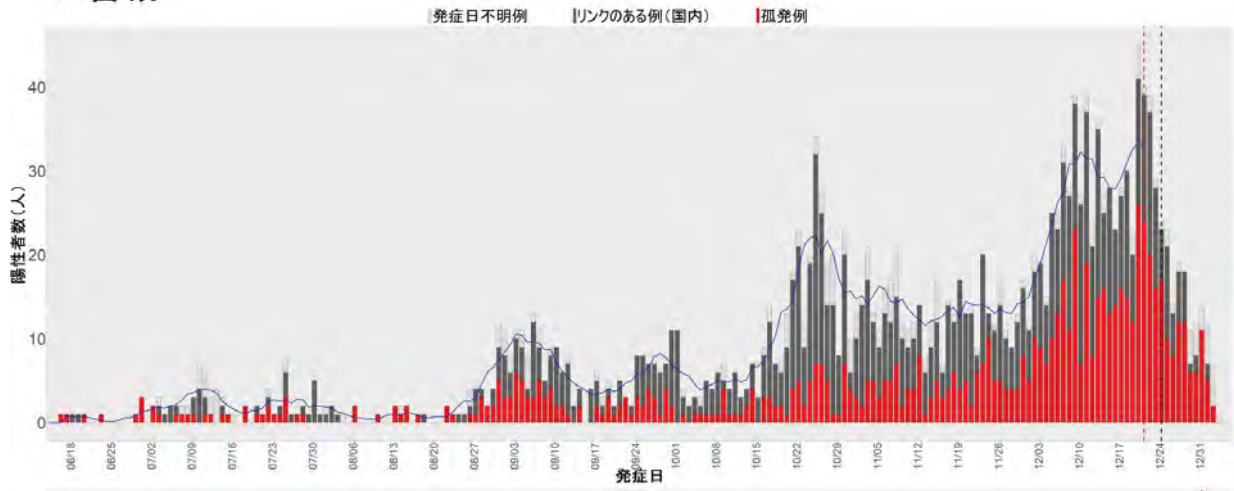
5

3. 岩手



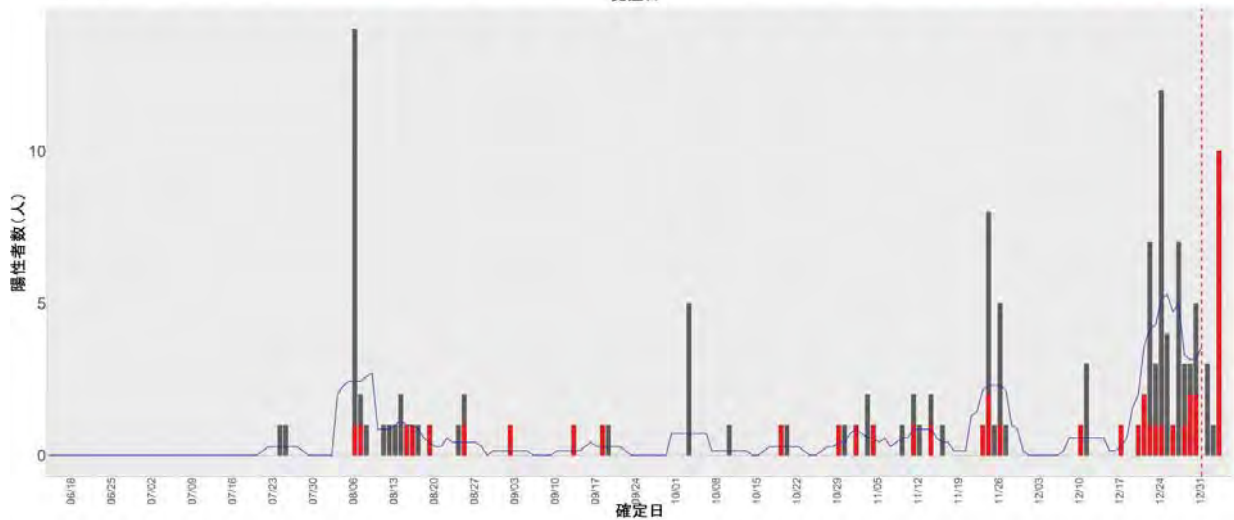
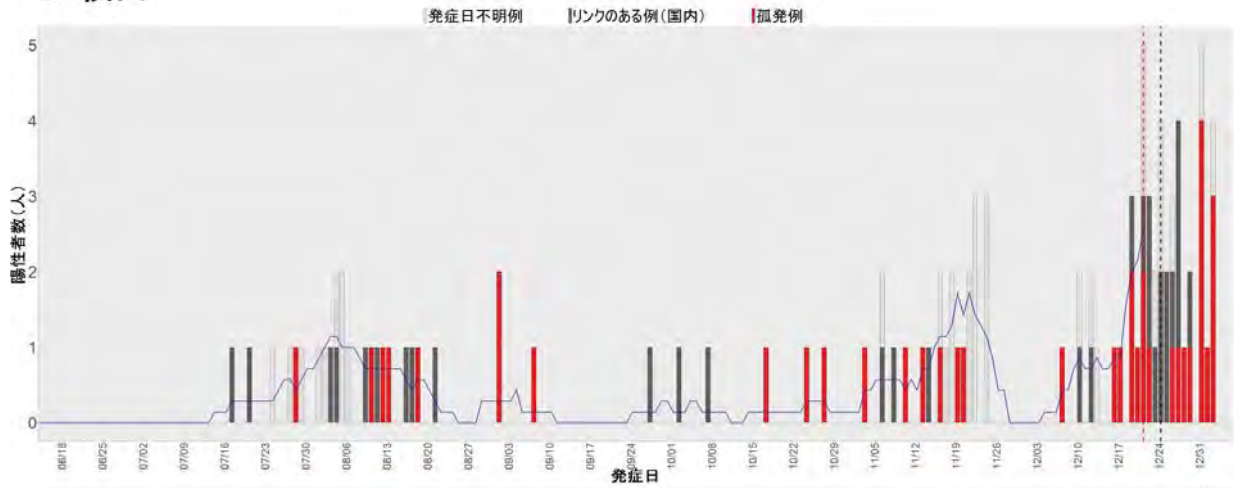
6

4. 宮城



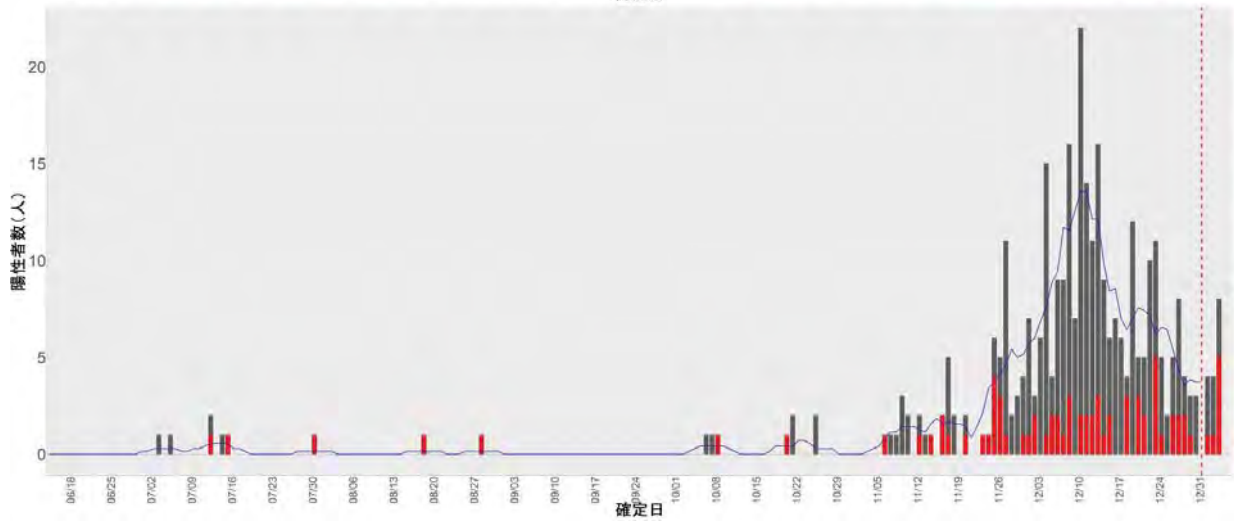
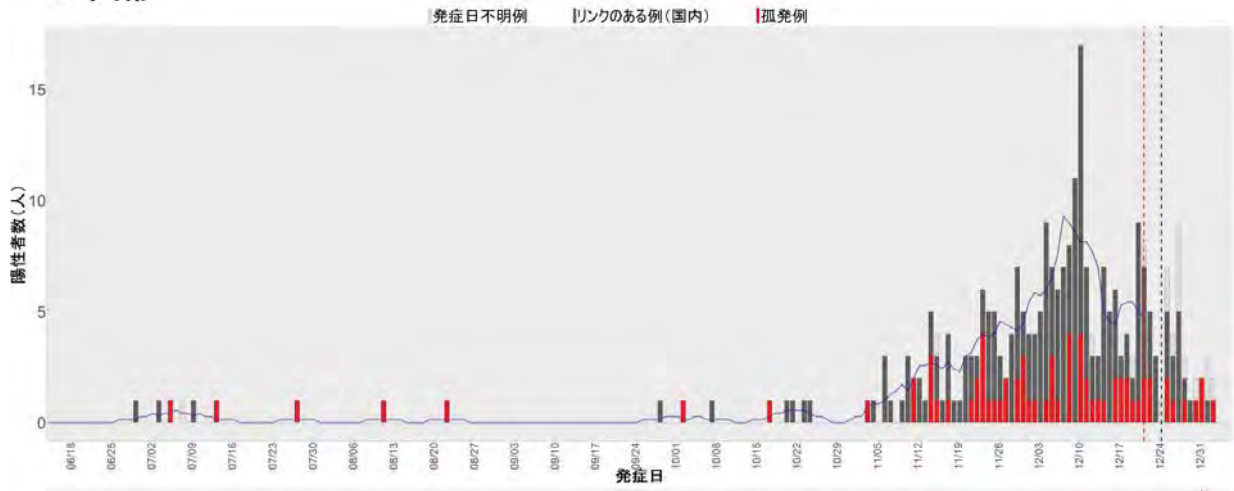
7

5. 秋田



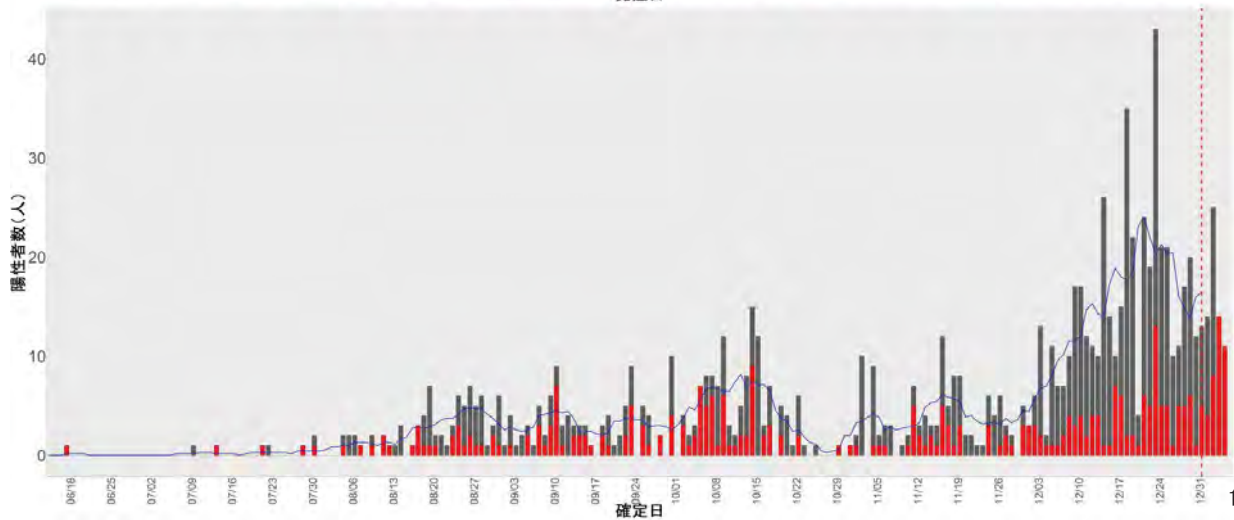
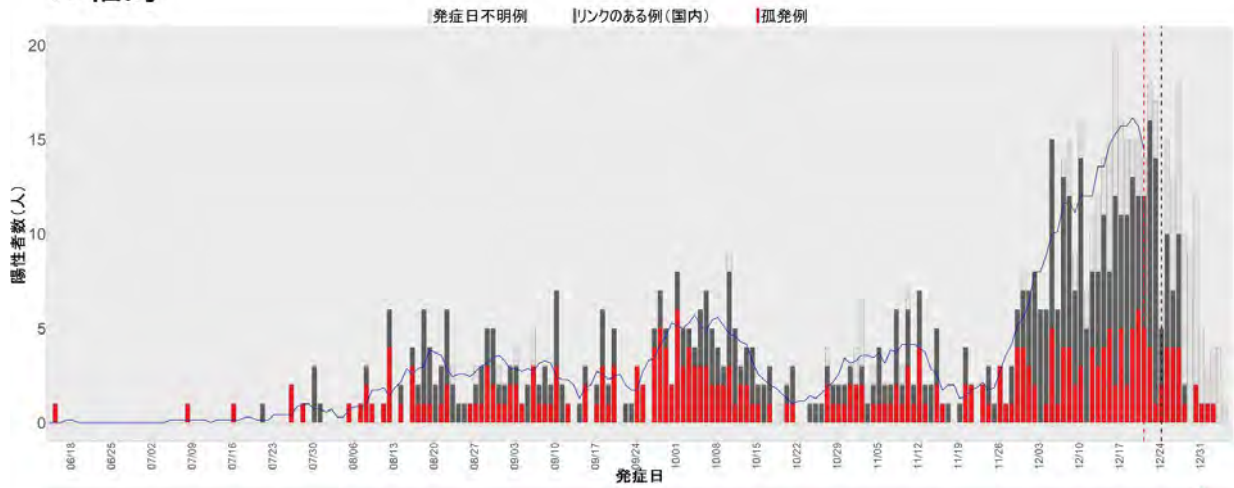
8

6. 山形



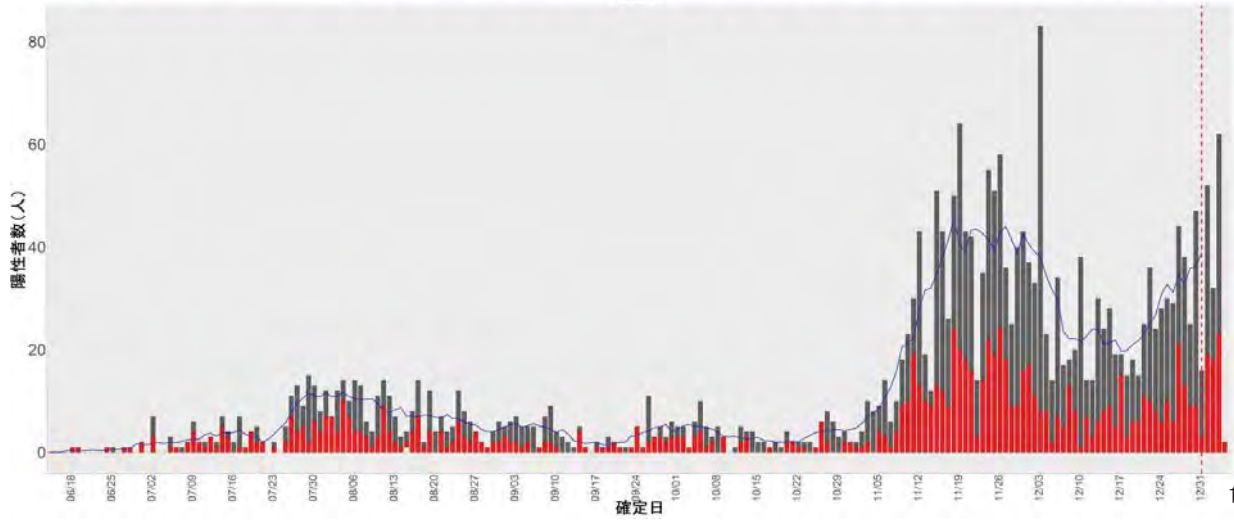
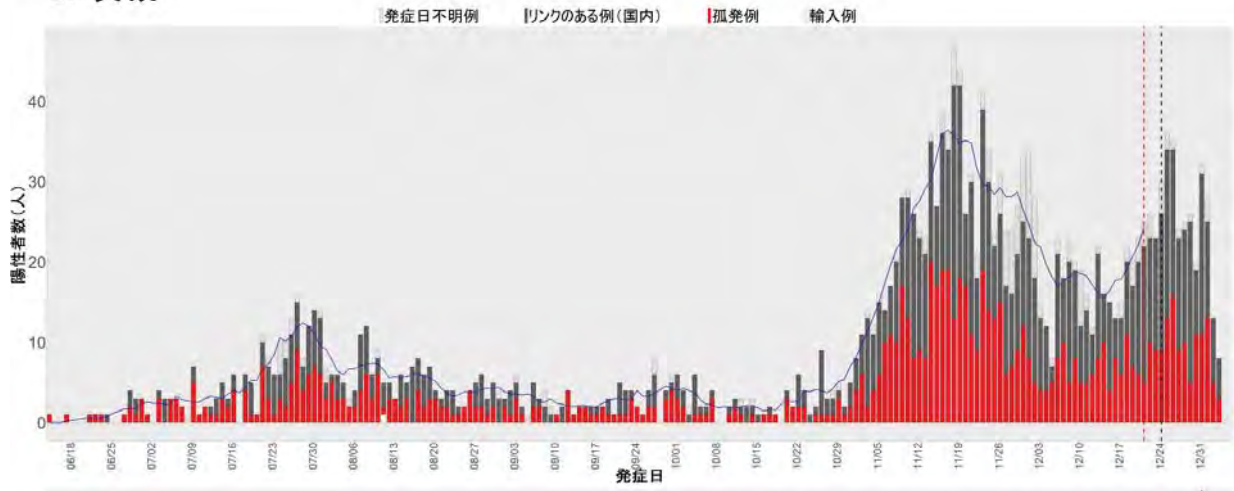
9

7. 福島



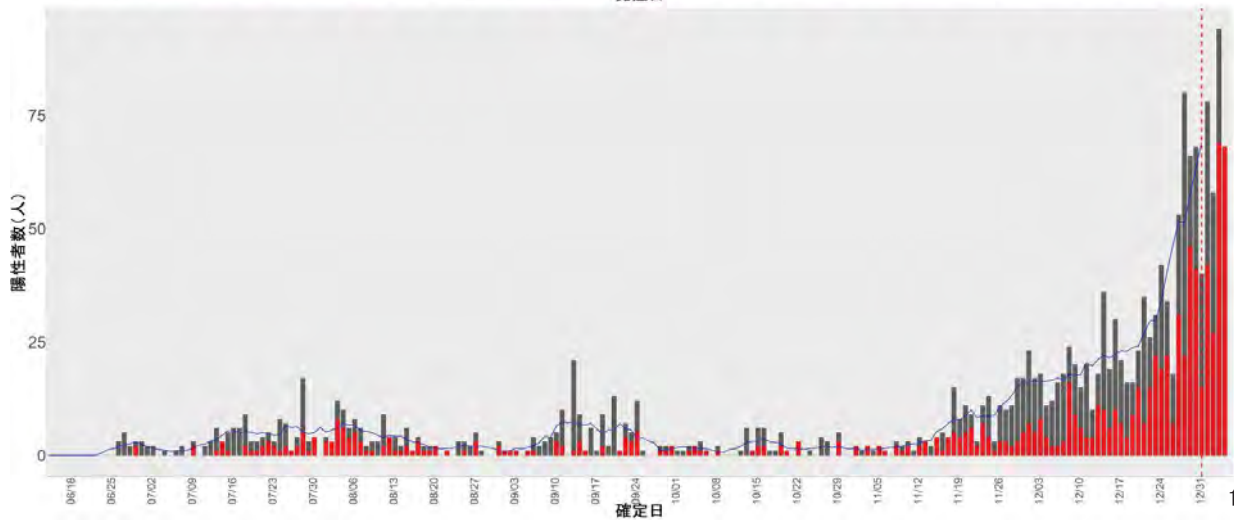
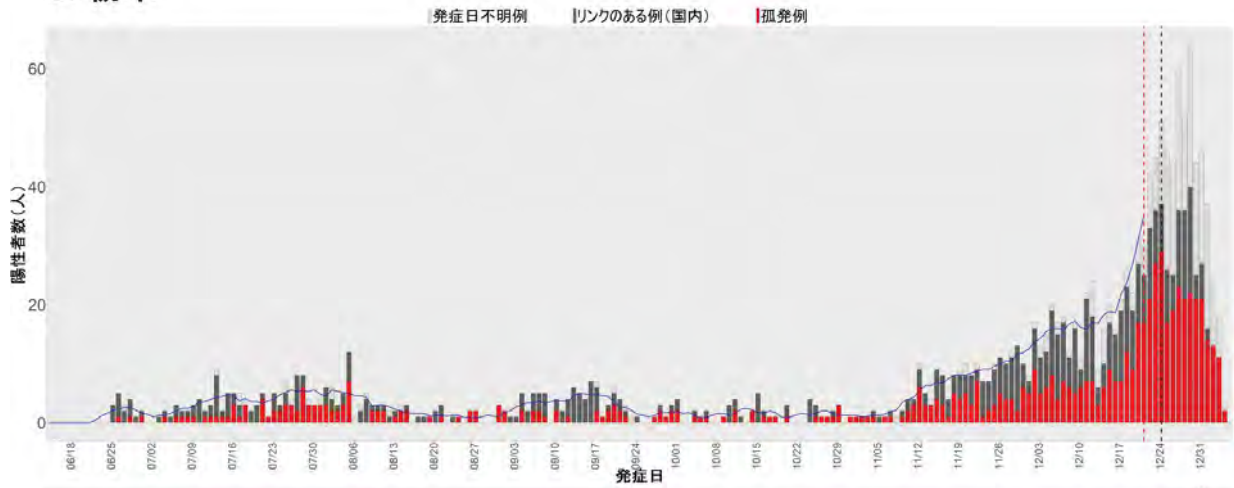
10

8. 茨城



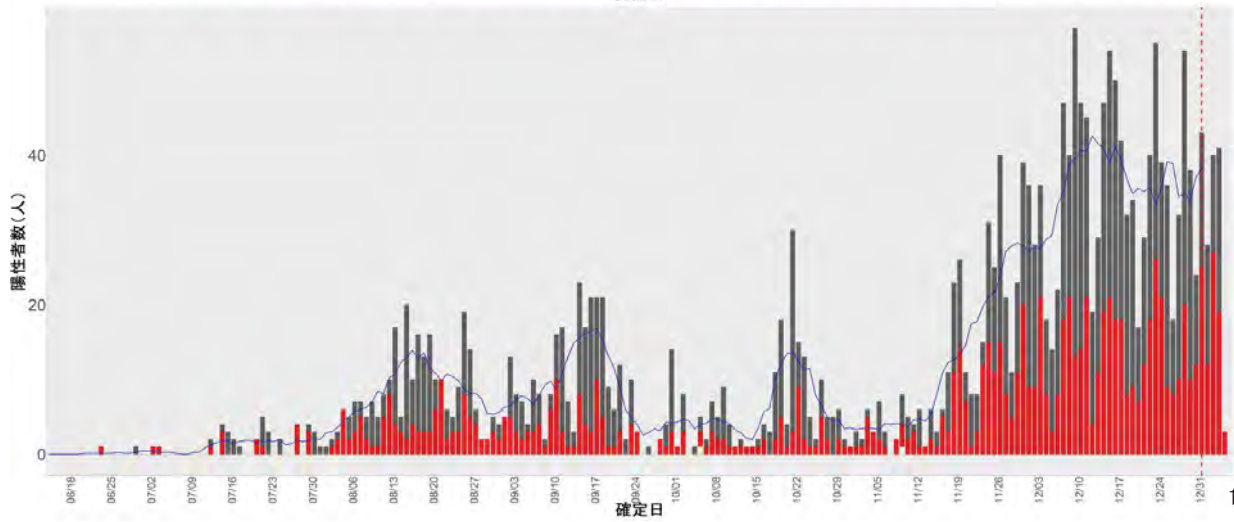
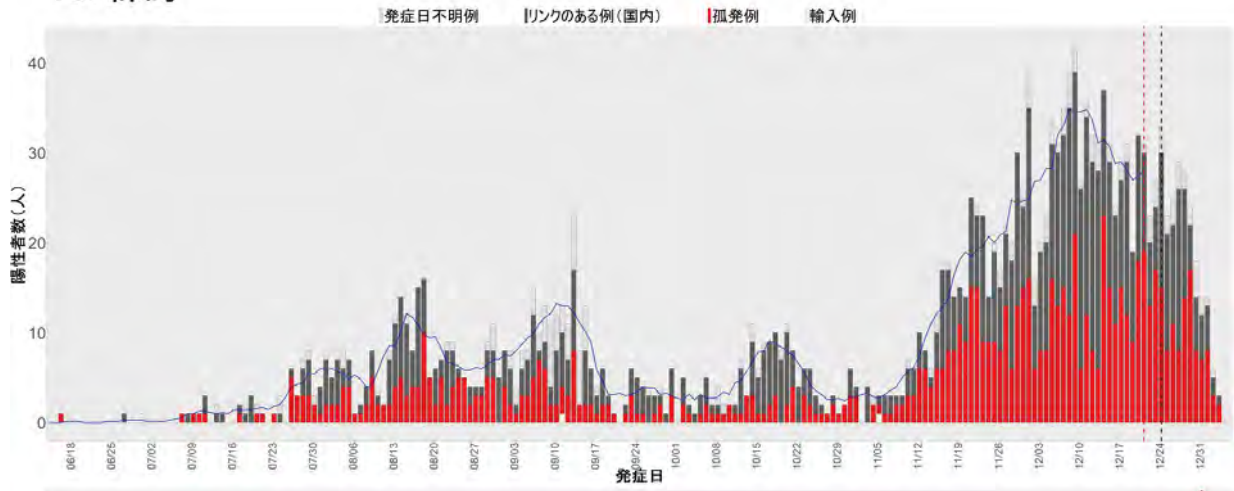
11

9. 栃木



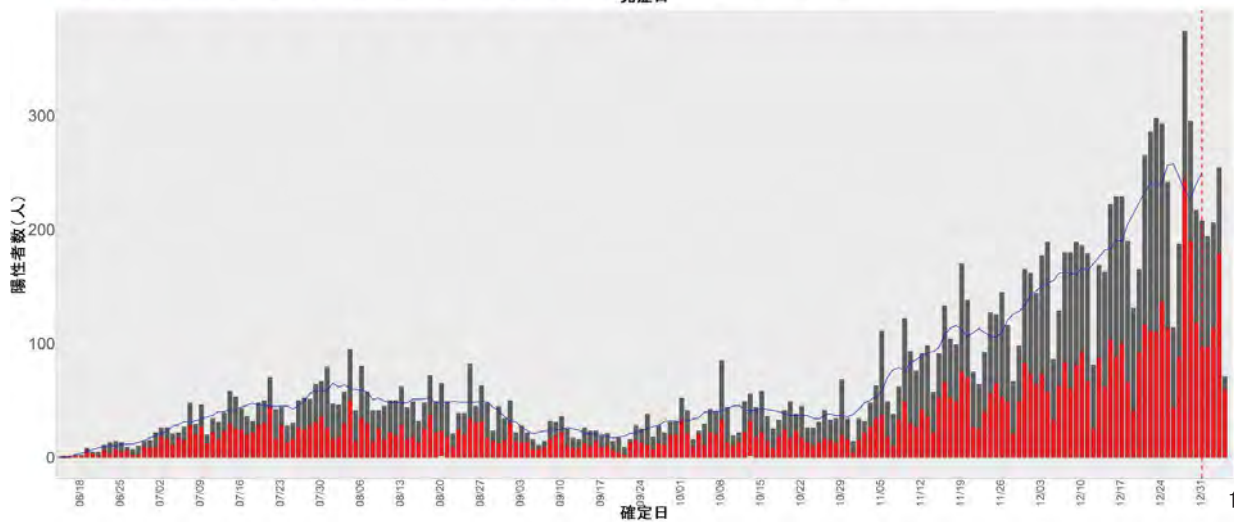
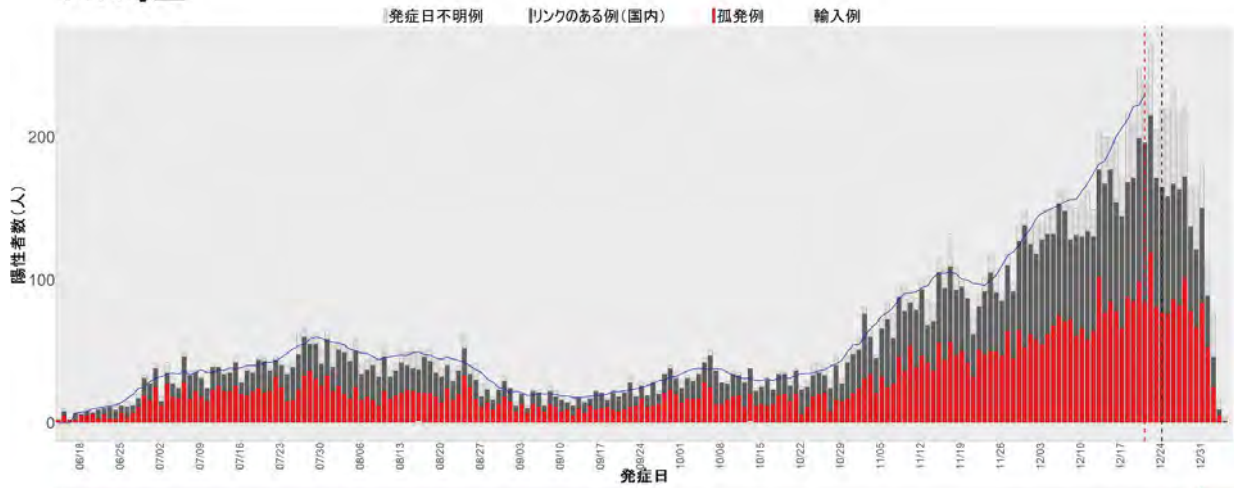
12

10. 群馬



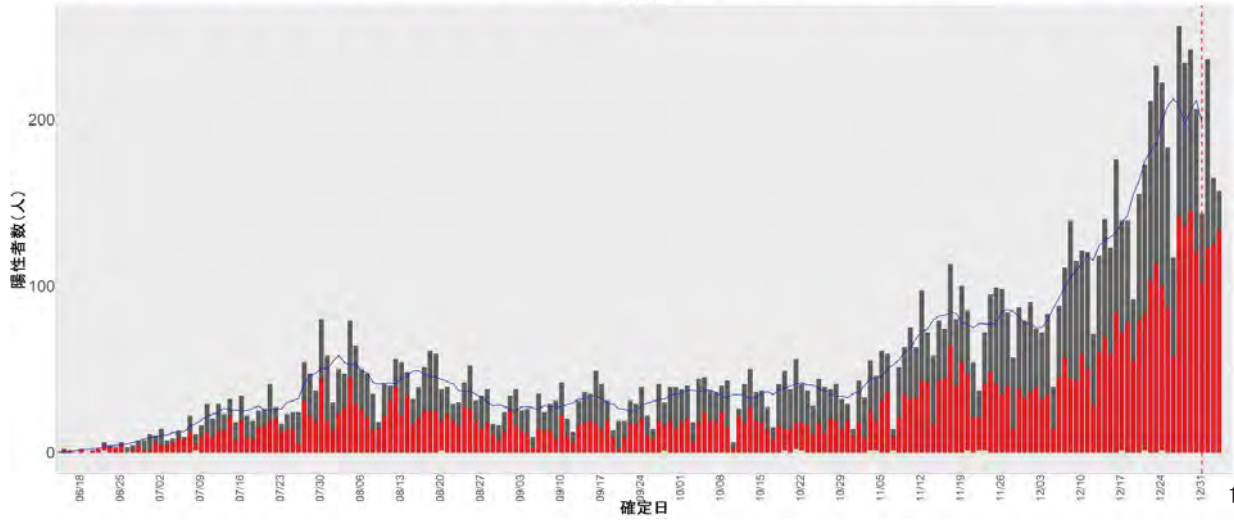
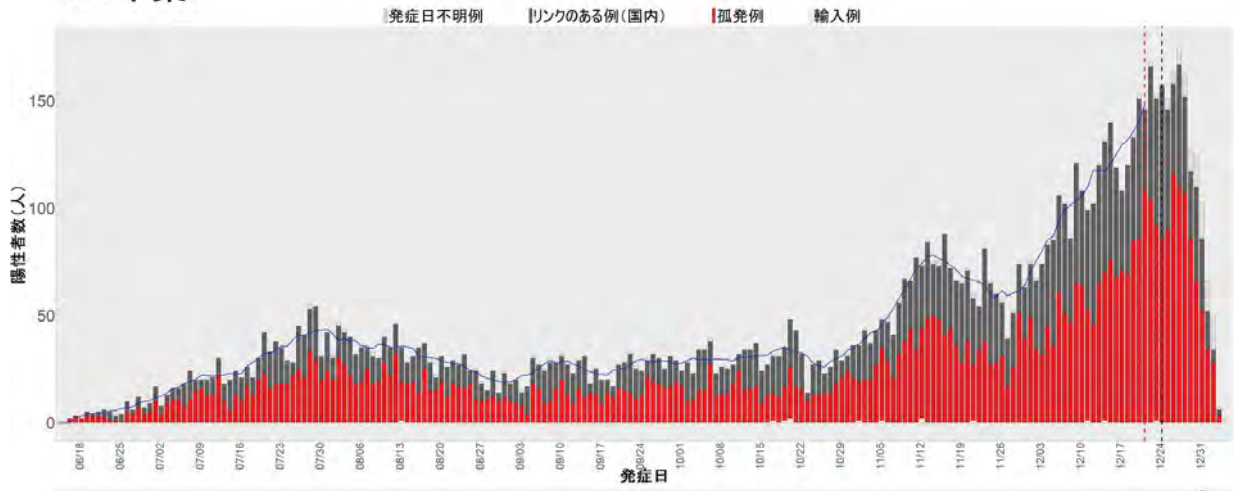
13

11. 埼玉



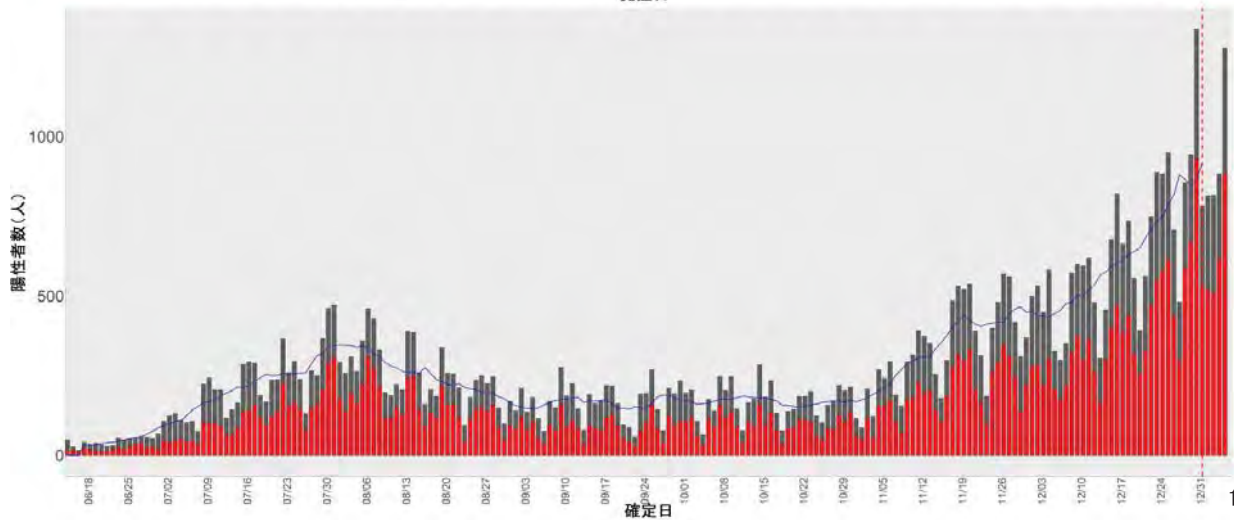
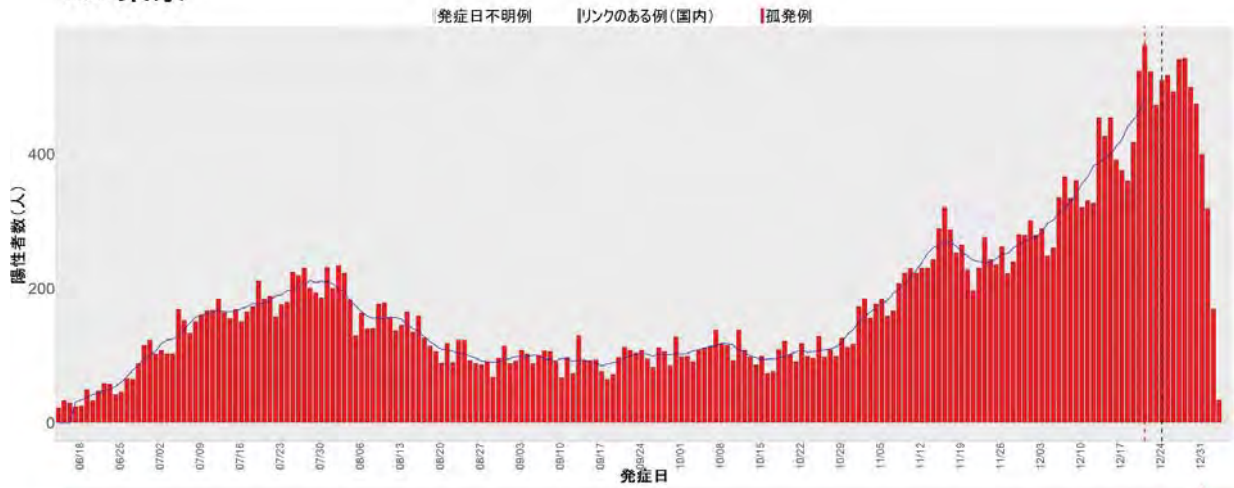
14

12. 千葉



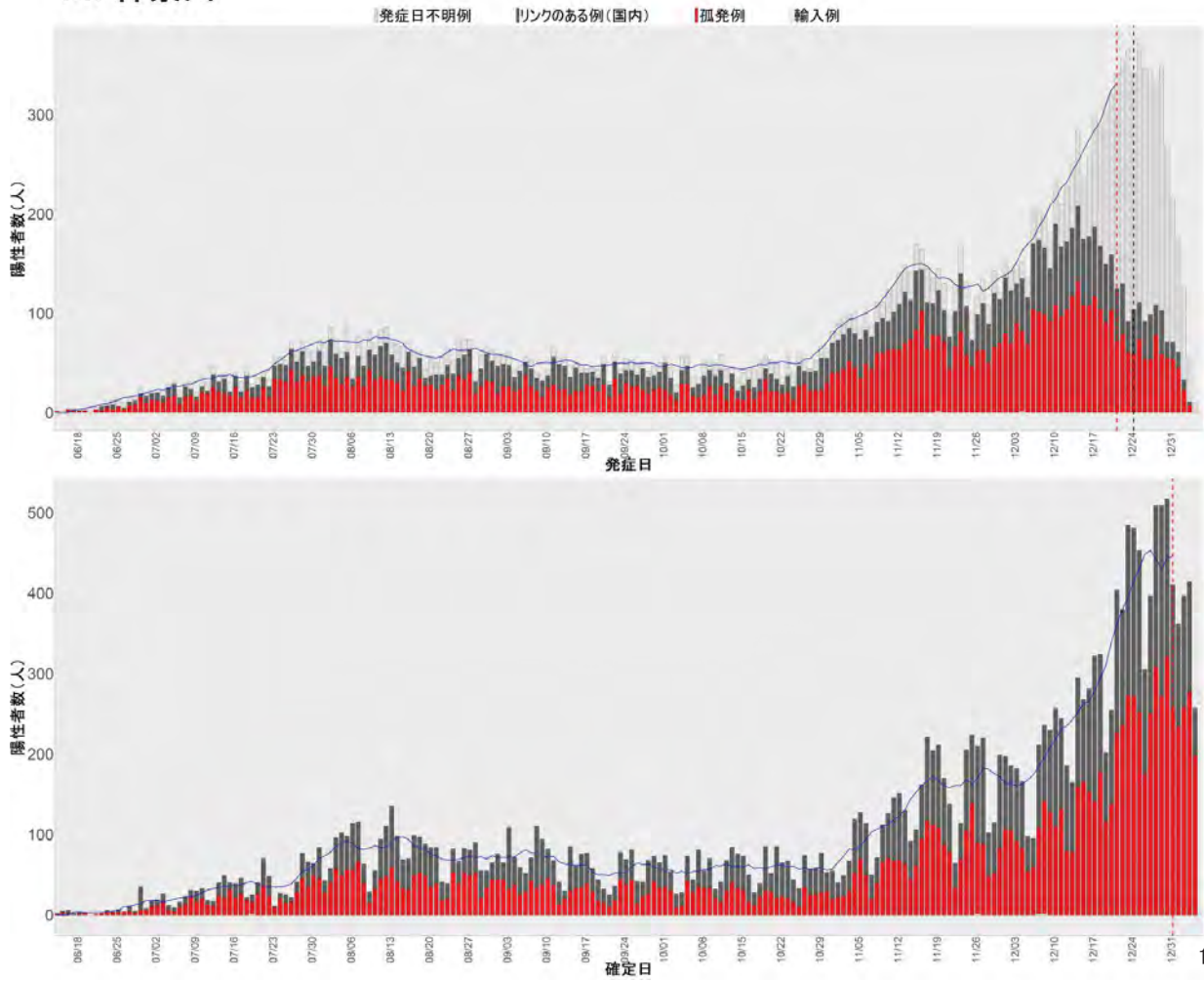
15

13. 東京



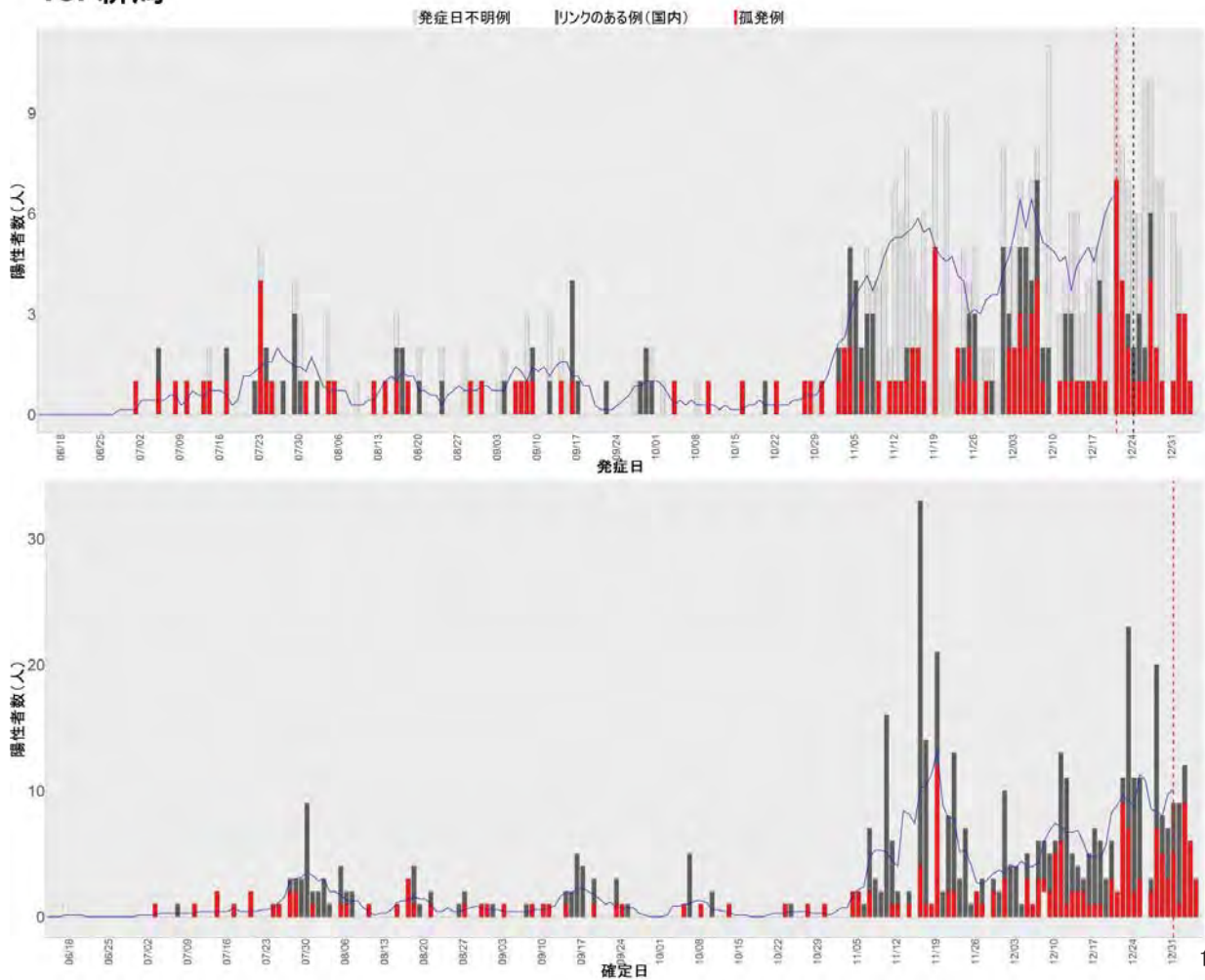
16

14. 神奈川



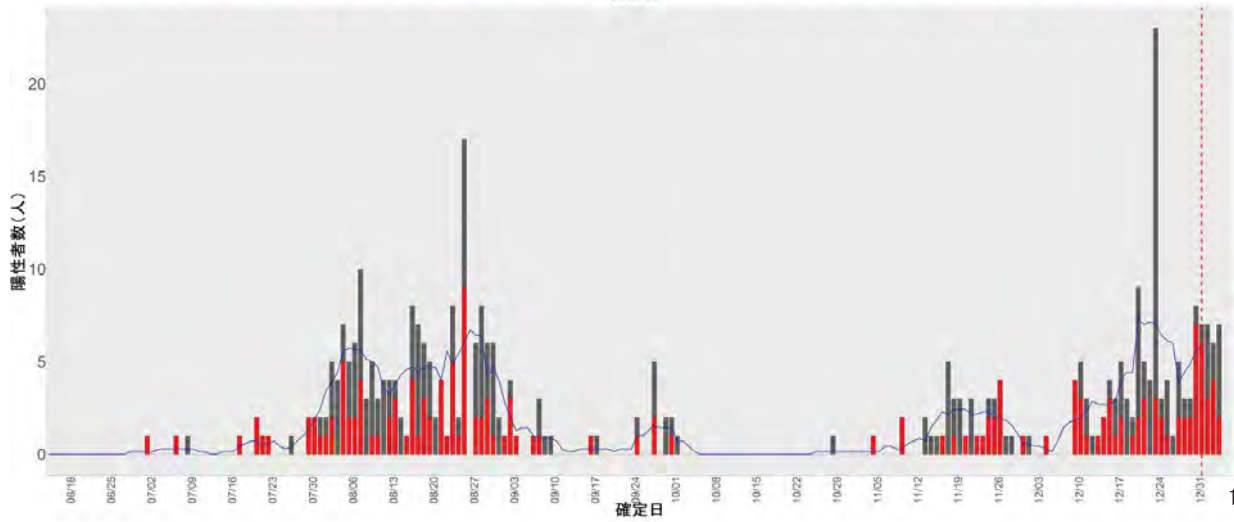
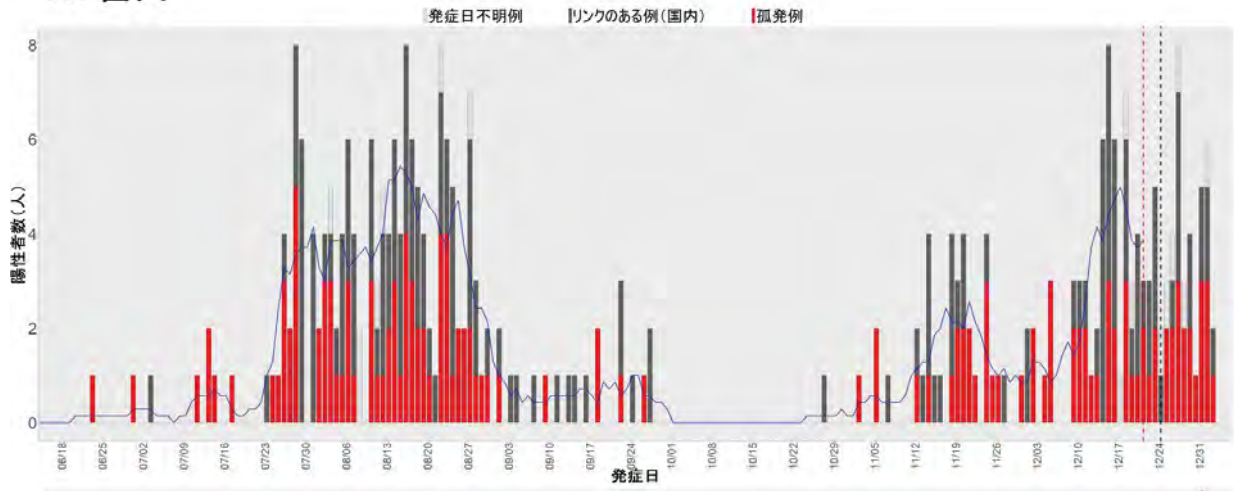
17

15. 新潟



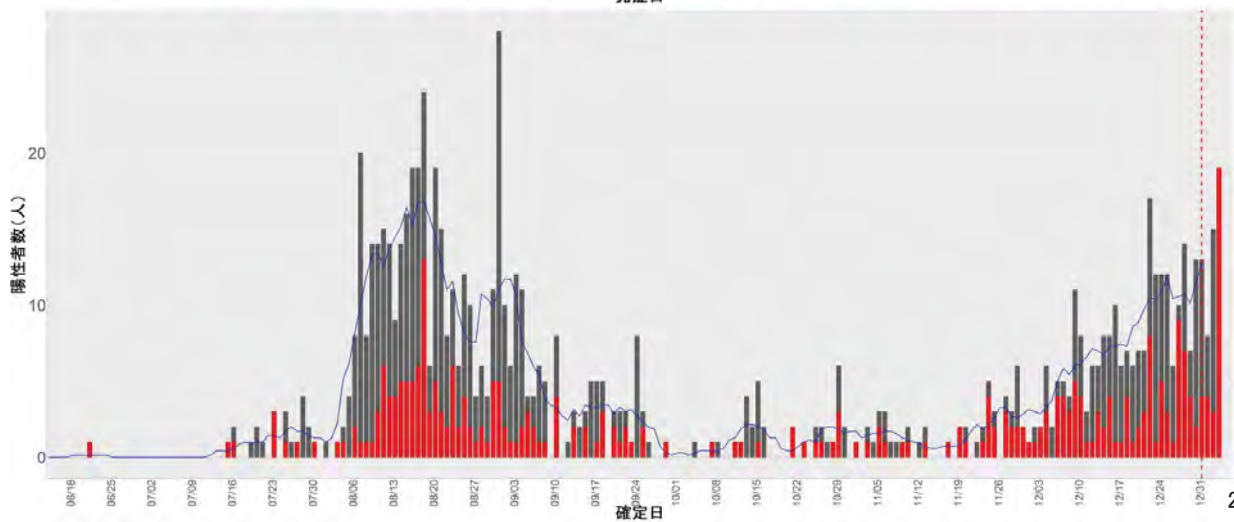
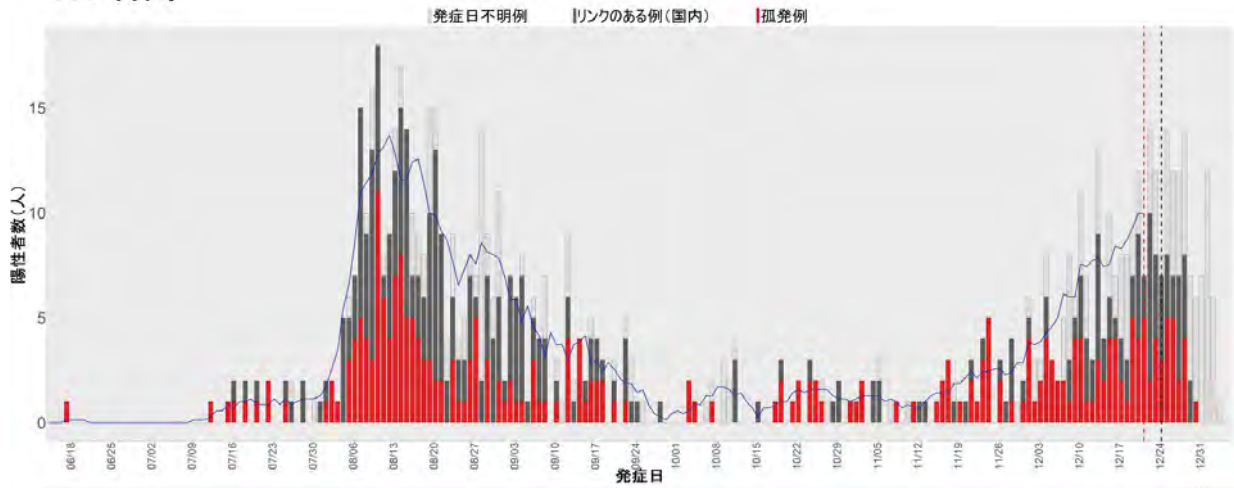
18

16. 富山



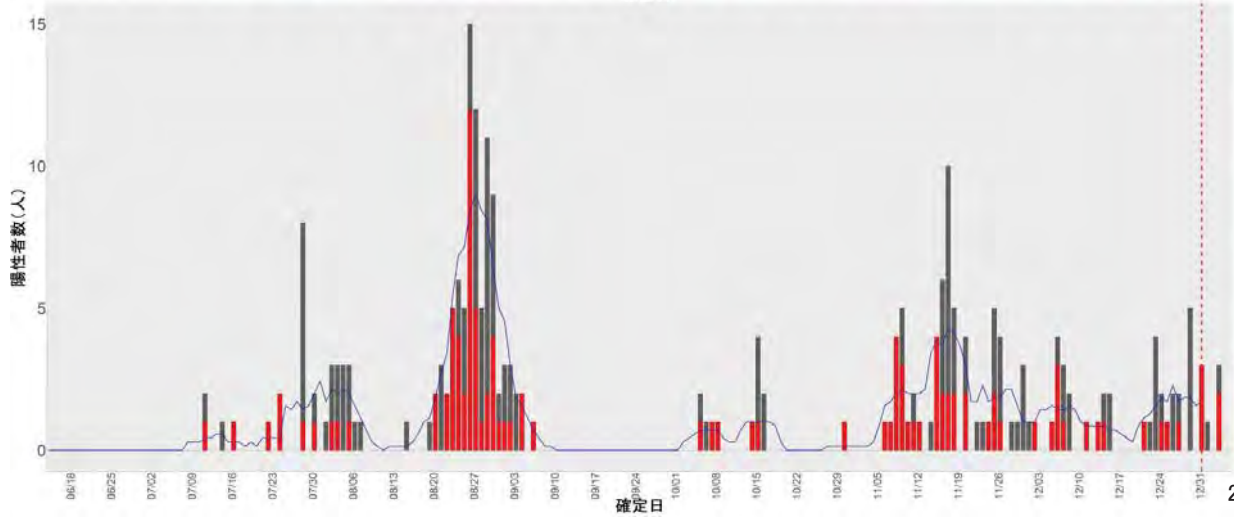
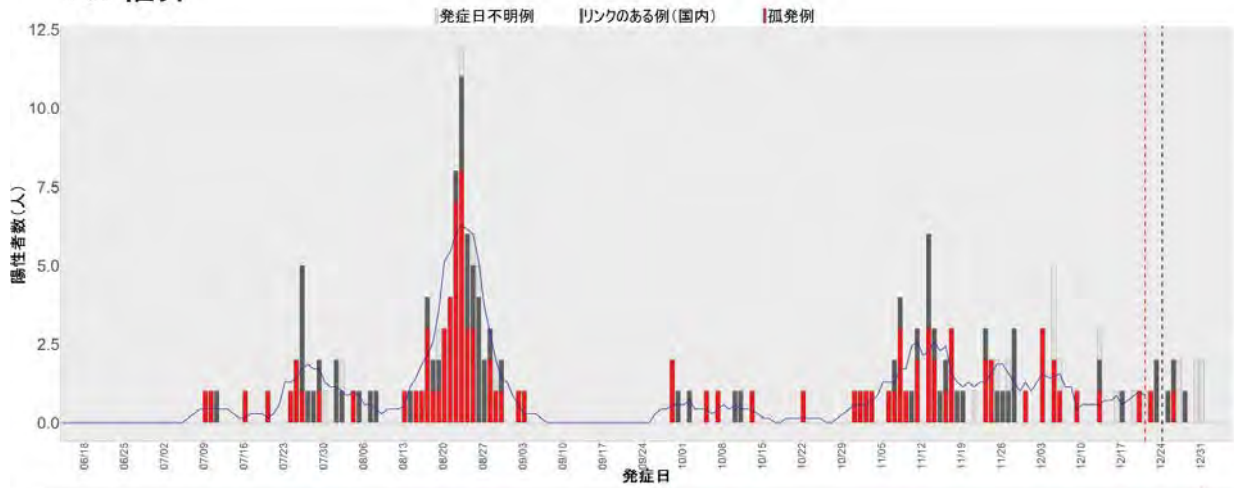
19

17. 石川



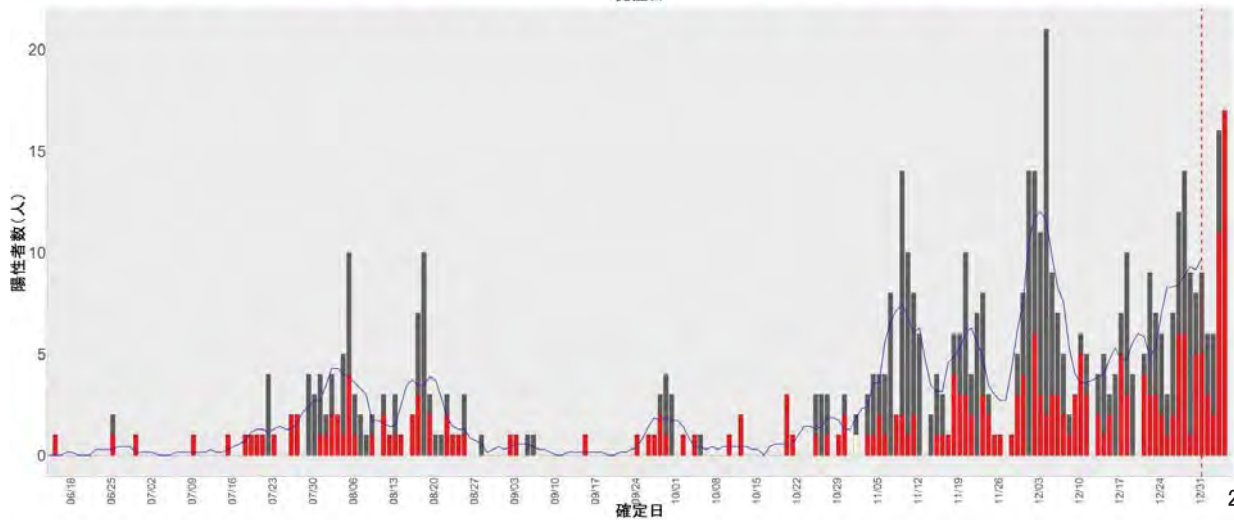
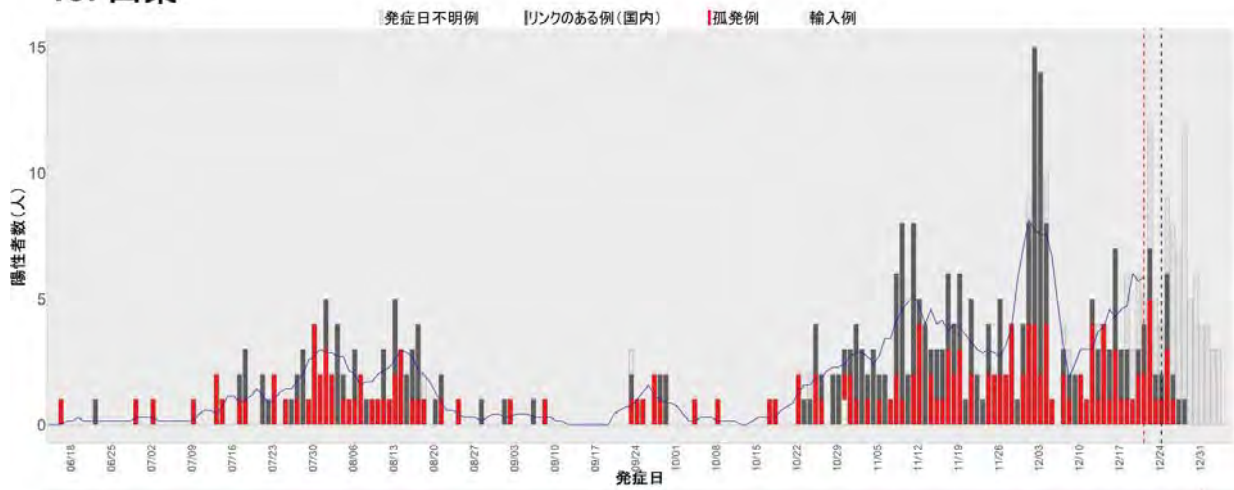
20

18. 福井



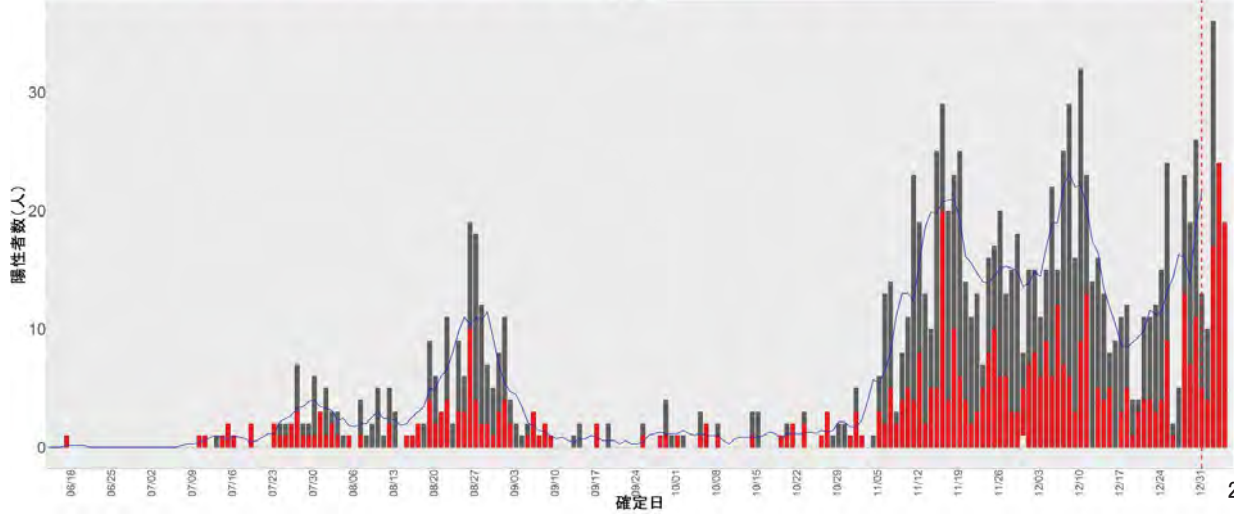
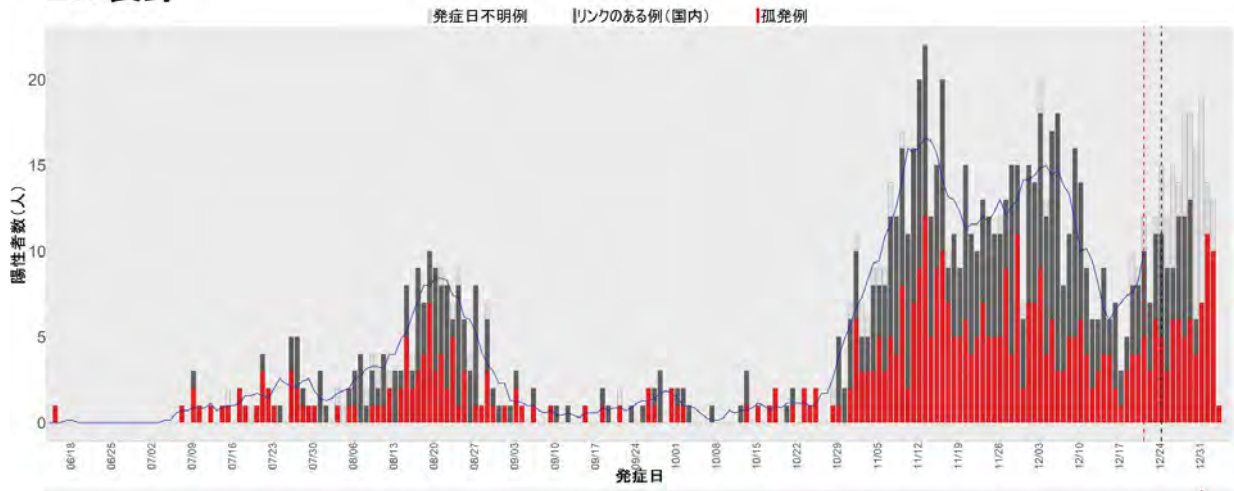
21

19. 山梨



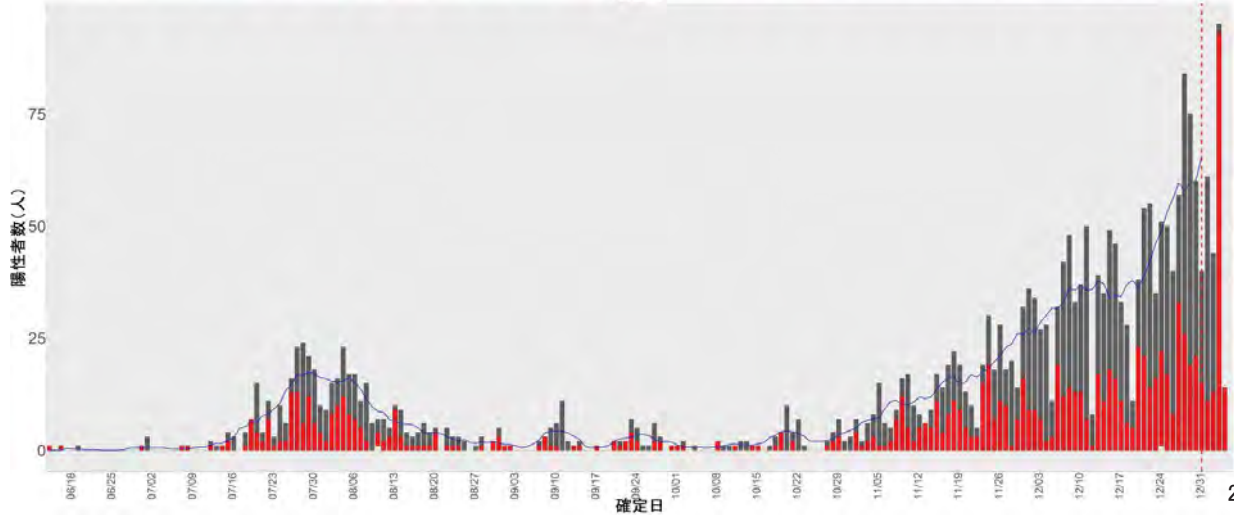
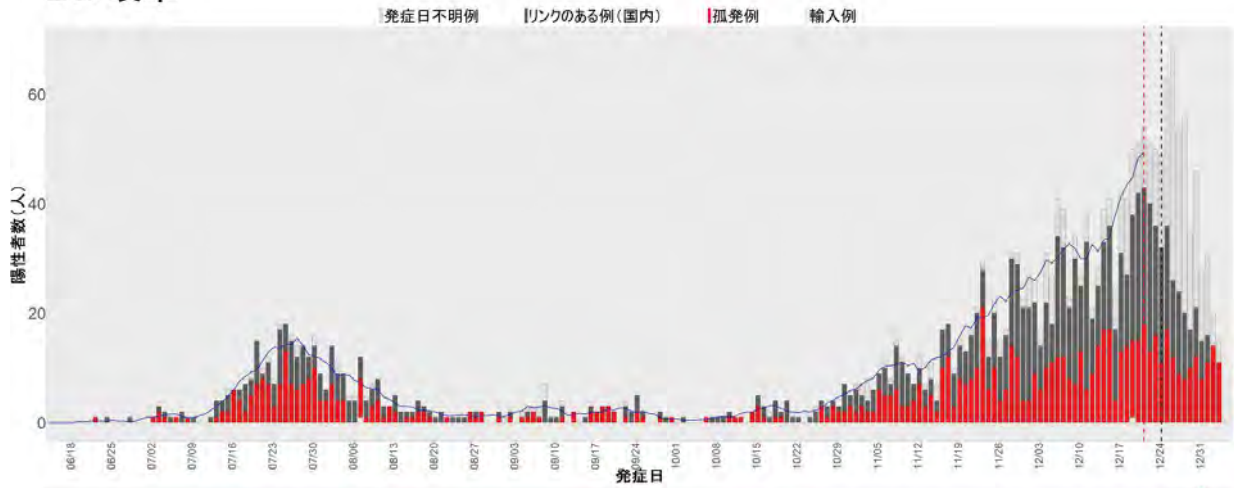
22

20. 長野



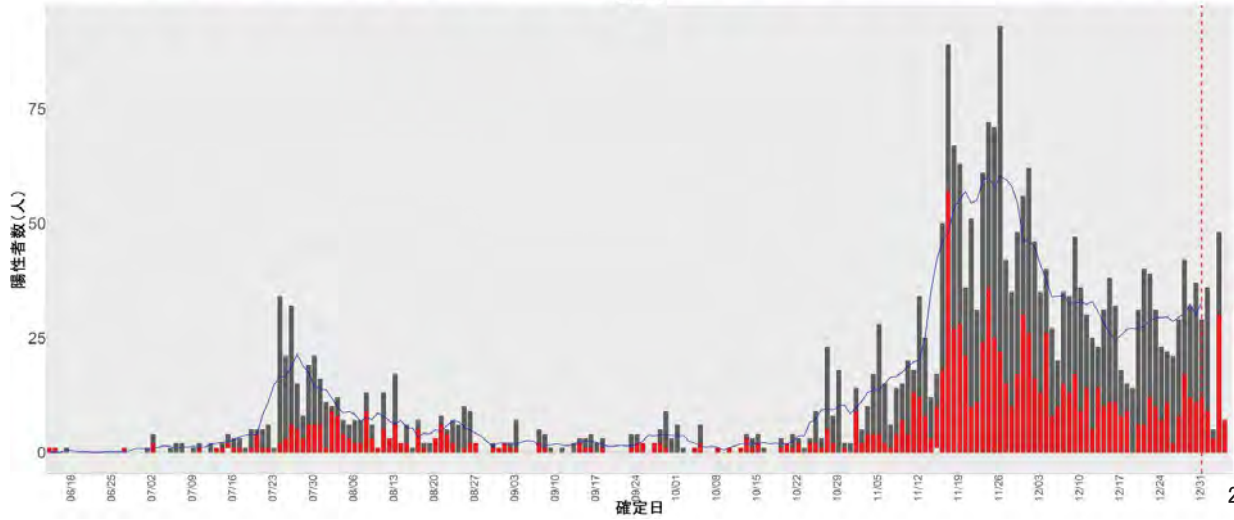
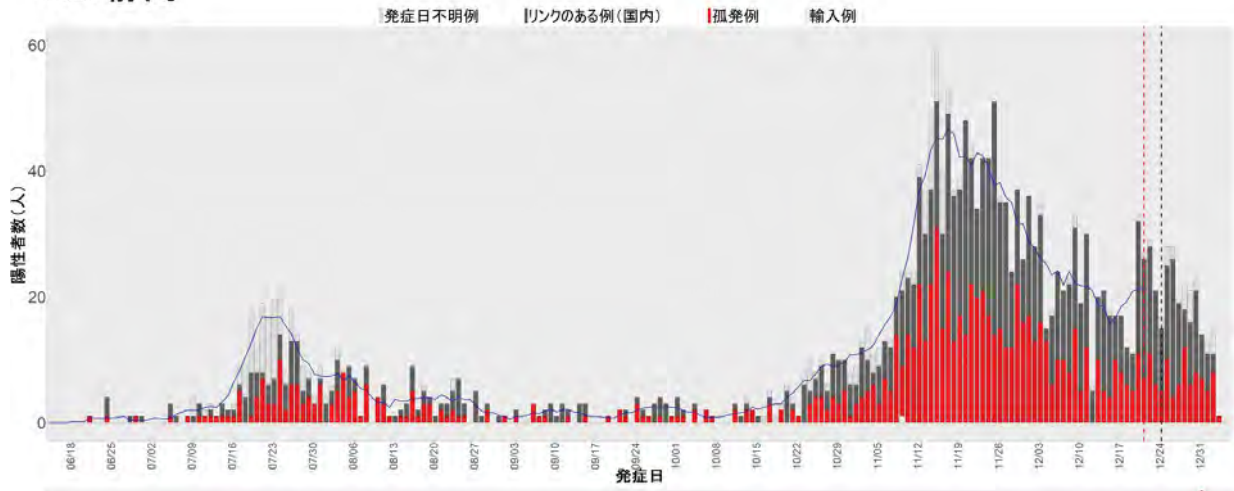
23

21. 岐阜



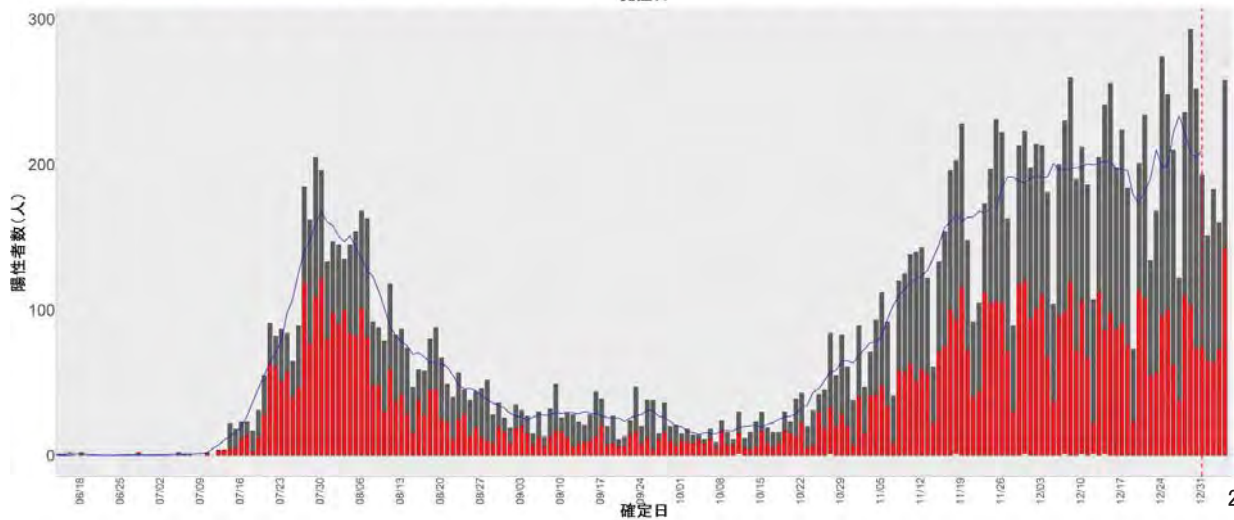
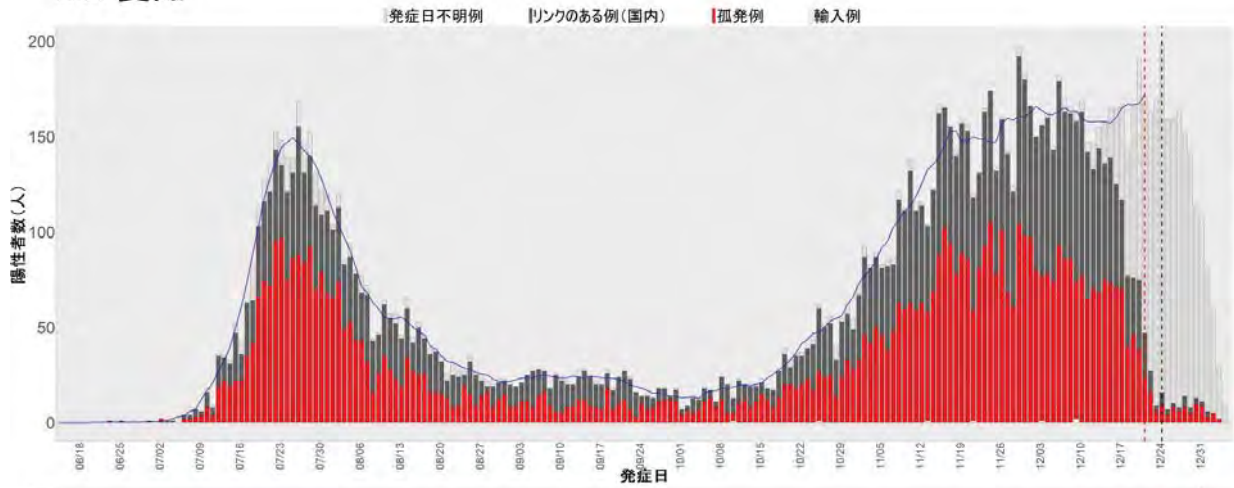
24

22. 静岡



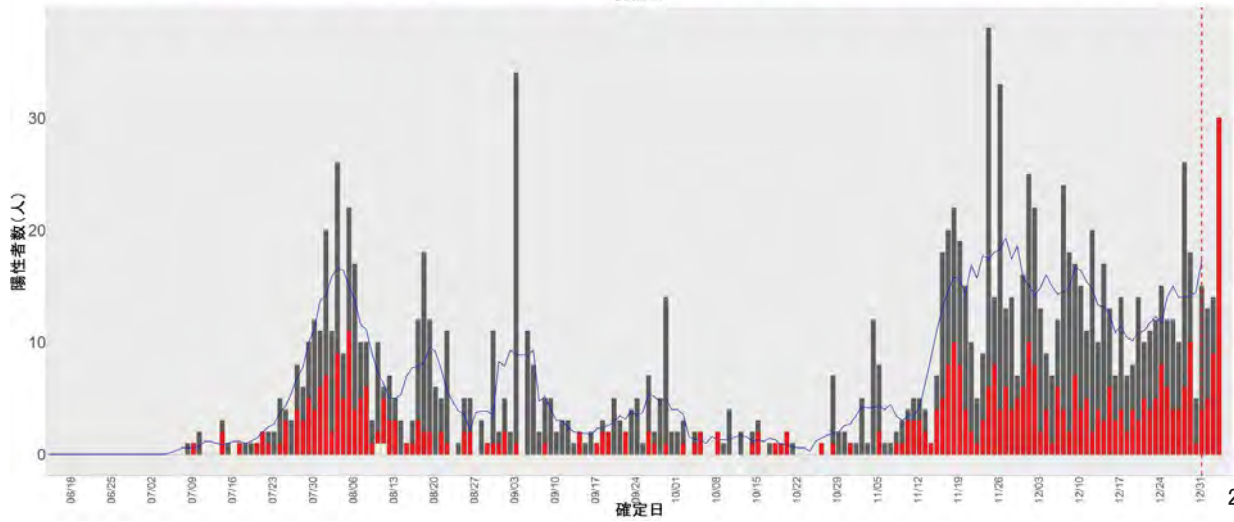
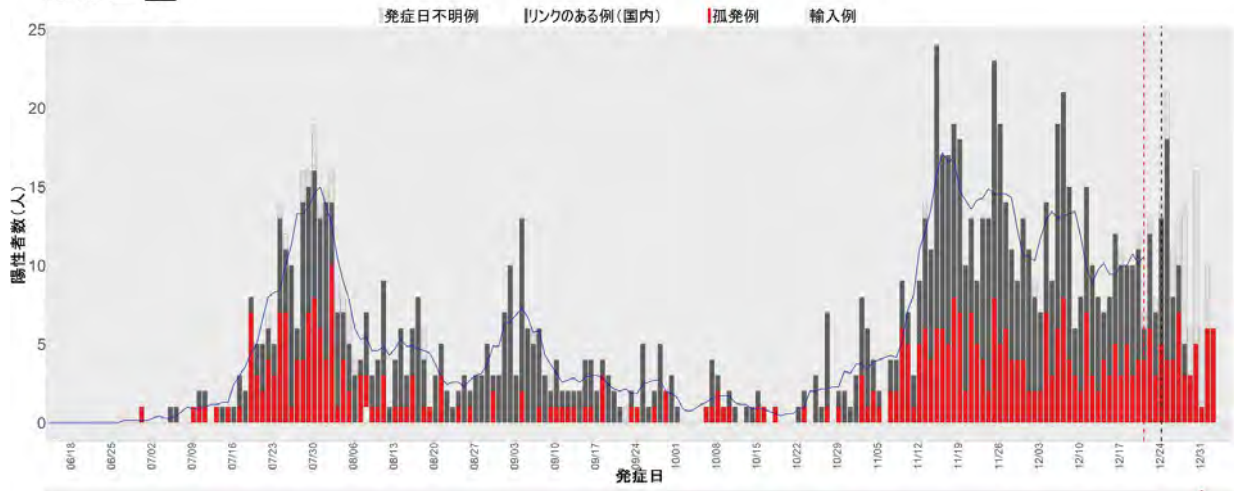
25

23. 愛知



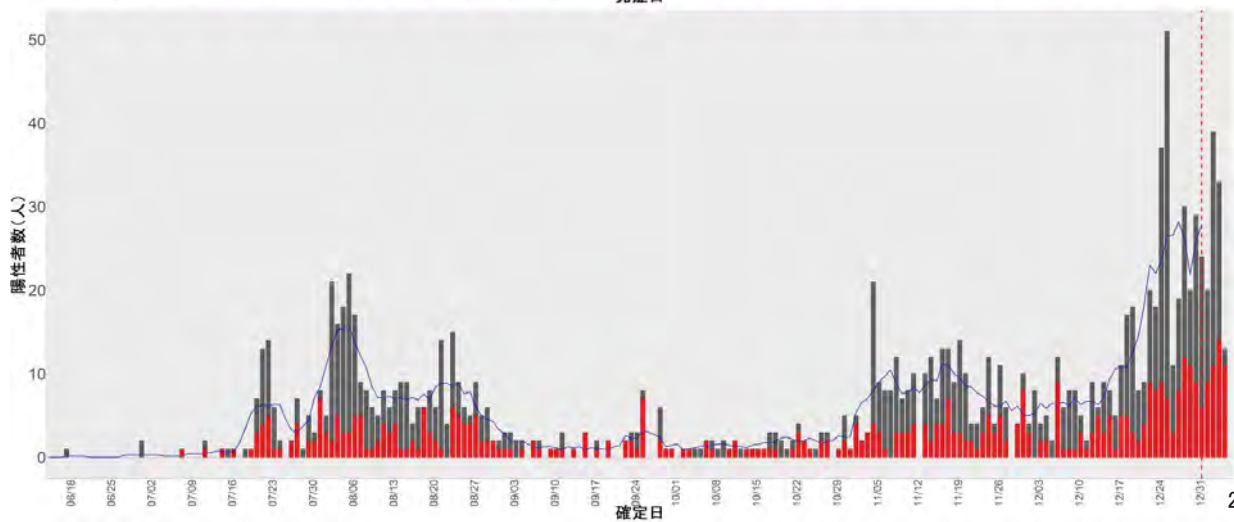
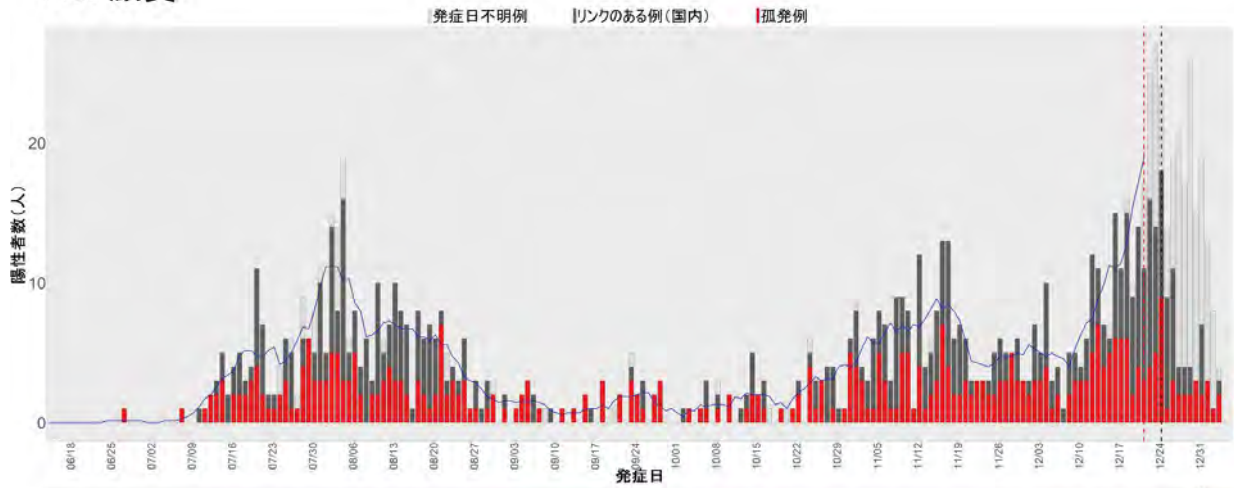
26

24. 三重



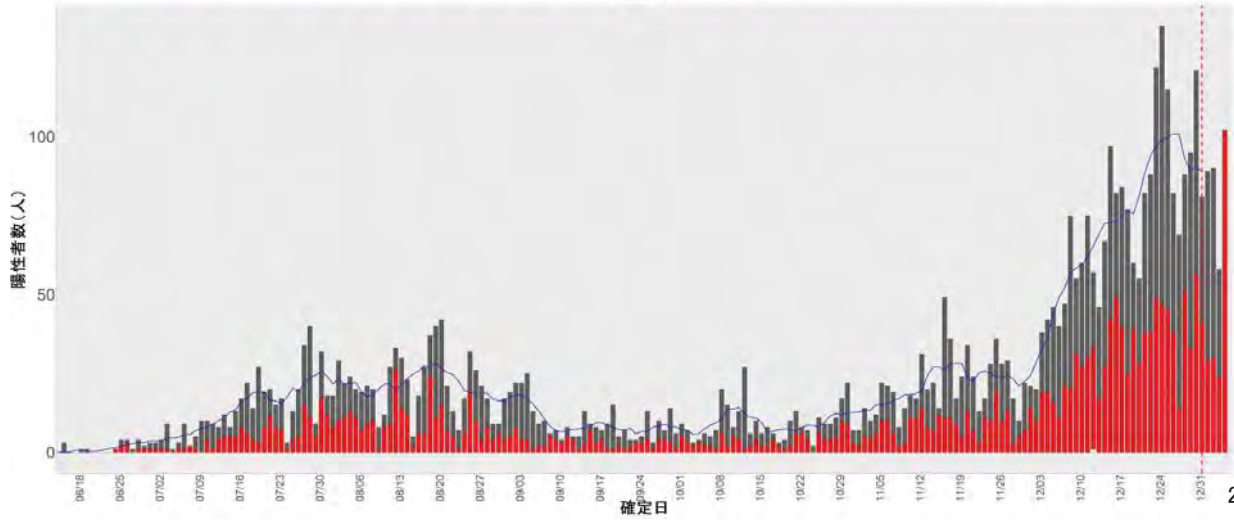
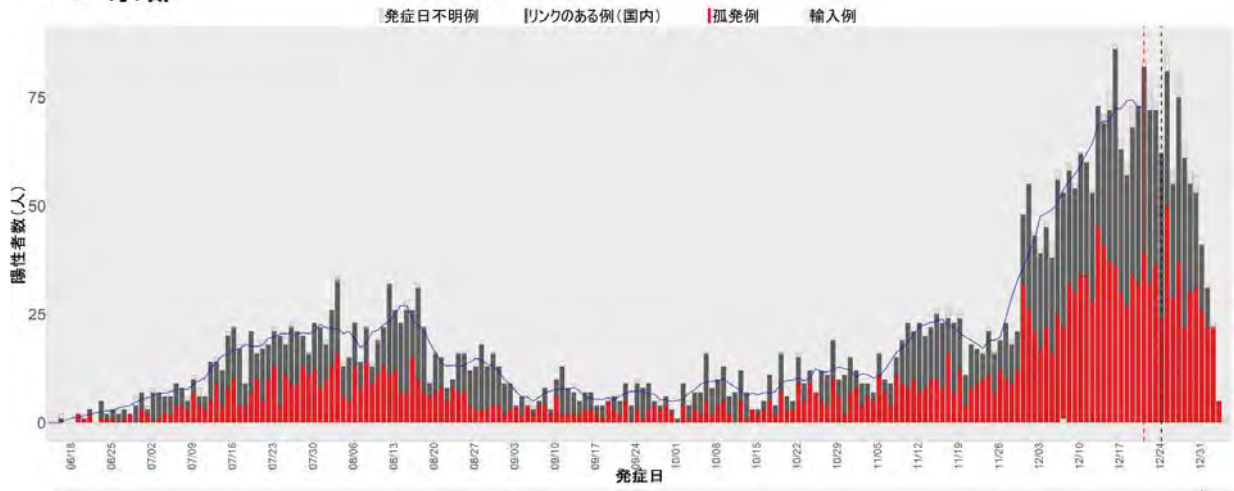
27

25. 滋賀



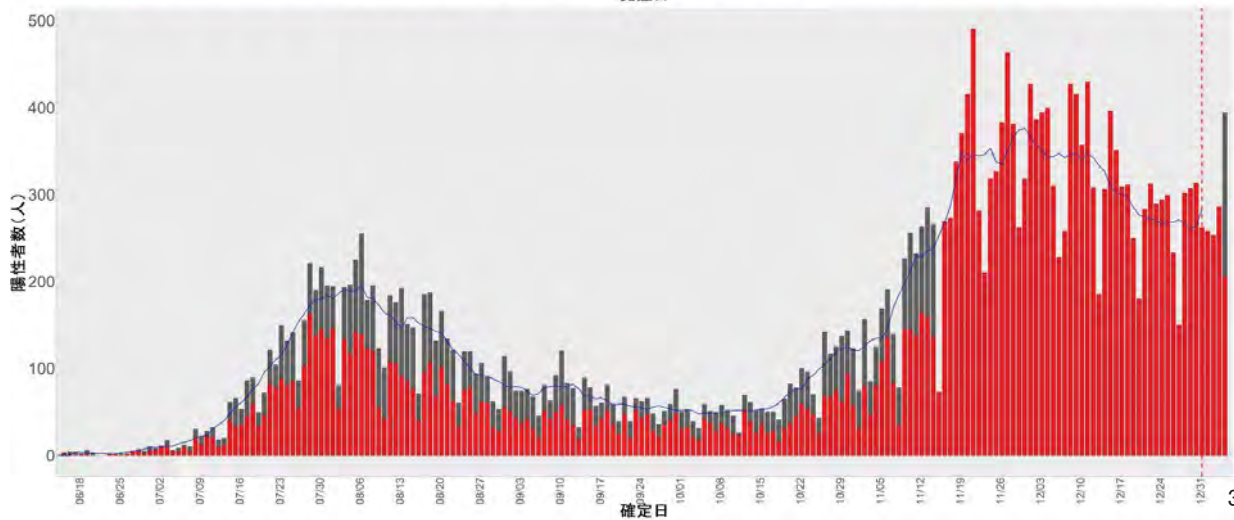
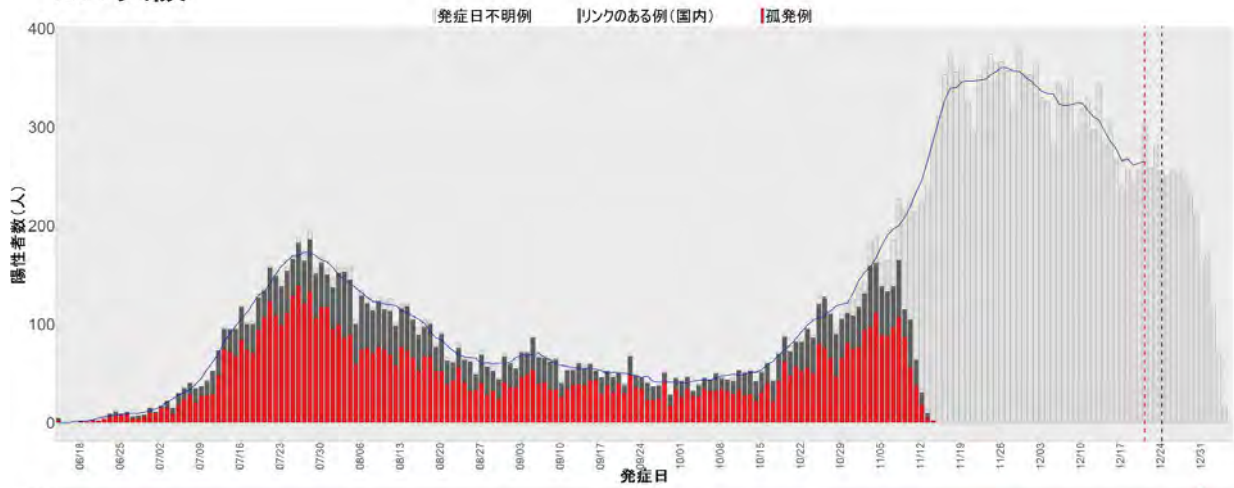
28

26. 京都



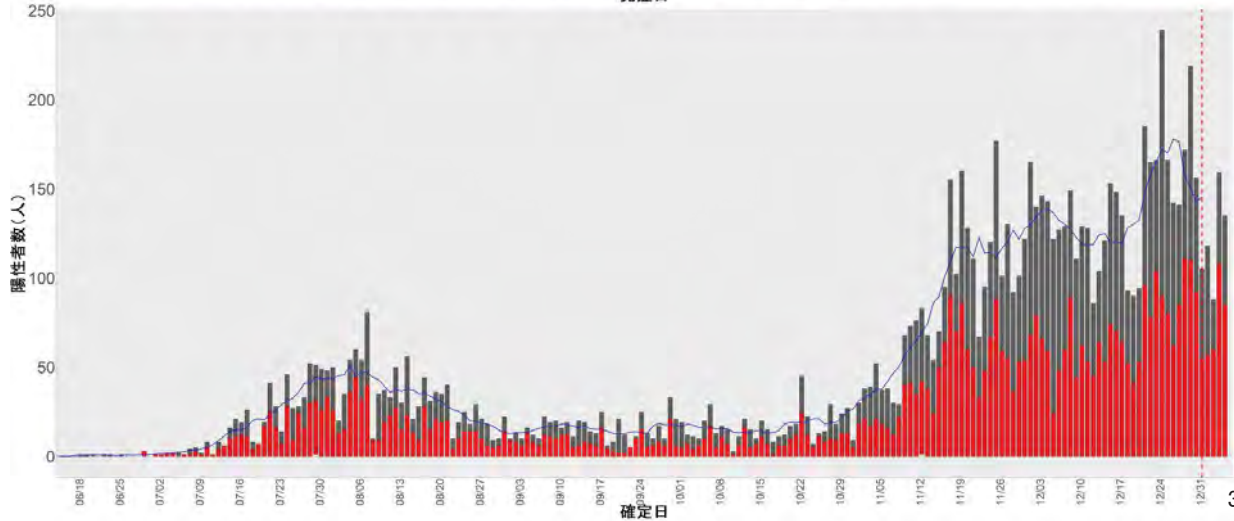
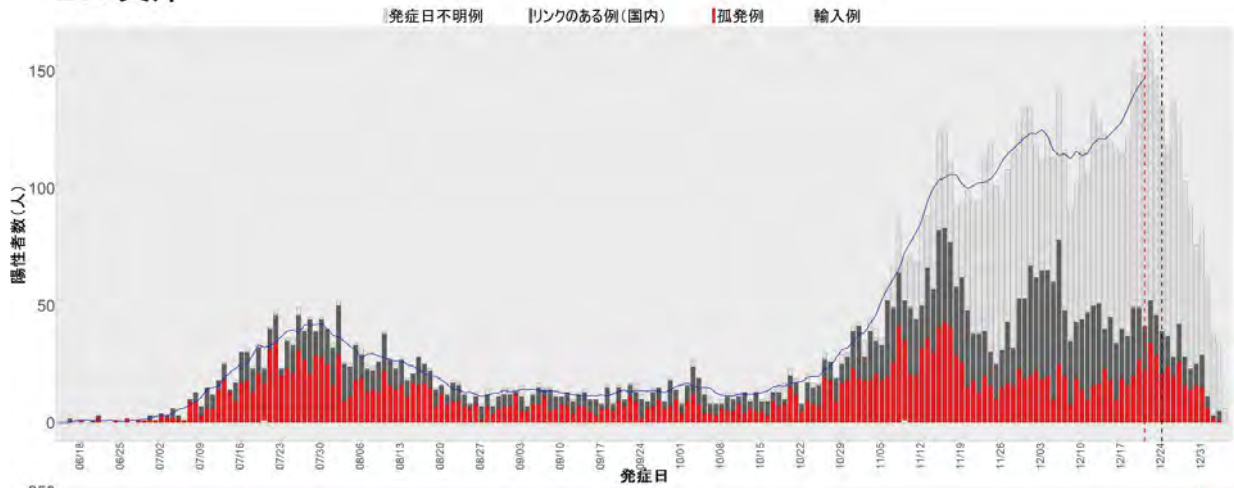
29

27. 大阪



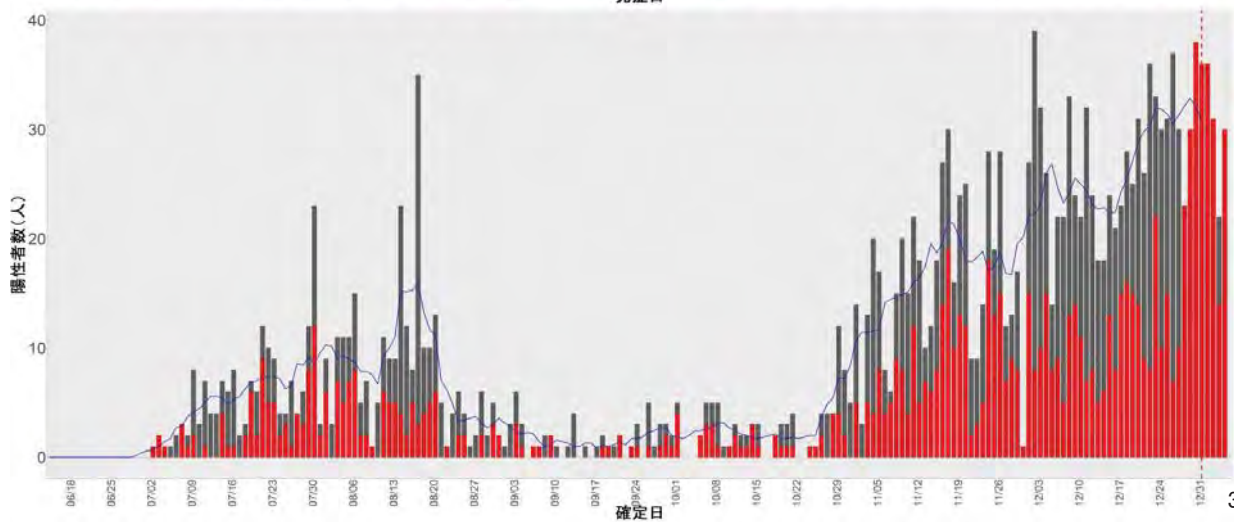
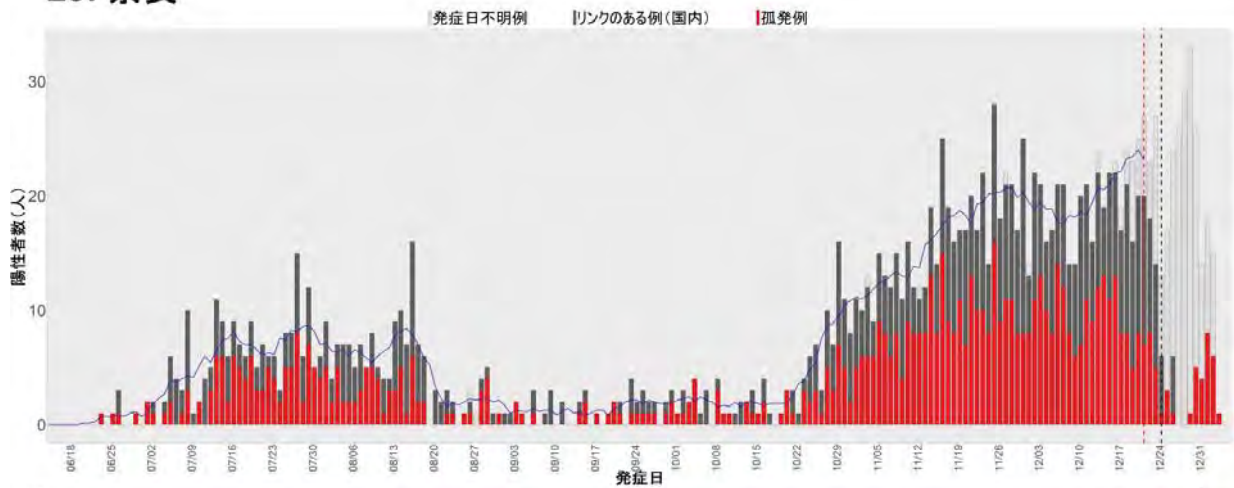
30

28. 兵庫



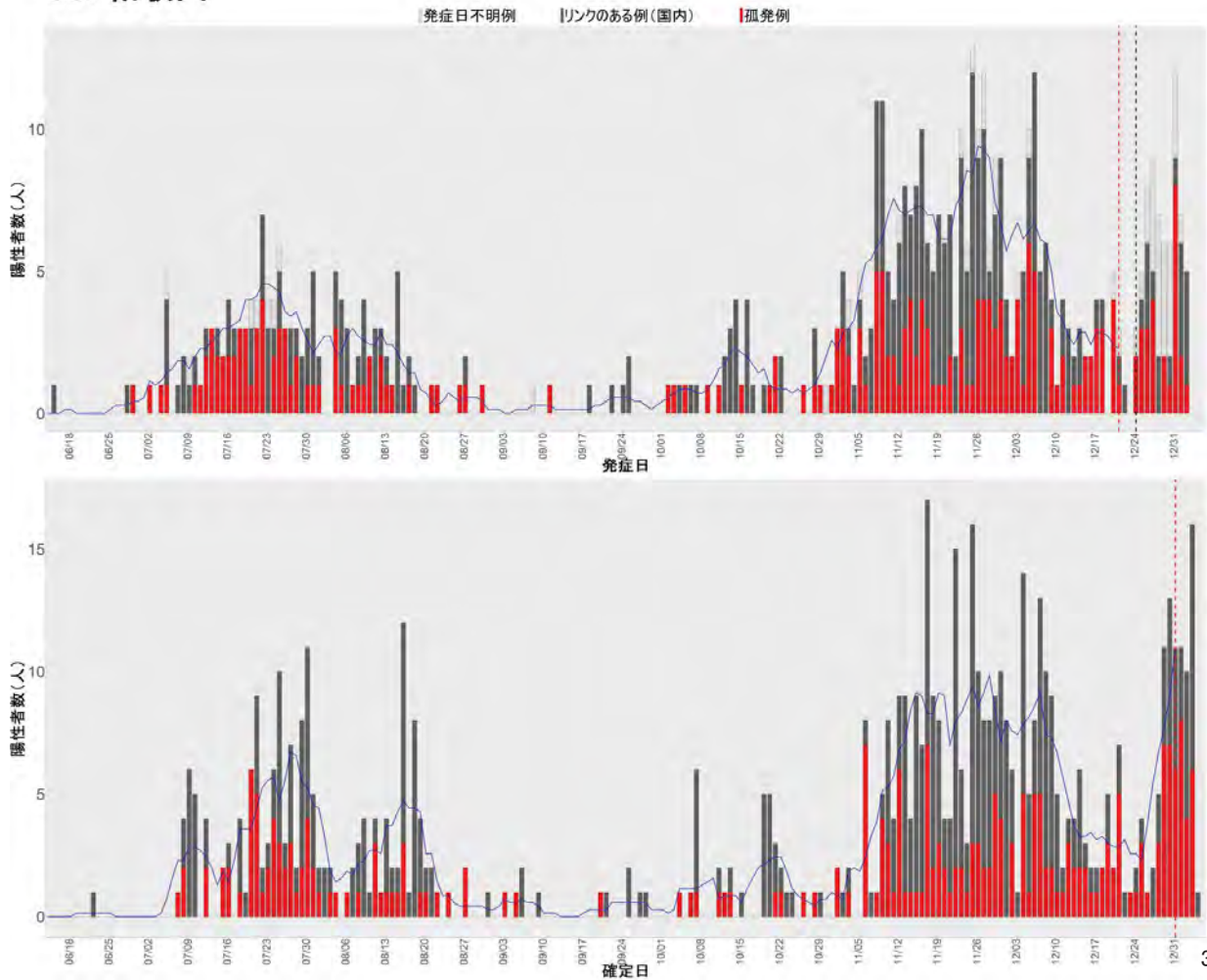
31

29. 奈良



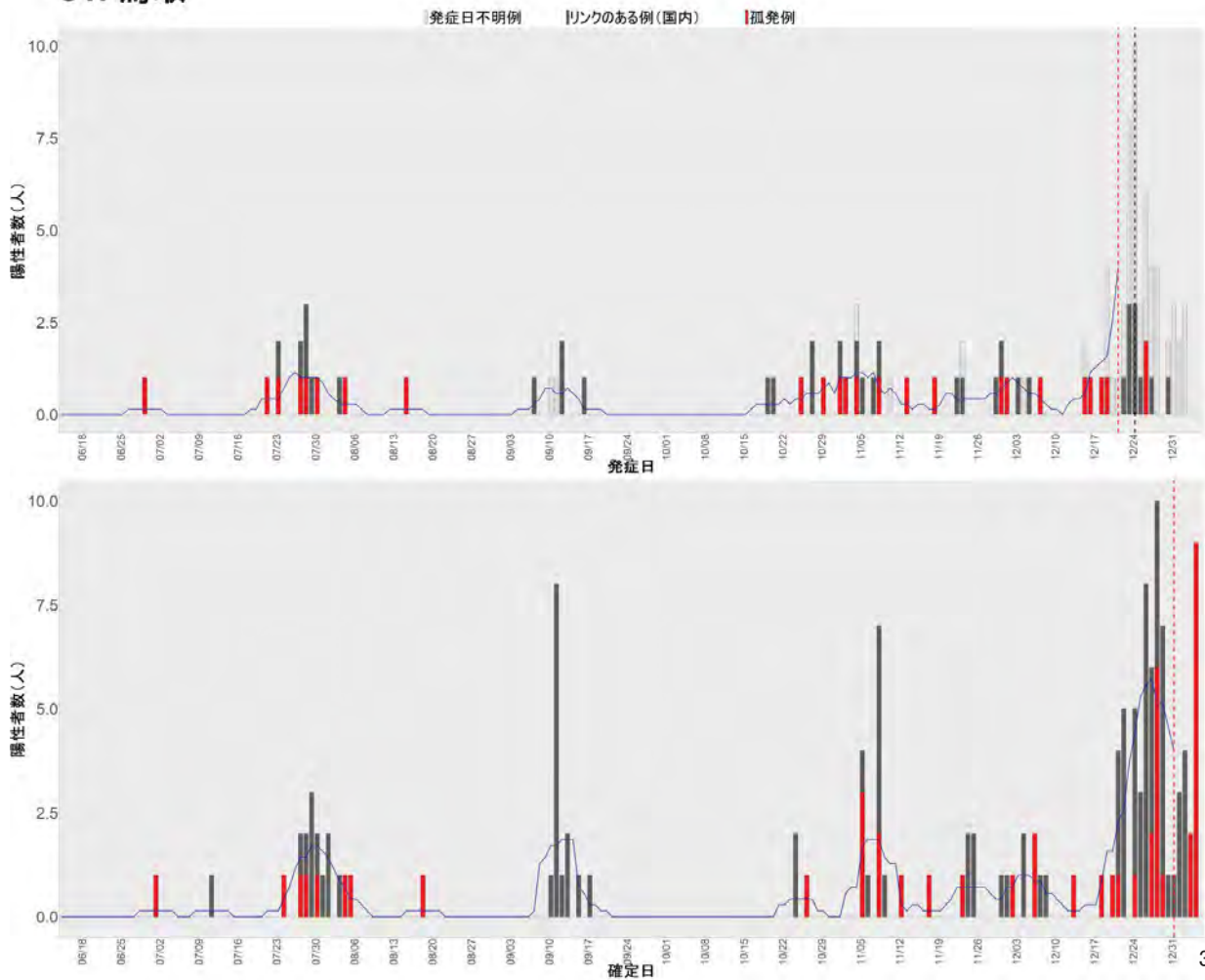
32

30. 和歌山



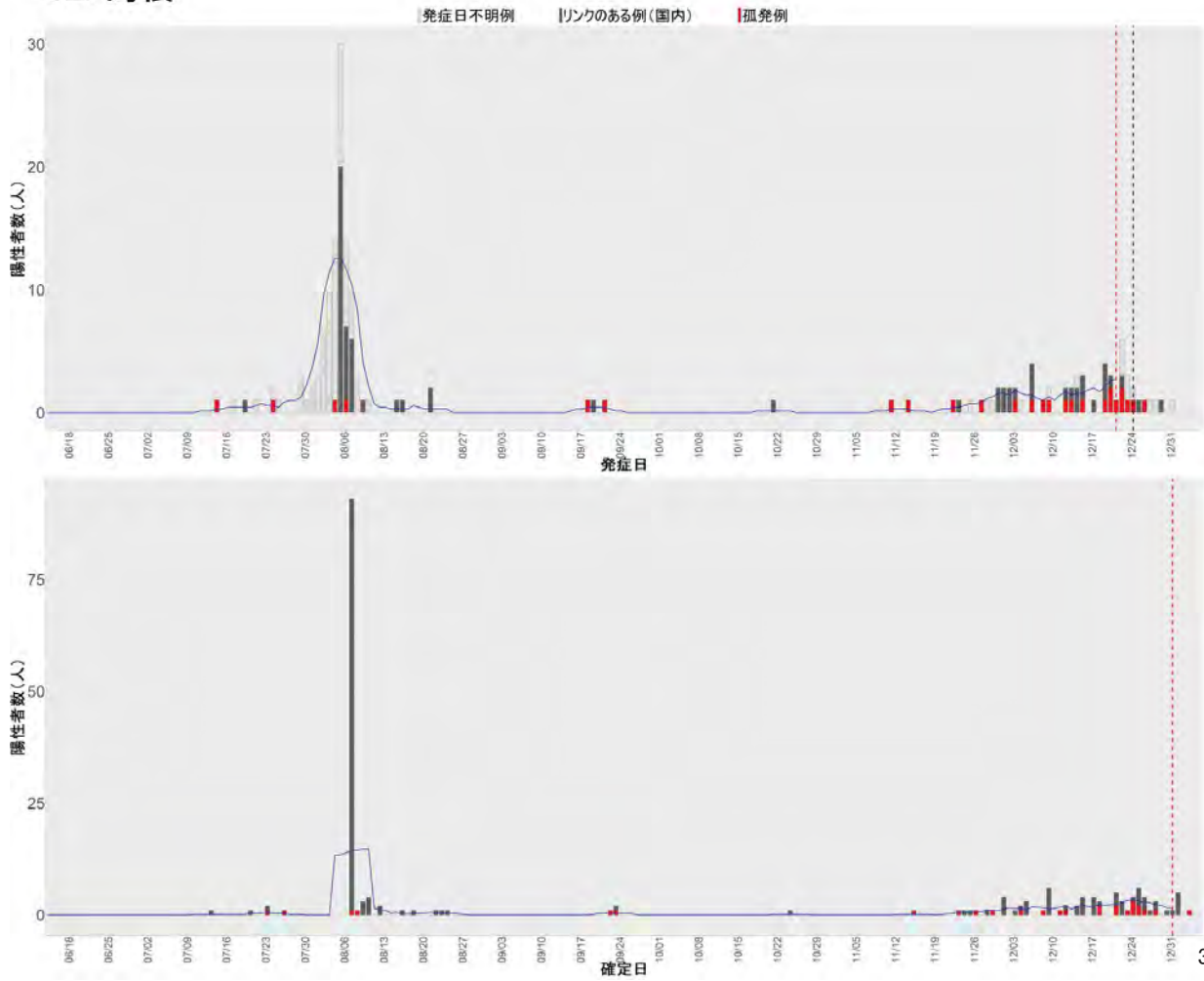
33

31. 鳥取

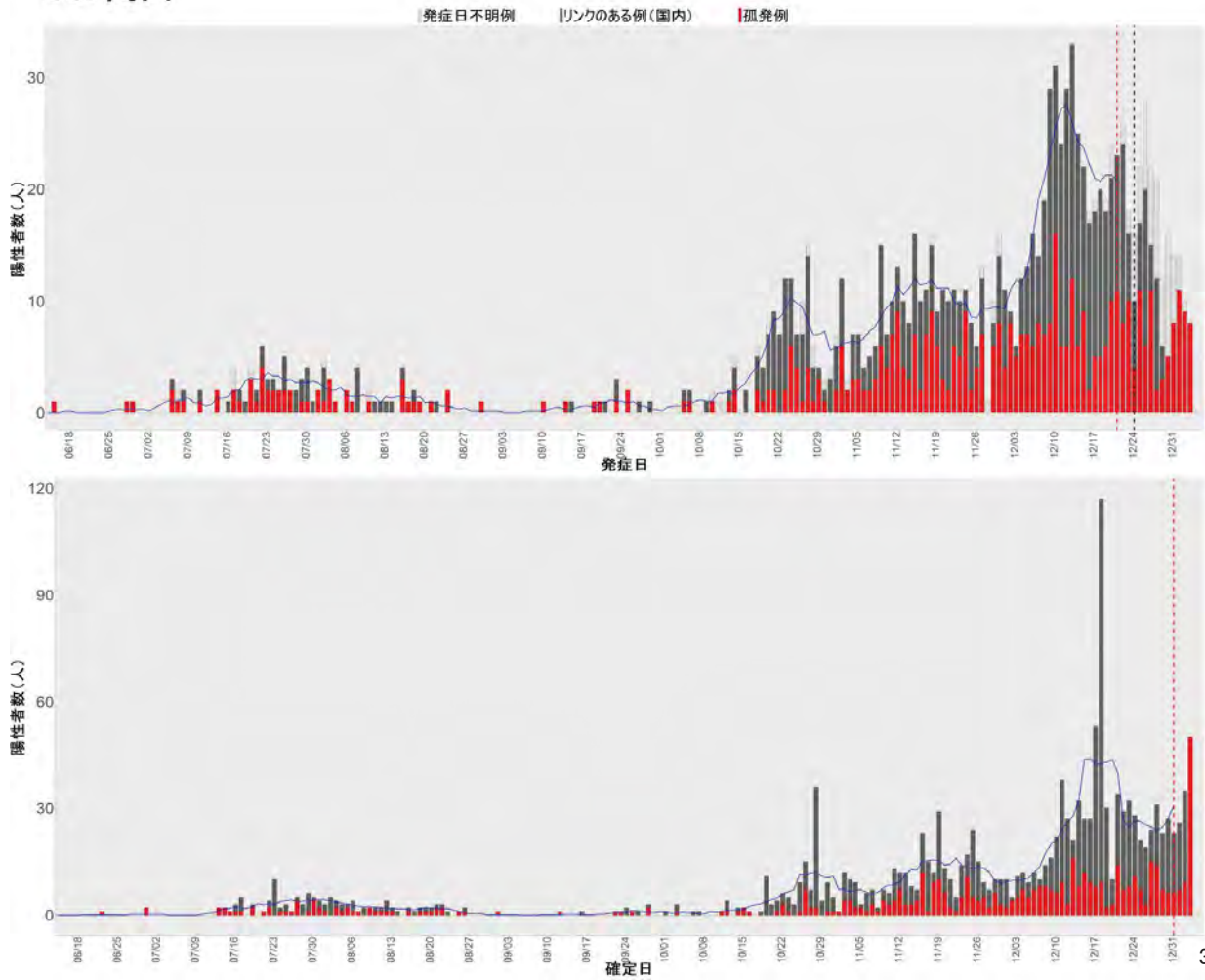


34

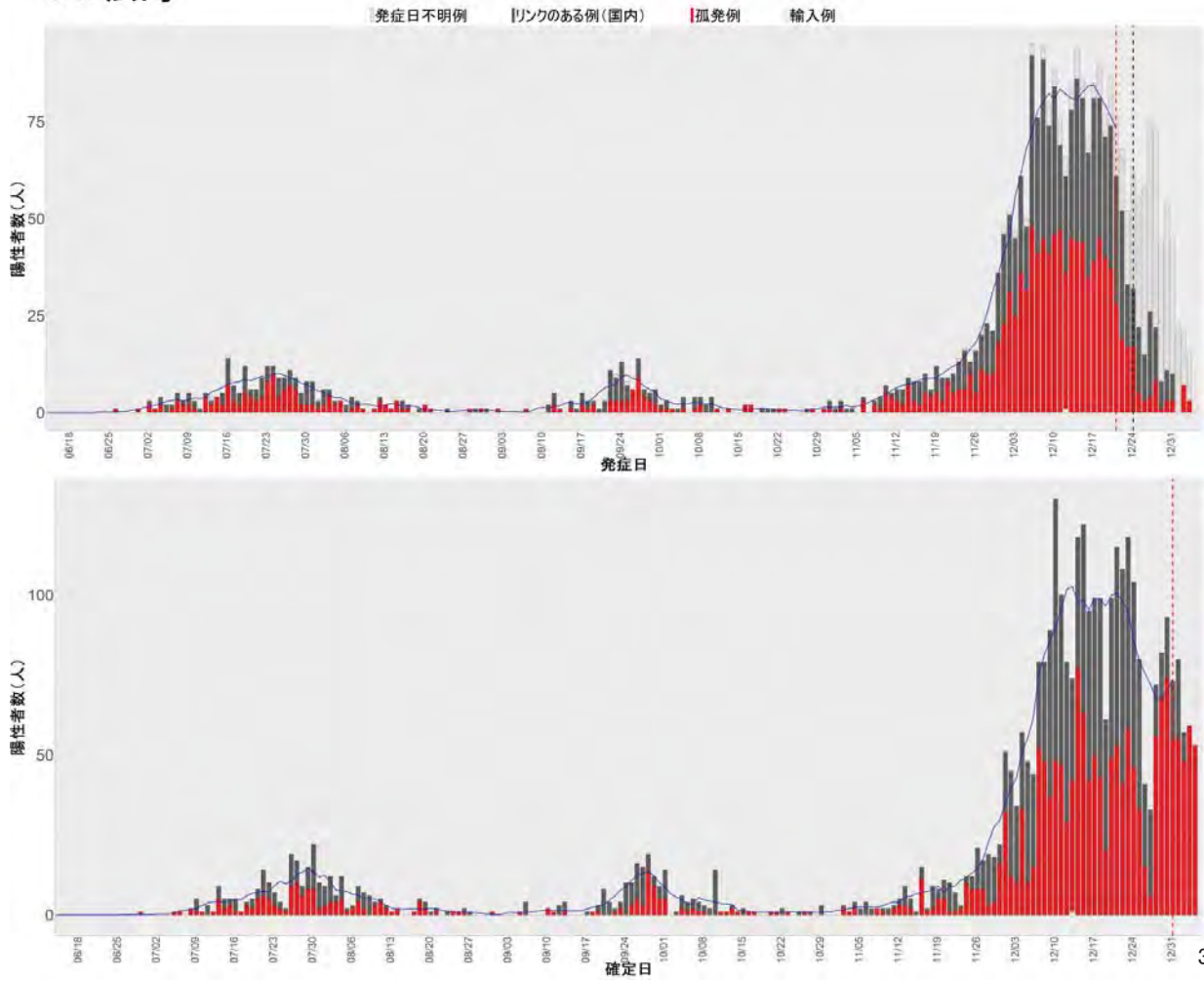
32. 島根



33. 岡山

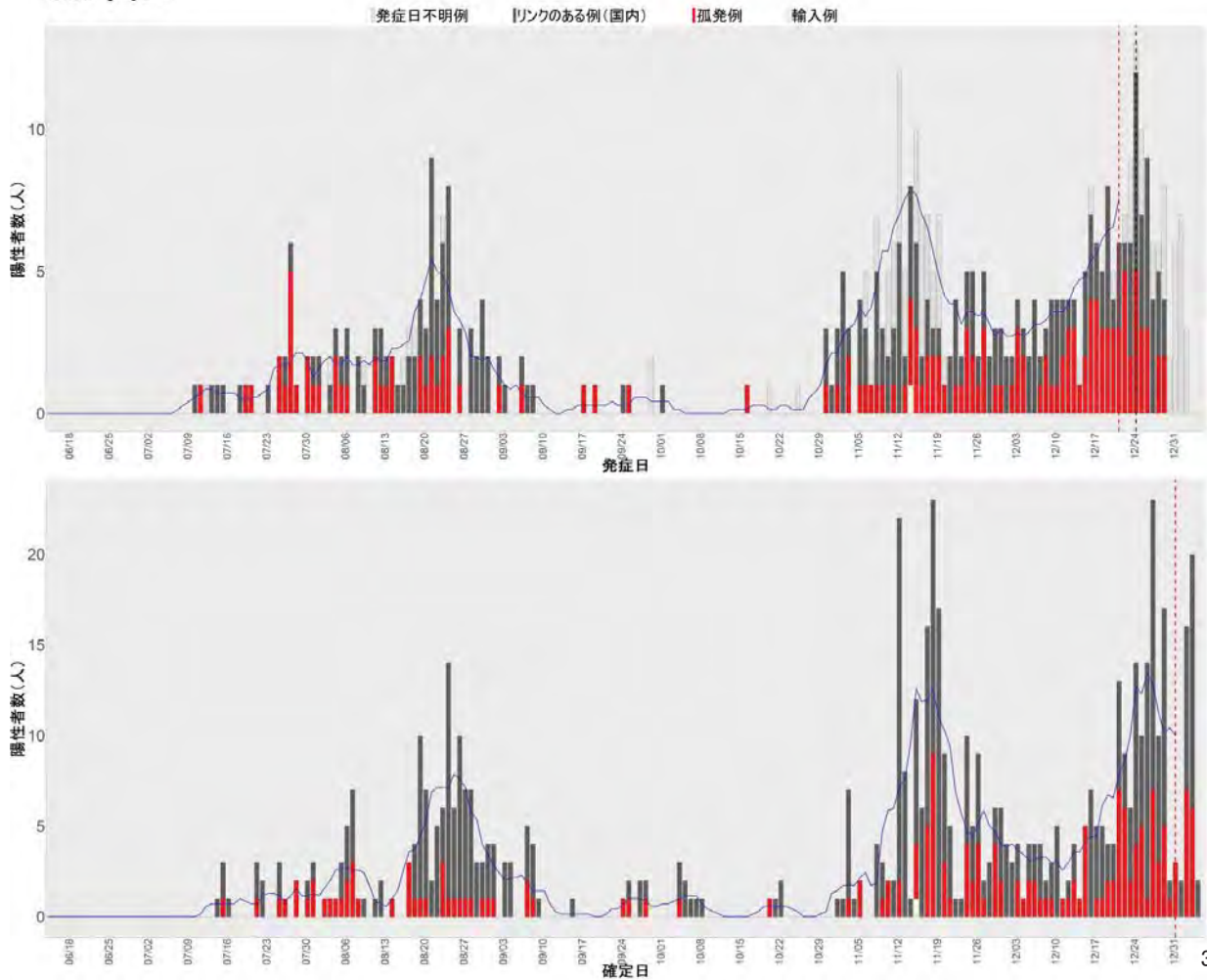


34. 広島



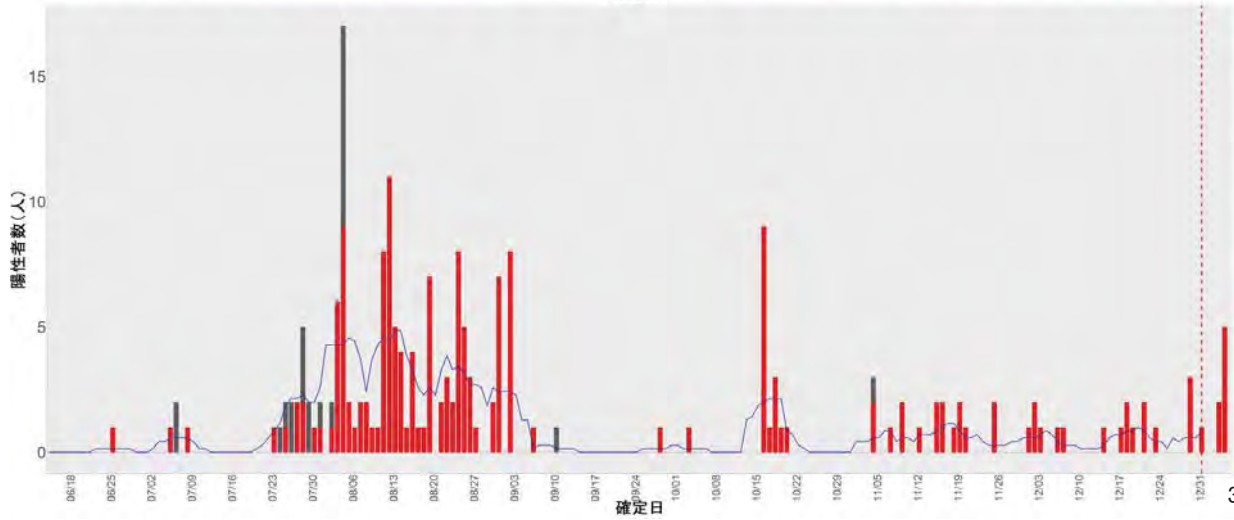
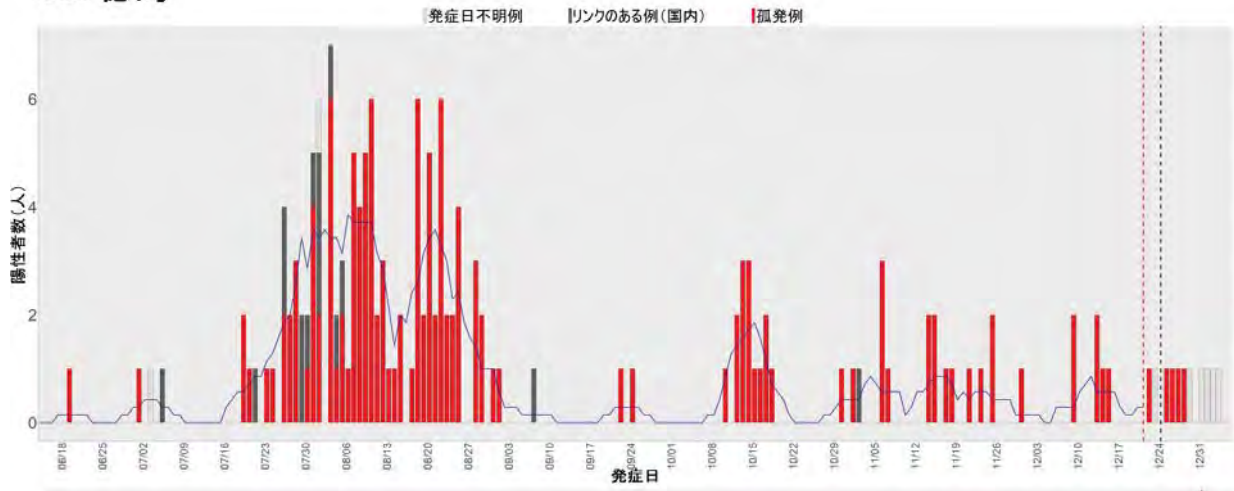
37

35. 山口



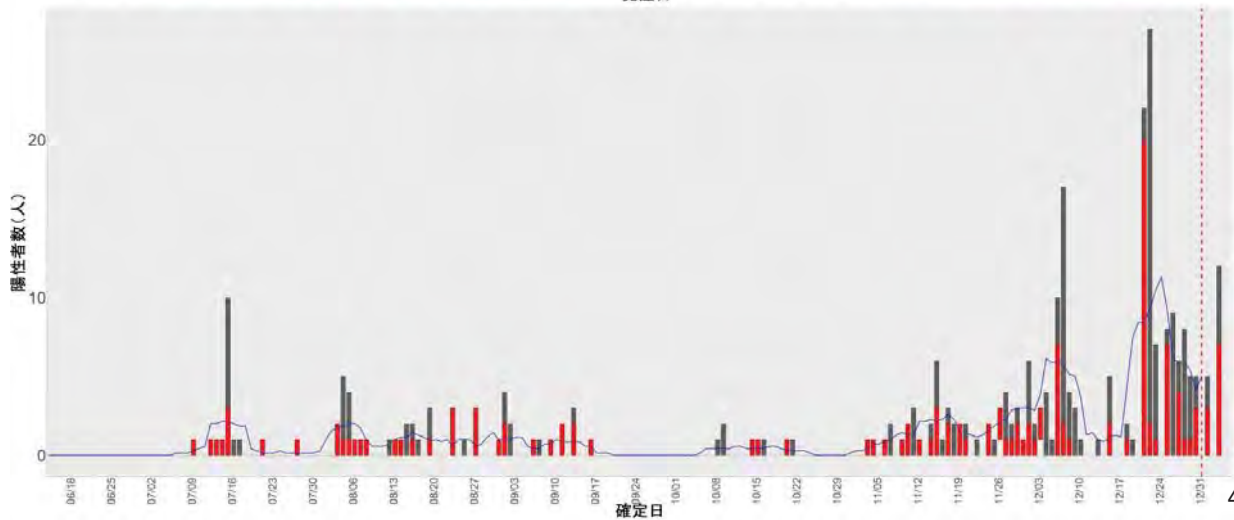
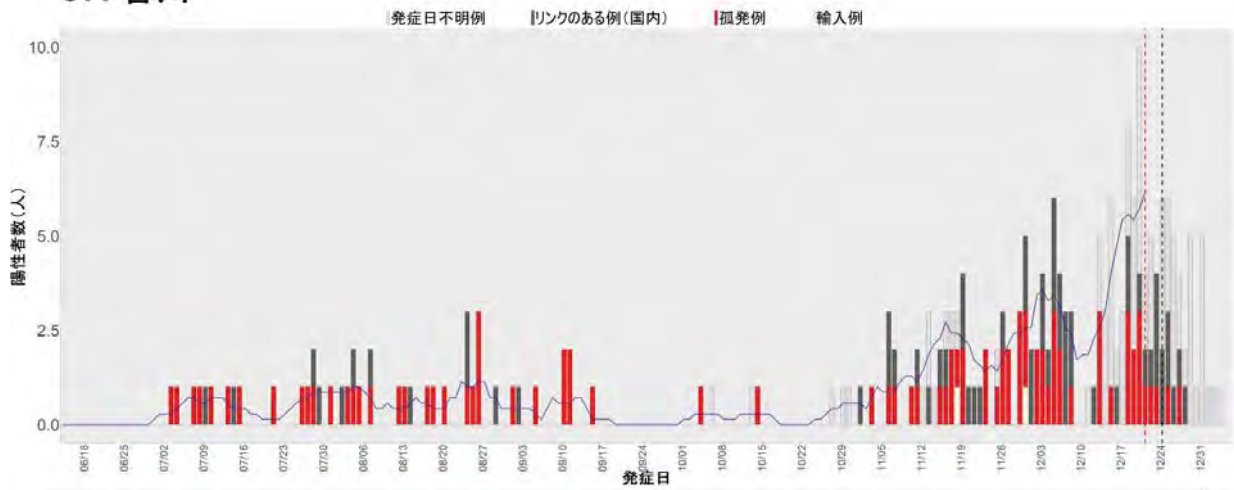
38

36. 徳島



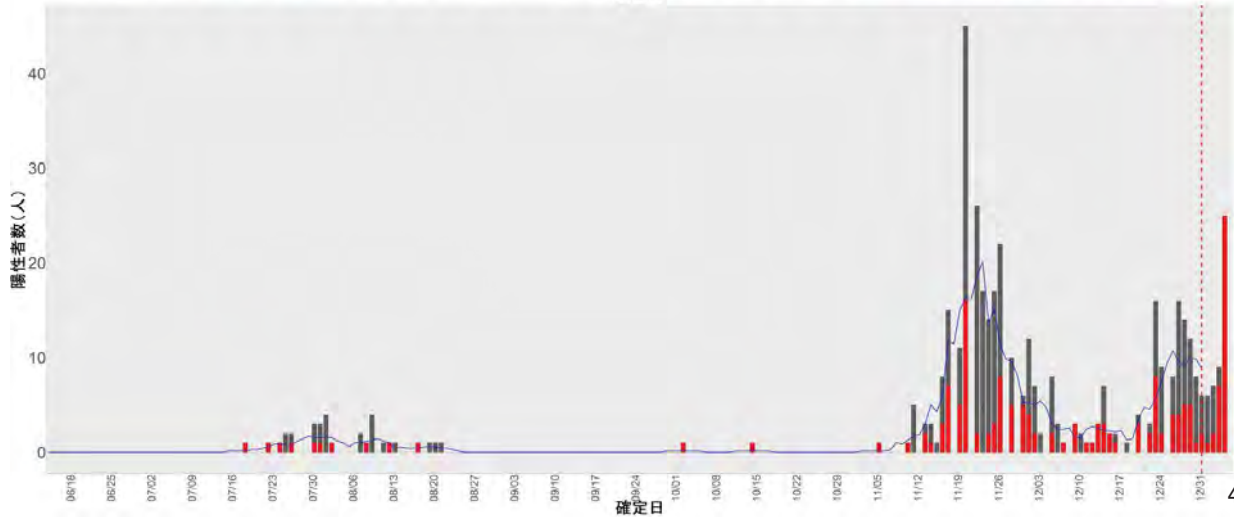
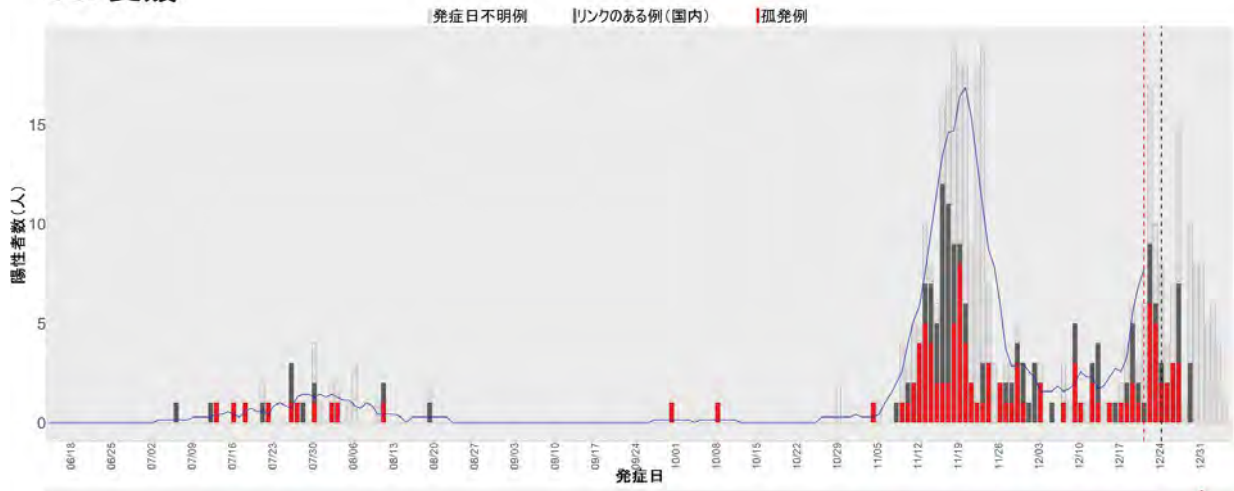
39

37. 香川



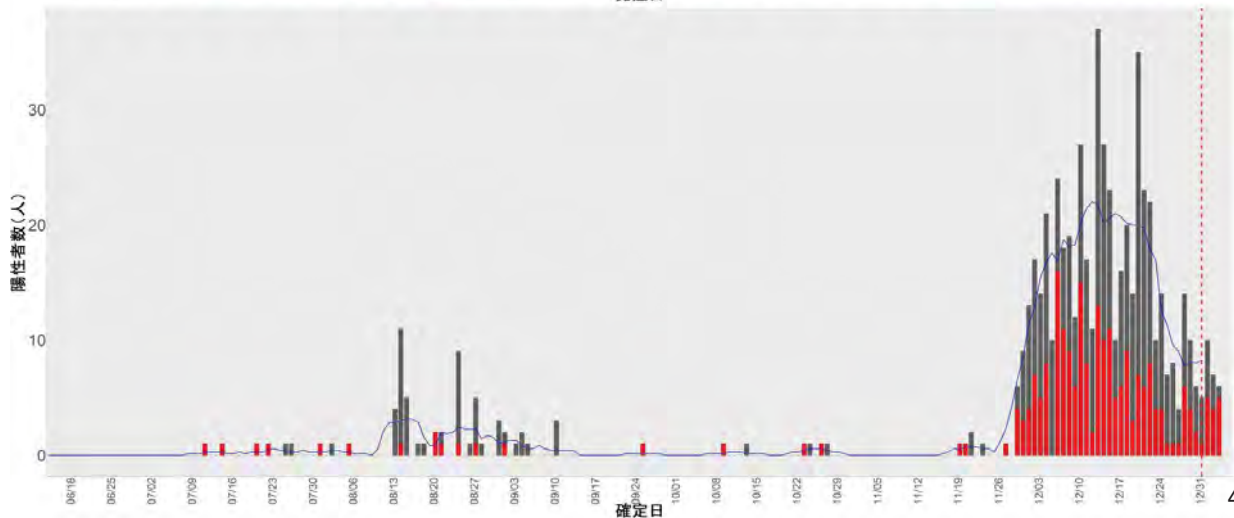
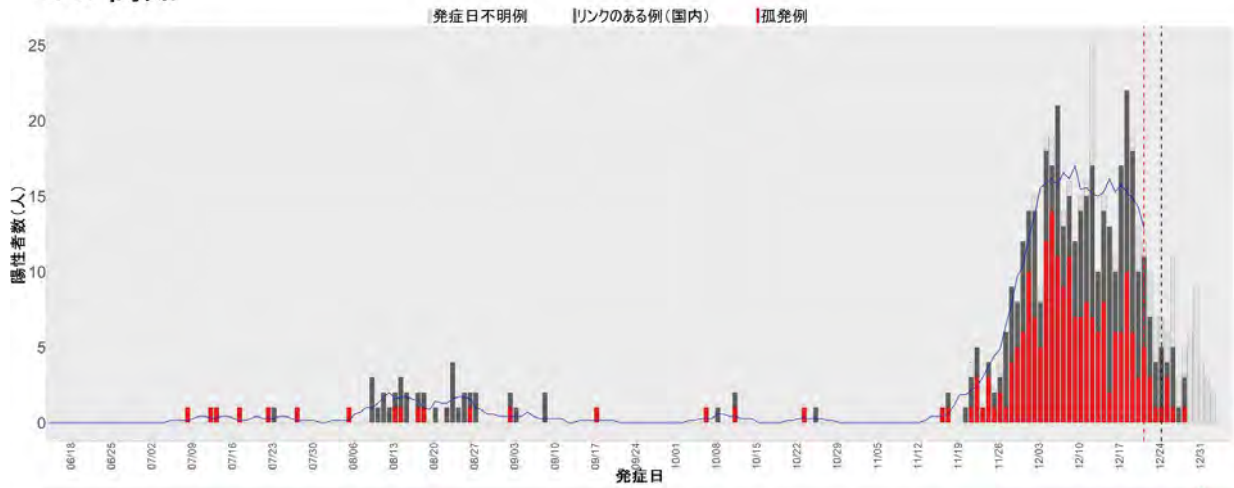
40

38. 愛媛



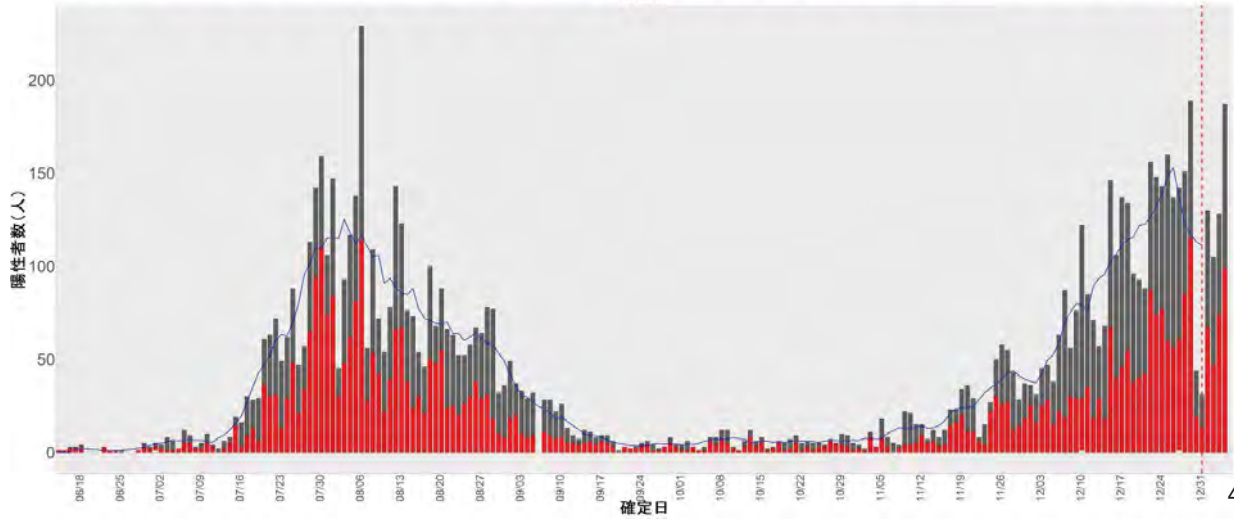
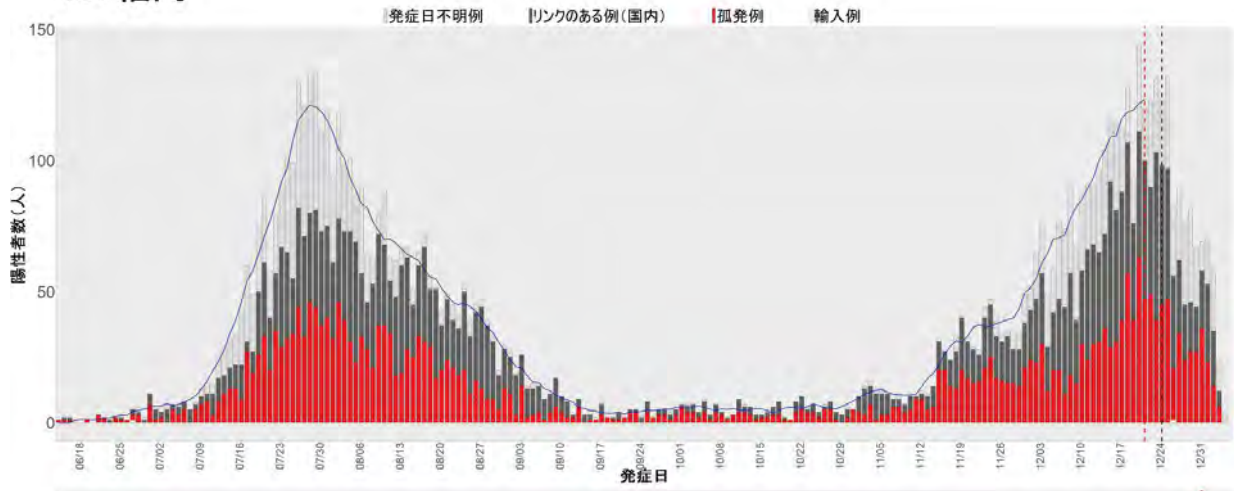
41

39. 高知



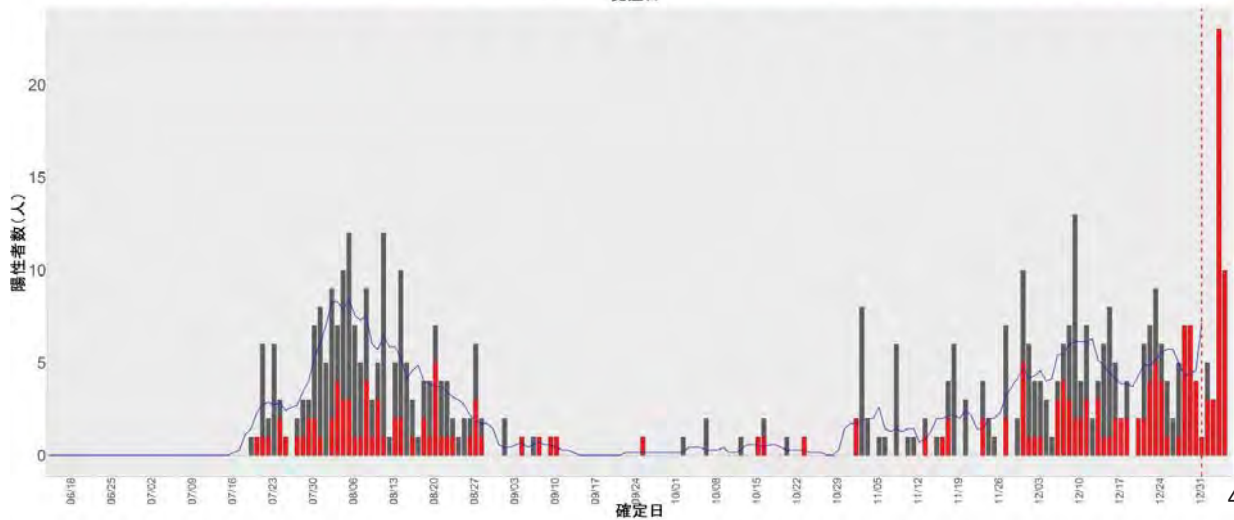
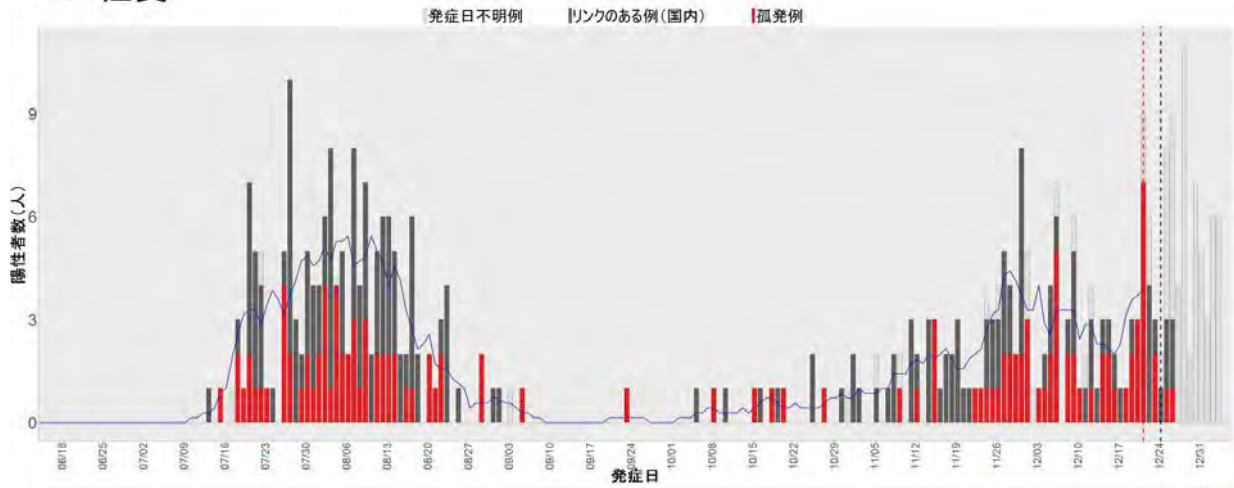
42

40. 福岡



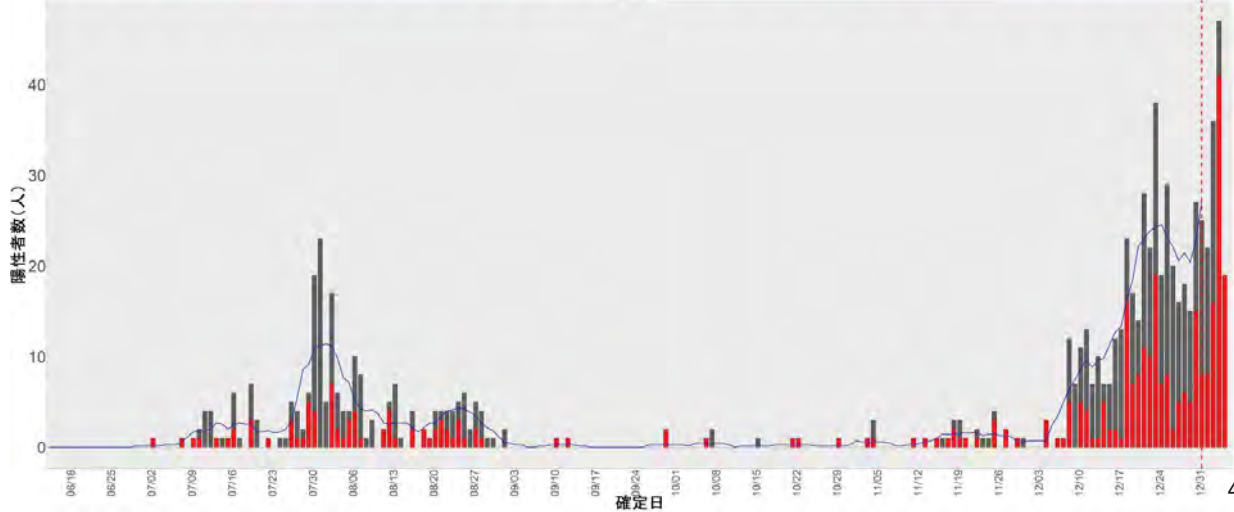
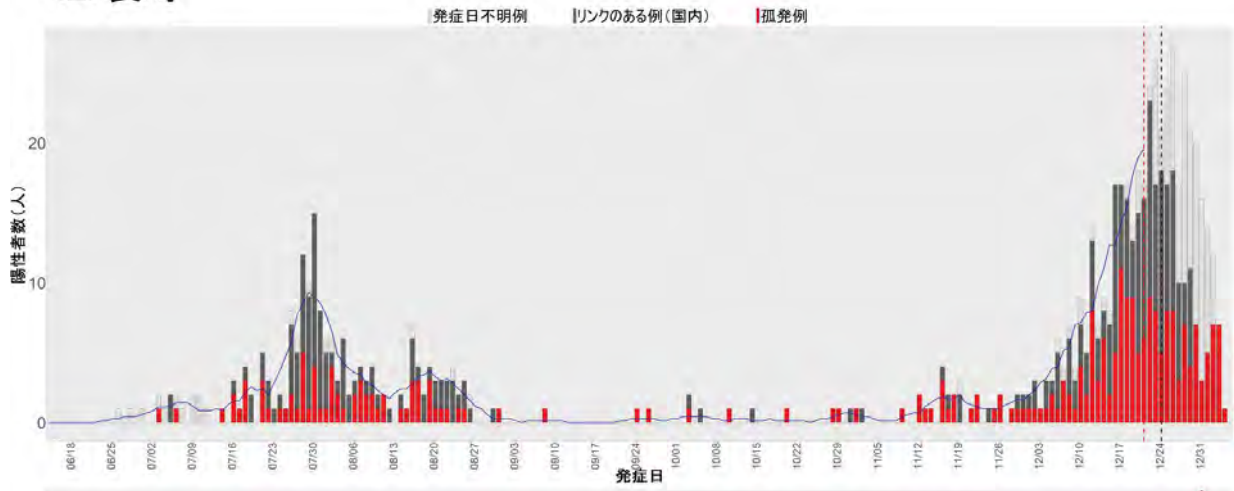
43

41. 佐賀



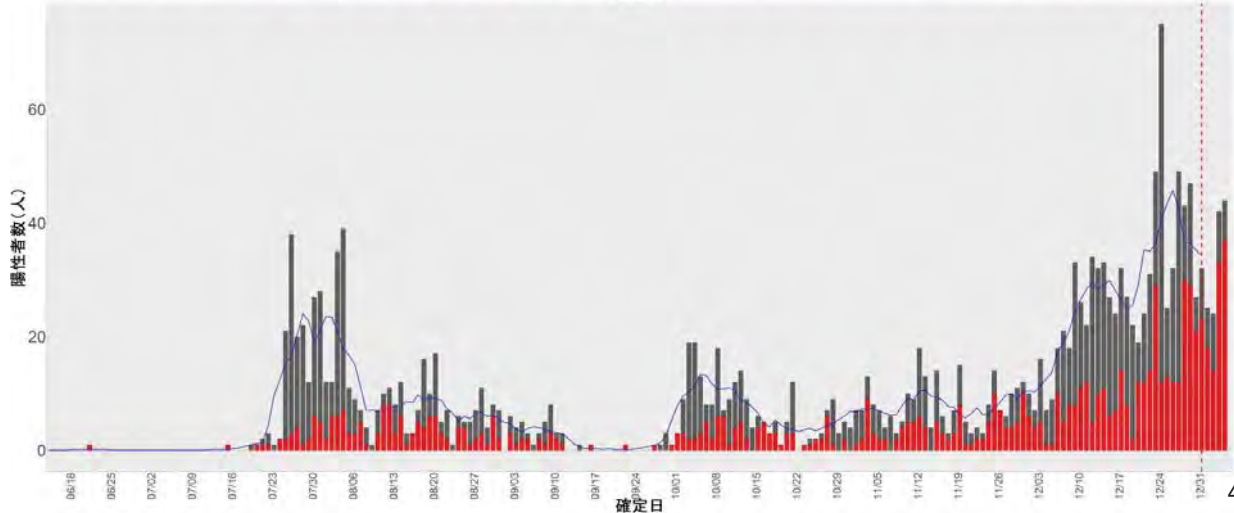
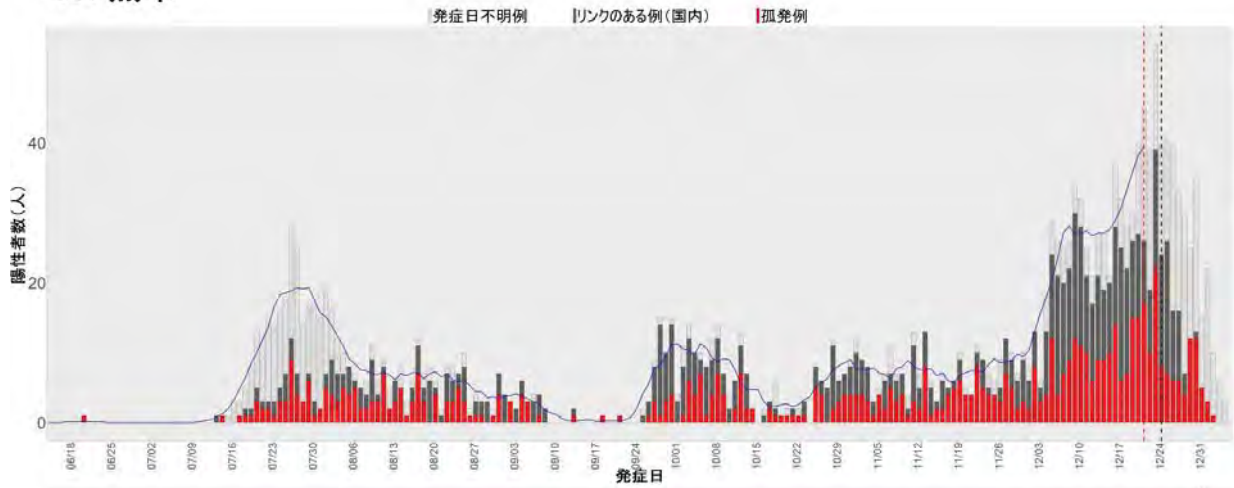
44

42. 長崎



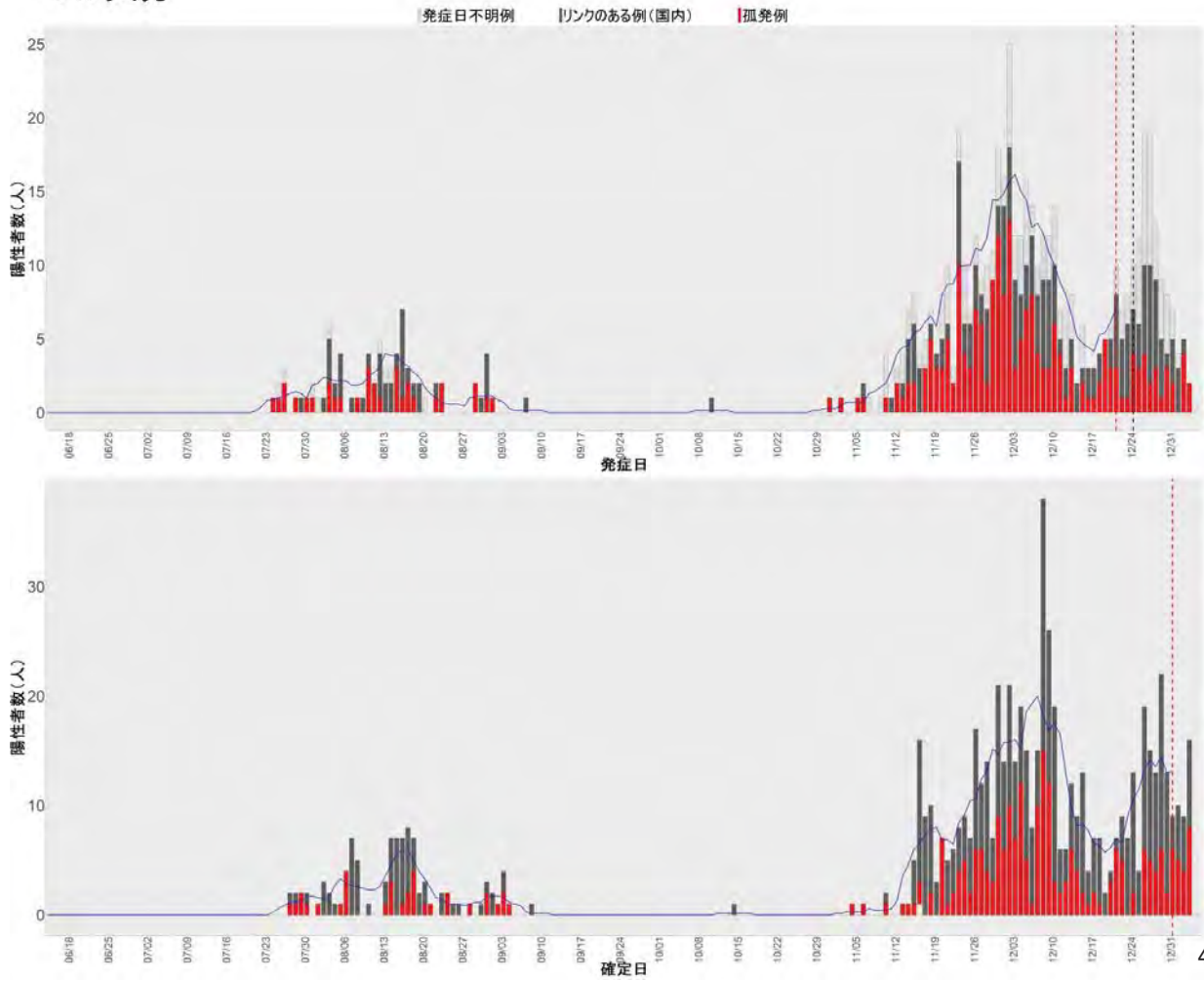
45

43. 熊本



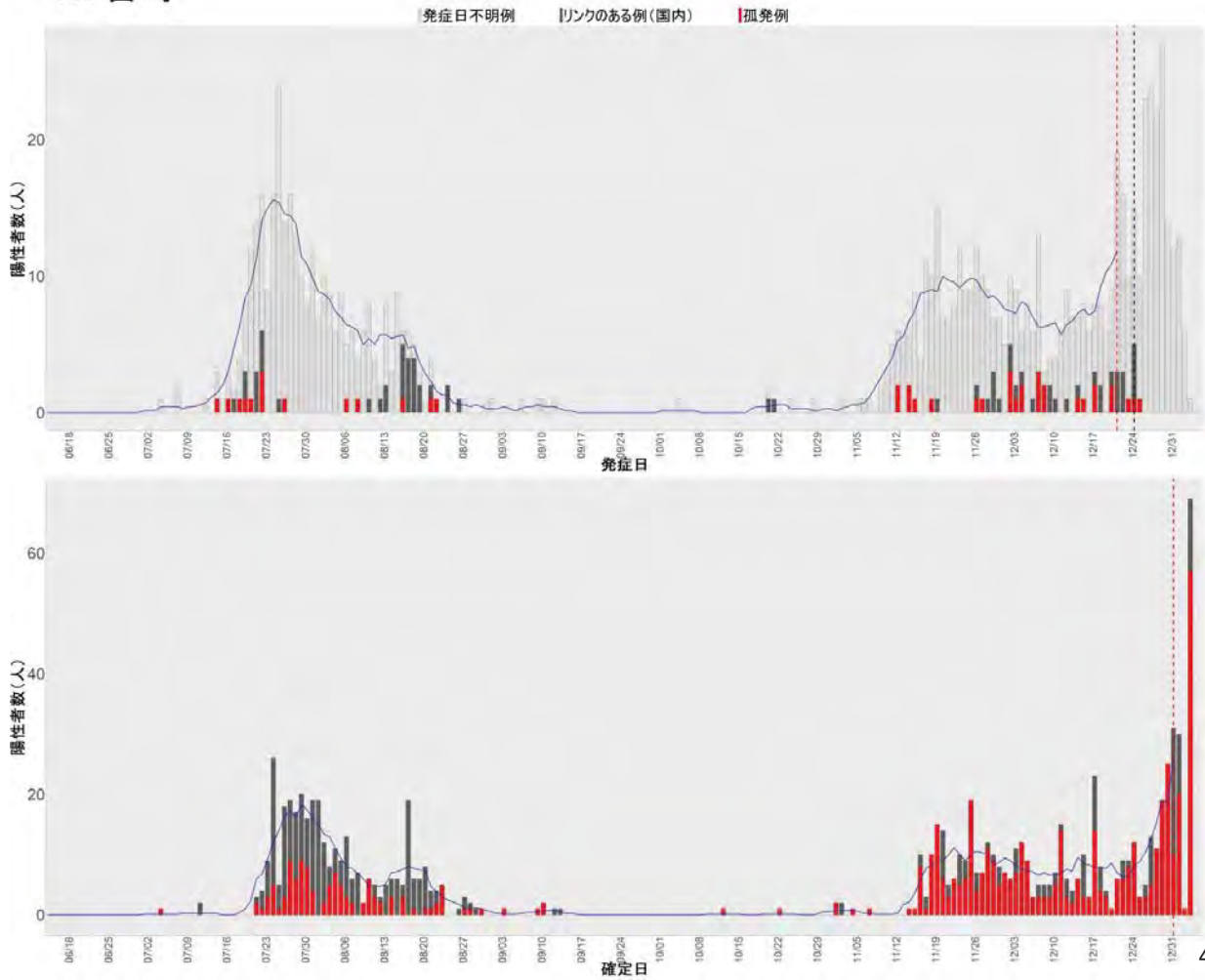
46

44. 大分



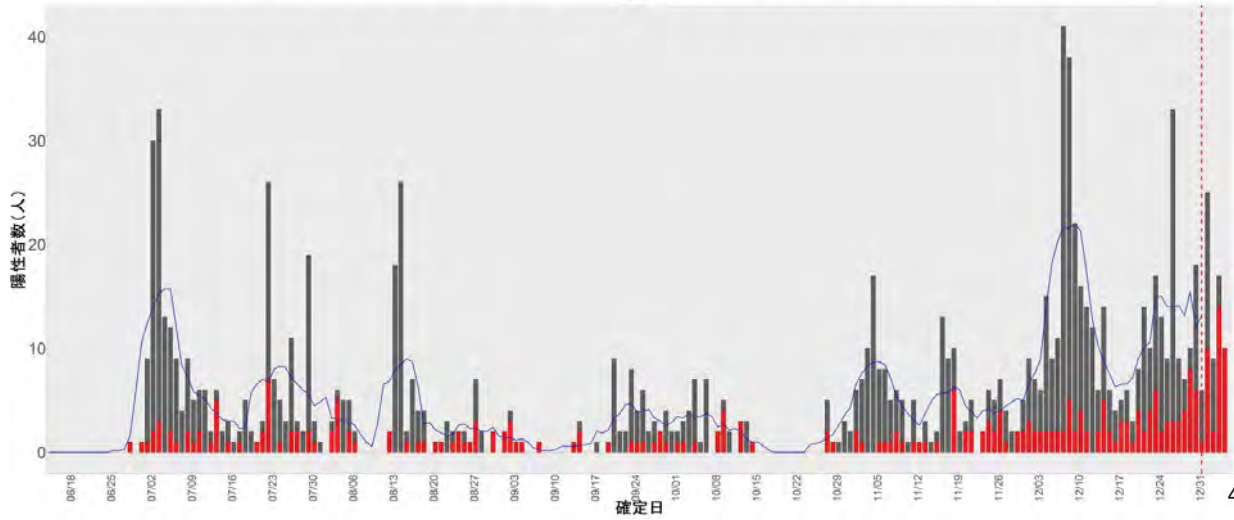
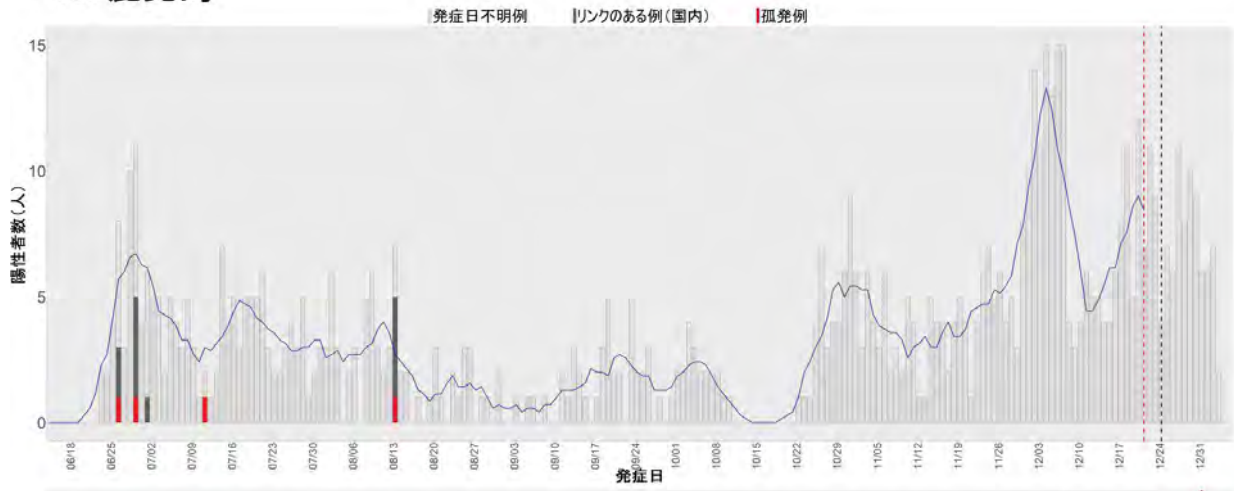
47

45. 宮崎



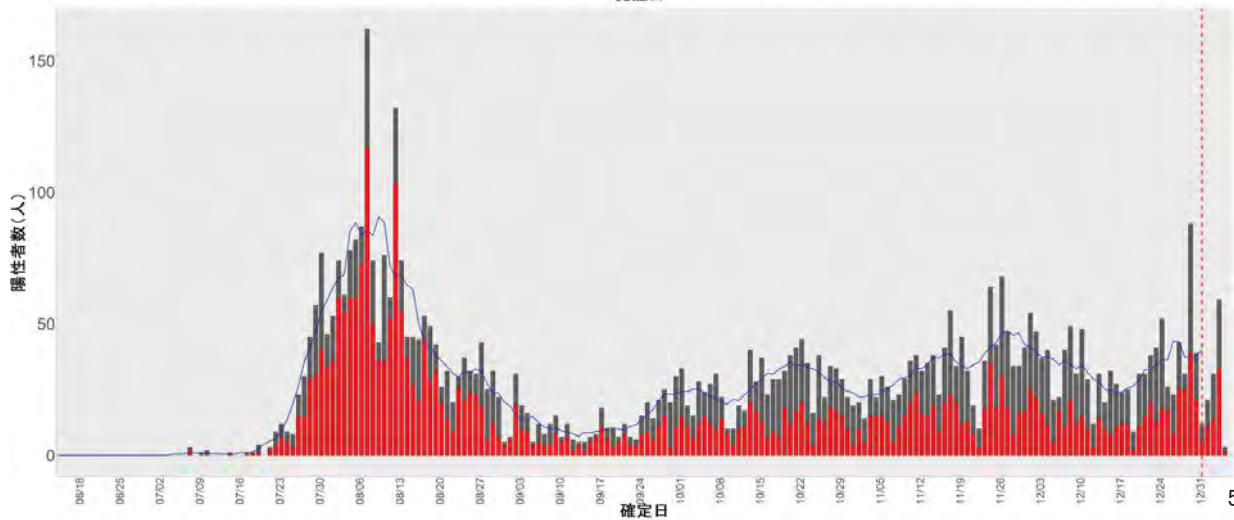
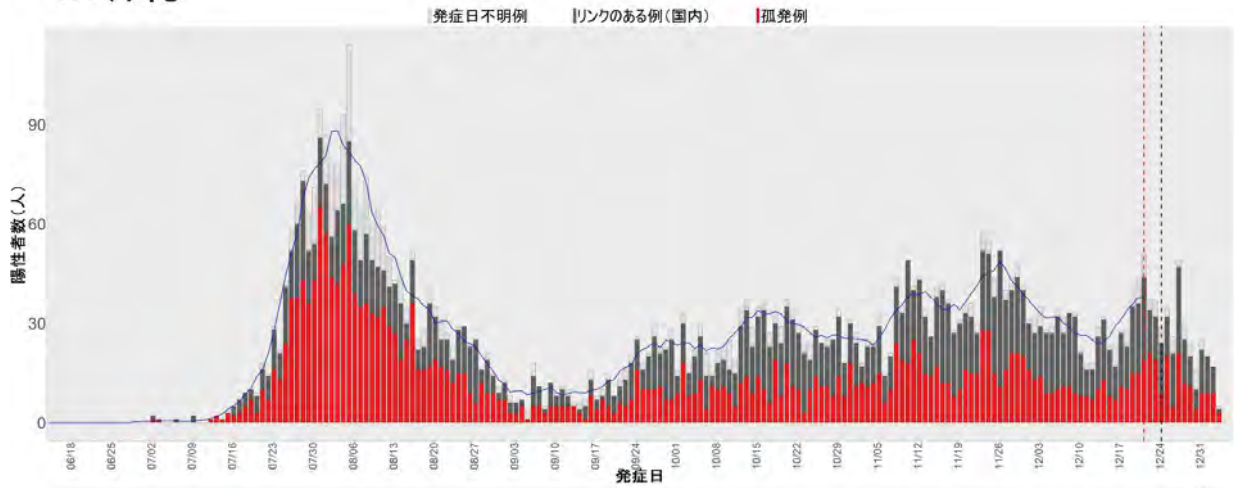
48

46. 鹿児島



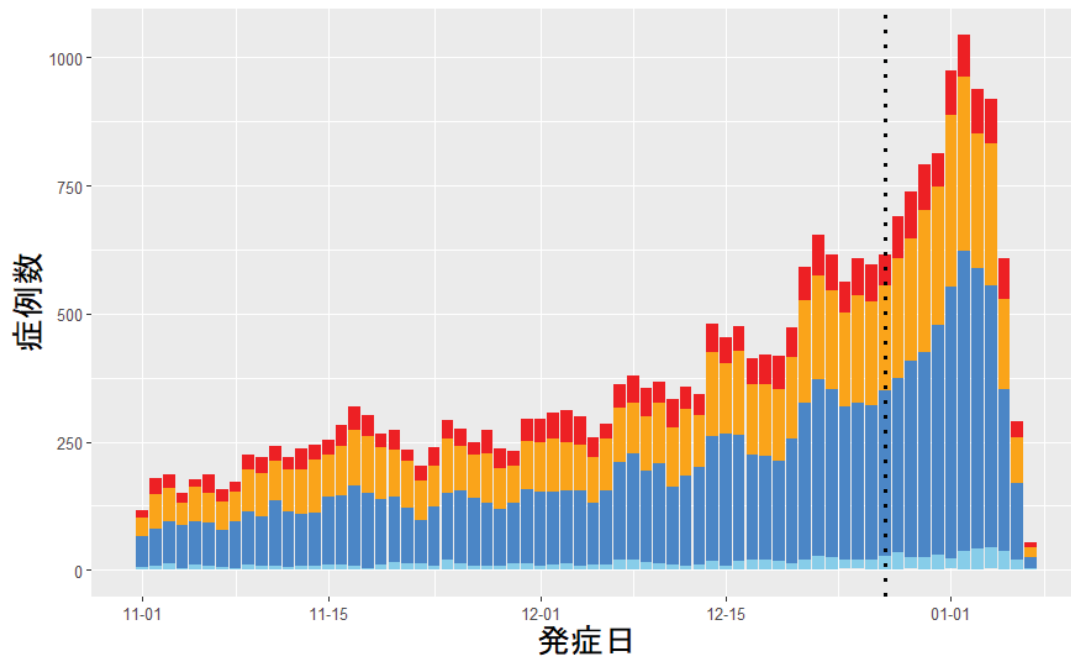
49

47. 沖縄

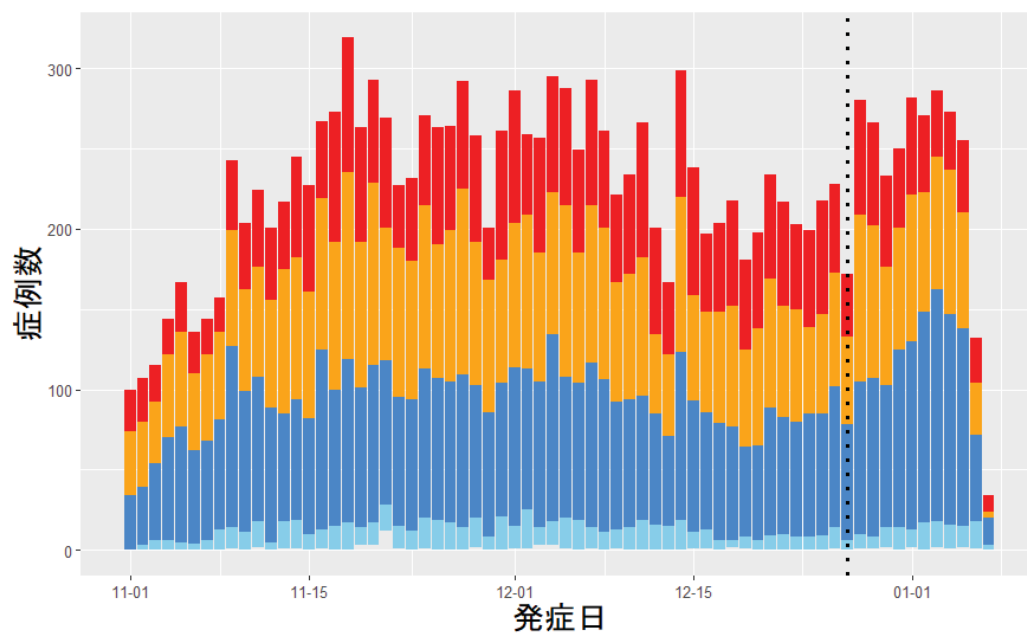


50

東京：発症日別



大阪：発症日別



最近のクラスターの解析

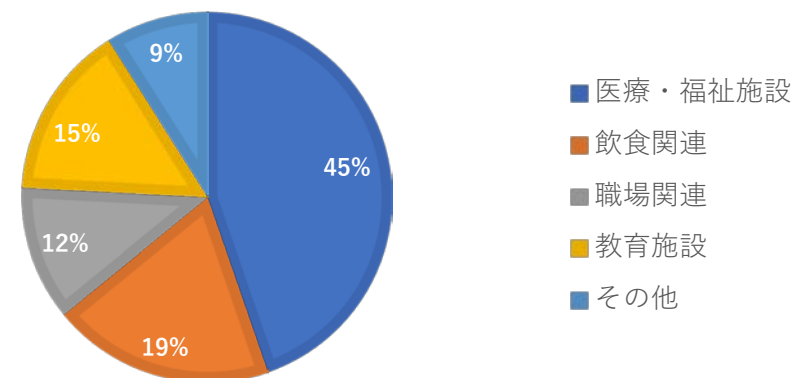
【方法】

- 報道情報に基づくクラスターの情報データベース化したものを使用。
- 令和2年12月以降に報告があったクラスター人数が5人以上のものを抽出。

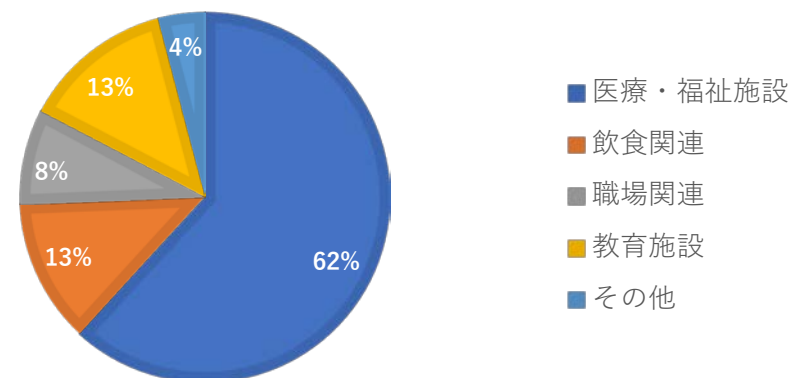
5人以上の感染者が発生したクラスターの内訳

クラスター件数

	クラスター件数	感染者数
医療・福祉施設	361	8191
飲食関連	156	1664
教育施設	123	1754
職場関連	95	1103
その他	72	540
総計	807	13252



感染者数



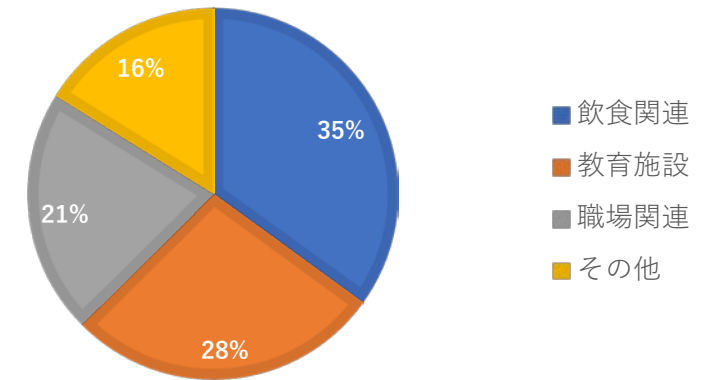
5人以上の感染者が発生したクラスターのうち、55%が医療・福祉施設以外の種類である。

医療・福祉施設を除いたクラスターの内訳

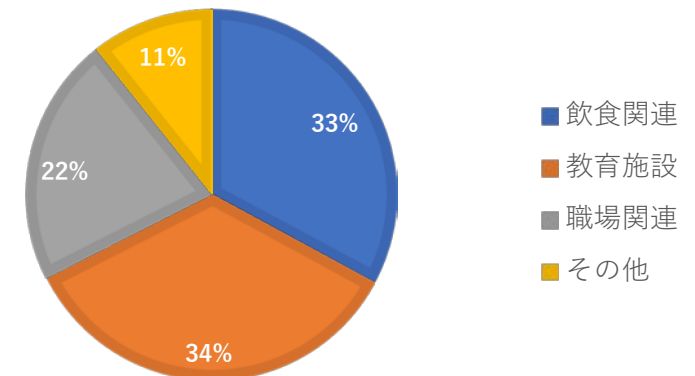
	クラスター件数	感染者数
飲食関連	156	1664
教育施設	123	1754
職場関連	95	1103
その他	72	540
総計	446	5061

5人以上のクラスターは446件（5,061人）であった。
クラスターの種類としては飲食関連が最も多く、全体のクラスター件数でも感染者数でも約1/3程度を占める。

クラスター件数



感染者数

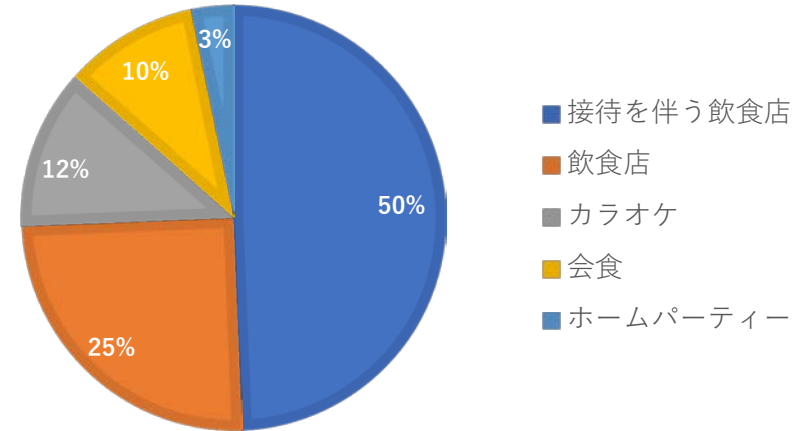


飲食関連

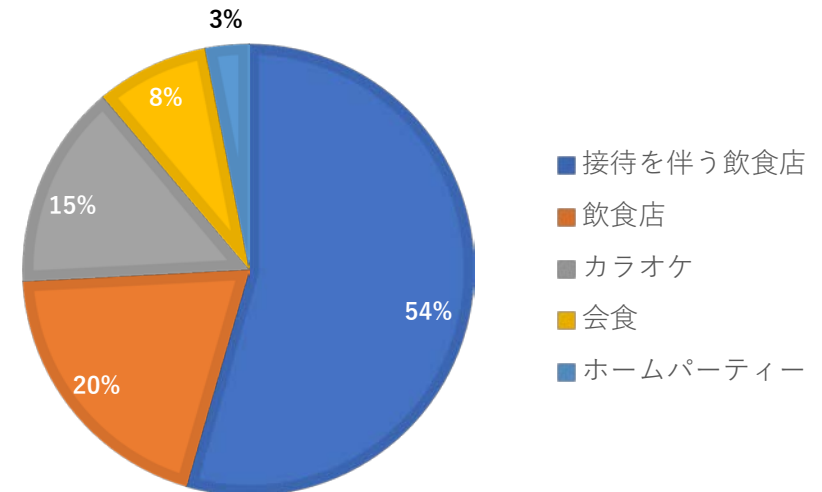
	クラスター件数	感染者数
接待を伴う飲食店	77	907
飲食店	39	327
カラオケ	19	245
会食	16	134
ホームパーティー	5	51
総計	156	1664

接待を伴う飲食店が、飲食関連クラスターの約半分を占める。

クラスター件数



感染者数

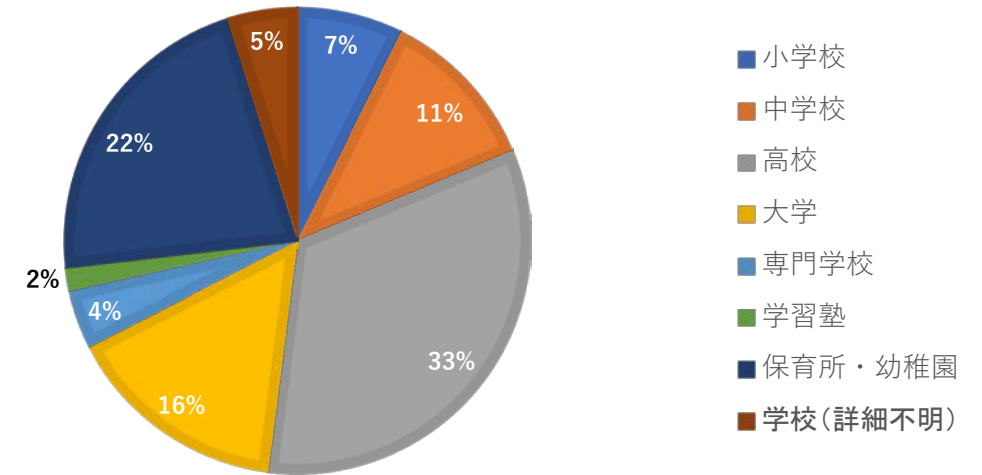


教育施設

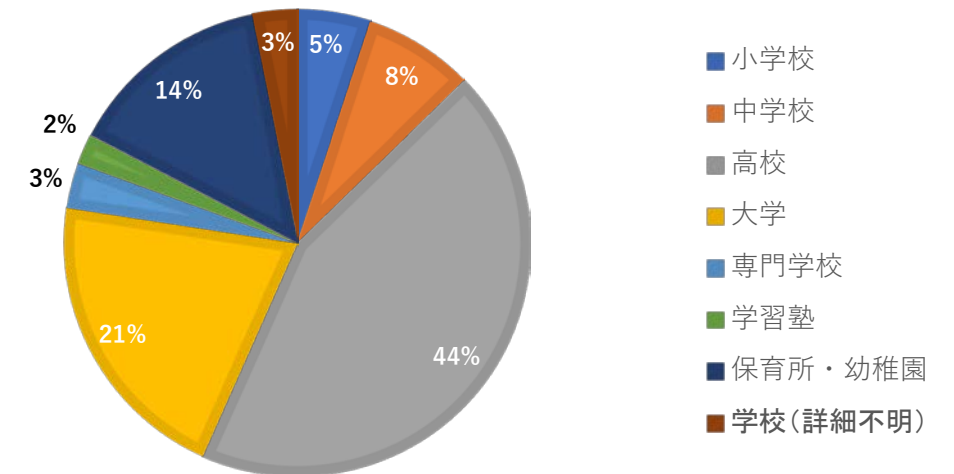
	クラスター件数	感染者数*
小学校	9	89
中学校	14	134
高校	41 (11)	771
大学	19 (8)	364
専門学校	5	55
学習塾	2	37
保育所・幼稚園	27	250
学校（詳細不明）	6 (1)	54
総計	123	1754

* 人数には職員や教員も含む
 () 内は部活動に関連していることが明らかとなっている件数

クラスター件数



感染者数



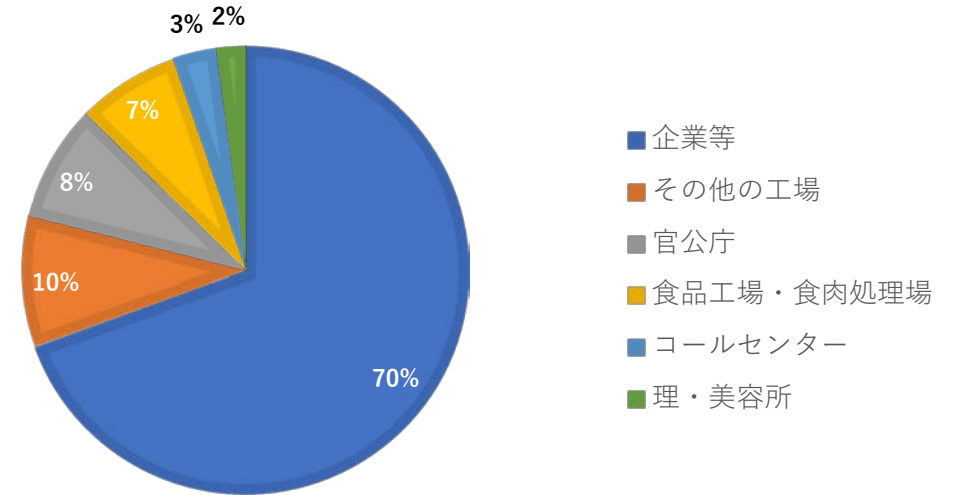
高校関連のクラスター・感染者数が最も多くの割合を占める。
 高校・大学関連は小学校・中学校関連に比べクラスターごとの感染者数が多い。

職場関連

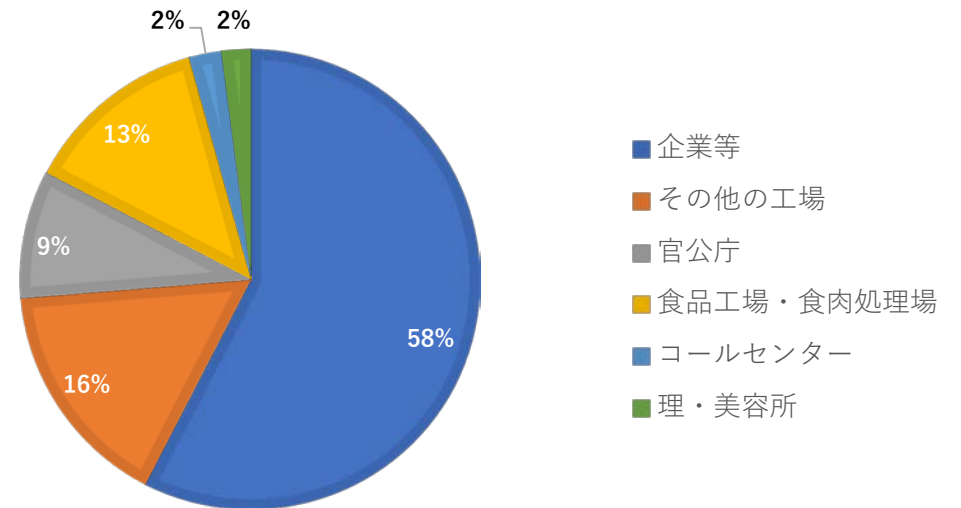
	クラスター件数	感染者数
企業等	66	635
その他の工場	9	178
官公庁	8	99
食品工場・食肉処理場	7	144
コールセンター	3	25
理・美容所	2	22
総計	95	1103

「企業等」にはその詳細が不明なものも多く含まれる。工場関連のクラスターは、件数は多くないが陽性者数は多くなる傾向にある。

クラスター件数



感染者数



新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言

新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 24 年法律第 31 号）第 32 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり、新型コロナウイルス感染症（同法附則第 1 条の 2 第 1 項に規定する新型コロナウイルス感染症をいう。以下同じ。）に関する緊急事態が発生した旨を宣言した。

記

1. 緊急事態措置を実施すべき期間

令和 3 年 1 月 8 日から 2 月 7 日までとする。ただし、緊急事態措置を実施する必要がなくなつたと認められるときは、新型インフルエンザ等対策特別措置法第 32 条第 5 項の規定に基づき、速やかに緊急事態を解除することとする。

2. 緊急事態措置を実施すべき区域

埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県との区域とする。

3. 緊急事態の概要

新型コロナウイルス感染症については、

- ・肺炎の発生頻度が季節性インフルエンザにかかった場合に比して相当程度高いと認められること、かつ、
- ・感染経路が特定できない症例が多数に上り、かつ、急速な増加が確認されており、医療提供体制もひっ迫してきていることから、

国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがあり、かつ、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある事態が発生したと認められる。

基本的対処方針の主な変更内容について (概 要)

1. 緊急事態宣言の発出（3頁）

区域：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

期間：令和3年1月8日から令和3年2月7日まで

2. 緊急事態措置の具体的内容

① 外出の自粛（14頁）

不要不急の外出・移動自粛の要請、特に、20時以降の外出自粛を徹底

② 催物（イベント等）の開催制限（14頁、別途資料参照）

別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、要件に沿った開催の要請

③ 施設の使用制限等（15頁）

- ・飲食店に対する営業時間の短縮（20時までとする。ただし、酒類の提供は11時から19時までとする。）の要請
- ・関係機関とも連携し、営業時間短縮を徹底するための対策強化
- ・飲食店以外の他の特措法施行令第11条に規定する施設（学校、保育所をはじめ別途通知する施設を除く。）についても、同様の働きかけを行う
- ・地方創生臨時交付金に設けた「協力要請推進枠」による、飲食店に対して営業時間短縮要請等と協力金の支払いを行う都道府県に対する支援

④ 職場・出勤（16頁）

- ・「出勤者数の7割削減」を目指すことも含め接触機会の低減に向け、在宅勤務（テレワーク）等を強力的に推進
- ・事業の継続に必要な場合を除き、20時以降の勤務を抑制

⑤ 学校等（17頁）

- ・学校設置者及び大学等に対して一律に臨時休業を求めるのではなく、感染防止対策の徹底を要請
- ・大学等については、感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的

実施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応

- ・部活動、課外活動、学生寮における感染防止策、懇親会や飲み会などについては、学生等への注意喚起の徹底（緊急事態宣言区域においては、部活動における感染リスクの高い活動の制限）を要請

3. 緊急事態宣言発出・解除の考え方

緊急事態宣言の発出及び解除の判断にあたっては、以下を基本として判断。その際、「ステージ判断の指標」は、目安であり、機械的に判断するのではなく、総合的に判断すべきことに留意

(緊急事態宣言発出の考え方)

国内での感染拡大及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況（特に、分科会提言におけるステージⅣ相当の対策が必要な地域の状況等）を踏まえて、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがあるか否かについて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断

(緊急事態宣言解除の考え方)

国内での感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況（特に、緊急事態措置を実施すべき区域が、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域になっているか等）を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断

なお、緊急事態宣言の解除後の対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで継続。

4. その他の主な変更事項

- ・変異株の関係（7頁等）
- ・ワクチン・予防接種の関係（8頁等）
- ・「感染リスクが高まる「5つの場面」」の関係（10頁等）
- ・クラスター対策の強化（歓楽街、外国人支援等）（21頁等）
- ・医療機関、高齢者施設等への積極的な検査（27頁等）
- ・偏見・差別等への対応関係（30頁等）

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針

令和2年3月28日（令和3年1月7日変更）

新型コロナウイルス感染症対策本部決定

政府は、新型コロナウイルス感染症への対策は危機管理上重大な課題であるとの認識の下、国民の生命を守るため、これまで水際での対策、まん延防止、医療の提供等について総力を挙げて講じてきた。国内において、感染経路の不明な患者の増加している地域が散発的に発生し、一部の地域で感染拡大が見られてきたため、令和2年3月26日、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号。以下「法」という。）附則第1条の2第1項及び第2項の規定により読み替えて適用する法第14条に基づき、新型コロナウイルス感染症のまん延のおそれが高いことが、厚生労働大臣から内閣総理大臣に報告され、同日に、法第15条第1項に基づく政府対策本部が設置された。

国民の生命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要である。

その上で、まずは、後述する「三つの密」を徹底的に避ける、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を行うことをより一層推進し、さらに、積極的疫学調査等によりクラスター（患者間の関連が認められた集団。以下「クラスター」という。）の発生を抑えることが、いわゆるオーバーシュートと呼ばれる爆発的な感染拡大（以下「オーバーシュート」という。）の発生を防止し、感染者、重症者及び死亡者の発生を最小限に食い止めるためには重要である。

また、必要に応じ、外出自粛の要請等の接触機会の低減を組み合わせることで実施することにより、感染拡大の速度を可能な限り抑制することが、上記の封じ込めを図るためにも、また、医療提供体制を崩壊させないためにも、重要である。

あわせて、今後、国内で感染者数が急増した場合に備え、重症者等への対応を中心とした医療提供体制等の必要な体制を整えるよう準備することも必要である。

既に国内で感染が見られる新型コロナウイルス感染症に関しては、

- ・ 肺炎の発生頻度が、季節性インフルエンザにかかった場合に比して相当程度高く、国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがあること
- ・ 感染経路が特定できない症例が多数に上り、かつ、急速な増加が確認されており、医療提供体制もひっ迫してきていることから、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある状況であること

が、総合的に判断されている。

このようなことを踏まえて、令和2年4月7日に、新型コロナウイルス感染症対策本部長（以下「政府対策本部長」という。）は法第32条第1項に基づき、緊急事態宣言を行った。緊急事態措置を実施すべき期間は令和2年4月7日から令和2年5月6日までの29日間であり、緊急事態措置を実施すべき区域は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県とした。

以後、4月16日に、各都道府県における感染状況等を踏まえ、全都道府県について緊急事態措置を実施すべき区域とし、5月4日には、全都道府県において緊急事態措置を実施すべき期間を令和2年5月31日まで延長することとした。その後、各都道府県における感染状況等を踏まえ、段階的に緊急事態措置を実施すべき区域を縮小していった。

5月25日に、感染状況等を分析し、総合的に判断した結果、全ての都道府県が緊急事態措置を実施すべき区域に該当しないこととなったため、政府対策本部長は、法第32条第5項に基づき、緊急事態解除宣言を行った。

その後、新規報告数は、10月末以降増加傾向となり、11月以降その傾向が強まっていった。12月には首都圏を中心に新規報告数は過去最多の状況が継続し、医療提供体制がひっ迫している地域が見受けられた。

こうした感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況に鑑み、令和3年1月7日、政府対策本部長は、法第32条第1項に基づき、緊急事態宣言を行った。緊急事態措置を実施すべき期間は令和3年1月8日から令和3年2月7日までの31日間であり、緊急事態措置を実施すべき区域は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県である。

本指針は、国民の生命を守るため、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況を的確に把握し、政府や地方公共団体、医療関係者、専門家、事業者を含む国民が一丸となって、新型コロナウイルス感染症対策をさらに進めていくため、今後講じるべき対策を現時点で整理し、対策を実施するに当たって準拠となるべき統一的指針を示すものである。

一 新型コロナウイルス感染症発生の状況に関する事実

我が国においては、令和2年1月15日に最初の感染者が確認された後、令和3年1月5日までに、合計250,343人の感染者、3,718人の死亡者が確認されている。

令和2年4月から5月にかけての緊急事態宣言下において、東京都、大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県及び福岡県の13都道府県については、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要があったことから、本対処方針において特定都道府県（緊急事態宣言の対象区域に属する都道府県）の中でも「特定警戒都道府県」と位置付けて対策を促してきた。

また、これら特定警戒都道府県以外の県についても、都市部からの人の移動等によりクラスターが都市部以外の地域でも発生し、感染拡大の傾向が見られ、そのような地域においては、医療提供体制が十分に整っていない場合も多いことや、全都道府県が足並みをそろえた取組が行われる必要があったことなどから、全ての都道府県について緊急事態措置を実施すべき区域として感染拡大の防止に向けた対策を促してきた。

その後、5月1日及び4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（以下「専門家会議」という。）の見解を踏まえ、引き続き、それまでの枠

組みを維持し、全ての都道府県について緊急事態措置を実施すべき区域(特定警戒都道府県は前記の 13 都道府県とする。)として感染拡大の防止に向けた取組を進めてきた。

その結果、全国的に新規報告数の減少が見られ、また、新型コロナウイルス感染症に係る重症者数も減少傾向にあることが確認され、さらに、病床等の確保も進み、医療提供体制のひっ迫の状況も改善されてきた。

5月14日には、その時点における感染状況等の分析・評価を行い、総合的に判断したところ、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県の8都道府県については、引き続き特定警戒都道府県として、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていくこととなった。

また、5月21日には、同様に、分析・評価を行い、総合的に判断したところ、北海道、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県の5都道府県については、引き続き特定警戒都道府県として、特に重点的に感染拡大の防止に向けた取組を進めていく必要があった。

その後、5月25日に改めて感染状況の変化等について分析・評価を行い、総合的に判断したところ、全ての都道府県が緊急事態措置を実施すべき区域に該当しないこととなったため、同日、緊急事態解除宣言が発出された。

緊急事態宣言解除後、主として7月から8月にかけて、特に大都市部の歓楽街における接待を伴う飲食店を中心に感染が広がり、その後、周辺地域、地方や家庭・職場などに伝播し、全国的な感染拡大につながっていった。

この感染拡大については、政府及び都道府県、保健所設置市、特別区(以下「都道府県等」という。)が連携し、大都市の歓楽街の接待を伴う飲食店等、エリア・業種等の対象を絞った上で、重点的なPCR検査の実施や営業時間短縮要請など、メリハリの効いた対策を講じることにより、新規報告数は減少に転じた。

また、8月7日の新型コロナウイルス感染症対策分科会(以下「分科会」という。)においては、今後想定される感染状況に応じたステージの分類を行うとともに、ステージを判断するための指標(「6つの指標」。以下「ステージ判断の指標」という。)及び各ステージにおいて講じるべき施策が提言された。

この提言を踏まえ、今後、緊急事態宣言(緊急事態措置を実施すべき区域を含む)の発出及び解除の判断に当たっては、以下を基本として判断することとする。その際、「ステージ判断の指標」は、提言において、あくまで目安であり、これらの指標をもって機械的に判断するのではなく、政府や都道府県はこれらの指標を総合的に判断すべきとされていることに留意する。

(緊急事態宣言発出の考え方)

国内での感染拡大及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況(特に、分科会提言におけるステージⅣ相当の対策が必要な地域の状況等)を踏まえて、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがあるか否かについて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

(緊急事態宣言解除の考え方)

国内での感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況(特に、緊急事態措置を実施すべき区域が、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域になっているか等)を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断する。

なお、緊急事態宣言の解除後の対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで続ける。

8月28日には政府対策本部が開催され、「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」がとりまとめられ、重症化するリスクが高い高齢者や基礎疾患がある者への感染防止を徹底するとともに、医療資源を重症者に重点化すること、また、季節性インフルエンザの流行期に備え、検査体制、医療提供体制を確保・拡充することとなった。

夏以降、減少に転じた新規報告数は、10月末以降増加傾向となり、11月以降その傾向が強まっていったことから、クラスター発生時の大規模・集中的な検査の実施による感染の封じ込めや感染拡大時の保健所支援の広域調整等、政府と都道府県等が密接に連携しながら、対策を講じていった。また、10月23日の分科会においては、「感染リスクが高まる「5つの場面」」を回避することや、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を周知することなどの提言がなされた。12月には首都圏を中心に新規報告数は過去最多の状況が継続し、医療提供体制がひっ迫している地域が見受けられた。

こうした感染状況や医療提供体制・公衆衛生体制に対する負荷の状況に鑑み、令和3年1月7日、政府対策本部長は、法第32条第1項に基づき、緊急事態措置を実施すべき期間を令和3年1月8日から令和3年2月7日までの31日間とし、区域を東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県とする緊急事態宣言を行った。

新型コロナウイルス感染症については、以下のような特徴がある。

- ・ 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人の割合や死亡する人の割合は年齢によって異なり、高齢者は高く、若者は低い傾向にある。令和2年6月から8月に診断された人における重症化する割合や死亡する割合は1月から4月までと比べて低下している。重症化する人の割合は約1.6%（50歳代以下で0.3%、60歳代以上で8.5%）、死亡する人の割合は、約1.0%（50歳代以下で0.06%、60歳代以上で5.7%）となっている。
- ・ 重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある人で、重症化のリスクとなる基礎疾患には、慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満がある。
- ・ 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させる可能性がある期間は、発症の2日前から発症後7日から10日間程度とされている。また、この期間のうち、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなると考えられている。

新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、他の人に感染させているのは2割以下で、多くの人は他の人に感染させていないと考えられている。

- 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染し、①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件（以下「三つの密」という。）の環境で感染リスクが高まる。このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間に及ぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要である。
- 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR 検査、抗原定量検査、抗原定性検査等がある。新たな検査手法の開発により、検査の種類や症状に応じて、鼻咽頭ぬぐい液だけでなく、唾液や鼻腔ぬぐい液を使うことも可能になっている。なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるものであるため、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的に使うことはできない。
- 新型コロナウイルス感染症の治療は、軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱薬などの対症療法を行う。呼吸不全を伴う場合には、酸素投与やステロイド薬（炎症を抑える薬）・抗ウイルス薬の投与を行い、改善しない場合には人工呼吸器や体外式膜型人工肺（Extracorporeal membrane oxygenation：ECMO）等による集中治療を行うことがある。
- 英国、南アフリカ等の世界各地で変異株が確認されている。国立感染症研究所によると、英国で確認された変異株(VOC-202012/01)については、英国の解析では今までの流行株よりも感染性が高いこと（実効再生産数を0.4以上増加させ、伝播のしやすさを最大70%程度増加すると推定）が示唆されること、現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響は調査中で

あることなど、また、南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)については、感染性が増加している可能性が示唆されているが、精査が必要であること、現時点では、重篤な症状との関連性やワクチンの有効性への影響を示唆する証拠はないこと等の見解がまとめられている。

国立感染症研究所によると、変異株であっても、個人の基本的な感染予防策としては、従来と同様に、「三つの密」の回避、マスクの着用、手洗い等が推奨されている。

- 日本国内におけるウイルスの遺伝子的な特徴を調べた研究によると、令和2年1月から2月にかけて、中国武漢から日本国内に侵入した新型コロナウイルスは3月末から4月中旬に封じ込められた一方で、その後、欧米経由で侵入した新型コロナウイルスが日本国内に拡散したものと考えられている。7月、8月の感染拡大は、検体全てが欧州系統から派生した2系統に集約されたものと考えられる。現時点では、国内感染は国内で広がったものが主流と考えられる。
- また、ワクチンについては、令和3年前半までに全国民に提供できる数量の確保を目指すこととしており、これまでモデルナ社、アストラゼネカ社及びファイザー社のワクチンの供給を受けることについて契約締結等に至っている。ワクチンの接種を円滑に実施するため、令和2年9月時点で得られた知見、分科会での議論経過等を踏まえ、内閣官房及び厚生労働省は「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について（中間とりまとめ）」を策定したが、その後、予防接種法（昭和23年法律第68号）の改正や接種順位の検討等、接種に向け必要な準備を進めている。現時点では国内で承認されたワクチンは存在しないもののファイザー社のワクチンについて12月中旬に薬事承認申請がなされており、現在、安全性・有効性を最優先に、迅速審査を行っているところであり、承認後にはできるだけ速やかに接種できるよう接種体制の整備を進めている。
- 新型コロナウイルス感染症による日本での経済的な影響を調べた研究では、クレジットカードの支出額によれば、人との接触が多い業態や在

宅勤務（テレワーク）の実施が困難な業態は、3月以降、売り上げがより大きく減少しており、影響を受けやすい業態であったことが示されている。また、令和2年4～6月期の国内総生産（GDP）は実質で前期比7.9%減、年率換算で28.1%減を記録した。

二 新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針

- ① これまでの感染拡大期の経験や国内外の様々な研究等の知見を踏まえ、より効果的な感染防止策等を講じていく。
- ② 緊急事態措置を実施すべき区域においては、社会経済活動を幅広く止めるのではなく、感染リスクが高く感染拡大の主な起点となっている場面に効果的な対策を徹底する。すなわち、飲食を伴うものを中心として対策を講じることとし、その実効性を上げるために、飲食につながる人の流れを制限することを実施する。具体的には、飲食店に対する営業時間短縮要請、夜間の外出自粛、テレワークの推進等の取組を強力に推進する。
- ③ 緊急事態措置を実施すべき区域以外の地域においては、地域の感染状況や医療提供体制の確保状況等を踏まえながら、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との持続的な両立を図っていく。その際、感染状況は地域によって異なることから、各都道府県知事が適切に判断する必要があるとともに、人の移動があることから、隣県など社会経済的につながりのある地域の感染状況に留意する必要がある。
- ④ 感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や「感染リスクが高まる「5つの場面」」を回避すること等を促すとともに、事業者及び関係団体に対して、業種別ガイドライン等の実践と科学的知見等に基づく進化を促していく。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症についての監視体制の整備及び的確な情報提供・共有により、感染状況等を継続的に監視する。また、医療提供体制がひっ迫することのないよう万全の準備を進めるほか、検査機能の強化、保健所の体制強化及びクラスター対策の強化等に取り組む。

- ⑥ 的確な感染防止策及び経済・雇用対策により、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に可能としていく。
- ⑦ 感染の拡大が認められる場合には、政府や都道府県が密接に連携しながら、重点的・集中的な PCR 検査の実施や営業時間短縮要請等を含め、速やかに強い感染対策等を講じる。

三 新型コロナウイルス感染症対策の実施に関する重要事項

(1) 情報提供・共有

- ① 政府は、地方公共団体と連携しつつ、以下の点について、国民の共感を得られるようなメッセージを発出するとともに、状況の変化に即応した情報提供や呼びかけを行い、行動変容に資する啓発を進めるとともに、冷静な対応をお願いする。
 - ・ 発生状況や患者の病態等の臨床情報等の正確な情報提供。
 - ・ 国民に分かりやすい疫学解析情報の提供。
 - ・ 医療提供体制及び検査体制に関する分かりやすい形での情報の提供。
 - ・ 「三つの密」の回避や、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の徹底等、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着に向けた周知。
 - ・ 室内で「三つの密」を避けること。特に、日常生活及び職場において、人混みや近距離での会話、多数の者が集まり室内において大きな声を出すことや歌うこと、呼気が激しくなるような運動を行うことを避けるように強く促すこと。
 - ・ 令和2年10月23日の分科会で示された、「感染リスクが高まる「5つの場面」」（飲酒を伴う懇親会やマスクなしでの会話など）や、「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」（なるべく普段一緒にいる人と少人数、席の配置は斜め向かい、会話の時はマスク着用等）の周知。
 - ・ 業種別ガイドライン等の実践。特に、飲食店等について、業種別ガイドラインを遵守している飲食店等を利用するよう、促すこと。

- ・ 風邪症状等体調不良がみられる場合の休暇取得、学校の欠席、外出自粛等の呼びかけ。
 - ・ 感染リスクを下げるため、医療機関を受診する時は、あらかじめ厚生労働省が定める方法による必要があることの周知。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の考え方を分かりやすく周知すること。
 - ・ 感染者・濃厚接触者や、診療に携わった医療機関・医療関係者その他の対策に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないことの呼びかけ。
 - ・ 従業員及び学生の健康管理や感染対策の徹底についての周知。
 - ・ 国民の落ち着いた対応（不要不急の帰省や旅行など都道府県をまたいだ移動の自粛等や商店への殺到の回避及び買い占めの防止）の呼びかけ。
 - ・ 接触確認アプリ（COVID-19 Contact-Confirming Application：C O C O A）のインストールを呼びかけるとともに、陽性者との接触があった旨の通知があった場合における適切な機関への受診の相談や陽性者と診断された場合における登録の必要性についての周知。併せて、地域独自のQRコード等による追跡システムの利用の呼びかけ。
- ② 政府は、広報担当官を中心に、官邸のウェブサイトにおいて厚生労働省等関係省庁のウェブサイトへのリンクを紹介するなどして有機的に連携させ、かつ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等の媒体も積極的に活用することで、迅速かつ積極的に国民等への情報発信を行う。
- ③ 政府は、民間企業等とも協力して、情報が必ずしも届いていない層に十分な情報が行き届くよう、丁寧な情報発信を行う。
- ④ 厚生労働省は、感染症やクラスターの発生状況について迅速に情報を公開する。
- ⑤ 外務省は、全世界で感染が拡大していることを踏まえ、各国に滞在する邦人等への適切な情報提供、支援を行う。
- ⑥ 政府は、検疫所からの情報提供に加え、企業等の海外出張又は長期の海外滞在のある事業所、留学や旅行機会の多い大学等においても、帰国

者への適切な情報提供を行い、渡航の是非の判断・確認や、帰国者に対する 14 日間の外出自粛の要請等の必要な対策を講じるよう周知を図る。

- ⑦ 政府は、国民、在留外国人、外国人旅行者及び外国政府に対し、帰国時・入国時の手続や目的地までの交通手段の確保等について適切かつ迅速な情報提供を行い、国内でのまん延防止と風評対策につなげる。また、政府は、日本の感染対策や感染状況の十分な理解を醸成するよう、諸外国に対して情報発信に努める。
- ⑧ 地方公共団体は、政府との緊密な情報連携により、様々な手段により住民に対して地域の感染状況に応じたメッセージや注意喚起を行う。
- ⑨ 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により得られた情報を分析し、今後の対策に資する知見をまとめて、国民に還元するよう努める。
- ⑩ 政府は、今般の新型コロナウイルス感染症に係る事態が行政文書の管理に関するガイドライン（平成 23 年 4 月 1 日内閣総理大臣決定）に基づく「歴史的緊急事態」と判断されたことを踏まえた対応を行う。地方公共団体も、これに準じた対応に努める。

(2) サーベイランス・情報収集

- ① 感染の広がりを把握するために必要な検査を実施し、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 144 号。以下「感染症法」という。）第 12 条に基づく医師の届出等によりその実態を把握する。
- ② 厚生労働省及び都道府県等は、感染が拡大する傾向が見られる場合はそれを迅速に察知して的確に対応できるよう、戦略的サーベイランス体制を整えておく必要がある。また、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を進めるためにも感染状況を的確に把握できる体制をもつことが重要であるとの認識の下、地方衛生研究所や民間の検査機関等の関係機関における検査体制の一層の強化、地域の関係団体と連携した地域外来・検査センターの設置等を迅速に進めるとともに、新しい検査技術についても医療現場に迅速に導入する。都道府県は、医療機関等の関係機関によ

り構成される会議体を設けること等により、民間の検査機関等の活用促進を含め、PCR等検査の実施体制の把握・調整等を図る。さらに、厚生労働省は、PCR検査及び抗原検査の役割分担について検討・評価を行う。また、これらを踏まえ、検査が必要な者に、より迅速・円滑に検査を行い、感染が拡大している地域においては、医療・介護従事者、入院・入所者等関係者に対する幅広いPCR等検査の実施に向けて取組を進めるとともに、院内・施設内感染対策の強化を図る。政府と都道府県等で協働して今後の感染拡大局面も見据えた準備を進めるため、厚生労働省は、財政的な支援をはじめ必要な支援を行い、都道府県等は、相談・検体採取・検査の一連のプロセスを通じた対策を実施する。

- ③ 厚生労働省は、感染症法第12条に基づく医師の届出とは別に、市中での感染状況を含め国内の流行状況等を把握するため、抗体保有状況に関する調査など有効なサーベイランスを実施する。また、いわゆる超過死亡については、新型コロナウイルス感染症における超過死亡を推計し、適切に把握する。
- ④ 厚生労働省は、医療機関や保健所の事務負担の軽減を図りつつ、患者等に関する情報を関係者で迅速に共有するための情報把握・管理支援システム（Health Center Real-time Information-sharing System on COVID-19：HER-SYS）を活用し、都道府県別の陽性者数等の統計データの収集・分析を行うとともに、その結果を適宜公表し、より効果的・効率的な対策に活用していく。
- ⑤ 政府は、医療機関の空床状況や人工呼吸器・ECMOの保有・稼働状況等を迅速に把握する医療機関等情報支援システム（Gathering Medical Information System：GMIS）を構築・運営し、医療提供状況やPCR等検査の実施状況等を一元的かつ即座に把握するとともに、都道府県等にも提供し、迅速な患者の受入調整等にも活用する。
- ⑥ 文部科学省及び厚生労働省は、学校等での集団発生の把握の強化を図る。
- ⑦ 政府は、変異株に対して迅速に診断するための検査キット等の開発の支援を進める。
- ⑧ 都道府県は、地方公共団体間での迅速な情報共有に努めるとともに、県下の

感染状況について、リスク評価を行う。

- ⑨ 遺伝子配列を分析するにあたり、公衆衛生対策を進めていく上で必要な情報を、国立感染症研究所において収集を行う。

(3) まん延防止

1) 外出の自粛（後述する「4）職場への出勤等」を除く）

特定都道府県は、法第45条第1項に基づき、不要不急の外出・移動の自粛について協力の要請を行うものとする。特に、20時以降の不要不急の外出自粛について、住民に徹底する。

医療機関への通院、食料・医薬品・生活必需品の買い出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活や健康の維持のために必要なものについては外出の自粛要請の対象外とする。

また、「三つの密」を徹底的に避けるとともに、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を徹底するとともに、あらゆる機会を捉えて、令和2年4月22日の専門家会議で示された「10のポイント」、5月4日の専門家会議で示された「新しい生活様式の実践例」、10月23日の分科会で示された、「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を活用して住民に周知を行うものとする。

2) 催物（イベント等）の開催制限

特定都道府県は、当該地域で開催される催物（イベント等）について、主催者等に対して、法第45条第2項等に基づき、別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、その要件に沿った開催の要請を行うものとする。併せて、開催にあたっては、業種別ガイドラインの徹底や催物前後の「三つの密」及び飲食を回避するための方策を徹底するよう、主催者等に求めるものとする。

また、スマートフォンを活用した接触確認アプリ（COCOA）について、検査の受診等保健所のサポートを早く受けられることやプライバシーに最大限配慮した仕組みであることを周知し、民間企業・団体等の

幅広い協力を得て引き続き普及を促進する。

3) 施設の使用制限等（前述の「2）催物（イベント等）の開催制限」、後述する「5）学校等の取扱い」を除く）

① 特定都道府県は、法第 24 条第 9 項及び法第 45 条第 2 項等に基づき、感染リスクが高いと指摘されている飲食の場を避ける観点から、飲食店に対する営業時間の短縮（20 時までとする。ただし、酒類の提供は 11 時から 19 時までとする。）の要請を行うものとする。要請にあたっては、関係機関とも連携し、営業時間短縮を徹底するための対策強化を行う。

法第 45 条第 2 項に基づく要請に対し、正当な理由がないにもかかわらず応じない場合には、法第 45 条第 3 項に基づく指示を行い、これらの要請及び指示の公表を行うものとする。政府は、新型コロナウイルス感染症の特性及び感染の状況を踏まえ、施設の使用制限等の要請、指示の対象となる施設等の所要の規定の整備を行うものとする。

また、20 時以降の不要不急の外出自粛を徹底することや、施設に人が集まり、飲食につながることを防止する必要があること等を踏まえ、飲食店以外の他の新型インフルエンザ等対策特別措置法施行令（平成 25 年政令第 122 号）第 11 条に規定する施設（学校、保育所をはじめ別途通知する施設を除く。）についても、同様の働きかけを行うものとする。

また、特定都道府県は、感染の拡大につながるおそれのある一定の施設について、別途通知する目安を踏まえた規模要件等（人数上限・収容率、飲食を伴わないこと等）を設定し、その要件に沿った施設の使用の働きかけを行うものとする。

② 政府は、地方創生臨時交付金に設けた「協力要請推進枠」により、飲食店に対して営業時間短縮要請等と協力金の支払いを行う都道府県を支援する。

③ 事業者及び関係団体は、今後の持続的な対策を見据え、業種別ガイドライン等を実践するなど、自主的な感染防止のための取組を進める。

その際、政府は、専門家の知見を踏まえ、関係団体等に必要な情報提供や助言等を行う。

4) 職場への出勤等

① 政府及び特定都道府県は、事業者に対して、以下の取組を行うよう働きかけを行うものとする。

- ・ 職場への出勤は、外出自粛等の要請の対象から除かれるものであるが、「出勤者数の7割削減」を目指すことも含め接触機会の低減に向け、在宅勤務（テレワーク）や、出勤が必要となる職場でもローテーション勤務等を強力に推進すること。
- ・ 20時以降の不要不急の外出自粛を徹底することを踏まえ、事業の継続に必要な場合を除き、20時以降の勤務を抑制すること。
- ・ 職場に出勤する場合でも、時差出勤、自転車通勤等の人との接触を低減する取組を強力に推進すること。
- ・ 職場においては、感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。さらに、職場や店舗等に関して、業種別ガイドライン等を実践するよう働きかけること。
- ・ 別添に例示する国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者及びこれらの業務を支援する事業者においては、「三つの密」を避けるために必要な対策を含め、十分な感染防止策を講じつつ、事業の特性を踏まえ、業務を継続すること。

② 政府及び地方公共団体は、在宅勤務（テレワーク）、ローテーション勤務、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取組を自ら進めるとともに、事業者に対して必要な支援等を行う。

5) 学校等の取扱い

- ① 文部科学省は、学校設置者及び大学等に対して一律に臨時休業を求めるのではなく、地域の感染状況に応じた感染防止策の徹底を要請する。幼稚園、小学校、中学校、高等学校等については、子供の健やかな学びの保障や心身への影響の観点から、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等を踏まえた対応を要請する。また、大学等については、感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的实施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応することを要請する。部活動、課外活動、学生寮における感染防止策、懇親会や飲み会などについては、学生等への注意喚起の徹底（緊急事態宣言区域においては、部活動における感染リスクの高い活動の制限）を要請する。大学入学共通テスト、高校入試等については、実施者において、感染防止策や追検査等による受験機会の確保に万全を期した上で、予定どおり実施する。都道府県は、学校設置者に対し、保健管理等の感染症対策について指導するとともに、地域の感染状況や学校関係者の感染者情報について速やかに情報共有を行うものとする。
- ② 厚生労働省は、保育所や放課後児童クラブ等について、感染防止策の徹底を行いつつ、原則開所することを要請する。
- 6) 緊急事態宣言が発出されていない場合の都道府県における取組等
- ① 都道府県は、持続的な対策が必要であることを踏まえ、住民や事業者に対して、以下の取組を行うものとする。その際、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を持続的に可能としていくため、「新しい生活様式」の社会経済全体への定着を図るとともに、地域の感染状況や感染拡大リスク等について評価を行いながら、必要に応じて、後述③等のとおり、外出の自粛、催物（イベント等）の開催制限、施設の使用制限等の要請等を機動的に行うものとする。
- （外出の自粛等）
- ・ 「三つの密」、「感染リスクが高まる「5つの場面」」等の回避や、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の徹底等、感染拡大を防止する

「新しい生活様式」の定着が図られるよう、あらゆる機会を捉えて、令和2年4月22日の専門家会議で示された「10のポイント」、5月4日の専門家会議で示された「新しい生活様式の実践例」、10月23日の分科会で示された「感染リスクが高まる「5つの場面」」等について住民や事業者に周知を行うこと。

- ・ 帰省や旅行など、都道府県をまたぐ移動は、「三つの密」の回避を含め基本的な感染防止策を徹底するとともに、特に大人数の会食を控える等注意を促すこと。

感染が拡大している地域において、こうした対応が難しいと判断される場合は、帰省や旅行について慎重な検討を促すこと。特に発熱等の症状がある場合は、帰省や旅行を控えるよう促すこと。

- ・ 業種別ガイドライン等を遵守している施設等の利用を促すこと。
- ・ 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、政府と連携して、外出の自粛に関して速やかに住民に対して必要な協力の要請等を行うこと。

(催物（イベント等）の開催)

- ・ 催物等の開催については、「新しい生活様式」や業種別ガイドライン等に基づく適切な感染防止策が講じられることを前提に、地域の感染状況や感染拡大リスク等について評価を行いながら、必要な規模要件（人数上限や収容率）の目安を示すこと。その際、事業者及び関係団体において、エビデンスに基づきガイドラインが進化、改訂された場合は、それに基づき適切に要件を見直すこと。

また、催物等の態様（屋内であるか、屋外であるか、また、全国的なものであるか、地域的なものであるかなど）や種別（コンサート、展示会、スポーツの試合や大会、お祭りなどの行事等）に応じて、開催の要件や主催者において講じるべき感染防止策を検討し、主催者に周知すること。

催物等の開催に当たっては、その規模に関わらず、「三つの密」が発生しない席の配置や「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、催物

の開催中や前後における選手、出演者や参加者等に係る主催者による行動管理等、基本的な感染防止策が講じられるよう、主催者に対して強く働きかけるとともに、参加者名簿を作成して連絡先等を把握しておくことや、接触確認アプリ（COCOA）等の活用等について、主催者に周知すること。

- ・ 感染拡大の兆候や催物等におけるクラスターの発生があった場合、国と連携して、人数制限の強化、催物等の無観客化、中止又は延期等を含めて、速やかに主催者に対して必要な協力の要請等を行うこと。
（職場への出勤等）
- ・ 事業者に対して、在宅勤務（テレワーク）、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取組を働きかけること。
- ・ 事業者に対して、職場における、感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、事業場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、出張による従業員の移動を減らすためのテレビ会議の活用等）や「三つの密」や「感染リスクが高まる「5つの場面」」等を避ける行動を徹底するよう促すこと。特に職場での「居場所の切り替わり」（休憩室、更衣室、喫煙室等）に注意するよう周知すること。さらに、職場や店舗等に関して、業種別ガイドライン等を実践するよう働きかけること。
（施設の使用制限等）
- ・ これまでにクラスターが発生しているような施設や、「三つの密」のある施設については、地域の感染状況等を踏まえ、施設管理者等に対して必要な協力を依頼すること。
- ・ 感染拡大の兆候や施設等におけるクラスターの発生があった場合、政府と連携して、施設の使用制限等を含めて、速やかに施設管理者等に対して必要な協力の要請等を行うこと。

② 都道府県は、感染の状況等を継続的に監視し、その変化が認められた場合、住民に適切に情報提供を行い、感染拡大への警戒を呼びか

けるものとする。

- ③ 都道府県は、感染拡大の傾向が見られる場合には、地域における感染状況や公衆衛生体制・医療提供体制への負荷の状況について十分、把握・分析を行い、8月7日の分科会の提言で示された指標を目安としつつ総合的に判断し、同提言に示された各ステージにおいて「講ずべき施策」や累次の分科会提言（12月11日「今後の感染の状況を踏まえた対応についての分科会から政府への提言」等）等を踏まえ、地域の実情に応じて、迅速かつ適切に法第24条第9項に基づく措置等を講じるものとする。特に、ステージⅢ相当の対策が必要な地域等にあつては、速やかにステージⅡ相当の対策が必要な地域へ移行するよう、取り組むものとする。また、ステージⅢ相当の対策が必要な地域で、感染の状況がステージⅣに近づきつつあると判断される場合には、特定都道府県における今回の措置に準じた取組を行うものとする。
- ④ 都道府県は、①③の取組を行うに当たっては、あらかじめ政府と迅速に情報共有を行う。

7) 水際対策

- ① 政府は、水際対策について、変異株を含め、国内への感染者の流入及び国内での感染拡大を防止する観点から、入国制限、渡航中止勧告、帰国者のチェック・健康観察等の検疫の強化、査証の制限等の措置等を、引き続き、実施する。なお、厚生労働省は、関係省庁と連携し、健康観察について、保健所の業務負担の軽減や体制強化等を支援する。
- ② 諸外国での新型コロナウイルス感染症の発生の状況を踏まえて、必要に応じ、国土交通省は、航空機の到着空港の限定の要請、港湾の利用調整や水際・防災対策連絡会議等を活用した対応力の強化等を行うとともに、厚生労働省は、特定検疫港等の指定を検討する。
- ③ 厚生労働省は、停留に利用する施設が不足する場合には、法第29条の適用も念頭に置きつつも、必要に応じ、関係省庁と連携して、停留に利用可能な施設の管理者に対して丁寧な説明を行うことで停留施設の確保に努める。

8) クラスタ対策の強化

- ① 都道府県等は、厚生労働省や専門家と連携しつつ、積極的疫学調査により、個々の濃厚接触者を把握し、健康観察、外出自粛の要請等を行うとともに、感染拡大の規模を適確に把握し、適切な感染対策を行う。その際、より効果的な感染拡大防止につなげるため、積極的疫学調査を実施する際に優先度も考慮する。
- ② 政府は、関係機関と協力して、クラスタ対策に当たる専門家の確保及び育成を行う。
- ③ 厚生労働省及び都道府県等は、関係機関と協力して、特に、感染拡大の兆候が見られた場合には、専門家やその他人員を確保し、その地域への派遣を行う。

なお、感染拡大が顕著な地域において、保健所における積極的疫学調査に係る人員体制が不足するなどの問題が生じた場合には、都道府県は関係学会・団体等の専門人材派遣の仕組みである IHEAT (Infectious disease Health Emergency Assistance Team) の活用や、厚生労働省と調整し、他の都道府県からの応援派遣職員の活用等の人材・体制確保のための対策を行う。

また、都道府県等が連携し、積極的疫学調査等の専門的業務を十分に実施できるよう保健所の業務の重点化や人材育成等を行うこと等により、感染拡大時に即応できる人員体制を平時から整備する。

- ④ 政府及び都道府県等は、クラスタ対策を抜本強化するという観点から、保健所の体制強化に迅速に取り組む。これに関連し、特定都道府県は、管内の市町村と迅速な情報共有を行い、また、対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、法第 24 条に基づく総合調整を行う。さらに、都道府県等は、クラスタの発見に資するよう、地方公共団体間の迅速な情報共有に努めるとともに、政府は、対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、法第 20 条に基づく総合調整を行う。
- ⑤ 政府及び都道府県等は、クラスタ対策を強化する観点から、以下

の取組を行う。

- ・ 大規模な歓楽街については、令和2年10月29日の分科会における「大都市の歓楽街における感染拡大防止対策ワーキンググループ当面の取組方策に関する報告書」に示された取組を踏まえ、通常時から相談・検査体制の構築に取り組むとともに、早期介入時には、重点的（地域集中的）なPCR検査等の実施や、必要に応じ、エリア・業種を絞った営業時間短縮要請等を機動的に行うこと。
- ・ 事業者に対し、職場でのクラスター対策の徹底を呼びかけること。
- ・ 言語の壁や生活習慣の違いがある在留外国人を支援する観点から、政府及び都道府県等が提供する情報の一層の多言語化、大使館のネットワーク等を活用したきめ細かな情報提供、相談体制の整備等により、検査や医療機関の受診に早期につなげる仕組みを構築すること。

- ⑥ 政府は、接触確認アプリ（COCOA）について、機能の向上を図るとともに、検査の受診等保健所のサポートを早く受けられることやプライバシーに最大限配慮した仕組みであることを周知し、その幅広い活用や、感染拡大防止のための陽性者としての登録を行うよう、呼びかけを行い、新型コロナウイルス感染症等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）及び保健所等と連携した積極的疫学調査で活用することにより、効果的なクラスター対策につなげていく。

9) その他共通的事項等

- ① 特定都道府県は、地域の特性に応じた実効性のある緊急事態措置を講じる。特定都道府県は、緊急事態措置を講じるに当たっては、法第5条を踏まえ、必要最小限の措置とするとともに、講じる措置の内容及び必要性等について、国民に対し丁寧に説明する。特定都道府県は、緊急事態措置を実施するに当たっては、法第20条に基づき、政府と密接に情報共有を行う。政府は、専門家の意見を聴きながら、必要に応じ、特定都道府県と総合調整を行う。
- ② 緊急事態措置を講じること等に伴い、食料・医薬品や生活必需品の買い

占め等の混乱が生じないよう、国民に冷静な対応を促す。

- ③ 政府及び地方公共団体は、緊急事態措置の実施に当たっては、事業者の円滑な活動を支援するため、事業者からの相談窓口の設置、物流体制の確保、ライフラインの万全の体制の確保等に努める。
- ④ 政府は、関係機関と協力して、公共交通機関その他の多数の人が集まる施設における感染対策を徹底する。

(4) 医療等

- ① 重症者等に対する医療提供に重点を置いた入院医療の提供体制の確保を進めるため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。

- ・ 重症者や重症化リスクのある者に医療資源の重点をシフトする観点から、令和2年10月14日の新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号）の改正（令和2年10月24日施行）により、高齢者や基礎疾患のある者等入院勧告・措置の対象の明確化を行っており、都道府県等は、当該政令改正に基づき、地域の感染状況等を踏まえ、適切に入院勧告・措置を運用すること。

重症者等に対する医療提供に重点を置くべき地域では、特に病床確保や都道府県全体の入院調整に最大限努力した上で、なお病床がひっ迫する場合には、高齢者等も含め入院治療が必要ない無症状病原体保有者及び軽症患者（以下「軽症者等」という。）は、宿泊施設（適切な場合は自宅）での療養とすることで、入院治療が必要な患者への医療提供体制の確保を図ること。丁寧な健康観察を実施すること。

特に、家庭内での感染防止や症状急変時の対応のため、宿泊施設が十分に確保されているような地域では、軽症者等は宿泊療養を基本とすること。そのため、都道府県は、ホテル等の一時的な宿泊療養施設及び運営体制の確保に努めるとともに、政府は、都道府県と密

接に連携し、その取組を支援すること。

子育て等の事情によりやむを得ず自宅療養を行う際には、都道府県等は電話等情報通信機器を用いて遠隔で健康状態を把握するとともに、医師が必要とした場合には電話等情報通信機器を用いて診療を行う体制を整備すること。

- 都道府県は、患者が入院、宿泊療養、自宅療養をする場合に、その家族に要介護者や障害者、子供等がいる場合は、市町村福祉部門の協力を得て、ケアマネージャー、相談支援専門員、児童相談所等と連携し、必要なサービスや支援を行うこと。
- 都道府県は、関係機関の協力を得て、新型コロナウイルス感染症の患者専用の病院や病棟を設定する重点医療機関の指定等、地域の医療機関の役割分担を行うとともに、病床・宿泊療養施設確保計画に沿って、段階的に病床・宿泊療養施設を確保すること。

特に、病床が逼迫している場合、令和2年12月28日の政府対策本部で示された「感染拡大に伴う入院患者増加に対応するための医療提供体制パッケージ」を活用しつつ、地域の実情に応じ、重点医療機関以外の医療機関に働きかけを行うなど病床の確保を進めること。

また、医療機関は、業務継続計画（BCP）も踏まえ、必要に応じ、医師の判断により延期が可能と考えられる予定手術や予定入院の延期を検討し、空床確保に努めること。

さらに、都道府県は、仮設の診療所や病棟の設置、非稼働病床の利用、法第48条に基づく臨時の医療施設の開設についてその活用を十分に考慮すること。厚生労働省は、それらの活用に当たって、必要な支援を行うこと。

- 都道府県は、患者受入調整や移送調整を行う体制を整備するとともに、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、患者受入調整に必要な医療機関の情報の見える化を行うこと。また、厚生労働省は、都道府県が患者搬送コーディネーターの配置を行うことについて、必要な支援を行うこと。

- ・ さらに、感染拡大に伴う患者の急増に備え、都道府県は、都道府県域を越える場合も含めた広域的な患者の受入れ体制を確保すること。
- ② 新型コロナウイルス感染症が疑われる患者への外来診療・検査体制の確保のため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
- ・ かかりつけ医等の地域で身近な医療機関や受診・相談センターを通じて、診療・検査医療機関を受診することにより、適切な感染管理を行った上で、新型コロナウイルス感染症が疑われる患者への外来医療を提供すること。
 - ・ 都道府県等は、関係機関と協力して、集中的に検査を実施する機関（地域外来・検査センター）の設置を行うこと。
また、大型テントやプレハブを活用した、いわゆるドライブスルー方式やウォークスルー方式による診療を行うことで、効率的な診療・検査体制を確保すること。併せて、検査結果を踏まえて、患者の振り分けや受け入れが適切に行われるようにすること。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等を踏まえ、診療・検査医療機関の指定や地域外来・検査センターの設置を柔軟かつ積極的に行うこと。
 - ・ 都道府県は、重症化しやすい方が来院するがんセンター、透析医療機関及び産科医療機関等について、必要に応じ、新型コロナウイルス感染症への感染が疑われる方への外来診療を原則行わない医療機関として設定すること。
- ③ 新型コロナウイルス感染症患者のみならず、他の疾患等の患者への対応も踏まえて地域全体の医療提供体制を整備するため、厚生労働省と都道府県は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 都道府県は、地域の医療機能を維持する観点から、新型コロナウイルス感染症以外の疾患等の患者受入れも含めて、地域の医療機関の役割分担を推進すること。

- ・ 患者と医療従事者双方の新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、初診を含めて、電話等情報通信機器を用いた診療体制の整備を推進すること。
- ④ 医療従事者の確保のため、厚生労働省と都道府県等は、関係機関と協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 都道府県等は、現場で従事している医療従事者の休職・離職防止策や潜在有資格者の現場復帰、医療現場の人材配置の転換等を推進すること。また、検査を含め、直接の医療行為以外に対しては、有資格者以外の民間の人材等の活用を進めること。
 - ・ 厚生労働省は、今般の新型コロナウイルス感染症の対応に伴い、全国の医療機関等の医療人材募集情報を掲載する Web サイト「医療のお仕事 Key-Net」の運営等を通じて、医療関係団体、ハローワーク、ナースセンター等と連携し、医療人材の確保を支援すること。また、都道府県が法第 31 条に基づく医療等の実施の要請等を行うに当たって、必要な支援を実施すること。
- ⑤ 医療物資の確保のため、政府と都道府県、関係機関は協力して、次のような対策を講じる。
- ・ 政府及び都道府県は、医療提供体制を支える医薬品や医療機器、医療資材の製造体制を確保し、医療機関等情報支援システム（G-MIS）も活用し、必要な医療機関に迅速かつ円滑に提供できる体制を確保するとともに、専門性を有する医療従事者や人工呼吸器等の必要な医療機器・物資・感染防止に必要な資材等を迅速に確保し、適切な感染対策の下での医療提供体制を整備すること。
 - ・ 政府及び都道府県は、特に新型コロナウイルス感染症を疑う患者に PCR 等検査や入院の受入れを行う医療機関等に対しては、マスク等の個人防護具を優先的に確保すること。
- ⑥ 医療機関及び高齢者施設等における施設内感染を徹底的に防止するため、厚生労働省と地方公共団体は、関係機関と協力して、次の事項について周知徹底を図る。

- ・ 医療機関及び高齢者施設等の設置者において、
 - ▶ 従事者等が感染源とならないよう、「三つの密」が生じる場を徹底して避けるとともに、
 - ▶ 症状がなくても患者や利用者と接する際にはマスクを着用する、
 - ▶ 手洗い・手指消毒の徹底、
 - ▶ パソコンやエレベーターのボタン等複数の従事者が共有するのは定期的に消毒する、
 - ▶ 食堂や詰め所でマスクを外して飲食をする場合、他の従事者と一定の距離を保つ、
 - ▶ 日々の体調を把握して少しでも調子が悪ければ自宅待機する、等の対策に万全を期すこと。
 - ・ 医療機関及び高齢者施設等において、面会者からの感染を防ぐため、面会は、地域における発生状況等も踏まえ、患者、家族のQOLを考慮しつつ、緊急の場合を除き制限するなどの対応を検討すること。
 - ・ 医療機関及び高齢者施設等において、患者、利用者からの感染を防ぐため、感染が流行している地域では、患者、家族のQOLを考慮しつつ、施設での通所サービス等の一時利用を中止又は制限する、入院患者、利用者の外出、外泊を制限するなどの対応を検討すること。
 - ・ 医療機関及び高齢者施設等において、入院患者、利用者等について、新型コロナウイルス感染症を疑った場合は、早急に個室隔離し、保健所の指導の下、感染対策を実施し、標準予防策、接触予防策、飛沫感染予防策を実施すること。
- ⑦ 都道府県は、感染者と非感染者の空間を分けることなどを含む感染防止策の更なる徹底等を通して、医療機関及び施設内での感染の拡大に特に注意を払う。

高齢者施設等の発熱等の症状を呈する入所者・従事者に対する検査や陽性者が発生した場合の当該施設の入所者等への検査が速やかに行われるようにする。また、感染者が多数発生している地域にお

ける医療機関、高齢者施設等への積極的な検査が行われるようにする。

加えて、手術や医療的処置前等において、当該患者について医師の判断により、PCR検査等が実施できる体制をとる。

⑧ この他、適切な医療提供・感染管理の観点で、厚生労働省と都道府県は、関係機関と協力して、次の事項に取り組む。

- ・ 妊産婦に対する感染を防止する観点から、医療機関における動線分離等の感染防止策を徹底するとともに、妊産婦が感染した場合であっても、安心して出産し、産後の生活が送れるよう、関係機関との協力体制を構築し、適切な支援を実施すること。また、関係機関と協力して、感染が疑われる妊産婦への早めの相談の呼びかけや、妊娠中の女性労働者に配慮した休みやすい環境整備等の取組を推進すること。
- ・ 小児医療について、関係学会等の意見を聞きながら、診療体制を検討し、地方公共団体と協力して体制整備を進めること。
- ・ 関係機関と協力して、外国人が医療を適切に受けることができるよう、医療通訳の整備等を、引き続き、強化すること。
- ・ レムデシビルやデキサメタゾンについて、必要な患者への供給の確保を図るとともに、関係省庁・関係機関とも連携し、有効な治療薬等の開発を加速すること。特に、他の治療で使用されている薬剤のうち、効果が期待されるものについて、その効果を検証するための臨床研究・治験等を速やかに実施すること。
- ・ ワクチンについては、ファイザー社から12月中旬に薬事承認申請がなされており、国内治験データ等のデータに基づき審査を行うとともに、有効性・安全性が確認された後には、できるだけ速やかに接種を開始できるよう、接種体制の整備を進めること。
- ・ その他のワクチンについても、関係省庁・関係機関と連携し、迅速に開発等を進めるとともに、承認申請された際には審査を行った上で、できるだけ早期の実用化、国民への供給を目指すこと。
- ・ 法令に基づく健康診断及び予防接種については、適切な感染対策の

下で実施されるよう、実施時期や実施時間等に配慮すること。

- ・ 国は、実費でPCR検査が行われる場合にも、医療と結びついた検査が行われるよう、周知を行うとともに、精度管理についても推進すること。

- ⑨ 政府は、令和2年度第1次補正予算・第2次補正予算、予備費等も活用し、地方公共団体等に対する必要な支援を行うとともに、医療提供体制の更なる強化に向け、対策に万全を期す。

(5) 経済・雇用対策

現下の感染拡大の状況に応じ、その防止を最優先とし、予備費を活用するなど臨機応変に対応することとする。昨年春と夏の感染拡大の波を経験する中、感染対策とバランスをとりつつ、地域の感染状況や医療提供体制の確保状況等を踏まえながら、感染拡大の防止と社会経済活動の維持との両立を図ってきた。具体的には、政府は、令和2年度第1次補正予算を含む「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月20日閣議決定）及び令和2年度第2次補正予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、感染拡大を防止するとともに、雇用の維持、事業の継続、生活の下支えに万全を期してきた。今後、令和2年度第3次補正予算を含む「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」（令和2年12月8日閣議決定）及び令和3年度当初予算の各施策を、国・地方を挙げて迅速かつ着実に実行することにより、医療提供体制の確保やワクチンの接種体制等の整備をはじめとする新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に全力を挙げるとともに、感染症の厳しい影響に対し、雇用調整助成金や官民の金融機関による実質無利子・無担保融資等により雇用と生活をしっかり守っていく。その上で、成長分野への民間投資を大胆に呼び込みながら、生産性を高め、賃金の継続的な上昇を促し、民需主導の成長軌道の実現につなげる。今後も感染状況や経済・国民生活への影響を注意深く見極め、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策予備費の適時適切な執行により、迅速・機動的に対応する。

(6) その他重要な留意事項

1) 偏見・差別等への対応、社会課題への対応等

- ① 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症へのり患は誰にでも生じ得るものであり、感染者やその家族、勤務先等に対する不当な扱いや誹謗中傷は、人権侵害に当たり得るのみならず、体調不良時の受診遅れや検査回避、保健所の積極的疫学調査への協力拒否等につながり、結果として感染防止策に支障を生じさせかねないことから、分科会の偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループが行った議論のとりまとめ（令和2年11月6日）を踏まえ、以下のような取組を行う。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識の普及に加え、政府の統一的なホームページ（corona.go.jp）等を活用し、地方公共団体や関係団体等の取組の横展開にも資するよう、偏見・差別等の防止等に向けた啓発・教育に資する発信を強化すること。
 - ・ 偏見・差別等への相談体制を、研修の充実、NPOを含めた関係機関の連携、政府による支援、SNSの活用等により強化すること。
 - ・ 悪質な行為には法的責任が伴うことについて、政府の統一的なホームページ等を活用して、幅広く周知すること。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の特徴を踏まえた行政による情報公表の在り方に関して、改めて国としての統一的な考え方を整理すること。
 - ・ クラスター発生等の有事対応中においては、感染症に関する正しい知識に加えて、感染者等を温かく見守るべきこと等を発信すること。
- ② 政府は、新型コロナウイルス感染症対策に従事する医療関係者が偏見・差別等による風評被害等を受けないよう、国民への普及啓発等必要な取組を実施する。
- ③ 政府は、海外から一時帰国した児童生徒等への学校の受入れ支援や

いじめ防止等の必要な取組を実施する。

- ④ 政府及び関係機関は、各種対策を実施する場合において、国民の自由と権利の制限を必要最小限のものとする。特に、女性の生活や雇用への影響が深刻なものとなっていることに留意し、女性や障害者等に与える影響を十分配慮して実施するものとする。
- ⑤ 政府及び地方公共団体は、マスク、個人防護具、医薬品、医薬部外品、食料品等に係る物価の高騰や買占め、売り惜しみを未然に回避し又は沈静化するため、必要な措置を講じる。
- ⑥ 政府は、地方公共団体と連携し、対策が長期化する中で生ずる様々な社会課題に対応するため、適切な支援を行う。
 - ・ 長期間にわたる外出自粛等によるメンタルヘルスへの影響、配偶者暴力、性犯罪・性暴力や児童虐待等。
 - ・ 情報公開と人権との協調への配慮。
 - ・ 営業自粛等による倒産、失業、自殺等。
 - ・ 社会的に孤立しがちな一人暮らしの高齢者、休業中のひとり親家庭等の生活。
 - ・ 外出自粛等の下で、高齢者等がフレイル状態等にならないよう、コミュニティにおける支援を含め、健康維持・介護サービスの確保。
- ⑦ 政府及び地方公共団体は、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方に対して尊厳をもってお別れ、火葬等が行われるよう、適切な方法について、周知を行う。

2) 物資・資材等の供給

- ① 政府は、国民や地方公共団体の要望に応じ、マスク、個人防護具、消毒薬、食料品等の増産や円滑な供給を関連事業者に要請する。また、政府は、感染防止や医療提供体制の確保のため、マスク、個人防護具、人工呼吸器等の必要な物資を政府の責任で確保する。例えば、マスク等を政府で購入し、必要な医療機関や介護施設等に優先配布するとともに、感染拡大に備えた備蓄を強化する。
- ② 政府は、マスクや消毒薬等の国民が必要とする物資が安定的に供給さ

れるよう、これらの物質の需給動向を注視するとともに、過剰な在庫を抱えることのないよう消費者や事業者に冷静な対応を呼びかける。また、政府は、繰り返し使用可能な布製マスクの普及を進める。

- ③ 政府は、事態の長期化も念頭に、マスクや抗菌薬及び抗ウイルス薬の原薬を含む医薬品、医療機器等の医療の維持に必要な資材の安定確保に努めるとともに、国産化の検討を進める。

3) 関係機関との連携の推進

- ① 政府は、地方公共団体を含む関係機関等との双方向の情報共有を強化し、対策の方針の迅速な伝達と、対策の現場における状況の把握を行う。
- ② 政府は、対策の推進に当たっては、地方公共団体、経済団体等の関係者の意見を十分聴きながら進める。
- ③ 地方公共団体は、保健部局のみならず、危機管理部局も含め全ての部局が協力して対策に当たる。
- ④ 政府は、国際的な連携を密にし、WHOや諸外国・地域の対応状況等に関する情報収集に努める。また、日本で得られた知見を積極的にWHO等の関係機関や諸外国・地域と共有し、今後の対策に活かすとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受ける国・地域に対する国際社会全体としての対策に貢献する。
- ⑤ 政府は、基礎医学研究及び臨床医学研究、疫学研究を含む社会医学研究等の研究体制に対する支援を通して、新型コロナウイルス感染症への対策の推進を図る。
- ⑥ 都道府県等は、近隣の都道府県等が感染拡大防止に向けた様々な措置や取組を行うに当たり、相互に連携するとともに、その要請に応じ、必要な支援を行う。
- ⑦ 特定都道府県等は、緊急事態措置等を実施するに当たっては、あらかじめ政府と協議し、迅速な情報共有を行う。政府対策本部長は、特定都道府県等が適切に緊急事態措置を講じることができるよう、専門家の意見を踏まえつつ、特定都道府県等と総合調整を行う。

- ⑧ 緊急事態宣言の期間中に様々な措置を実施した際には、特定都道府県知事及び指定行政機関の長は政府対策本部長に、特定市町村長及び指定地方公共機関の長はその所在する特定都道府県知事に、指定公共機関の長は所管の指定行政機関に、その旨及びその理由を報告する。政府対策本部長は国会に、特定都道府県知事及び指定行政機関の長は政府対策本部長に、報告を受けた事項を報告する。

4) 社会機能の維持

- ① 政府、地方公共団体、指定公共機関及び指定地方公共機関は、職員における感染を防ぐよう万全を尽くすとともに、万が一職員において感染者又は濃厚接触者が確認された場合にも、職務が遅滞なく行えるように対策をあらかじめ講じる。特に、テレビ会議及びテレワークの積極的な実施に努める。
- ② 地方公共団体、指定公共機関及び指定地方公共機関は、電気、ガス、水道、公共交通、通信、金融業等の維持を通して、国民生活及び国民経済への影響が最小となるよう公益的事業を継続する。
- ③ 政府は、指定公共機関の公益的事業の継続に支障が生じることがないように、必要な支援を行う。
- ④ 国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者は、国民生活及び国民経済安定のため、事業の継続を図る。
- ⑤ 政府は、事業者のサービス提供水準に係る状況の把握に努め、必要に応じ、国民への周知を図る。
- ⑥ 政府は、空港、港湾、医療機関等におけるトラブル等を防止するため、必要に応じ、警戒警備を実施する。
- ⑦ 警察は、混乱に乗じた各種犯罪を抑止するとともに、取締りを徹底する。

5) 緊急事態宣言解除後の取組

政府は、緊急事態宣言の解除を行った後も、都道府県等や基本的対処方針等諮問委員会、分科会等との定期的な情報交換等を通じ、国内外の感染状況の変化、施策の実施状況等を定期的に分析・評価・検証を行う。

その上で、最新の情報に基づいて適切に、国民や関係者へ情報発信を行うとともに、それまでの知見に基づき、より有効な対策を実施する。

6) その他

- ① 政府は、必要に応じ、他法令に基づく対応についても講ずることとする。
- ② 今後の状況が、緊急事態宣言の要件等に該当するか否かについては、海外での感染者の発生状況とともに、感染経路の不明な患者やクラスターの発生状況等の国内での感染拡大及び医療提供体制の逼迫の状況を踏まえて、国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがあるか否かについて、政府対策本部長が基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で総合的に判断することとする。
- ③ 政府は、基本的対処方針を変更し、又は、緊急事態を宣言、継続若しくは終了するに当たっては、新たな科学的知見、感染状況、施策の実行状況等を考慮した上で、基本的対処方針等諮問委員会の意見を十分踏まえた上で臨機応変に対応する。

(別添)緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者

以下、事業者等については、「三つの密」を避けるための取組を講じていただきつつ、事業の継続を求める。

1. 医療体制の維持

- ・新型コロナウイルス感染症の治療はもちろん、その他の重要疾患への対応もあるため、全ての医療関係者の事業継続を要請する。
- ・医療関係者には、病院・薬局等のほか、医薬品・医療機器の輸入・製造・販売、献血を実施する採血業、入院者への食事提供等、患者の治療に必要な全ての物資・サービスに関わる製造業、サービス業を含む。

2. 支援が必要な方々の保護の継続

- ・高齢者、障害者等特に支援が必要な方々の居住や支援に関する全ての関係者（生活支援関係事業者）の事業継続を要請する。
- ・生活支援関係事業者には、介護老人福祉施設、障害者支援施設等の運営関係者のほか、施設入所者への食事提供など、高齢者、障害者等が生活する上で必要な物資・サービスに関わる全ての製造業、サービス業を含む。

3. 国民の安定的な生活の確保

- ・自宅等で過ごす国民が、必要最低限の生活を送るために不可欠なサービスを提供する関係事業者の事業継続を要請する。
- ① インフラ運営関係（電力、ガス、石油・石油化学・LPガス、上下水道、通信・データセンター等）
 - ② 飲食料品供給関係（農業・林業・漁業、飲食料品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等）
 - ③ 生活必需物資供給関係（家庭用品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等）
 - ④ 宅配・テイクアウト、生活必需物資の小売関係（百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター等）
 - ⑤ 家庭用品のメンテナンス関係（配管工・電気技師等）
 - ⑥ 生活必需サービス（ホテル・宿泊、銭湯、理美容、ランドリー、獣医等）
 - ⑦ ごみ処理関係（廃棄物収集・運搬、処分等）
 - ⑧ 冠婚葬祭業関係（火葬の実施や遺体の死後処置に係る事業者等）
 - ⑨ メディア（テレビ、ラジオ、新聞、ネット関係者等）
 - ⑩ 個人向けサービス（ネット配信、遠隔教育、ネット環境維持に係る設備・サービス、自家用車等の整備等）

4. 社会の安定の維持

・社会の安定の維持の観点から、緊急事態宣言の期間中にも、企業の活動を維持するために不可欠なサービスを提供する関係事業者の最低限の事業継続を要請する。

- ① 金融サービス（銀行、信金・信組、証券、保険、クレジットカードその他決済サービス等）
- ② 物流・運送サービス（鉄道、バス・タクシー・トラック、海運・港湾管理、航空・空港管理、郵便等）
- ③ 国防に必要な製造業・サービス業の維持（航空機、潜水艦等）
- ④ 企業活動・治安の維持に必要なサービス（ビルメンテナンス、セキュリティ関係等）
- ⑤ 安全安心に必要な社会基盤（河川や道路等の公物管理、公共工事、廃棄物処理、個別法に基づく危険物管理等）
- ⑥ 行政サービス等（警察、消防、その他行政サービス）
- ⑦ 育児サービス（託児所等）

5. その他

・医療、製造業のうち、設備の特性上、生産停止が困難なもの（高炉や半導体工場等）、医療・支援が必要な人の保護・社会基盤の維持等に不可欠なもの（サプライチェーン上の重要物を含む。）を製造しているものについては、感染防止に配慮しつつ、継続する。また、医療、国民生活・国民経済維持の業務を支援する事業者等にも、事業継続を要請する。

新型インフルエンザ等対策特別措置法 の改正について

内閣官房

新型インフルエンザ等対策特別措置法の主な指摘事項

1. 特措法の対象となる感染症の範囲

現行：新型インフルエンザ、再興型インフルエンザ及び新感染症（全国的かつ急速なまん延のおそれのあるものに限る。）が対象。

（既に知られている感染性の疾病である指定感染症については、法改正をしなければ特措法の対象とならない。）

2. 臨時の医療施設の位置付け

現行：建築基準法や医療法等の特例が適用される「臨時の医療施設」の開設は、緊急事態措置としての位置付け。

3. 都道府県知事の要請等の実効性確保（罰則、支援）

現行：罰則、支援等については規定なし。第5条で基本的人権の尊重について規定。

緊急事態宣言後でも、要請、指示及び公表にとどまり、強制力のある措置ではない。さらに緊急事態宣言前は要請に限られる。

課題：過度な私権制約とならない形で感染防止策の実効性を上げるためにどのようにしたらよいか。

- ・緊急事態宣言に至る前から、地域や業種を絞った営業時間短縮の要請等の措置が必要であるが、こうした措置の実効性を高めるための法的枠組みが必要ではないか。
- ・緊急事態宣言下における要請・指示について、実効性向上を図ることが必要ではないか。
- ・「事業活動に内在する社会的制約であると考えられることから、公的な補償は不要」という特措法制定時の整理についてどのように考えるか。また、実態上、協力金や雇用調整助成金等の支援を行ってきていることについてどう考えるか。

○ 新型インフルエンザ等対策特別措置法(平成24年法律第31号)

(定義)

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 新型インフルエンザ等感染症法第六条第七項に規定する新型インフルエンザ等感染症及び同条第九項に規定する新感染症(全国かつ急速なまん延のおそれのあるものに限る。)をいう。

(基本的人権の尊重)

第五条 国民の自由と権利が尊重されるべきことに鑑み、新型インフルエンザ等対策を実施する場合において、国民の自由と権利に制限が加えられるときであっても、その制限は当該新型インフルエンザ等対策を実施するため必要最小限のものでなければならない。

(都道府県対策本部長の権限)

第二十四条

9 都道府県対策本部長は、当該都道府県の区域に係る新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、公私の団体又は個人に対し、その区域に係る新型インフルエンザ等対策の実施に関し必要な協力の要請をすることができる。

(感染を防止するための協力要請等)

第四十五条 特定都道府県知事は、新型インフルエンザ等緊急事態において、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済の混乱を回避するため必要があると認めるときは、当該特定都道府県の住民に対し、新型インフルエンザ等の潜伏期間及び治癒までの期間並びに発生の状況を考慮して当該特定都道府県知事が定める期間及び区域において、生活の維持に必要な場合を除きみだりに当該者の居宅又はこれに相当する場所から外出しないことその他の新型インフルエンザ等の感染の防止に必要な協力を要請することができる。

2 特定都道府県知事は、新型インフルエンザ等緊急事態において、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済の混乱を回避するため必要があると認めるときは、新型インフルエンザ等の潜伏期間及び治癒までの期間を考慮して当該特定都道府県知事が定める期間において、学校、社会福祉施設(通所又は短期間の入所により利用されるものに限る。)、興行場(興行場法(昭和二十三年法律第百三十七号)第一条第一項に規定する興行場をいう。)その他の政令で定める多数の者が利用する施設を管理する者又は当該施設を使用して催物を開催する者(次項において「施設管理者等」という。)に対し、当該施設の使用の制限若しくは停止又は催物の開催の制限若しくは停止その他政令で定める措置を講ずるよう要請することができる。

3 施設管理者等が正当な理由がないのに前項の規定による要請に応じないときは、特定都道府県知事は、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済の混乱を回避するため特に必要があると認めるときに限り、当該施設管理者等に対し、当該要請に係る措置を講ずべきことを指示することができる。

4 特定都道府県知事は、第二項の規定による要請又は前項の規定による指示をしたときは、遅滞なく、その旨を公表しなければならない。

(臨時の医療施設等)

第四十八条 特定都道府県知事は、当該特定都道府県の区域内において病院その他の医療機関が不足し、医療の提供に支障が生ずると認める場合には、その都道府県行動計画で定めるところにより、患者等に対する医療の提供を行うための施設(第四項において「医療施設」という。)であって特定都道府県知事が臨時に開設するもの(以下この条及び次条において「臨時の医療施設」という。)において医療を提供しなければならない。

○ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(平成十年法律第百十四号)

(定義等)

第六条 この法律において「感染症」とは、一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症をいう。

7 この法律において「新型インフルエンザ等感染症」とは、次に掲げる感染性の疾病をいう。

一 新型インフルエンザ（新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザであって、一般に国民が当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、当該感染症の全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいう。）

二 再興型インフルエンザ（かつて世界的規模で流行したインフルエンザであってその後流行することなく長期間が経過しているものとして厚生労働大臣が定めるものが再興したものであって、一般に現在の国民の大部分が当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、当該感染症の全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいう。）

8 この法律において「指定感染症」とは、既に知られている感染性の疾病（一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）であって、第三章から第七章までの規定の全部又は一部を準用しなければ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるものとして政令で定めるものをいう。

9 この法律において「新感染症」とは、人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるものをいう。

(建物に係る措置)

第三十二条 都道府県知事は、一類感染症の病原体に汚染され、又は汚染された疑いがある建物について、当該感染症のまん延を防止するため必要があると認める場合であって、消毒により難いときは、厚生労働省令で定めるところにより、期間を定めて、当該建物への立入りを制限し、又は禁止することができる。

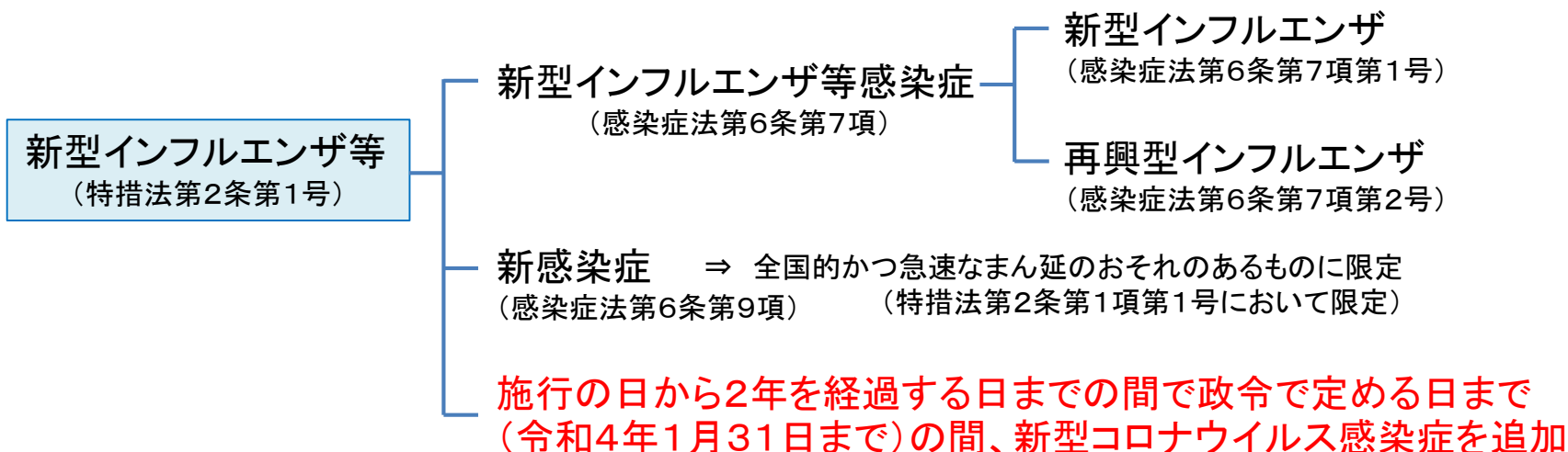
2 都道府県知事は、前項に規定する措置によっても一類感染症のまん延を防止できない場合であって、緊急の必要があると認められるときに限り、政令で定める基準に従い、当該感染症の病原体に汚染され、又は汚染された疑いがある建物について封鎖その他当該感染症のまん延の防止のために必要な措置を講ずることができる。

新型コロナウイルス分科会(令和2年12月23日)における主な意見

- 営業時間短縮の実効性の確保のため、一定の権利制限はやむを得ないかもしれないが、憲法で保障された営業の自由の制約であるため、慎重な検討が必要。中小企業の代表や行政学者など、幅広い関係者から意見を聴きながら検討すべき。仮にやるとしても、時間や場所を区切るなど、必要最低限にすべき。
- 緊急事態宣言時のように全部閉めるのではなく、区域や業態を限定してやることを想定しなければならない。その際、事業者や自治体に対する支援を明記すべき。
- 厳密な補償は困難であり、申請の手続が複雑化するなど時間がかかることも懸念されるため、簡便で迅速な協力金という形が望ましい。要請を受けている事業者のみならず、幅広い関係事業者が影響を受けており、幅広い包括的な支援をお願いしたい。
- 飲食業に対する規制は有効。営業時間短縮をしっかりと法的根拠の下で効果的に行うべき。その際、感染拡大期には、人が集まることに感染拡大という負の外部性があるが、この費用負担をしないことが問題。通常は、規制や罰則により対応するが、営業時短要請を守ってくれたら協力金を支払うという形で協力を要請することも考えられる。
- 現行の第5条の基本的人権の尊重など、根本に関わることには、今のばたばたの中で決めるべきではない。
- 臨時の医療施設について、緊急事態宣言よりも前にできるようにすることは是非お願いしたい。

1. 特措法の対象となる感染症の範囲

新型コロナウイルス感染症を新型インフルエンザ等に追加



- **新型インフルエンザ**とは、人から人に持続的に感染するウイルスを病原体とするインフルエンザであって、国民の大部分が免疫を獲得していないことから、全国的かつ急速なまん延により、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。(感染症法第6条第7項第1号)
- **再興型インフルエンザ**とは、かつて世界的に流行したインフルエンザであって、現在の国民の大部分が免疫を獲得していないことから、全国的かつ急速なまん延により、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。(感染症法第6条第7項第2号)
- **新感染症**とは、感染症であって、既知の疾病と病状や治療の結果が明らかに異なるもので、病状の程度が重篤であり、新型インフルエンザと同様に、まん延により、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。なお、新型コロナウイルス感染症については、その病原体や病状等が既にならなっているため、新感染症には当たらない。(感染症法第6条第9項)
- **新型インフルエンザ等対策特別措置法が改正され、施行の日から2年を経過する日までの間で政令で定める日まで(令和4年1月31日まで)の間、新型コロナウイルス感染症は新型インフルエンザ等対策特別特措法の対象とされ、各措置が適用可能となっている。**

令和2年3月の特措法改正について

○感染症法における「新感染症」の定義（第6条第9項）

- 人から人に伝染すると認められる疾病であって、
- 既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、
- 当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、
- かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの



○令和2年1月10日 WHOが新型コロナウイルスが肺炎の原因であることを公表



○同年1月28日 “未知”でなく、“既知”のものであるため、「指定感染症」に指定

※感染症法における「指定感染症」の定義（第6条第8項）

- 既に知られている感染性の疾病（一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）であって、
- 第三章から第七章までの規定の全部又は一部を準用しなければ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるものとして政令で定めるもの



○同年3月13日 「新感染症」でなく、特措法の「新型インフルエンザ等」に当たらないため、新型コロナウイルス感染症を「新型インフルエンザ等」とみなして規定を適用できるよう、特措法について法改正

※特措法における「新型インフルエンザ等」の定義（第2条第1号）

- 感染症法第六条第七項に規定する新型インフルエンザ等感染症
- 及び同条第九項に規定する新感染症（全国性的かつ急速なまん延のおそれのあるものに限る。）

2. 臨時の医療施設的位置付け

特措法上の臨時の医療施設

- 特定都道府県知事は、医療機関が不足し、医療の提供に支障が生ずると認める場合には、都道府県行動計画で定めるところにより、医療施設であって特定都道府県知事が臨時に開設するものにおいて医療を提供しなければならない（特措法第48条第1項）。

各種法令の特例について

消防法の特例（特措法第48条第3項）

- ・ 消防法の一部基準（屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、自動火災報知設備、誘導灯、防火水槽等の設置等）は適用しない。
- ・ ただし、特定都道府県知事は、消防の用に供する設備等の設置及び維持に関する基準を定める等、安全確保措置義務がある。

建築基準法、景観法の特例（特措法第48条第4項）

- ・ 建築基準法（建築手続、建築物の構造・設備等の基準）及び景観法の規定は適用しない。
- ・ 緊急事態宣言がされた日※から1か月以内に工事に着手する必要。
※延長又は区域変更がされた日を含むと取り扱って差し支えない（令和2年5月7日事務連絡）

医療法の特例（特措法第48条第5項）

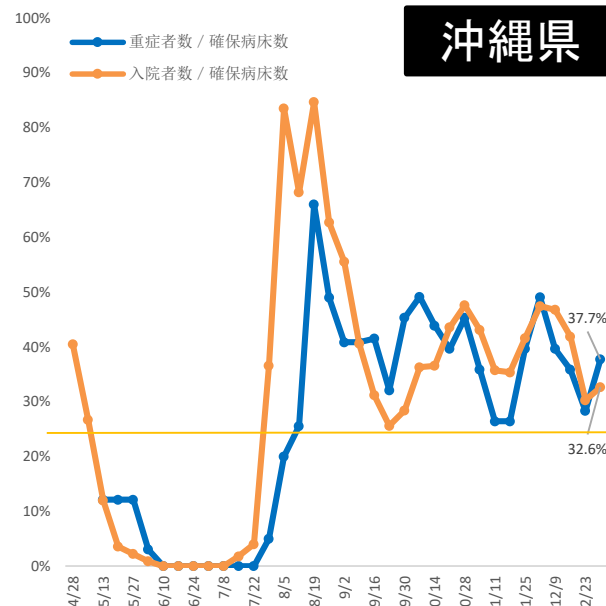
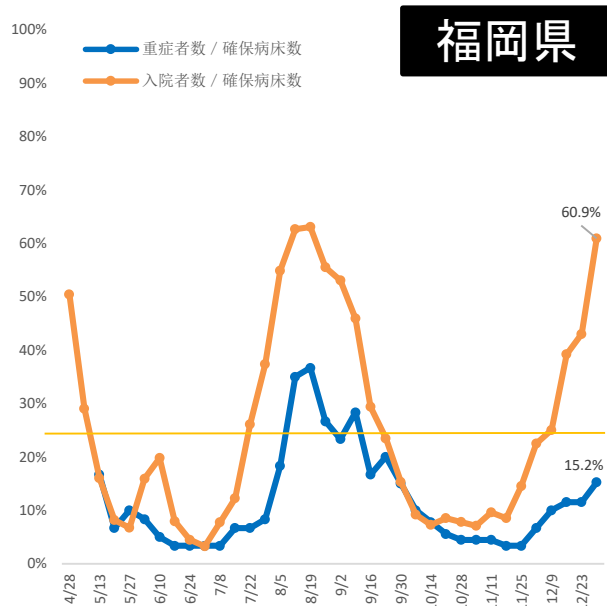
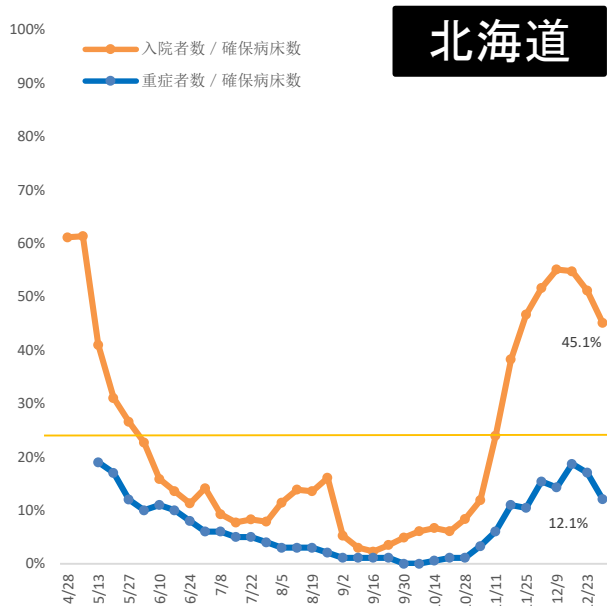
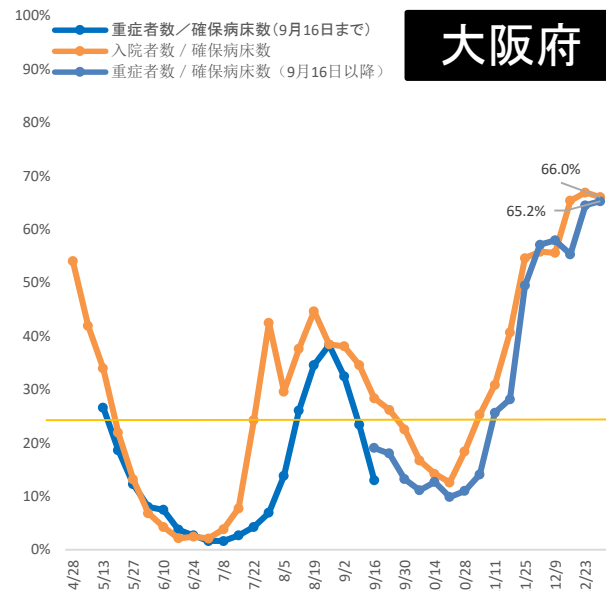
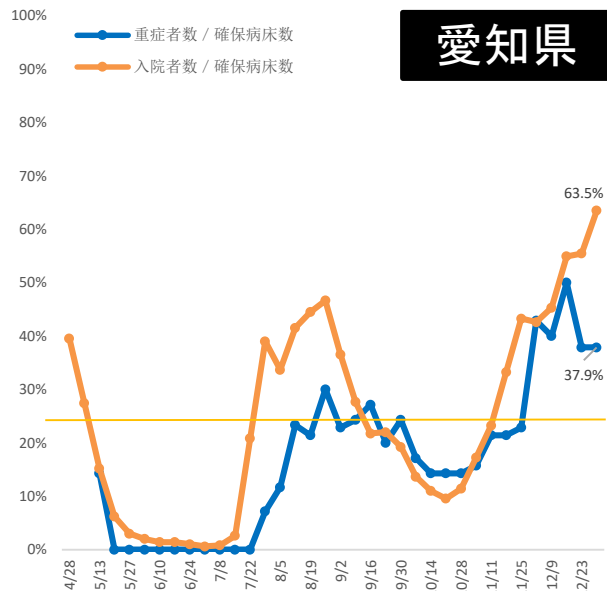
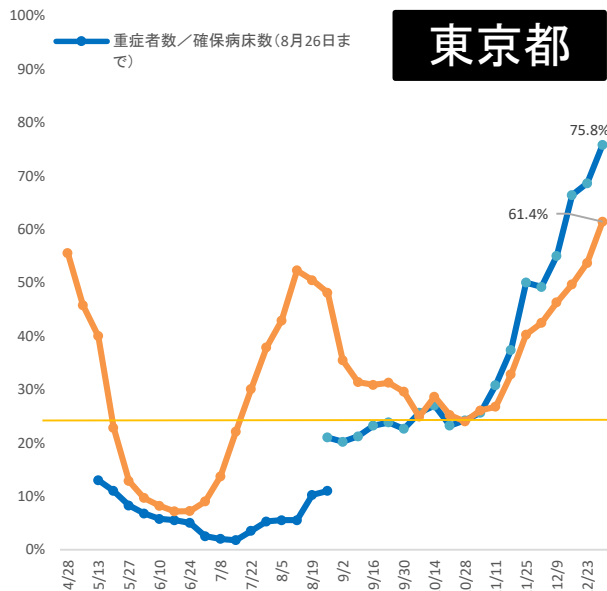
- ・ 医療法第4章（病院等の開設許可、構造設備等）は適用しない。

設置実績

○ 8都道県・13施設で設置

- ・ 北海道・東京都・神奈川県・石川県・福井県（4件）・愛知県（2件）・長崎県・沖縄県（2件）

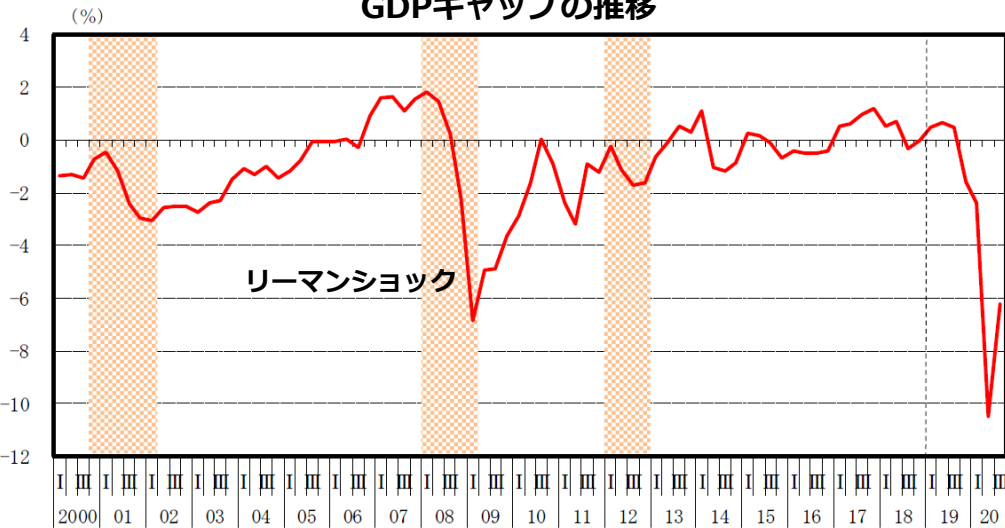
病床のひっ迫



3. 都道府県知事の要請等の実効性確保 (罰則、支援)

緊急事態宣言による経済への影響

GDPギャップの推移



(備考)
 1. 内閣府「国民経済計算」、「固定資本ストック速報」、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。
 2. シャドーは景気後退期。また、破線は第16循環の景気の山(暫定)。

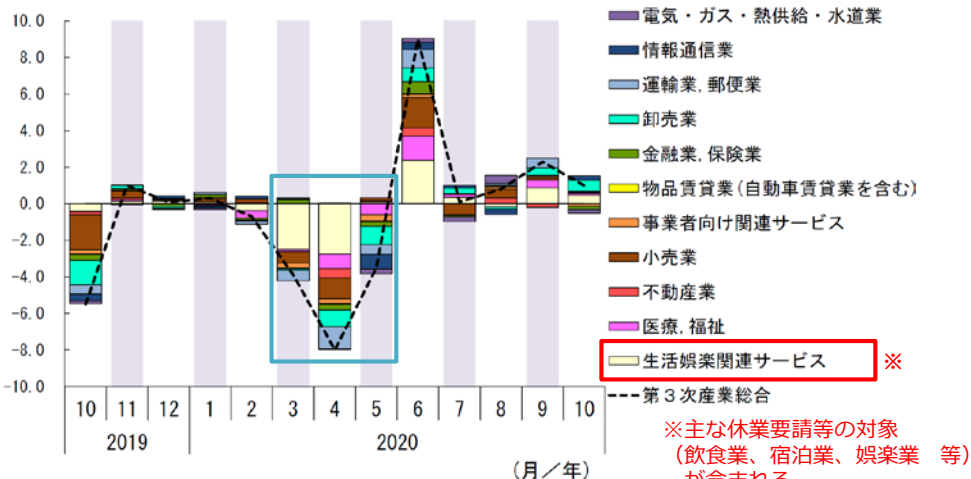
「2020年7-9月期GDP 1次速報後のGDPギャップの推計結果について」
 (2020年11月27日 内閣府)より

○ GDPギャップのマイナス幅は、リーマンショック時の過去最低水準を超える

○ 影響を受けている業種は、休業要請等の対象(飲食業、宿泊業、娯楽業 等)に留まらず広範

第3次産業活動指数前月比 業種別の影響度合い

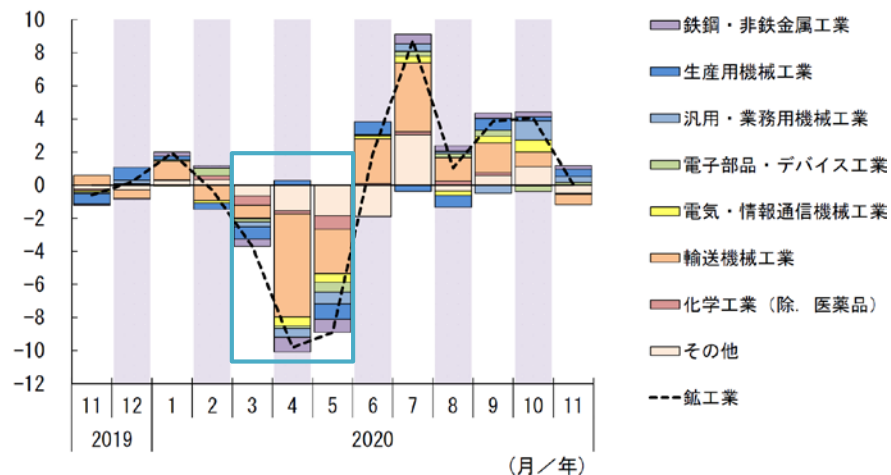
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



※主な休業要請等の対象(飲食業、宿泊業、娯楽業 等)が含まれる

鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



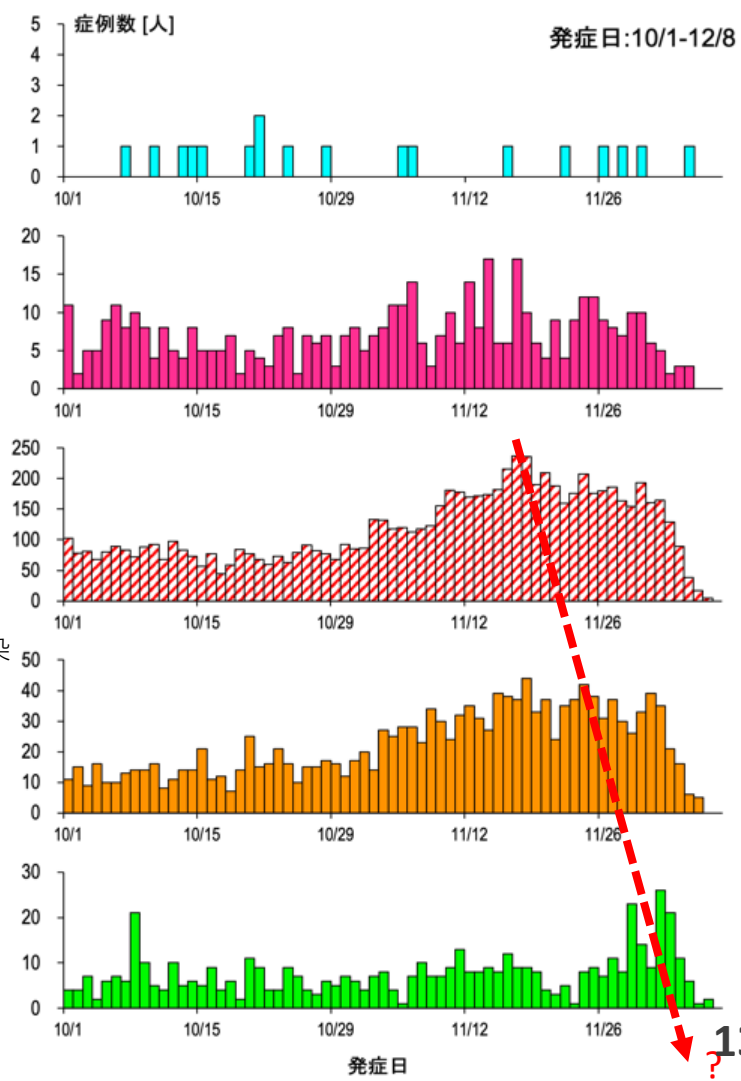
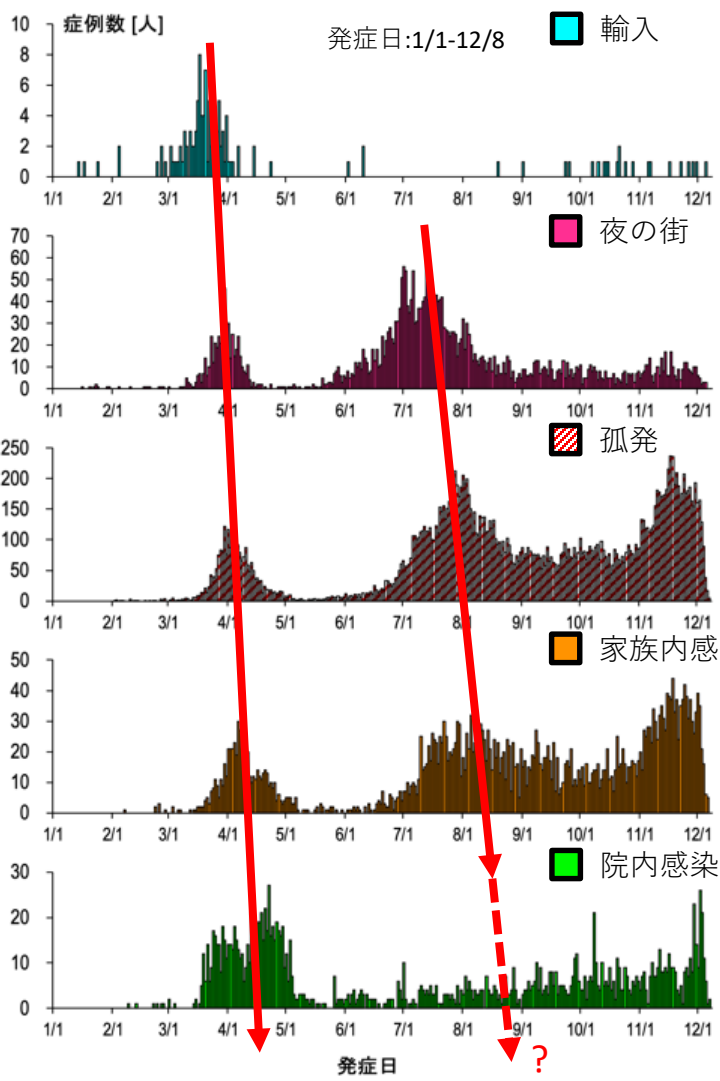
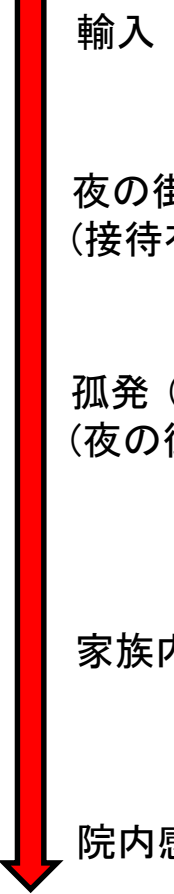
「サービス産業活動図表集 2020年10月の第3次産業活動指数の状況」
 (2020年12月14日 経済産業省)より

「鉱工業指数参考図表集 (2020年11月速報)」
 (2020年12月28日 経済産業省)より

①: 感染拡大の原因と結果

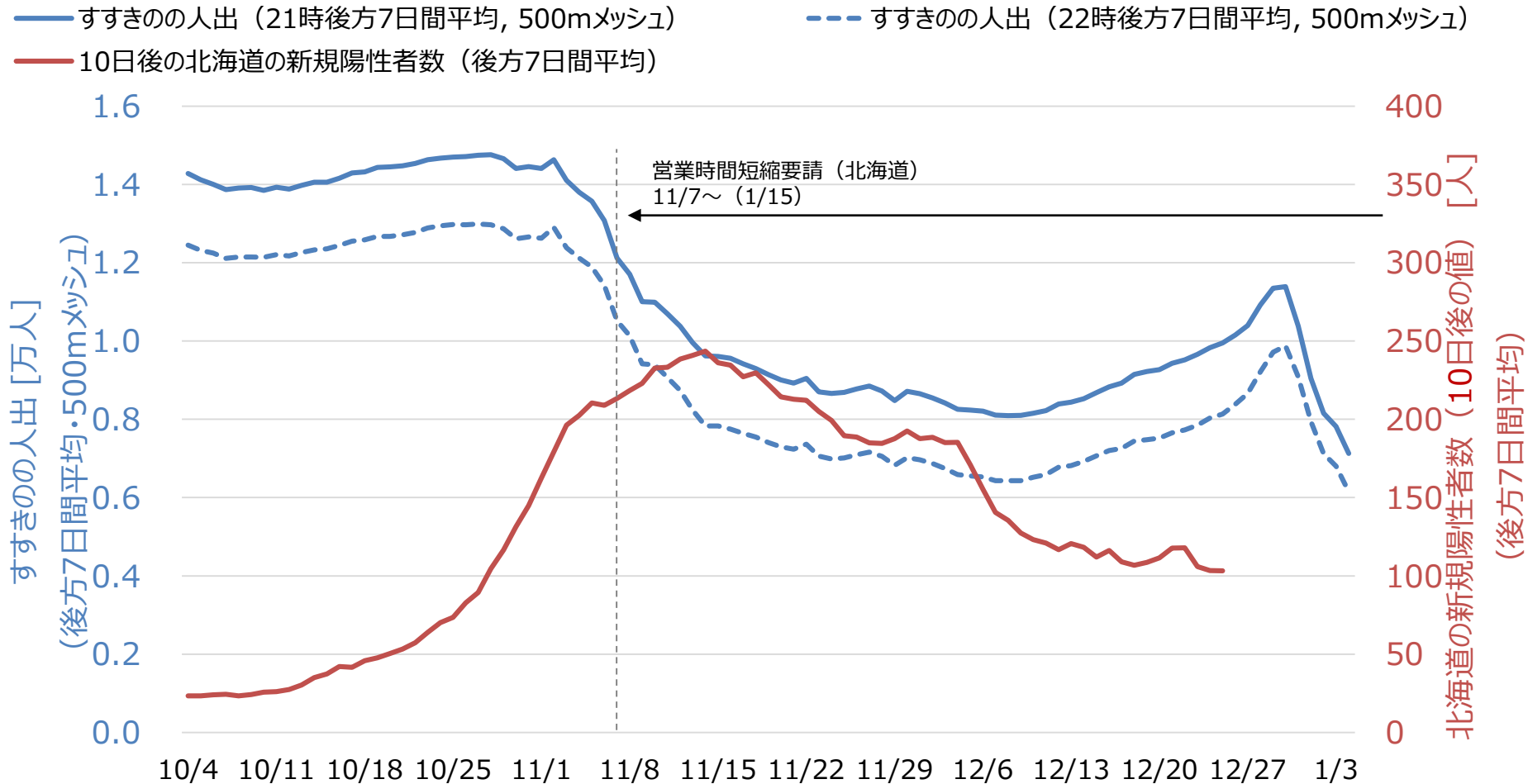
歓楽街や飲食を介しての感染が感染拡大の原因
家族内感染や院内感染は感染拡大の結果である

感染経路別の
症例数ピークの推移



③: 都市部の問題

歓楽街の人出推移と新規陽性者数【北海道】

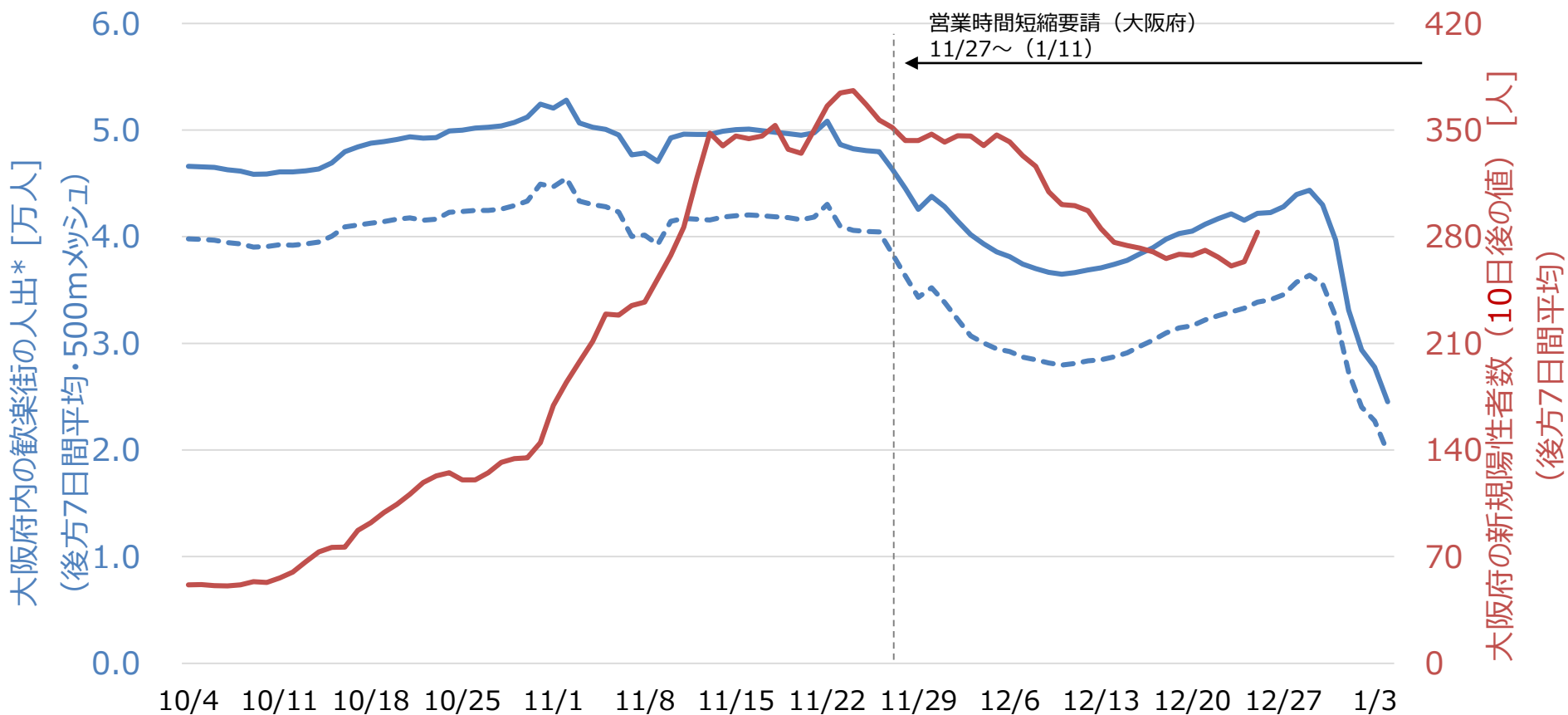


(注) 陽性者数は、報告日ベースの数値を10日間前倒した数値としている。(例：10/4の数値は、10/14の陽性者数（報告日ベース、後方7日間平均）)

③: 感染増加が継続する都市部

歓楽街の人出推移と新規陽性者数【大阪府】

— 大阪府内の歓楽街の人出（21時後方7日間平均, 500mメッシュ）
- - - 大阪府内の歓楽街の人出（22時後方7日間平均, 500mメッシュ）
— 10日後の大阪府の新規陽性者数（後方7日間平均）

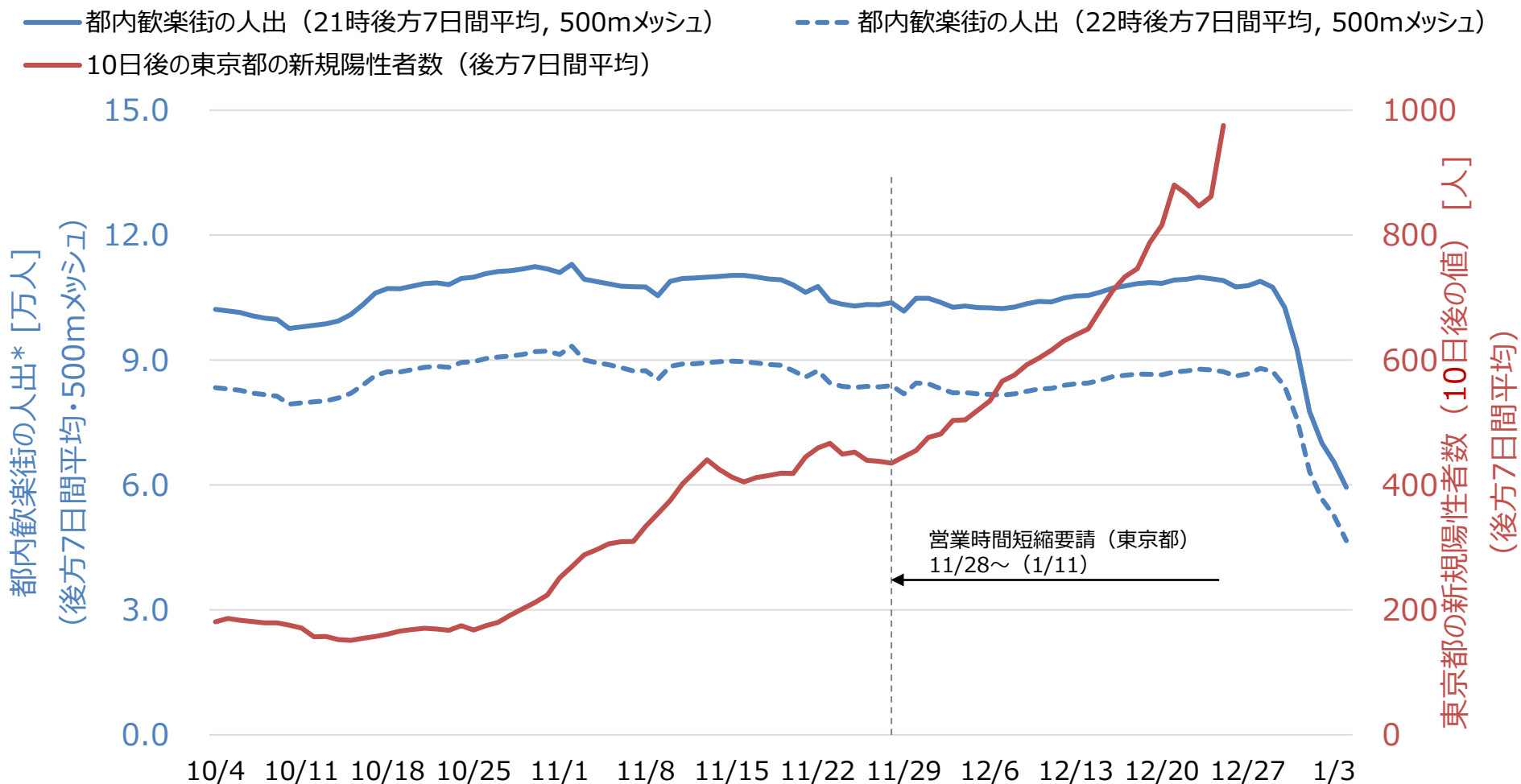


* 大阪府内の歓楽街の人出は、ミナミ、北新地、心齋橋の3地点におけるメッシュの人出の合計

(注) 陽性者数は、報告日ベースの数値を10日間前倒した数値としている。(例：10/4の数値は、10/14の陽性者数（報告日ベース、後方7日間平均）)

③: 感染増加が継続する都市部

歓楽街の人出推移と新規陽性者数【東京都】



* 都内歓楽街の人出は、歌舞伎町、六本木、池袋、渋谷センター街、新橋の5地点におけるメッシュの人出の合計

(注) 陽性者数は、報告日ベースの数値を10日間前倒した数値としている。(例: 10/4の数値は、10/14の陽性者数 (報告日ベース、後方7日間平均))

『逐条解説 新型インフルエンザ等対策特別措置法』 P.161、162

○ 本条に基づく施設の使用制限等の要請等による施設管理者等に対する公的な補償は規定されていない。

これは、施設の使用制限等の要請等の措置は、

- ・ 学校、興行場等の施設の使用が新型インフルエンザ等のまん延の原因となることから実施されるものであること、
- ・ 本来危険な営業行為等は自粛されるべきものであると考えられること、
- ・ 新型インフルエンザ等緊急事態宣言中に、潜伏期間等を考慮してなされるものであり、その期間は一時的であること、
- ・ 学校、興行場等の使用制限の指示を受けた者は法的義務を負うが、罰則による担保等によって強制的に使用を中止させるものではないことから、権利の制約の内容は限定的である。

さらに、国民の多くが、新型インフルエンザ等の緊急事態においては、何らかの制約を受けることが考えられる。

したがって、学校、興行場等の使用の制限等に関する措置は、事業活動に内在する社会的制約であると考えられ、公的な補償は規定されていない。

しかしながら、国民や事業者が生活や事業を立て直すために資金を必要とすることが想定されるため、本法では、政府関係金融機関等による融資に関する規定（法第60条）を置いているところであり、必要に応じてこうした特別な融資等を活用いただくことが想定される。

○中川国務大臣

結論から申し上げますと、いわゆる学校だとか興行場等の使用の制限等に関する措置については、事業活動に内在する社会的制約であると考えられることから、公的な補償は考えておりません。

学校、興行場等の施設の使用が新型インフルエンザ等の大規模な蔓延の原因となるということから、制限が実施をされるということ。それから、本来、危険な営業行為等は自粛されるべきものであるというふうに考えられるということ。それから、新型インフルエンザ等緊急事態宣言中に潜伏期間等を考慮してなされるものであって、その期間は一時的であるということ。最後に、学校、興行場等の使用制限の指示を受けた者は、法的な義務を負いますけれども、罰則による担保等によって強制的に使用を中止させるものではないということ。こんなことから、権利の制約の内容は限定的であるというふうに考えまして、先ほどのような結論に達しています。

ただし、国民や事業者が生活や事業を立て直すために資金を必要とするということが想定されますので、この法案では政府関係金融機関等による融資に関する規定を置いておりまして、必要に応じて特別な融資等を利用できるというふうな枠組みを講じていきたいと考えております。

(参考) 日本国憲法

第三章 国民の権利及び義務

(自由及び権利の保持義務と公共福祉性)

第十二条 この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであつて、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。

(個人の尊重と公共の福祉)

第十三条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

主な支援策

中小・小規模事業者等の皆様	給付	売上が半分以下※ で事業の継続が難しい ※1～12月のどの月でも	持続化給付金 申請期限:2021/1/15	中小法人等 最大 200万円 フリーランス含む個人事業者 最大 100万円 主たる収入を雑所得・給与所得で確定申告した 個人事業者、2020年新規創業者向けの申請も開始	予算額 5.7兆円 給付額 約5.2兆円
		家賃の支払いが難しい	家賃支援給付金 申請期限:2021/1/15	一定の売上減少要件を満たす事業者に 中小企業等 最大 600万円 ※1 個人事業者等 最大 300万円 ※2 ※1 最大100万円/月 (給付率2/3,1/3) × 6カ月分 ※2 最大 50万円/月 (給付率2/3,1/3) × 6カ月分	予算額 1兆4882億円 給付額 約6900億円
	助成	雇用を維持できない	雇用調整助成金 特例措置対象期間: 2020/4/1-2020/12/31 ※2021/2/28まで延長予定	雇用を維持する中小企業は 一律10割 助成 日額上限8,370円→ 15,000円 に引上げ	予算額 約2.8兆円 給付額 約2.5兆円
		事業再開に向けた 投資をしたい	持続化補助金 第5回コロナ型申請受付〆切: 2020/12/10	小規模事業者に 最大150万円 を補助 (最大100万円までを 最大3/4 補助) 最大 50万円 を定額補助 「イノベーション」等々は最大200万円	予算額 1700億円の一部(※) 給付額 集計中 ※持続化補助金は、生産性革命 推進事業の一部
	貸付	売上減で 資金繰りが厳しい	実質無利子・無担保融資 日本公庫・商工中金の申請期限: 当面2021年前半まで 民間金融の申請期限: 2020/3/31	3年間無利子、最長5年間元本据置 日本政策金融公庫等に加え、 5月より地銀、信金、信組等でも利用可に	融資承諾額 約31.4兆円
	猶予・ 減免	売上減で 税、社会保険料が難しい	国税、地方税、 社会保険料の納付猶予 納期限対象期間: 2020/2/1-2021/2/1	売上が一定程度減少の場合、 1年間、 無担保かつ 延滞税なし で猶予	猶予件数 203,202件 猶予税額 約7.8兆円
		売上減で 固定資産税が払えない	固定資産税・ 都市計画税の減免 申告期限:2021/2/1	売上が一定程度減少の場合、 今年度は 2分の1 又は ゼロ に減免	減免税額 未定 2021年度課税分から適用

「新型コロナウイルス感染症に伴う各種支援のご案内」より抜粋・加工

○**業種を問わず、各種支援策**を提供中。
(持続化給付金、持続化補助金、家賃支援給付金 等)

2. 特措法・感染症法等の改正について

- 事業者への休業や営業時間短縮要請の実効性を担保するため、要請に対する遵守義務や、違反した場合の罰則、営業停止処分、営業補償に資する協力金制度、差別・偏見防止等の措置について、緊急事態宣言が発出される以前でも必要な対策がとれるようにすることも含め、特措法等の改正の検討を早期に進めること。
- 感染症法についても、保健所による積極的疫学調査や健康観察、入院勧告に対する遵守義務の規定、宿泊施設や自宅での療養の法的根拠の規定、都道府県と保健所設置市との情報共有の規定等、感染拡大防止策の実効性を高める改正を早期に行うこと。

(参考) 日本商工会議所・東京商工会議所

「新型コロナ克服に向けた新たな経済対策に関する意見」

(2020年11月19日) (抜粋)

③ あらゆる情報やデータ等を分析・活用した感染拡大の
早期検知による感染封じ込め

- ・ 感染拡大の早期検知と封じ込め（歓楽街における検査所の設置等によるクラスター発生の早期検知、クラスター発生時の地域集中的なPCR検査等の実施による感染封じ込め）
- ・ 全面的な休業要請ではなく、エリア・業種を限定した休業・営業時間短縮要請の実施、休業・営業時間短縮要請の実効性強化については、営業の自由に配慮した検討とともに、発動要件や対象業種等の制度化・明確化と事前周知が必要
- ・ 知事の休業要請等に応じた事業者に対する定額協力金等支給に係る国の適切な財政支援

新型インフルエンザ等対策有識者会議
新型コロナウイルス感染症対策分科会
— 生活衛生関係営業に関する意見・要望 —
(令和3年1月8日 13時30分～ 合同庁舎8号館 講堂)

一般社団法人 全国生活衛生同業組合中央会

理事長 大森利夫

◇ 全国生活衛生同業組合中央会の構成団体 (生活衛生同業組合連合会 16業種)

- ・ 全国理容生活衛生同業組合連合会
- ・ 全日本美容業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国興行生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国クリーニング生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国公衆浴場業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国麺類生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国氷雪販売業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国食肉生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国飲食業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国すし商生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国食鳥肉販売業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国喫茶飲食生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国中華料理生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国社交飲食業生活衛生同業組合連合会
- ・ 全国料理業生活衛生同業組合連合会

新型コロナウイルス感染症に向き合う 生活衛生業の現状と復興対策について

令和3年1月8日

一般社団法人 全国生活衛生同業組合中央会

平素、生活衛生業界に対しまして、ご指導、ご支援をいただいておりますことに感謝、御礼を申し上げます。

私ども生活衛生業界は、不特定多数のお客様にサービスを提供しているため「新型コロナウイルス感染症」（以下「コロナ」という。）の拡大を防止するために最大限の取り組みを真摯に進めています。

<生活衛生同業組合の取組>

- ① コロナ感染予防ガイドラインの策定（業種別14種類）
- ② 各店舗・施設におけるガイドラインに基づく感染予防策の実践を促進
- ③ 業種別ガイドライン実践状況の確認・指導（チェックシートに基づく巡回指導（各店舗・施設 2回実施）
- ④ 各店舗・施設の事業継続支援に関する情報提供、申請手続きの指導、各種相談事業等

コロナ禍によって想像を絶する甚大な影響を受け困惑する生活衛生業界の中でも、特に、飲食関係業種については、全ての飲食店が感染拡大の原因であるような（飲食店悪者）イメージが広がっていることには、私どもは大変残念に思っています。私ども組合は、ガイドラインの実践を怠っている店舗には、引き続き指導していく所存です。

この度、「新型インフルエンザ等対策特別措置法」（以下「特措法」という。）を改正し、緊急事態宣言下において知事の要請等に違反した場合には罰則を適用するなどの検討が行われているとの報道を見聞きして、飲食関係業界を中心に大変心配しています。

については、次に掲げる生活衛生同業組合の疑問、意見、要望等にお応えいただくとともに、生活衛生業界の中小企業・小規模事業者の窮状を救済するため、ご指導、ご支援いただきたく衷心よりお願い申し上げます。

1. 飲食店が感染拡大の原因となっている状況について詳細を周知

政府においては、コロナ感染、クラスター発生の詳細が明確となっており、組合からも飲食店が感染拡大の原因であるなら、その感染ルートや実情（個々の感染案件において店舗側が怠っていた具体的な感染予防策、また、改善されていれば感染防止できたと指摘される具体的内容等）の詳細について周知し、改善手法の指導をいただくことで、組合の巡回指導や情報発信機能等によって個々の事業主、店舗・施設に対して広く周知・指導することが可能です。

2. お客様の感染予防モラル（倫理・道德）の向上

飲食店が感染拡大の場所となっているケースが多いとしても、組合員である事業主や従業員等からは、お客様の中には感染予防・防止についてのモラルが低い方もおり、飲食店の経営が苦しい中で費用負担してガイドラインを真摯に遵守しようとしても、お客様のご理解、ご協力がなければ感染は防止できないとの多くの声が届いています。

このため、改めて国民に対する感染予防策の啓発を徹底し、日本人の公衆衛生モラルの維持を図っていただきたいと切に願います。

厳しい経営状態の中で真面目に感染防止対策に取り組んでいる飲食業界に働く者、特に、当組合員は、昨今の飲食店イジメに限界を感じておりますし、罰則を科さなければ動かない飲食店と認識されていることにも落胆しています。

3. 「新型インフルエンザ等対策特別措置法」の改正

今般、検討が進んでいるとお聞きしている特措法の改正について、報道等の情報により推測して当組合の意見を申し述べると次のとおりです。

（1）都道府県知事の機動性向上

コロナ禍が国内各地でみられる現状で都道府県知事の機動性を向上することは必要であると考えますが、国民の権利や自由について制限を強化することとならないようお願いするとともに、国民生活と密接な関係にある私ども生活衛生業を制限することは、国民生活にとっても不自由な状態をつくることに十分留意願います。

（2）罰則制度の新設

知事の権限、機動性を強化した上で、さらに罰則を制定することは不本意ですが、業界の中には強制力のある知事の要請にも従わない事業主が存在することも推測され、真面目に要請に従う者と従わない者の間に不公平感が生じないためには営業の自由度を一定程度認めつつ、罰則を制定することは止むを得ないものと考えます。

この場合、違反者を特定する体制の確保も課題と思われまますし、刑事罰か行政罰かによっても所管、体制が異なると思われまますが、実施に際しては公平性を担保することにご留意願います。

(3) 要請協力者への補償、支援

知事の要請に従い休業、時間短縮営業となった場合、要請に伴う店舗・施設の売上減少等については補償、支援していただくことが不可欠であることを強く要請します。

この場合、業種や事業規模等によって影響も異なるため、補償金・協力金等の金額は一律とせず、前年・前々年の所得等と比較するなどし、事業主間で不公平とならないよう配慮願います。

また、補償金・協力金の給付に際しては、事務手続きを簡素化するよう強く求めます。

特に、パソコン等のIT機器に不慣れな者への配慮をお願いします。

4. コロナ禍の長期化、自粛要請等に伴う収益減への支援

コロナ禍に伴う生活衛生業界の窮状を支援する政府等による各種施策によって、多くの事業主が助かっており大変感謝しています。

しかしながら、事業主の収束への思いを超えるコロナ禍の長期化とともに営業自粛要請への対応等により、生活衛生業の事業主の手元資金は枯渇してきており、各種支援施策の延長、再開等について早急にご検討・実施いただくようお願いいたします。

① 持続化給付金

即効性のある支援制度として延長、再給付が必要

② 家賃支援給付金

固定費である家賃が大きな負担となっており延長が必要

③ 雇用調整助成金

宿泊業を中心に従業員の維持・確保が必要であり、再延長が必要

④ 融資関係

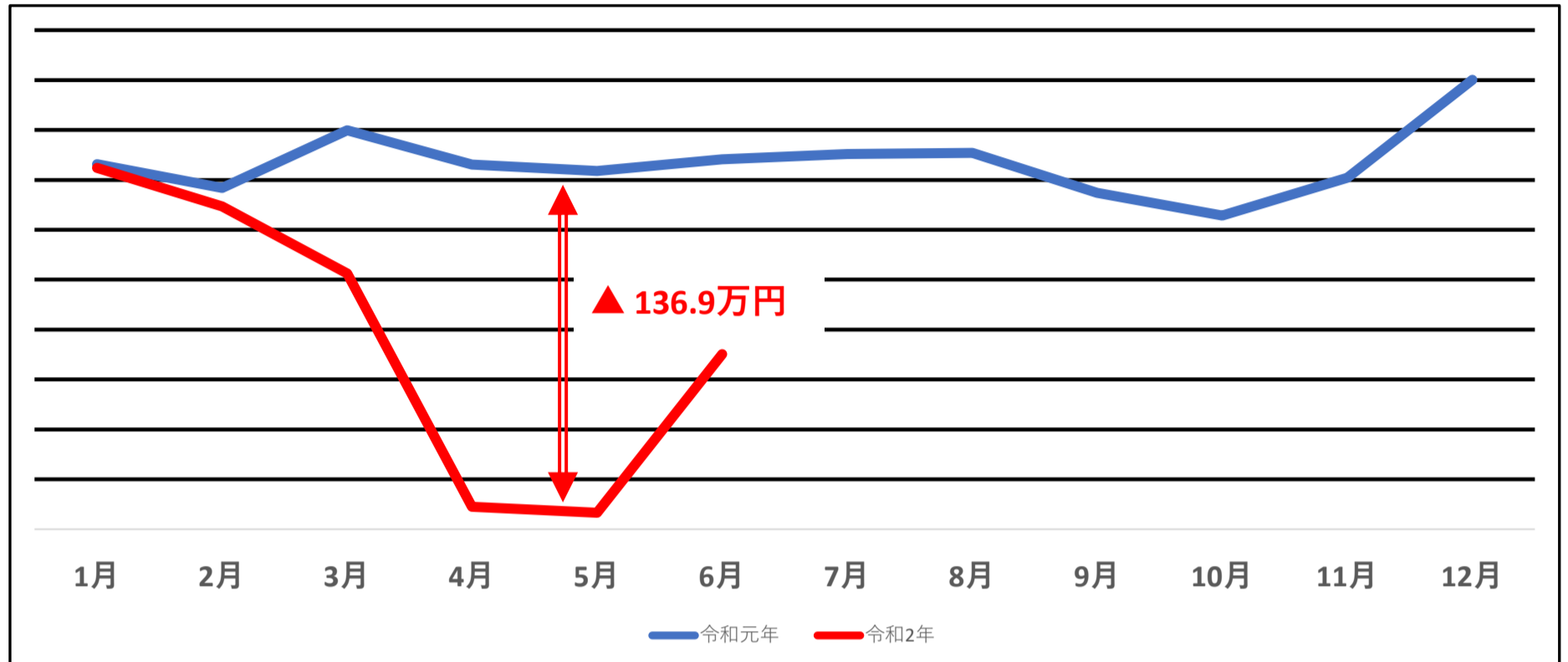
日本政策金融公庫等によるコロナ関係融資の取扱期限の延長、融資要件の緩和等が必要

⑤ G o T o キャンペーン

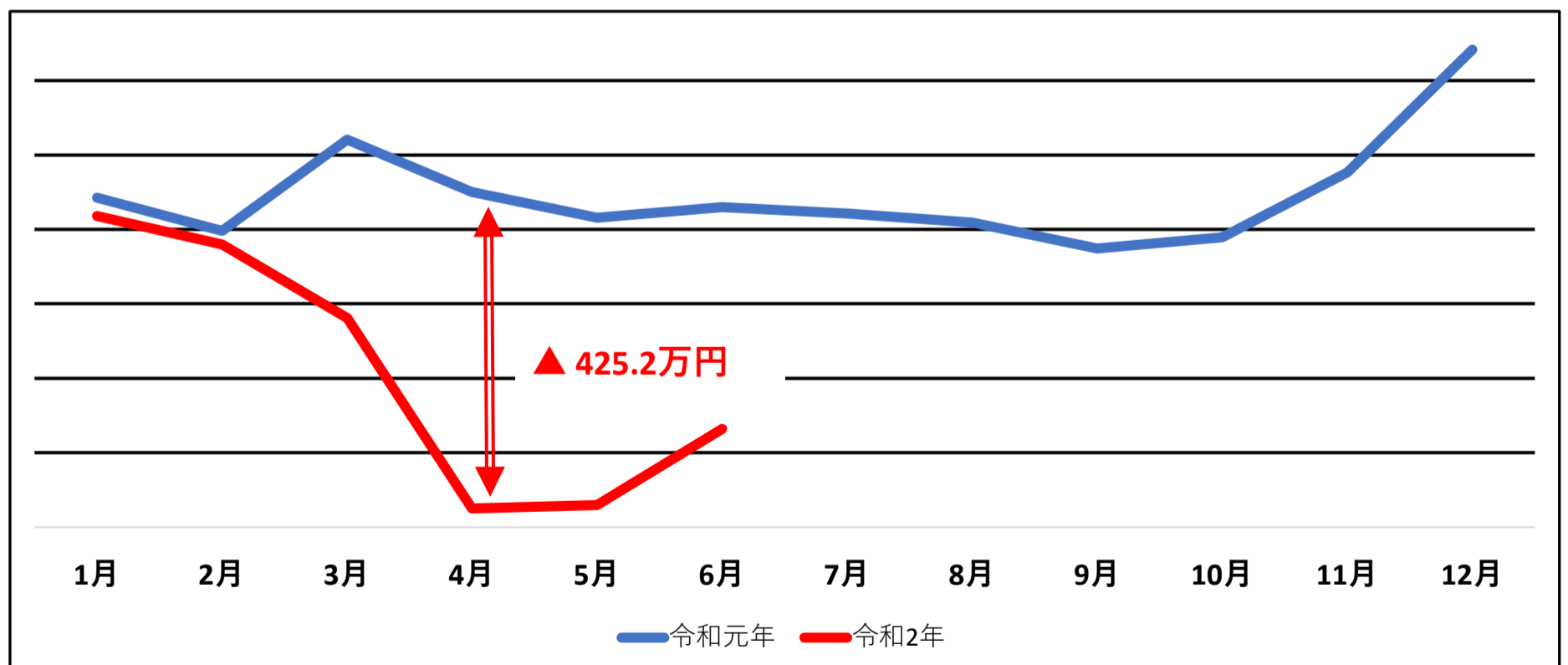
G o T o キャンペーンの早期再開が必要

令和元年と令和2年の月次「売上」比較

【社交飲食業】



【料理業】





資料8

令和3年1月8日

一般社団法人日本フードサービス協会
会 長 赤塚 保正

新型インフルエンザ等対策特別措置法に対する協力金は大手外食企業も含め、店舗ごとに対象となるようお願いいたします。

外食事業者は、新型コロナウイルスの感染拡大以降、政府、各自治体の要請に応じて営業自粛、営業時間の短縮等を行ってまいりました。

その結果、外食企業においては売上が大幅に減少し、店舗の賃借料等の負担は限界に達しており、居酒屋をはじめとする飲食店は大手・中小を問わず経営危機に直面しております。

こうした中、**新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正**が検討されておりますが、営業時間短縮等を要請するのであれば、**協力金は個人・中小という規模の大小に関わらずチェーン展開を行う大手の外食企業も対象として**いただくようお願いいたします。

外食産業の収益構造は企業規模の大小によって大きな差異はなく、売上高に対する家賃は10%~15%となっております。当然ながら多店舗展開している企業ほど全体的な家賃負担は重くなってきます。

また、多店舗展開している外食企業が店舗を閉鎖する事態に陥れば、大量の従業員の雇用の場が失われ、失業率の悪化にもつながります。

こうしたことから、協力金の対象には**大手の外食企業も含め、店舗ごとに対象として**いただくようお願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルスの影響が長期化する中において、外食産業では最大限の努力を行い従業員の雇用維持を行っているところです。こうした中において、雇用調整助成金は雇用の維持に大きな力を発揮しております。雇用調整助成金の特例措置は2月末をもって延長期限が切れますが、外食産業は引き続き、雇用維持に努めてまいりますので、15,000 円の上限を引き上げたうえで、当面の間、延長していただきますようお願い申し上げます。

新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成二十四年法律第三十一号、以下「特措法」という。）の改正をめぐって

慶應義塾大学大学院法務研究科 磯部 哲

1. 前置き

- 強制措置強化、罰則新設については、様々な法的論点があり「慎重な検討」が必要
- 法改正を含めた対策を講ずるには、「スピード感」や「旬を逃さない」ことが必要
- 国と地方の関係、医療法や感染症法等も含めて、「体系的／抜本的な検討」が必要

2. 強制措置・罰則の議論

- 現行法が定める措置
 - 知事による協力要請（24条9項）、不要不急の外出自粛要請（45条1項）
 - 興行場等の施設管理者に対する営業自粛等の要請（45条2項）
 - 興行場等の施設管理者に対する営業自粛等の指示（45条3項）
 - 興行場等の施設管理者に対する営業自粛等の要請（45条2項）・指示（同3項）を実施したときにはその旨を公表（同4項）
- 参考）例えば、協力金の不支給
- 参考）例えば、営業自粛命令＋行政刑罰（罰金等）または行政上の秩序罰（過料）
 - 飲食の場や密の場を作る行為などが国民の生命・健康という法益を侵害する、あるいは法益侵害の危険が（漠然としたものであっても）あるといえるのでなければ、行政罰（特に刑事罰）は正当化できないのではないかと。休業命令に応じず営業する行為自体が、直ちにクラスターを発生させ、国民の生命・健康被害を生じさせるリスクが高いものといえるかが論点であろう。
 - 他方、より制限的でない手段として過料を検討するならば、命令違反＝行政上の義務違反ではあるとしても、行政上の秩序に障害を与える危険ありと直ちにいえるか。感染の有無にかかわらず広く国民全体を対象に、まん延防止を図る措置を促す特措法の性格からして、国民・事業者による協力・予防措置を促すという、特措法に基づく対策のための規範が遵守される秩序を維持するために、行政上の秩序罰を設けることも不可能ではないかもしれないが、低額でもあり有効打となるかは不明である。
- 参考）例えば、協力金の給付を受けつつ実は営業していたというような悪質なケースに対して、営業停止命令等で対処する。

3. 留意点

- 感染症対策における実効性の確保
 - “私権制限”ゆえに強制措置には慎重であれという議論は、一般論としては当然であるが、必要があれば法律を根拠に強制措置は実施できるし、すべき場合はある。問題は、係る制限が必要性、合理性等の観点から正当化できるかである。
 - 緊急事態であればこそ平時よりも強力な措置をとり、実効性が担保できたほうがよいのであって、自粛要請が遵守されなくても問題がない場合ならともかく、感染防止に必要な措置である限り、強制措置をとること自体は排除されない。
 - ◇ むしろ、風営法、食品衛生法、建築物衛生法等々、他法令の営業規制を流用する運用のほうが法治主義の観点からは大きな問題をはらんでいる。

- 感染症法の仕組みは、強権的な措置はできるだけ避けるとしても、必要な場合には実効性が最も高い手段を採用することを要請していると解することができる。
- 現行の3段階区分の妥当性
 - 今必要なのは、緊急事態宣言に至る前段階で、たとえば45条2～4項的な措置をとれるようにしたいということか。あるいは、緊急事態宣言下において取れる措置をさらに強化したいということか。
 - いずれの場合も、行政介入が強度を増す必要性の判断が合理的であることを担保する仕組み、係る判断を誰がどういう手続で行うのかもあわせて検討するのだからなければならない。感染の危険性、公益上の必要性、緊急性等に照らして合理的に行政介入の段階付けをする必要がある。“こうなったら介入をやめる”という出口戦略も同時に意識する必要がある。
 - 用意された強制措置が重装備であるほど宣言等の発出は慎重にならざるを得ず、使い勝手が良いのかは不明である。また、従来とは宣言等の意味合いが変わってくるのであって、係る場合の国会の関与のあり方もあわせて検討する必要がある。
- 強制措置をとる際の考慮要素
 - 制度的に、強制措置をとる根拠があることを保障し、適正な内容の命令を出せるようにするためには、科学的・専門的知見を反映させるべく審議会等への諮問を必須にするなど、一定の仕組みが不可欠ではないか。
 - 一般論として、感染症対策において強制措置をとることは排除されないと考えるが、現行法の指示・公表さえほとんどやっていない中で、罰則さえ創設すれば実効的な対策が可能との楽観主義には立ち得ない。むしろ、自主的に協力しようとする人への支援（金銭給付の意味だけではない）として、個々の業種・事業者（団体）と自治体が連携をとれる仕組みづくり、個々の措置の必要性を丁寧に説明し信頼を獲得できること、迅速で臨機応変な支援策を充実させることなどが重要ではないか。特措法の枠組みじたいから抜本的に見直す必要がある。
 - “飲食が感染を抑える急所”などとして、特定の業種を典型的・画一的に営業自粛命令の対象とすることは妥当か。規制の必要性と合理性、規制範囲画定の相当性が厳密に問われる。個々の営業所について、例えば業界団体のガイドライン等を遵守して適切に一定の対応をとっている場合には一律禁止から除外するといった仕組みも併せて検討するのではないかと、弊害が大きいのではないかと。

4. “補償”の議論

- 協力金のような仕組みを採用する場合、現行法の立場を維持するのか、修正するのかは整理を要する。
 - 現行法は、臨時医療施設を開設するため土地・建物等を所有者の同意なく一時的に使用したり、医薬品・食品等の売渡を製造業者らに要請したりすることができ、従わない場合には強制収用も可能で、係る場合には、それにより通常生ずべき損失を補償しなければならないが、それ以外は補償不要。＝制限が一時的、罰則による担保がないことに加え、施設使用が新型インフルエンザ等のまん延の原因となるから制限等の要請等をするのであり、本来危険な事業等は自粛されるべきとの考えが背景にある。
 - 罰則創設、それなりに長期の営業自粛となれば、上記の前提が変わってくるとみることもできる。
- 経済的支援なき自粛にとどまれば、生活のため外出・営業等をする人が出てくることは防ぎようがなく、支援措置を講じるのでなければ政策的合理性を著しく欠くとの評価は可能である。

都道府県から寄せられている意見

令和3年1月8日 鳥取県知事 平井 伸治

(○は特に緊急事態宣言対象の1都3県から寄せられている意見)

1. 特措法・感染症法等の改正について**(1) 特措法の改正**

- 事業者への要請の実効性を担保する措置について、特措法の改正を早期に行っていただきたい。(要請に対する遵守義務や違反の際の罰則、営業停止処分、事業者への立ち入り検査や事業者への協力金制度等)
- 特措法において、緊急事態宣言発出前でも必要かつ強力な対策がとれるようにすべき。
- 差別・偏見防止の措置について、特措法に規定を設けるべき。
- テレワークや時差出勤を促進するため、特措法第45条第1項の外出自粛要請に加え、事業者に対して従業員の移動の抑制を要請できるようにしていただきたい。
- 特措法第4条において事業者と国民の責務が規定されていることも踏まえ、外出自粛要請に応じない場合の措置についても整理が必要。

(2) 感染症法の改正

- 感染拡大防止策の実効性を高めるための感染症法の改正を早期に行っていただきたい。(積極的疫学調査や健康観察、入院勧告に対する遵守義務、宿泊施設や自宅での療養の根拠や病院への入院勧告と同等の入所勧告等)
- 特措法に基づき都道府県知事が講じる措置を迅速に行えるよう、感染症法に都道府県と保健所設置市との情報共有の規定を設けるべき。

2. その他緊急事態宣言関連の意見

- 国の緊急事態宣言を受けた営業時間短縮要請であることを踏まえ、事業者への協力金に必要な財源は全て国において確保していただきたい。
- 営業時間短縮要請の対象ではない業種にも影響が及ぶため、協力金に加えて更なる事業者への支援が必要。(持続化給付金や家賃支援給付金の再支給、要件緩和等)
- 緊急事態宣言の発効までに住民への十分な周知期間が必要。
- 緊急事態宣言解除の基準を示すとともに、解除後の感染拡大防止と社会経済活動両立のための道筋(いわゆる「出口戦略」)を示していただきたい。
 - ・ 政府においても、1都3県の住民の不要不急の外出自粛の徹底や、宣言対象地域への都県境を越えた不要不急の移動自粛の呼びかけを図っていただきたい。
 - ・ 旅館業法を改正し、緊急事態宣言発令地域からの宿泊客の利用を宿泊施設の判断で断れるようにするなど、柔軟な制度としてほしい。
 - ・ 1都3県の事業者への要請により全国的に影響が波及することから、国として経済的影響を緩和するための全国の事業者への支援措置等を講じていただきたい。
 - ・ 感染の実態を踏まえ迅速に対応するため、国において全国各地の検体を集めてウイルスの分析を行い、その情報提供を行っていただきたい。

(1) 感染の状況 (疫学的状況)

(2) ①医療提供体制 (療養状況)

参考資料 1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	人口	直近1週間 累積陽性者数	対人口10万人 B/(A/100)	その前1週間 累積陽性者数	直近1週間と その前1週間の比 (B/D)	感染経路不明 な者の割合 (アリンク割合)	入院患者・ 入院確定数	うち 重症者数	入院患者・ 入院確定数	うち 重症者数	宿泊療養者数	
時点	2019.10	~1/6(1W)	~1/6(1W)	~12/30(1W)		~12/25(1W)	12/29	12/29	12/22	12/22	12/29	12/22
単位	千人	人		人		人	人	人	人	人	人	人
北海道	5,250	697	13.28	780	0.89	28%	817	22	926	31	227	256
青森県	1,246	78	6.26	56	1.39	29%	34	2	18	2	7	5
岩手県	1,227	20	1.63	39	0.51	12%	56	3	85	3	12	16
宮城県	2,306	187	8.11	292	0.64	46%	91	3	100	6	145	91
秋田県	966	23	2.38	32	0.72	17%	18	0	4	0	18	1
山形県	1,078	35	3.25	48	0.73	24%	78	6	81	6	0	8
福島県	1,846	149	8.07	142	1.05	21%	156	7	163	5	55	8
茨城県	2,860	312	10.91	231	1.35	38%	119	7	118	10	85	50
栃木県	1,934	569	29.42	299	1.90	51%	158	9	139	12	38	32
群馬県	1,942	274	14.11	277	0.99	38%	185	10	207	10	103	107
埼玉県	7,350	1,975	26.87	1753	1.13	39%	782	54	659	32	269	229
千葉県	6,259	1,604	25.63	1381	1.16	52%	485	16	384	18	250	222
東京都	13,921	7,503	53.90	5710	1.31	62%	2,457	379	2,148	343	1,107	983
神奈川県	9,198	3,430	37.29	2945	1.16	57%	550	59	537	57	512	408
新潟県	2,223	70	3.15	75	0.93	15%	75	0	57	0	18	7
富山県	1,044	54	5.17	44	1.23	18%	29	2	28	1	10	2
石川県	1,138	87	7.64	84	1.04	32%	101	7	82	0	4	4
福井県	768	23	2.99	15	1.53	0%	17	1	12	2	0	0
山梨県	811	81	9.99	58	1.40	36%	56	3	41	2	5	3
長野県	2,049	191	9.32	102	1.87	24%	91	3	132	5	20	9
岐阜県	1,987	485	24.41	370	1.31	37%	305	11	268	8	83	40
静岡県	3,644	289	7.93	206	1.40	27%	180	9	177	8	46	44
愛知県	7,552	1,564	20.71	1667	0.94	43%	593	39	518	39	223	224
三重県	1,781	129	7.24	97	1.33	22%	145	4	126	4	1	9
滋賀県	1,414	217	15.35	185	1.17	28%	144	7	60	3	54	38
京都府	2,583	681	26.36	696	0.98	42%	265	28	236	27	66	81
大阪府	8,809	2,326	26.40	1874	1.24	52%	1,040	259	1,031	256	654	653
兵庫県	5,466	1,111	20.33	1213	0.92	49%	509	44	468	41	306	220
奈良県	1,330	217	16.32	214	1.01	45%	248	14	212	11	92	67
和歌山県	925	89	9.62	17	5.24	35%	27	2	34	1	0	0
鳥取県	556	35	6.29	39	0.90	17%	43	0	9	0	0	0
島根県	674	9	1.34	22	0.41	27%	32	1	22	1	0	0
岡山県	1,890	243	12.86	181	1.34	20%	133	8	156	8	52	68
広島県	2,804	508	18.12	659	0.77	44%	305	19	258	16	185	102
山口県	1,358	68	5.01	86	0.79	35%	96	3	55	3	20	2
徳島県	728	20	2.75	2	10.00	0%	5	0	6	0	0	0
香川県	956	36	3.77	70	0.51	12%	37	0	21	0	24	5
愛媛県	1,339	84	6.27	75	1.12	33%	41	3	26	4	24	3
高知県	698	46	6.59	81	0.57	31%	86	9	119	4	35	20
福岡県	5,104	1,208	23.67	1071	1.13	48%	351	16	237	12	479	465
佐賀県	815	57	6.99	40	1.43	26%	21	0	21	0	28	20
長崎県	1,327	229	17.26	169	1.36	34%	137	5	63	2	73	61
熊本県	1,748	277	15.85	303	0.91	17%	179	7	156	4	41	31
大分県	1,135	105	9.25	80	1.31	34%	61	3	55	4	28	23
宮崎県	1,073	254	23.67	61	4.16	10%	28	0	30	1	18	29
鹿児島県	1,602	101	6.30	101	1.00	34%	66	2	43	0	49	21
沖縄県	1,453	306	21.06	263	1.16	46%	153	20	142	15	96	71
全国	126,167	28,056	22.24	24205	1.16	48%	11,585	1,106	10,470	1,017	5,562	4,738

※：人口推計 第4表 都道府県、男女別人口及び人口性比－総人口、日本人人口（2019年10月1日現在）

※：累積陽性者数は、感染症法に基づく陽性者数の累積（各都道府県の発表日ベース）を記載。自治体に確認を得ていない暫定値であることに留意。

※：入院患者・入院確定数、重症者数及び宿泊患者数（G列～L列）は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。

同調査では、記載日の翌日 00:00時点としてとりまとめている。

※：入院確定数は、一両日中に入院すること及び入院先が確定している者の数。

※：重症者数は、集中治療室（ICU）等での管理、人工呼吸器管理又は体外式心肺補助（ECMO）による管理が必要な患者数。

※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時に降に数値が更新されることにより、前週の値が前週公表の値と一致しない場合がある。

※：東京都、滋賀県、京都府、福岡県及び沖縄県の重症者数については、これまで都府県独自の基準に則って報告された数値を掲載していたが、

8/21公表分からは、国の基準に則って、集中治療室（ICU）等での管理が必要な患者も含めた数値が報告されている。

※：2020年12月18日以降に新たに厚生労働省が公表している岡山県のアリンク割合については、

木曜日から水曜日までの新規感染者について翌週に報告されたものであり、他の都道府県と対象の期間が異なる点に留意。

(2) ②医療提供体制（病床確保等）

(3) 検査体制の構築

	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
	新型コロナ対策協議会の設置状況	患者受入れ調整本部の設置状況	周産期医療の協議会開催状況	受入確保病床数	受入確保想定病床数	宿泊施設確保数	最近1週間のPCR検査件数	2週間前のPCR検査件数	変化率(S/T)	(参考)それぞれの週の陽性者数	
時点	5/1	5/1	5/19	12/29	12/29	12/29	~1/3(1W)	~12/27(1W)		~1/3(1W)	~12/27(1W)
単位				床	床	室	件	件		人	人
北海道	済	済	済	1,811	1,811	1,835	13,830	18,545	0.75	724	764
青森県	済	済	済	210	225	290	1,030	1,067	0.97	78	38
岩手県	済	済	済	374	374	381	1,031	1,769	0.58	22	37
宮城県	済	済	済	345	450	300	2,346	4,616	0.51	181	289
秋田県	済	済	済	222	235	58	459	787	0.58	21	30
山形県	済	済	予定	216	216	108	1,036	1,832	0.57	31	52
福島県	済	済	済	469	469	160	3,579	6,539	0.55	97	154
茨城県	済	済	済	545	545	324	4,674	7,245	0.65	253	174
栃木県	済	済	済	317	317	284	2,494	3,519	0.71	427	213
群馬県	済	済	済	335	335	1,300	1,893	4,260	0.44	240	239
埼玉県	済	済	済	1,229	1,400	1,359	12,205	23,992	0.51	1,697	1,568
千葉県	済	済	済	1,145	1,200	815	7,172	16,261	0.44	1,467	1,167
東京都	済	済	済	4,000	4,000	2,360	42,661	75,882	0.56	6,031	5,132
神奈川県	済	済	済	1,939	1,939	1,201	18,588	28,141	0.66	2,966	2,666
新潟県	済	済	済	456	456	176	1,172	1,711	0.68	60	65
富山県	済	済	済	500	500	430	952	1,748	0.54	35	50
石川県	済	済	済	258	258	340	1,580	2,302	0.69	71	74
福井県	済	済	済	215	215	75	675	1,186	0.57	13	9
山梨県	済	済	済	285	285	139	714	1,379	0.52	63	37
長野県	済	済	済	350	350	250	4,127	3,069	1.34	116	80
岐阜県	済	済	済	625	625	466	2,616	3,991	0.66	419	292
静岡県	済	済	済	442	450	592	3,186	5,880	0.54	219	199
愛知県	済	済	済	934	934	1,300	10,418	17,075	0.61	1,426	1,537
三重県	済	済	済	349	349	100	641	803	0.80	99	81
滋賀県	済	済	済	274	280	260	703	1,978	0.36	173	163
京都府	済	済	済	720	750	338	5,545	9,103	0.61	623	673
大阪府	済	済	済	1,576	1,615	2,019	18,482	28,136	0.66	1,845	1,890
兵庫県	済	済	予定	756	756	988	4,760	10,066	0.47	1,012	1,127
奈良県	済	済	済	370	500	250	2,297	4,134	0.56	224	224
和歌山県	済	済	済	400	400	137	888	1,157	0.77	56	18
鳥取県	済	済	済	313	313	340	431	657	0.66	32	26
島根県	済	済	済	253	253	98	253	275	0.92	13	21
岡山県	済	済	済	401	401	207	3,998	5,553	0.72	174	184
広島県	済	済	済	553	553	934	10,491	15,428	0.68	528	712
山口県	済	済	済	423	423	834	1,308	1,361	0.96	73	60
徳島県	済	済	済	200	200	180	422	564	0.75	4	4
香川県	済	済	済	199	199	101	1,166	2,162	0.54	29	74
愛媛県	済	済	済	229	229	192	642	504	1.27	69	40
高知県	済	済	済	200	200	361	559	1,304	0.43	61	125
福岡県	済	済	済	576	760	1,057	10,296	14,771	0.70	1,059	926
佐賀県	済	済	済	274	274	253	460	1,161	0.40	32	36
長崎県	済	済	済	395	395	367	2,201	4,594	0.48	167	166
熊本県	済	済	済	420	420	1,430	3,961	3,721	1.06	246	236
大分県	済	済	済	355	355	700	1,425	1,572	0.91	100	46
宮崎県	済	済	済	246	246	250	1,319	1,282	1.03	133	45
鹿児島県	済	済	済	342	342	370	1,178	2,897	0.41	94	89
沖縄県	済	済	済	469	469	370	4,239	4,719	0.90	253	234
全国	-	-	-	27,515	28,271	26,679	216,103	350,698	0.62	23,756	22,066

※：受入確保病床数、受入確保想定病床数、宿泊施設確保数は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。

受入確保想定病床数は、同調査における「最終フェーズにおける即応病床（計画）数」を用いている。同調査では、記載日の翌日 00:00時点としてとりまとめている。

※：受入確保病床数は、ピーク時に新型コロナウイルス感染症患者が利用する病床として、各都道府県が医療機関と調整を行い、確保している病床数。実際には受入れ患者の重症度等により、変動する可能性がある。

※：受入確保想定病床数は、ピーク時に新型コロナウイルス感染症患者が利用する病床として、各都道府県が見込んでいる（想定している）病床数であり変動しうる点に特に留意が必要。また、実際には受入れ患者の重症度等により、変動する可能性がある。

※：確保病床数が確保想定病床数を超える場合には、確保想定病床数は確保病床数と同数として計算している。

※：宿泊施設確保数は、受け入れが確実な宿泊施設の部屋として都道府県が判断し、厚生労働省に報告した室数。都道府県の運用によっては、事務職員の宿泊や物資の保管、医師・看護師の控え室のために使用する居室等として、一部使われる場合がある。（居室数が具体的に確認できた場合、数値を置き換えることにより数値が減る場合がある。）数値を非公表としている県又は調整中の県は「-」で表示。

※：PCR検査件数は、①各都道府県から報告があった地方衛生研究所・保健所のPCR検査件数（PCR検査の体制整備にかかる国への報告について（依頼）（令和2年3月5日））、②厚生労働省から依頼した民間検査会社、大学、医療機関のPCR検査件数を計上。一部、未報告の検査機関があったとしても、現時点で得られている検査件数を計上している。

※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時以降に数値が更新されることにより、前週の値が前週公表の値と一致しない場合がある。

(参考) 都道府県の医療提供体制等の状況 (医療提供体制・監視体制・感染の状況)

参考資料 2

		【 医療提供体制 】				【監視体制】		【 感染の状況 】		
A	B	C		D	E	F	G	H	I	J
時点	人口	①病床のひっ迫具合				②療養者数	③陽性者数/ PCR検査件数 (最近1週間)	④直近1週間の陽性者 数	⑤直近1週間 とその前1週間の比	⑥感染経路 不明な者の 割合
		全入院者		重症患者						
単位	千人	確保病床使用率	確保想定 病床使用率	確保病床 使用率 【重症患者】	確保想定 病床使用率 【重症患者】	対人口10万人 (前週差)	% (前週差)	対人口10万人 (前週差)	(前週差)	% (前週差)
	2019.10	12/29	12/29	12/29	12/29	12/29	~1/3(1W)	~1/6(1W)		~12/25(1W)
		% (前週差)	% (前週差)	% (前週差)	% (前週差)		% (前週差)	対人口10万人 (前週差)	(前週差)	% (前週差)
	ステージⅢの指標	25%	20%	25%	20%	15	10%	15	1	50%
	ステージⅣの指標		50%		50%	25	10%	25	1	50%
北海道	5,250	45.1% (▲6.0)	45.1% (▲6.0)	12.1% (▲4.9)	12.1% (▲4.9)	30.3 (▲3.0)	5.2% (+1.1)	13.28 (▲1.6)	0.89 (▲0.03)	28.2% (+7.0)
青森県	1,246	16.2% (+7.6)	15.1% (+7.1)	6.5% (+0.0)	6.5% (+0.0)	5.1 (+3.0)	7.6% (+4.0)	6.26 (+1.8)	1.39 (▲1.41)	29.2% (+17.6)
岩手県	1,227	15.0% (▲7.8)	15.0% (▲7.8)	5.1% (+0.0)	5.1% (+0.0)	5.5 (▲2.7)	2.1% (+0.0)	1.63 (▲1.5)	0.51 (▲1.05)	11.5% (+10.2)
宮城県	2,306	26.4% (▲2.6)	20.2% (▲2.0)	7.0% (▲7.0)	4.6% (▲4.6)	18.7 (+3.6)	7.7% (+1.5)	8.11 (▲4.6)	0.64 (▲0.54)	46.3% (+12.3)
秋田県	966	8.1% (+6.3)	7.7% (+6.0)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	3.7 (+3.2)	4.6% (+0.8)	2.38 (▲0.9)	0.72 (▲2.48)	16.7% (▲8.3)
山形県	1,078	36.1% (▲1.4)	36.1% (▲1.4)	23.1% (+0.0)	23.1% (+0.0)	7.9 (▲0.9)	3.0% (+0.2)	3.25 (▲1.2)	0.73 (▲0.36)	23.5% (+12.1)
福島県	1,846	33.3% (▲1.5)	33.3% (▲1.5)	16.7% (+4.8)	14.0% (+4.0)	11.4 (+2.2)	2.7% (+0.4)	8.07 (+0.4)	1.05 (▲0.10)	21.4% (▲4.1)
茨城県	2,860	21.8% (+0.4)	21.8% (+0.4)	10.0% (▲4.1)	10.0% (▲4.1)	9.2 (+1.3)	5.4% (+3.0)	10.91 (+2.8)	1.35 (▲0.37)	38.1% (+14.1)
栃木県	1,934	49.8% (+5.4)	49.8% (+5.4)	19.6% (▲9.7)	19.6% (▲9.7)	19.8 (+7.3)	17.1% (+11.1)	29.42 (+14.0)	1.90 (+0.12)	50.5% (+12.0)
群馬県	1,942	55.2% (▲6.6)	55.2% (▲6.6)	14.1% (+0.0)	14.1% (+0.0)	16.1 (▲1.4)	12.7% (+7.1)	14.11 (▲0.2)	0.99 (▲0.22)	37.8% (▲0.1)
埼玉県	7,350	63.6% (+10.0)	55.9% (+8.8)	41.5% (+16.9)	27.0% (+11.0)	40.0 (+10.2)	13.9% (+7.4)	26.87 (+3.0)	1.13 (▲0.19)	39.4% (▲1.8)
千葉県	6,259	42.4% (+8.9)	40.4% (+8.4)	17.0% (▲0.8)	8.9% (▲1.1)	30.3 (+8.9)	20.5% (+13.3)	25.63 (+3.6)	1.16 (▲0.27)	52.2% (+1.1)
東京都	13,921	61.4% (+7.7)	61.4% (+7.7)	75.8% (+7.2)	75.8% (+7.2)	59.2 (+16.0)	14.1% (+7.4)	53.90 (+12.9)	1.31 (+0.04)	61.7% (+3.4)
神奈川県	9,198	28.4% (+0.7)	28.4% (+0.7)	29.5% (+1.0)	29.5% (+1.0)	32.3 (+10.4)	16.0% (+6.5)	37.29 (+5.3)	1.16 (▲0.27)	56.7% (+5.0)
新潟県	2,223	16.4% (+3.9)	16.4% (+3.9)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	4.3 (+1.2)	5.1% (+1.3)	3.15 (▲0.2)	0.93 (▲0.99)	14.5% (▲2.2)
富山県	1,044	5.8% (+0.2)	5.8% (+0.2)	5.6% (+2.8)	5.6% (+2.8)	4.8 (+1.8)	3.7% (+0.8)	5.17 (+1.0)	1.23 (▲0.24)	18.4% (▲29.0)
石川県	1,138	39.1% (+7.4)	39.1% (+7.4)	20.0% (+20.0)	20.0% (+20.0)	9.2 (+1.7)	4.5% (+1.3)	7.64 (+0.3)	1.04 (▲0.64)	32.4% (+4.7)
福井県	768	7.9% (+2.3)	7.9% (+2.3)	4.2% (▲4.2)	4.2% (▲4.2)	2.2 (+0.7)	1.9% (+1.2)	2.99 (+1.0)	1.53 (▲13.47)	0.0% (+0.0)
山梨県	811	19.6% (+5.3)	19.6% (+5.3)	12.5% (+4.2)	12.5% (+4.2)	7.5 (+2.1)	8.8% (+6.1)	9.99 (+2.8)	1.40 (▲0.09)	35.7% (▲5.0)
長野県	2,049	26.0% (▲11.7)	26.0% (▲11.7)	6.3% (▲4.2)	6.3% (▲4.2)	6.0 (▲1.6)	2.8% (+0.2)	9.32 (+4.3)	1.87 (+0.02)	23.6% (▲0.3)
岐阜県	1,987	48.8% (+5.9)	48.8% (+5.9)	21.6% (+5.9)	21.6% (+5.9)	23.9 (+5.3)	16.0% (+8.7)	24.41 (+5.8)	1.31 (▲0.15)	37.1% (+7.9)
静岡県	3,644	40.7% (+0.7)	40.0% (+0.7)	23.7% (+2.6)	13.4% (+1.5)	11.2 (▲2.4)	6.9% (+3.5)	7.93 (+2.3)	1.40 (+0.28)	27.4% (▲7.2)
愛知県	7,552	63.5% (+8.0)	63.5% (+8.0)	37.9% (+0.0)	32.2% (+0.0)	31.2 (+2.6)	13.7% (+4.7)	20.71 (▲1.4)	0.94 (▲0.28)	43.2% (+1.9)

(参考) 都道府県の医療提供体制等の状況(医療提供体制・監視体制・感染の状況)

参考資料 2

		【 医療提供体制 】				【監視体制】		【 感染の状況 】			
A	B	C		D		E	F	G	H	I	J
時点	人口	①病床のひっ迫具合				②療養者数	③陽性者数/ PCR検査件数 (最近1週間)	④直近1週間の陽性者 数	⑤直近1週間 とその前1週間の比	⑥感染経路 不明な者の 割合	
		全入院者		重症患者							
単位	千人	確保病床使用率	確保想定 病床使用率	確保病床 使用率 【重症患者】	確保想定 病床使用率 【重症患者】	対人口10万人 (前週差)	%(前週差)	対人口10万人 (前週差)	(前週差)	%(前週差)	
2019.10		12/29	12/29	12/29	12/29	12/29	~1/3(1W)	~1/6(1W)		~12/25(1W)	
ステージⅢの指標		25%	20%	25%	20%	15	10%	15	1	50%	
ステージⅣの指標			50%		50%	25	10%	25	1	50%	
三重県	1,781	41.5% (+5.4)	41.5% (+5.4)	7.5% (+0.0)	7.5% (+0.0)	8.3 (+0.6)	15.4% (+5.4)	7.24 (+1.8)	1.33 (+0.00)	22.4% (+4.3)	
滋賀県	1,414	52.6% (+30.7)	51.4% (+30.0)	15.9% (+9.1)	11.3% (+6.5)	15.8 (+8.6)	24.6% (+16.4)	15.35 (+2.3)	1.17 (▲1.06)	28.2% (▲11.0)	
京都府	2,583	36.8% (+2.1)	35.3% (+3.9)	32.6% (+1.2)	32.6% (+1.2)	39.8 (+11.3)	11.2% (+3.8)	26.36 (▲0.6)	0.98 (▲0.35)	41.6% (▲3.0)	
大阪府	8,809	66.0% (▲0.9)	64.4% (+0.6)	65.2% (+0.8)	65.2% (+0.8)	38.0 (▲3.2)	10.0% (+3.3)	26.40 (+5.1)	1.24 (+0.30)	51.6% (+5.7)	
兵庫県	5,466	67.3% (+5.4)	67.3% (+5.4)	37.9% (+2.6)	36.7% (+2.5)	21.3 (+4.8)	21.3% (+10.1)	20.33 (▲1.9)	0.92 (▲0.40)	49.4% (▲2.7)	
奈良県	1,330	67.0% (+21.6)	49.6% (+7.2)	50.0% (+9.3)	50.0% (+9.3)	25.6 (+4.6)	9.8% (+4.3)	16.32 (+0.2)	1.01 (▲0.11)	45.3% (+10.0)	
和歌山県	925	6.8% (▲1.8)	6.8% (▲1.8)	5.0% (+2.5)	5.0% (+2.5)	2.9 (▲0.8)	6.3% (+4.8)	9.62 (+7.8)	5.24 (+4.46)	35.0% (+8.9)	
鳥取県	556	13.7% (+10.9)	13.7% (+10.9)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	7.7 (+6.1)	7.4% (+3.5)	6.29 (▲0.7)	0.90 (▲2.65)	16.7% (▲83.3)	
島根県	674	12.6% (+4.0)	12.6% (+4.0)	4.0% (+0.0)	4.0% (+0.0)	4.7 (+1.5)	5.1% (▲2.5)	1.34 (▲1.9)	0.41 (▲0.97)	26.7% (+12.4)	
岡山県	1,890	33.2% (▲5.7)	33.2% (▲5.7)	21.6% (+0.0)	20.0% (+0.0)	15.4 (▲4.9)	4.4% (+1.0)	12.86 (+3.3)	1.34 (+0.74)	19.6% (▲15.9)	
広島県	2,804	55.2% (+8.5)	55.2% (+8.5)	26.4% (+4.2)	26.4% (+4.2)	50.0 (+10.3)	5.0% (+0.4)	18.12 (▲5.4)	0.77 (▲0.19)	44.2% (▲3.8)	
山口県	1,358	22.7% (+9.7)	22.7% (+9.7)	2.2% (+0.0)	2.2% (+0.0)	8.5 (+4.3)	5.6% (+1.2)	5.01 (▲1.3)	0.79 (▲1.12)	34.5% (+10.5)	
徳島県	728	2.5% (▲0.5)	2.5% (▲0.5)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	0.7 (▲0.1)	0.9% (+0.2)	2.75 (+2.5)	10.00 (+9.67)	0.0% (+0.0)	
香川県	956	18.6% (+8.0)	18.6% (+8.0)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	9.9 (+5.5)	2.5% (▲0.9)	3.77 (▲3.6)	0.51 (▲2.18)	11.9% (▲4.7)	
愛媛県	1,339	17.9% (+6.6)	17.9% (+6.6)	9.1% (▲3.0)	9.1% (▲3.0)	6.4 (+3.9)	10.7% (+2.8)	6.27 (+0.7)	1.12 (▲5.13)	33.3% (+2.1)	
高知県	698	43.0% (▲16.5)	43.0% (▲16.5)	15.5% (+8.6)	15.5% (+8.6)	22.6 (▲7.0)	10.9% (+1.3)	6.59 (▲5.0)	0.57 (▲0.01)	30.9% (▲12.2)	
福岡県	5,104	60.9% (+17.9)	46.2% (+15.0)	15.2% (+3.7)	14.5% (+3.6)	26.6 (+6.6)	10.3% (+4.0)	23.67 (+2.7)	1.13 (▲0.19)	47.9% (+9.8)	
佐賀県	815	7.7% (+0.0)	7.7% (+0.0)	0.0% (+0.0)	0.0% (+0.0)	6.0 (+1.0)	7.0% (+3.9)	6.99 (+2.1)	1.43 (▲0.11)	26.5% (+11.8)	
長崎県	1,327	34.7% (+18.7)	34.7% (+18.7)	18.5% (+11.1)	11.9% (+7.1)	21.1 (+9.1)	7.6% (+4.0)	17.26 (+4.5)	1.36 (▲0.15)	34.4% (+14.1)	
熊本県	1,748	42.6% (+5.5)	42.6% (+5.5)	11.9% (+5.1)	11.9% (+5.1)	19.6 (+6.3)	6.2% (▲0.1)	15.85 (▲1.5)	0.91 (▲0.74)	16.9% (▲3.7)	
大分県	1,135	17.2% (+1.7)	17.2% (+1.7)	7.3% (▲2.4)	7.3% (▲2.4)	7.8 (+1.0)	7.0% (+4.1)	9.25 (+2.2)	1.31 (▲0.51)	34.1% (+9.5)	
宮崎県	1,073	11.4% (▲0.8)	11.4% (▲0.8)	0.0% (▲3.0)	0.0% (▲3.0)	7.1 (+0.5)	10.1% (+6.6)	23.67 (+18.0)	4.16 (+3.03)	10.2% (▲1.7)	
鹿児島県	1,602	19.3% (+6.7)	19.3% (+6.7)	5.3% (+5.3)	4.2% (+4.2)	7.4 (+3.2)	8.0% (+4.9)	6.30 (+0.0)	1.00 (▲1.15)	34.4% (+12.2)	
沖縄県	1,453	32.6% (+2.3)	32.6% (+2.3)	37.7% (+9.4)	37.7% (+9.4)	22.5 (+3.7)	6.0% (+1.0)	21.06 (+3.0)	1.16 (▲0.37)	45.8% (+4.2)	
全国	126,167	42.1% (+4.1)	41.0% (+3.9)	30.6% (+2.5)	28.3% (+2.2)	27.2 (+5.1)	11.0% (+4.7)	22.24 (+3.1)	1.16 (▲0.10)	47.9% (+3.2)	

※：人口推計 第4表 都道府県，男女別人口及び人口性比－総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）

※：確保病床使用率、確保想定病床使用率、療養者数は、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症患者の療養状況等及び入院患者受入病床数等に関する調査」による。
確保想定病床使用率は、同調査における「最終フェーズにおける即応病床（計画）数」を用いて計算している。同調査では、記載日の翌日 00:00時点としてとらえている。

※：重症者数は、集中治療室（ICU）等での管理、人工呼吸器管理又は体外式心肺補助（ECMO）による管理が必要な患者数。

※：東京都、滋賀県、京都府、福岡県及び沖縄県の重症者数については、これまで都府県独自の基準に則って報告された数値を掲載していたが、8/21公表分からは、国の基準に則って、集中治療室（ICU）等での管理が必要な患者も含めた数値が報告されている。

※：確保病床数が確保想定病床数を超える場合には、確保想定病床数は確保病床数と同数として計算している。

※：人口推計 第4表 都道府県，男女別人口及び人口性比－総人口，日本人人口（2019年10月1日現在）

※：陽性者数は、感染症法に基づく陽性者数の累積（各都道府県の発表日ベース）を記載。自治体に確認を得てない暫定値であることに留意。

※：PCR検査件数は、厚生労働省において把握した、地方衛生研究所・保健所、民間検査会社、大学等及び医療機関における検査件数の合計値。

※：各数値は、資料掲載時点において把握している最新の値としている。掲載時に数値が更新されることにより、前週差が前週公表の値との差と一致しない場合がある。

※：⑤と⑥について、分母が0の場合は、「-」と記載している。

※：2020年12月18日以降に新たに厚生労働省が公表している岡山県のアンリンク割合については、木曜日から水曜日までの新規感染者について翌週に報告されたものであり、他の都道府県と対象の期間が異なる点に留意。

緊急事態宣言についての提言

令和3年1月5日（火）

新型コロナウイルス感染症対策分科会

[I] はじめに

分科会としては、これまでの対策で学んだことを基に、可及的速やかに、新型インフルエンザ等対策特別措置法（特措法）に基づく緊急事態宣言を発出すべきと考える。

[II] 現状の分析

東京都を中心とした首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）では、既にステージⅣ相当の対策が必要な段階に達している。即ち、感染拡大が続き、重症者及び死亡者も増加し、通常の医療、保健、高齢者福祉にも深刻な支障が生じてきている。

したがって、東京都を中心とした首都圏については、今は感染対策の強化を優先事項として、短期間に集中すべき時期である。

感染が大都市圏だけでなく地方圏でも広がりやすい状況になっており、クラスターも多様化するなど、これまでとは様相が異なってきた。

感染の状況は全国的に一様ではないが、東京都を中心とした首都圏の感染状況が沈静化しなければ、全国的かつ急速なまん延のおそれもあると考える。

[Ⅲ]なぜ今緊急事態宣言の発出が必要か？

分科会としては、令和2年8月7日の提言において、ステージⅣ相当の地域については、緊急事態宣言など、強制力のある対応を検討せざるを得ないことを示してきた。

11月25日には、ステージⅢ相当の地域の感染拡大沈静化、さらに緊急事態宣言回避のための提言を示した。その結果、国と自治体の連携により北海道や大阪府などでは感染が下方に転じたが、東京都では感染上昇し続け、医療逼迫してきた。

こうした状況を踏まえ12月11日には、未だ感染拡大が続く地域（いわゆる「シナリオ3」の対象地域）に対して、緊急事態宣言を回避すべく、知事のリーダーシップと国の後押しの下、飲食店の営業時間短縮や外出自粛の要請、テレワークの推進などの緊急事態措置に相当する施策を提言した。それに応じて、国と自治体は営業時間短縮の要請の延長や支援策の強化を行うとともに、年末年始の帰省や初詣の分散などの強い要請を行った。

さらに、12月25日には、国と一部の自治体が一体感を持って強い対策を行わない限り、感染沈静化は困難であることを指摘した。しかし、その後も首都圏では人流が減らず、12月29日の東京都のモニタリング会議でも、医療逼迫が更に深刻化してきたと評価された。その上、12月31日には、東京都を中心とした首都圏においては、新規報告数がこれまでの最高値を示した。

こうした中、令和3年1月2日には、国と1都3県との間で、一体感を持って、上記の緊急事態措置に相当する対策を行うことが合意された。以上の諸点から、まさに今、緊急事態宣言を発出する時期に至ったと考える。

[IV]これまで学んできたこと

8月までは接待を伴う飲食店での感染が多かったが、その後、クラスターが多様化し、飲食の場を中心に「感染リスクが高まる「5つの場面」」が明確になってきた。さらにその後、飲酒の有無、時間や場所に関係なく、飲食店以外にも職場や自宅などでの飲み会（いわゆる「宅飲み」）や屋内でのクラブ活動など多様な場での感染が相対的に増えている。このことは、「三つの密」や大声、「感染リスクが高まる「5つの場面」」の回避が十分には行われてこなかったことが原因と考えられる。

特に比較的若い年齢層では、感染しても症状が軽い又は無いことも多く、気が付かずに家庭や高齢者施設にも感染を広げ、結果として重症者や死亡者が増加する主な要因の一つとなっている。また、この年齢層の一部にメッセージが伝わりにくく、十分な行動変容に繋がらなかった。

7-8月の流行では、接待を伴う飲食店の営業時間の短縮要請や重点的な検査等の焦点を絞った対策によって、感染を下方に転じることができたが、重症者数が幸いにも少なかったこともあり、その後、社会全体としてこの感染症に対する危機感が薄れてきたと考えられる。

国民の更なる協力を得るためには、国と自治体、専門家との一体感のある強いメッセージ及び強力な対策が必須である。

[V]今、緊急事態宣言を発出する意義

- (1) まずは、東京都を中心に首都圏において可及的速やかに感染を下方に転じさせ、医療機関と保健所への過剰な負荷を軽減させること。
- (2) その上で、緊急事態宣言の期間を通して、可及的速やかにステージⅢ相当にまで下げること。
- (3) さらに、緊急事態宣言の解除後の対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで続けること。
- (4) 知事が法的な権限を持って外出自粛要請などのより強い対策を打てるようになること。
- (5) 国と全ての自治体、専門家がより統一感のある強いメッセージを出しやすくなること。
- (6) 感染の早期収束により経済及び社会機能を早期に回復させること。

[VI]緊急事態宣言下を実施すべき具体的な対策

4月の緊急事態措置をそのまま繰り返すのではなく、上述の「[IV]これまで学んできたこと」を基に、感染リスクの高い「三つの密」や大声、「感染リスクが高まる「5つの場面」」を中心に、集中的に感染の機会を可及的速やかに低減することが重要である。

【東京都を中心とした首都圏】

(1) 飲食の場を中心に上述の感染リスクが高い場면을回避する対策※ 1

(2) 上記(1)の実効性を高めるための環境づくり※ 2

※ 1 : 営業時間短縮の時間の前倒しや要請の徹底など

※ 2 : 不要不急の外出・移動の自粛、行政機関や大企業を中心としたテレワーク(極力7割)の徹底、イベント開催要件の強化(例えば、収容率50%など)、大学や職場等における飲み会の自粛、飲食テイクアウトの推奨、大学等におけるクラブ活動での感染防止策の徹底など。

【国において行うべき環境整備】

(1) 事業者への支援や罰則、宿泊療養等の根拠規定など、感染対策の実効性を高めるための特措法や感染症法の早期改正

(2) 国民が無理なく感染防止策の実施を持続できる社会の構築※ 1

(3) 国内のウイルスの迅速な分析や情報提供及び変異株が出現した国に対する水際対策の強化

(4) ワクチン接種の体制整備及び情報提供

※ 1 : 感染リスクが高い場所・場面でのアクリル板の設置への財政支援や検査体制の更なる強化など。

[Ⅶ]結論

今回、新型コロナウイルス感染症の流行から初めての冬を経験している。ワクチンの開発については、予断は許さないが、希望の光も見えてきた。この一年、国民、政府、自治体、保健医療関係者など日本社会全体が感染拡大防止のために奮闘してきた。この一年間の経験を基に、日本社会全体が一体感を持って取り組めば、この難局を乗り越えることができると信じている。

新型コロナウイルス感染症対策分科会の構成員

石川晴巳	ヘルスケアコミュニケーションプランナー
石田昭浩	日本労働組合総連合会副事務局長
磯部 哲	慶應義塾大学法科大学院教授
今村顕史	東京都立駒込病院感染症センター長、感染症科部長
太田圭洋	日本医療法人協会副会長
大竹文雄	大阪大学大学院経済学研究科教授
岡部信彦	川崎市健康安全研究所長
押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授
◎尾身 茂	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長
釜范 敏	公益社団法人日本医師会常任理事
幸本智彦	東京商工会議所議員
河本宏子	ANA 総合研究所会長
小林慶一郎	公益財団法人東京財団政策研究所研究主幹
清古愛弓	全国保健所長会副会長
舘田一博	東邦大学微生物・感染症学講座教授
中山ひとみ	霞が関総合法律事務所弁護士
平井伸治	鳥取県知事
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役 調査研究本部長
武藤香織	東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授
○脇田隆字	国立感染症研究所長

◎分科会長

○分科会長の代理

(以上20名)

追加配付資料

都道府県別新規陽性者数（報告日別）（空港検疫、チャーター便、クルーズ船案件を除く）

報告日	12月25日	12月26日	12月27日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	直近2週間の合計	直近1週間合計		増減率	直近1週間合計 (人口10万対)	全期間の 合計	
																12月25日から 12月31日まで	1月1日から 1月7日まで				
全 国	3,932	3,698	2,942	2,388	3,601	3,867	4,486	3,239	3,045	3,130	3,311	4,923	5,977	7,537	56,076	24,914	31,162	1.25	24.70	265,207	全 国
北 海 道	97	161	85	94	87	133	167	98	77	68	93	79	115	161	1,515	824	691	0.84	13.16	14,133	北 海 道
青 森	7	8	6	10	15	6	23	10	4	10	10	7	14	8	138	75	63	0.84	5.06	545	青 森
岩 手	5	10	9	7	1	2	3	4	2	3	0	6	2	3	57	37	20	0.54	1.63	405	岩 手
宮 城	48	56	39	28	39	34	26	30	4	20	18	37	52	75	506	270	236	0.87	10.23	2,428	宮 城
秋 田	8	10	2	1	6	4	4	3	0	3	3	8	2	2	56	35	21	0.60	2.17	161	秋 田
山 形	13	5	3	3	9	4	5	3	1	6	5	5	10	0	72	42	30	0.71	2.78	417	山 形
福 島	43	21	21	10	11	17	20	12	13	14	25	25	40	29	301	143	158	1.10	8.56	1,102	福 島
茨 城	27	27	27	31	43	37	28	42	20	52	32	67	71	90	594	220	374	1.70	13.08	2,820	茨 城
栃 木	35	42	28	31	83	56	73	56	56	72	69	111	132	130	974	348	626	1.80	32.37	2,105	栃 木
群 馬	53	37	38	21	29	56	37	24	42	31	37	44	59	83	591	271	320	1.18	16.48	2,635	群 馬
埼 玉	298	265	211	184	300	244	330	221	213	205	243	369	394	460	3,937	1,832	2,105	1.15	28.64	16,420	埼 玉
千 葉	299	59	106	175	217	239	230	144	237	225	196	261	311	451	3,150	1,325	1,825	1.38	29.16	12,914	千 葉
東 京	884	949	708	481	856	944	1,337	783	814	816	884	1,278	1,591	2,447	14,772	6,159	8,613	1.40	61.87	68,809	東 京
神 奈 川	466	480	343	334	395	432	588	470	382	365	412	622	591	679	6,559	3,038	3,521	1.16	38.28	24,788	神 奈 川
新 潟	14	17	2	0	15	12	8	5	10	10	7	10	20	9	139	68	71	1.04	3.19	614	新 潟
富 山	10	1	3	6	0	3	9	5	9	3	14	19	27	0	109	32	77	2.41	7.38	638	富 山
石 川	12	12	12	6	10	14	7	13	13	8	14	20	12	25	178	73	105	1.44	9.23	1,177	石 川
福 井	4	2	1	2	2	3	2	0	4	0	1	2	14	4	41	16	25	1.56	3.26	380	福 井
山 梨	6	3	7	12	10	13	8	8	5	7	17	17	19	35	167	59	108	1.83	13.32	679	山 梨
長 野	17	17	21	3	11	23	20	23	11	25	18	44	50	79	362	112	250	2.23	12.20	1,434	長 野
岐 阜	38	45	45	45	74	67	83	56	36	58	52	98	102	91	890	397	493	1.24	24.81	2,785	岐 阜
静 岡	28	31	24	12	27	46	27	36	42	29	34	34	87	82	539	195	344	1.76	9.44	3,030	静 岡
愛 知	265	265	216	122	235	294	239	193	158	185	152	273	364	431	3,392	1,636	1,756	1.07	23.25	18,329	愛 知
三 重	11	13	14	12	11	25	18	6	14	13	15	30	33	27	242	104	138	1.33	7.75	1,429	三 重
滋 賀	28	49	25	14	26	27	21	24	23	38	37	24	50	53	439	190	249	1.31	17.61	1,431	滋 賀
京 都	121	135	94	59	84	96	109	103	83	89	76	102	119	143	1,413	698	715	1.02	27.68	5,524	京 都
大 阪	294	299	233	150	302	307	313	262	258	253	286	394	560	607	4,518	1,898	2,620	1.38	29.74	32,683	大 阪
兵 庫	232	175	165	108	193	188	193	128	104	98	118	222	248	284	2,456	1,254	1,202	0.96	21.99	11,229	兵 庫
奈 良	30	31	37	30	23	30	38	36	36	31	22	30	24	27	425	219	206	0.94	15.49	2,181	奈 良
和 歌 山	1	3	2	2	2	7	9	13	11	12	9	17	18	21	127	26	101	3.88	10.92	720	和 歌 山
鳥 取	5	3	8	6	10	7	1	0	4	4	2	9	15	6	80	40	40	1.00	7.19	160	鳥 取
島 根	1	4	8	3	3	0	0	2	4	1	0	1	1	2	30	19	11	0.58	1.63	219	島 根
岡 山	31	28	21	19	23	32	23	27	23	27	33	51	59	66	463	177	286	1.62	15.13	1,649	岡 山
広 島	141	105	89	50	88	84	87	73	76	70	49	75	78	92	1,157	644	513	0.80	18.30	3,833	広 島
山 口	9	13	8	13	24	11	15	2	3	5	12	23	8	16	162	93	69	0.74	5.08	657	山 口
徳 島	1	0	0	0	0	1	2	1	0	0	2	5	10	0	22	4	18	4.50	2.47	216	徳 島
香 川	7	8	9	6	8	5	3	2	2	3	4	8	14	32	111	46	65	1.41	6.80	369	香 川
愛 媛	9	9	8	16	14	12	8	6	6	7	9	25	23	28	180	76	104	1.37	7.77	570	愛 媛
高 知	12	14	8	8	8	12	9	6	7	11	2	7	4	12	120	71	49	0.69	7.02	712	高 知
福 岡	143	160	137	142	151	189	190	158	124	105	128	187	316	388	2,518	1,112	1,406	1.26	27.55	10,373	福 岡
佐 賀	6	4	2	5	7	7	4	1	5	3	23	10	11	21	109	35	74	2.11	9.08	542	佐 賀
長 崎	26	19	29	18	27	15	29	20	28	30	24	55	43	58	421	163	258	1.58	19.44	913	長 崎
熊 本	80	25	31	37	55	44	32	30	26	22	34	64	69	63	612	304	308	1.01	17.62	2,169	熊 本
大 分	7	14	3	19	15	13	22	11	11	9	10	16	26	19	195	93	102	1.10	8.99	791	大 分
宮 崎	10	11	4	13	4	12	18	26	30	30	32	38	80	105	413	72	341	4.74	31.78	1,098	宮 崎
鹿 児 島	9	17	20	19	8	13	10	15	2	27	12	41	17	27	237	96	141	1.47	8.80	1,157	鹿 児 島
沖 縄	41	36	30	21	40	47	58	48	12	27	36	53	72	66	587	273	314	1.15	21.61	5,685	沖 縄
その他(※2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	149	その他(※2)

※1 過去の報告があった県については、報告日別に過去に通って計上した

※2 その他は、長崎県のクルーズ船における陽性者数

※3 人口10万対の人数は、令和元年10月1日現在の都道府県別推計人口（総務省）により算出している

増減率が1より大きく、直近1週間合計が1以上の都道府県数	感染者数ゼロの都道府県数
34	0